

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。</p> <p>(4) 小テストの FB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・ 語彙力をつける。 ・ 一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に講義形式で行う。 ・ 授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・ 語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・ Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。
----	---

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。 																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のFBを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP7○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2				
3				

評価方法 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。

(基準)	
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の研究室等	11号館11階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : B○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1△, DP2○, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP7○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02131a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2				
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう! 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP7 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業に変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮して判断する。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になった場合は、毎回の課題提出により評価する。
--------------	---

学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
---------------	---

担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
--------------	----------------------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。 以下、ZOOM の ID です。 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスワード: 179500 SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com
----	--

	H. 323 で参加 162. 255. 37. 11 (米国西部) 162. 255. 36. 11 (米国東部) 115. 114. 131. 7 (インドのムンバイ) 115. 114. 115. 7 (インド)
--	---

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *再度オンライン授業になった場合はZOOMで授業する。 Zoom ミーティングに参加する https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500

科目学習の 効果(資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成(残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習(文体に気を付ける)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>質疑応答の仕方について復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習(文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																														
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)																																																														
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習(文体に気を付ける)																																																														
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																														

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	<p>授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。</p> <p>*オンライン授業になった場合、毎回の課題提出により評価する。</p> <p>Zoom ミーティング https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500 SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com</p>
学生への	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

メッセージ	これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、確認問題等 (70%)、課題等の提出物 (30%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週 1時間。
----	--

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	授業で確認した語彙、表現の復習
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (40%)、課題の提出物 (30%)、活動 (30%) 等授業時の参加度により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
-----------	------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。
----	---

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	茶園 直人
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ N: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	<p>日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。 具体的には、自分の意見を明確に表明できるようになること、相手の意見を受信し、検討できるようになることを目的とします。 また、議論を通して、問題発見解決能力の向上を目指し、最終的にはアカデミックな議論や就職活動など様々な場面に対応できるようになることを目標とします。</p> <p>授業の概要は以下の通りです。 ・まとまった発話を聞いて、そこから話者の抱える問題を発見する。 ・発見した問題についての議論を行い、解決策を提示する。 ・自分</p>			
到達目標	<p>まとまった話を聞いて、概要、問題点を把握することができる。 問題に対する解決策（自分の意見）を明確かつ論理的に説明できる。 自分の意見を発信するだけでなく、他者の意見を受信、検討することができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>さまざまなテーマに関する話を聞き、話者が抱える問題とその解決策についてディスカッションを行う。 学生はディスカッションへの積極的参加が求められる。また、毎回の授業にはディスカッションの振り返りシートを作成してもらう。 教員は適宜フィードバックを行う。</p>			
科目学習の 効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)
	2	トピック 1	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	3	トピック 2	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	4	トピック 3	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	5	トピック 4	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	6	トピック 5	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	7	トピック 6	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	8	トピック 7	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	9	トピック 8	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	10	トピック 9	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	11	トピック 10	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	12	発表準備 1	スクリプトの作成	発表テーマを決めておく。 スクリプトの作成 (残り)
	13	口頭発表・ディスカッション	スクリプトの修正 発表資料の作成	発表者: ディスカッションを通して、自分の抱えている問題をどのように解決するかを再考し、シートにとめて提出する。
	14	口頭発表・ディスカッション	発表資料の修正	発表者: ディスカッションを通して、自分の抱えている問題をどのように解決するかを再考し、シートにとめて提出する。
	15	授業の振り返り	振り返り 授業内で扱ったテーマで印象深かったことをテーマにディスカッションを行	自分の発表の反省

			う。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	試験は発表形式とし、適宜フィードバックを行なう。 授業時間外の相談はメールにて行うが、必要に応じて別途指示する。			

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意しておくこと。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)
----------	---------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。
----	---

科目名	日本語読解R	科目名 (英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。</p> <p>(4) 小テストの FB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文R	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。
----	---

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法F I、日本語読解F II
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, W科: DP1○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
------	--

(基準)	
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の研究室等	11号館11階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III o, IV o, R 科 : A o, A 科 : C o, M 科 : B2 o, E 科 : B o, C 科 : III o, VI o, L 科 : DP1 Δ, DP2 o, D 科 : DP1 o, S 科 : DP1 o, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 o, W 科 : DP1 o, N 科 : DP1 o, DP8 ΔN : DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2				
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう! 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *再度オンライン授業になった場合は ZOOM で授業する。 Zoom ミーティングに参加する https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成 (残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習 (文体に気を付ける)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>質疑応答の仕方について復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																														
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																														
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																														
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																														

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	<p>授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。</p> <p>*オンライン授業になった場合、毎回の課題提出により評価する。</p> <p>Zoom ミーティング https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500</p> <p>SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com</p>
学生への	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

メッセージ	これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語R	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、確認問題等 (70%)、課題等の提出物 (30%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期3号館2階/後期7号館2階)
----------	--------------------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 授業中はカメラをONにすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意しておくこと。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館 2階)
----------	-------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。
----	---

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱います。

到達目標
本講義の到達目標は以下の通りです。
1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。
2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。
3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。
4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

授業方法と留意点
○準備学習の具体的な方法
指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。授業の進め方についてはオンライン (Zoom の使用) と課題提出 (Moodle の利用) で行います。オンラインの場合は実際の時間割にある授業時間にリアルタイムオンラインで行います。

科目学習の効果 (資格)
(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目: 教育の基礎理論に関する科目
各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題: 事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
3	教師と子ども	教師-生徒の関係性」という視点から、学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題: 事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題(体罰等)が発生する背景や要因について考え、これら問題が発生した際の危機管理や学校対応等について考える。	事前課題: 事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
5	いじめについて	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにし、いじめが発生した際の危機管理や対応等について考える。	事前課題: 事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
6	不登校について	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題: 事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
7	教育格差・階層問題 I	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題: 事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
8	教育格差・階層問題 II	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて考える。	事前課題: 事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
9	国の教育政策: 海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題: それぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
10	地域と学校 I	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。また、連携をする際、何か不測の事態が起こった場合の危機管理や子どもたちの安全等についても考える。	事前課題: 前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
11	地域と学校 II	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行うとともに、学校安全の観点から連携の事例を検討し、よりよい連携のあり方について検討する。	事前課題: 前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事前課題: 教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事前課題: ジェンダー問題を扱った資料(読み物)を読み、その内容についてまとめてくる。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事前課題: 教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える	事前課題: 最終レポート・試験(予定)の準備

関連科目
「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習 I」「教職実践演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	新潮社
評価方法 (基準)	毎時間の課題・ミニレポート 100% (内容、提出状況、剽窃等を確認することで評価する) 課題・ミニレポートは提出期限を厳守すること。期限後の提出は認めない。 なお、オンライン上で毎回出欠も取ります。			
学生への メッセージ	毎時間の事前課題・ミニレポートにしっかりと取り組み、授業を受けてください。詳細については第一回目の授業(オンライン)でお伝えします。 Moodleのアナウンスメント機能や第一回目の部分を確認の上、参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室) ※メールで連絡してください。アドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp です。			
備考	事前・事後学習総時間はおおよそ2時間程度とする。特に事前学習にテキスト(教科書)を使用するので指定している教科書を購入しておくこと。			

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないうような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第2部を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第1部を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第3部を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第3部を読んでくる。
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第3部を読んでくる。
11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第4部を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」 「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第4部を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第4部を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の学習指導要領を入手し、熟読しておいてください。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程(第4版)	田中耕治他	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ(Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版	
3				

評価方法(基準) 事前課題・レポートの内容(40%)と最終試験(60%)により総合的に評価する。

学生へのメッセージ 指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。

担当者の研究室等 7号館3階(大野順子研究室)
連絡先: j-oono@arc.setsunan.ac.jp

備考 2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択
授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。
授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します
事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	社会科・地歴科教育法 I	科目名 (英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大井 秀士
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中学・高校教員免許 (社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前 既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中高校で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高等学校学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
4	学習指導案の作成について 1	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 学習指導案とは何かを調べておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
5	学習指導案の作成について 2	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
6	学習指導案の作成と模擬授業 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
7	学習指導案の作成と模擬授業 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
8	学習指導案の作成と模擬授業 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
9	学習指導案の作成と模擬授業 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
10	学習指導案の作成と模擬授業 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
11	学習指導案の作成と模擬授業 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
12	学習指導案の作成と模擬授業 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
13	学習指導案の作成と模擬授業 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前 どのような授業記録方法があるかを考えておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前 評価方法の種類について考えておく。 事後 評価は自己の教育技術の反映であることを考える。 (4時間程度)

関連科目	社会科・地歴科教育法 II
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。			
学生への メッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考				

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大井 秀士
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。 授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。

科目学習の効果 (資格)	中学・高校教員免許 (社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	学習指導要領歴史的分野 (世界史) の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する。(4時間程度)
2	学習指導要領歴史的分野 (日本史) の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する。(4時間程度)
3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する。(4時間程度)
4	学習指導案の作成と研究授業実施 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
5	学習指導案の作成と研究授業実施 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
6	学習指導案の作成と研究授業実施 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
7	学習指導案の作成と研究授業実施 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する。(4時間程度)
8	学習指導案の作成と研究授業実施 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
9	学習指導案の作成と研究授業実施 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
10	学習指導案の作成と研究授業実施 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
11	学習指導案の作成と研究授業実施 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
12	学習指導案の作成と研究授業実施 9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
13	学習指導案の作成と研究授業実施 10	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討議する。	事前 全員の授業計画案を再度確認	事後 レポート作成、提出。(4時間程度)
15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後 レポート作成、提出。(4時間程度)	

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
-----------	------------------------------

学生への メッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の 研究室等	3号館2階非常勤講師室
備考	

科目名	社会科・公民科教育法 I	科目名 (英文)	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させない。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科 (地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらおうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果 (資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領 (社会)、高校指導要領 (公民) にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領 (中学：社会科、高校：公民科) の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術 (1)：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター (パワーポイントやインターネット) を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術 (2)：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方 (1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (1)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方 (2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (2)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業 (1)	模擬授業の実践と指導 (1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業 (2)	模擬授業の実践と指導 (2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業 (3)	模擬授業の実践と指導 (3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業 (4)	模擬授業の実践と指導 (4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う (事前課題)。
15	総括—社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は「1→2」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本教出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	事前学習課題の提出 (30%)、模擬授業 (50%)、最終レポート (20%) 等により、総合的に評価する。
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領 (最新年度版) を第一回目の授業開始までに購入 (準備) しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。入手方法については書店、オンライン書店・ショップ等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室 ※連絡のある方はメールアドレスは j-ono@arc.setsunan.ac.jp まで。
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が1
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科 (地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 (4) 政治教育、市民性教育 (シティズンシップ教育) についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。授業は対面で行います。
科目学習の効果 (資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領 (社会)、高校指導要領 (公民) にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領 (中学：社会科、高校：公民科) の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術 (1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター (パワーポイントやインターネット) を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術 (2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方 (1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方 (2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業 (1)	模擬授業の実践と指導 (1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業 (2)	模擬授業の実践と指導 (2)	模擬授業の準備。
12	政治教育 (市民性教育) (1)	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。
13	政治教育 (市民性教育) (2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成 (事前課題)
15	総括—社会科・公民科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法1を既に履修していること。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席（全15回出席すること。少なくとも80%以上の出席が必須。出席が80%に満たない者は、以下の基準を満たしていた場合でも成績評価の対象外とする。） 成績評価基準：課題・レポート（提出の締め切りは厳守すること）＝30%、模擬授業＝50%、平常点（授業への貢献度等）＝20%。なお、授業最終日に確認テストを実施する予定です。その場合は、評価基準についても改めて授業内で連絡します。 ※遅刻も欠席扱いとするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方向的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくこととなります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室 連絡先メールアドレス：j-oono@arc.setsunan.ac.jp			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法Iで購入済みの者は購入の必要なし）。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	道徳教育の研究	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける「立場」からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。

授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
----------	---

科目学習の効果 (資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①：カリキュラム・マネジメント、テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②：問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び 考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検 討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめ る。	をしておく。 (事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備 をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまと める。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>道徳科 初めての授業づくり</td> <td>吉田誠・木原一彰 編著</td> <td>大学教育出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>教育出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版	2	中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編	文部科学省	教育出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版																	
2	中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編	文部科学省	教育出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>廣済堂あかつき</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集</td> <td>『道徳教育』編集部</td> <td>明治図書出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき																	
2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版																	
3																				
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、作成した学習指導案(20%)、学期末試験の結果(50%)等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室) ※現在は耐震工事中のため、11号館11階です。																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 学級担任が担当する場合は総合的な学習(探求)の時間の理論と指導法では、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学習の過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成
到達目標	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 総合的な学習(探求)の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重
授業方法と留意点	新型コロナウイルス感染拡大に対応した授業の実施形態として、「講義科目はオンライン授業」と決定されたため、授業は原則として、時間割通りの曜日・時限に、Teamsを使用して動画配信型(リアルタイム方式)で行っていたが、授業方針の変更に伴い10月11日、18日は準備のためにオンデマンド方式で、10月25日から対面方式で実施する。 第15回の授業の後半に、授業時間内テストを行う(定期試験期間中の考査は行わない)。 「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や、自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動および総合的な学習(探求)の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習(探求)の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって(ソロワーク)	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習するとともに課題を作成する(2時間)。
3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入学して(ソロワーク)	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する(2時間)。
4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出(ソロワーク)	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
5	生徒会活動・児童会活動、学校行事ワーク④学校行事の思い出(ソロワーク)	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第3章第2・3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する(2時間)。
6	体験活動・体験的な学習の意義ワーク⑤「14歳の頃・17歳の頃」(ソロワーク)	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学習の重要性と計画的な指導の重要性	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
7	特別活動の歴史ワーク⑥ワークショップ入門(ソロワーク、グループ討議、発表)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
8	特別活動と学級経営ワーク⑦メディアリテラシー(グループ討議、交流)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
9	特別活動と生徒指導ワーク⑧いじめへの対応(1)(グループ討議、交流)	生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨生徒指導・問題行動への対応(即興劇、グループ討議、交流)	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
11	特別活動と総合的な学習(探求)の時間の共通点と相違点ワーク⑩不登校への対応(グループ討議、交流)	特別活動と総合的な学習(探求)の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
12	総合的な学習(探求)の時間の目標・内容・原理ワーク⑪進路指導・キャリア教育(即興劇、グループ討議、交流)	総合的な学習(探求)の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
13	総合的な学習(探求)の時間の学習活動と学習指導ワーク⑫ジェンダーフリー(グループ討議、交流)	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
14	総合的な学習(探求)の時間の指導計画・評価・校内体制ワーク⑬いじめへの対応(2)(グループ討議、交流)	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
15	補足とまとめ/授業時間内	補足を行うとともに全学習事項について	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学

	テスト	て再度振り返り整理する。 授業時間の後半にテストを行う。	習の時間のテキスト第9章、講義資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするともに課題を作成する(2時間)。																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																
2	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東京書籍</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>学校図書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書	3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍																
2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書																
3																			
評価方法(基準)	授業への参加状況及び課題(40%)、中間レポート(30%)、最終回授業内テスト(30%)を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																		
担当者の研究室等	7号館3階(林研究室)																		
備考	授業外総学習時間は60時間とする。																		

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一, 朝日 素明, 大野 順子, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・2回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 	教育実習ノートの点検と再確認
2	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出	
3	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出	
4	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないか。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点をを用い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	(事前) 第1回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。	
5	学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	(事前) 第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。	
6	学校の危機管理①:学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	(事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。	
7	学校の危機管理②:災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	(事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。	
8	教員の体罰はなぜなくなるのか?	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。	
9	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背景にある問題について考察し、働き方改	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。	

			革の方途を考える。																	
	10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
	12	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力のもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる																
	13	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力のもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる																
	14	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する																
	15	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生へのメッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。																			
担当者の研究室等	7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(谷口)																			
備考	事前・事後総学習時間は、60時間程度である。																			

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約1</p>
---------	---

到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>【スケジュール】 授業のスケジュールはおおよそ下記の通りです。</p> <p>【連絡方法】 授業についての連絡やOPPシートの提出は、Teamsを使います。 ※シラバス下部にある Teams コードを使って登録しておいてください。</p> <p>【授業方法】 Moodle を使ったリアルタイム授業を行います。 ※シラバス下部にある自己登録キーを使って登録しておいてください。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の学修内容を確認する 2. 前回の感想・疑問等を交流する 3. 本時の学修内容について自学する 4
----------	--

科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキストP.3を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキストP.76～85を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキストP.69～73を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキストP.93～97を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキストP.86～90を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.20～22及びP.94～95を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.23～25及びP.77を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.26～27及び81～82を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.28～29を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
12	現代の教育理論②： 20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.29～32を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.50～54を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。

	14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習 について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.147～151 を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の 教育について考える。	(事前) テキスト P.169～178 を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」につい て自分の考えをまとめる。
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパー (OPP シート) の内容 (30%) や学期末試験の結果 (70%) 等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してくださ い。			
学生への メッセージ	授業の中でチャットを使用した対話を多く予定しています。受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 (谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養もともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 7号館3階 朝日研究室

研究室等	
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習

関連科目 教職課程におけるすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 小テスト 30%, 期末試験 70%

学生へのメッセージ これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考 Teams コードと科目名
火曜 5限: e9cb86b 21前-教職-010-教育心理学 (火5) -吉田 佐治子
木曜 1限: ghkw1pp 21前-教職-018-教育心理学 (木1) -吉田 佐治子
木曜 5限: h135mtc 21前-教職-023-教育心理学 (木5) -吉田 佐治子
金曜 5限: lgnr3zw 21前-00-034-教育心理学 (金5) -吉田 佐治子
Moodle コース名と登録キー
火曜 5限: 2021 教育心理学 (火5) あるいは 21 教心 (火5) 2021EPTUE5

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。</p> <p>障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待、性的マイノリティ等による特別な教育ニーズのある児童・生徒が、安心安全のうちに、楽しく学び、達成感を持ちながら学校生活を送り、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。</p> <p>メディア言説に囚われた「障害」理解が一面的なものであることを可視化させ、「障害」の概念について再構成することと併せて、特別支援教育の理念・制度・方法・教育課程の</p>
到達目標	<p>①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。</p> <p>②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。</p> <p>③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。</p> <p>④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。</p> <p>⑤個別的教育支</p>
授業方法及び留意点	<p>コロナ感染拡大防止のため、第2回から授業方法の変更を行う。原則として時間割通りの曜日・時限で行われる Teams を使用したオンライン授業 (リアルタイム方式) を受講すること。</p> <p>第15回授業の後半にオンラインを利用したテストを行う。</p> <p>大学のHPやポータル、Teamsでの連絡を見逃すことのないように留意すること。</p> <p>授業形態</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業はオンライン (動画配信・リアルタイム方式) で行う。ICT ツールは Teams を使用する。状況の変化があれば、対面授業に戻ることもある。</p>
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (小学校・中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要	わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。障害とは何か。自立と共生を求める当事者。インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育とは何か	教科書の序章、講義資料を事前に読んでおく (2時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2時間)。
2	新しい障害観と特別支援教育への転換	ICIDH から ICF へ。医学モデルから社会モデルへ。特殊教育から特別支援教育へ。法律の整備と社会システムの整備	教科書の第1・2章、講義資料を事前に読んでおく (2時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2時間)。
3	障害者権利条約と合理的配慮	国連障害者権利条約の批准に向けた国内法の整備。障害者差別解消法に基づく差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務。インクルーシブ教育システムの構築	講義資料を事前に読んでおく (2時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2時間)。
4	戦前・戦後の特殊教育の成立と展開	障害のある子どもの学校の誕生。重い障害のある子どもの学校教育からの排除。盲・ろう学校の義務制度化と特殊学級の設置拡大	教科書の第5・6章、講義資料を事前に読んでおく (2時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2時間)。
5	養護学校義務制度化からすべての学校における特別支援教育への転換まで	養護学校 (知的・肢体不自由・病弱) の義務制度化。障害種別と程度に応じた教育の場の分離。障害種別と程度に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。発達障害も特別支援教育の対象に。通級制度の創設。	教科書の第7章、講義資料を事前に読んでおく (2時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2時間)。
6	障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題	就学前からの地域支援。共生社会に向けた教育権の保障。孤立・排除・いじめのない人間関係づくり。ともに生きともに学ぶ学級集団づくり。介助員制度の活用。周りの保護者や地域の理解。保護者との連携と家族支援	教科書の第3章、講義資料を事前に読んでおく (2時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2時間)。
7	障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題	就学先の決定は保護者・本人の意向尊重が原則。差別的取り扱い禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮。人権保障としての就労移行支援・就労継続支援、日常生活支援・社会参加支援	講義資料を事前に読んでおく (2時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2時間)。
8	通常学級での特別支援教育の実践	個別支援とアセスメント。個別指導の最適化。授業のユニバーサルデザイン化。通級制度の活用。高等学校での特別支援教育	教科書の第4章、講義資料を事前に読んでおく (2時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2時間)。
9	発達障害・知的障害の理解と支援	知的障害の定義と分類、障害の特性と身体・心理的特性、学習上の課題と対応。発達障害の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応。	講義資料を事前に読んでおく (2時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2時間)。
10	肢体不自由・病弱、重度重複障害の理解と支援	肢体不自由・病弱の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応。重度重複障害の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応。障害の多様性についての理解	講義資料を事前に読んでおく (2時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2時間)。
11	視覚障害・聴覚障害の理解と支援	視覚障害・聴覚障害の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応	講義資料を事前に読んでおく (2時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2時間)。
12	個別の指導計画と個別的教育支援計画、外国の特別支援	話し合い、方向を決めるツールとしての指導計画、つなぐツールとしての教育支	教科書第8・9章、講義資料を事前に読んでおく (2時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題

	教育	援計画。個別の指導計画の作成の仕方。個別の指導計画の授業への生かし方。諸外国における SNE (スペシャル・ニーズ・エデュケーション)	を作成・提出する (2 時間)。																
13	校内支援体制の構築と SC・SSW 等との連携・協働、特別支援教育の今後の課題	教員間の連携。他職種との連携。福祉・医療等関係機関との連携。見えてきた特別支援教育の課題。よりインクルーシブな教育を展望して	教科書の第 11 章、講義資料を事前に読んでおく (2 時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2 時間)。																
14	ニューカマー、社会的養護、LGBT など性的マイノリティの子供の理解と対応	ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBT など性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくりと授業づくり	講義資料を事前に読んでおく (2 時間)。授業後、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2 時間)。																
15	被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ	非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携、授業全体のまとめ	講義資料を事前に読んでおく (2 時間)。授業後、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2 時間)。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特別支援教育 多様なニーズへの挑戦</td> <td>柘植雅義</td> <td>中央公論新社 (中公新書)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社 (中公新書)	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社 (中公新書)																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特別支援教育資料 (令和元年度版)</td> <td>文部科学省</td> <td>Web</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特別支援教育資料 (令和元年度版)	文部科学省	Web	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	特別支援教育資料 (令和元年度版)	文部科学省	Web																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート (30%)、オンライン・テスト (30%) を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	オンラインでの授業という制約下ではあるが、本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1 人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。																		
担当者の研究室等	11 号館 11 階林研究室																		
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。																		

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の学習指導要領を入手し、熟読しておいてください。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。
2	日本における教育課程の歴史的変遷 I	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
3	日本における教育課程の歴史的変遷 II	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程(第4版)	田中耕治他	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ(Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版	
3				

評価方法(基準) 事前課題・レポートの内容(40%)と最終試験(60%)により総合的に評価する。

学生へのメッセージ 指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。

担当者の研究室等 7号館3階(大野順子研究室)
連絡先: j-oono@arc.setsunan.ac.jp

備考 2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択
授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。
授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します
事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	道徳教育論	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける「立場」からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。

授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
----------	---

科目学習の効果 (資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	をしておく。 (事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>道徳科 初めての授業づくり</td> <td>吉田誠・木原一彰 編著</td> <td>大学教育出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>教育出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版	2	中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版																	
2	中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>廣済堂あかつき</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集</td> <td>『道徳教育』編集部</td> <td>明治図書出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき																	
2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版																	
3																				
評価方法(基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、作成した学習指導案(20%)、学期末試験の結果(50%)等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生へのメッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。																			
担当者の研究室等	7号館4階(谷口研究室) ※現在は耐震工事中のため、11号館11階です。																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習(探求)の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え
到達目標	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 総合的な学習(探求)の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要
授業方法及び留意点	新型コロナウイルス感染拡大に対応した授業の実施形態として、「講義科目はオンライン授業」と決定されたため、授業は原則として、時間割通りの曜日・時限に、Teamsを使用して動画配信型(リアルタイム方式)で行ってきたが、緊急事態宣言解除により第7回授業から対面授業に切り替える。 第15回の授業の後半に、授業時間内テストを行う(定期試験期間中の考査は行わない)。 「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や、自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ・表現することが求められる総合的な学習の
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習(探求)の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ワーク①「キャラ」をめぐって(ソロワーク)	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習するとともに課題を作成する(2時間)。	
3	学級活動・ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ワーク②大学に入学して(ソロワーク)	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。	
4	学級活動・ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ワーク③学級活動の思い出(ソロワーク)	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。	
5	生徒会活動・児童会活動、学校行事	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ワーク④学校行事の思い出(ソロワーク)	特別活動テキスト第3章第2・3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する(2時間)。	
6	体験活動・体験的な学びの意義	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 ワーク⑤「14歳の頃・17歳の頃」(ソロワーク)	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。	
7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ ワーク⑥ワークショップ入門(ソロワーク、グループ討議、発表)	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。	
8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 ワーク⑦メディアリテラシー(グループ討議、交流)	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。	
9	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 ワーク⑧いじめへの対応(1)(グループ討議、交流)	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。	
10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 ワーク⑨生徒指導・問題行動への対応(即興劇、グループ討議、交流)	特別活動テキスト第4章第1・2・5節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。	
11	特別活動と総合的な学習(探求)の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習(探求)の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 ワーク⑩不登校への対応(グループ討議、交流)	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。	
12	総合的な学習(探求)の時間の目標・内容・原理	総合的な学習(探求)の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 ワーク⑪進路指導・キャリア教育(即興	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。	

			劇、グループ討議、交流)																	
	13	総合的な学習(探求)の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び ワーク㉔ジェンダーフリー(グループ討議、交流)	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。																
	14	総合的な学習(探求)の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 ワーク㉕いじめへの対応(2)(グループ討議、交流)	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。																
	15	補足とまとめ/授業時間内テスト	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。授業時間の後半にテストを行う。	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章、講義資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(2時間)。																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東京書籍</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>学校図書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍																	
2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書																	
3																				
評価方法(基準)	授業への参加状況及び課題(40%)、中間レポート(30%)、最終回授業内テスト(30%)を総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の研究室等	寝屋川7号館3F林研究室																			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。																			

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、①テキストにもとづいた教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成についての理解、基礎的な授業技術と方略等に関する講義、②授業にあたって留意すべき事項についての授業ミニ講座、③教材の開発及び授業の進め方に関する活動（個人ワーク及びグループディスカッション）で構成する（オンライン授業では、グループでのマイクロ・ティーチングの活動はできないので、3年次以降の授業で取り扱うこととした）。</p> <p>授業担当者は、高校現場で34年間にわたり、</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
授業方法と留意点	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第2回から授業方法の変更を行う。原則として時間割通りの曜日・時限で行われる Teams を使用したオンライン授業（リアルタイム方式）を受講すること。</p> <p>第15回の授業の後半で、オンラインを利用したテストを行う。</p> <p>大学のHPやポータル・Teamsでの連絡を見逃すことのないように留意すること。</p> <p>当初予定していたグループでの「マイクロ・ティーチング」の活動（教材作成及び授業実施のグループワーク）はオンラインではできないので、3年時以降の授業で取り扱うこととした</p>

科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。
-------------	-------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について	<p>授業のオリエンテーション</p> <p>講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題</p> <p>ミニ講座：①授業びらき・授業じまい</p> <p>課題：印象に残る授業</p>	教科書序章・第3章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
2	学習とは何か（学習論）	<p>講義：学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態</p> <p>ミニ講座：②褒美と罰</p> <p>発展：学ぶとはどういうことか</p> <p>課題：指導方略</p>	教科書第5章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	
3	子どもたちは何を学ぶのか（教育目標・内容論）	<p>講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容</p> <p>ミニ講座：③発問</p> <p>発展：授業研究</p> <p>課題：発問と予想される子どもの応答</p>	教科書第4章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	
4	欧米における授業の歴史（教授論の歴史①）	<p>講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授法の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開</p> <p>ミニ講座：④指示・説明・共有</p> <p>発展：学級の規模と形態</p> <p>課題：授業形態と学級規模</p>	教科書第1章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	
5	日本における授業の歴史（教授論の歴史②）	<p>講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試み</p> <p>ミニ講座：⑤発問の工夫と仕方</p> <p>発展：学級崩壊</p> <p>課題：学級崩壊の経験</p>	教科書第2章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	
6	学力をどう高めるか（学力論）	<p>講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める</p> <p>ミニ講座：⑥指名・助言・発言の受け方、教師の話し方</p> <p>発展：戦後学力論争史</p> <p>課題：全国学力・学習状況調査</p>	教科書第6章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）	
7	授業をどうデザインするか（設計・デザイン論）	<p>講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援</p> <p>ミニ講座：⑦板書・机間指導・ノート指導</p> <p>発展：授業の設計とデザインの違い</p> <p>課題：学びからの逃走</p>	教科書第7章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）	
8	8 教育の道具・素材・環境（教材論）	<p>講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間</p> <p>ミニ講座：⑧観察・実験・フィールドワーク</p> <p>発展：教材研究・教材開発・授業の構想</p> <p>課題：体験型の授業と座学型の授業</p>	教科書第8章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）。	
9	何をどう評価するか（評価論）	<p>講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論</p>	教科書第9章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）	

			としての「実践記録」 ミニ講座：⑨グループ学習・ペア学習・話し合い 発展：現在の学習評価 課題：内申書とテスト	
10	誰がカリキュラムを編成するのか（カリキュラム論）		講義：教育課程の編成にあたって、教育課程の構造と類型 ミニ講座：⑩ノート指導、レポート指導、プレゼンテーション指導 発展：総合的な学習の時間の授業づくり 課題：探求学習の指導	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）
11	授業・学習へのICTの活用（教育の情報化論1）		講義：教育の情報化（その1）、教育の情報化の今日的意義、教育情報化の加速、ICTを活用した学びの実践、学校のICT環境整備、学習環境を支えるICT環境 ミニ講座：⑪授業中の私語 発展：コロナと学校の授業 課題：大学のオンライン授業	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）
12	情報教育と校務の情報化（教育の情報化論2）		講義：教育の情報化（その2）、情報教育、校務の情報化の推進、教育情報セキュリティの確保、教師に求められるICT活用指導力等の向上 ミニ講座：⑫学びの空間 活動：グループディスカッション① 課題：教師のファシリテーションスキル	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）
13	インクルーシブな授業をつくる（インクルーシブ教育論）		講義：インクルーシブ教育とインクルーシブ教育システム、ICIDHからICFへの転換、特別支援教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮 ミニ講座：⑬ワークショップ型の授業 活動：グループディスカッション② 課題：PBL（問題解決型学習）問題点	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する。模擬授業の振り返りを行う（2時間）。
14	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる（ユニバーサルデザイン論）		講義：バリアフリーとユニバーサルデザイン、教育のユニバーサルデザイン化、基礎的環境整備と合理的配慮の関係、教室環境のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザイン化と指導の三段構え ミニ講座：⑭授業研究の方向性 発展：新しい学び 課題：学び合いの変化	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の振り返りを行う（2時間）。
15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって/テスト		講義：すぐれた教師になるために、2つの教師モデル、教師としての成長に向けて、結論 ミニ講座：教師をめざすオンラインテスト	教科書第11章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の振り返りを行う（2時間）

関連科目 教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準） 授業への参加状況【課題等】（40%）、レポート（30%）、テスト（30%）により総合的に評価する。

学生へのメッセージ オンラインでの授業という制約下ではあるが、「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。

担当者の研究室等 11号館11階(林研究室)

備考 授業外総学習時間を60時間とする。

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー（DP）			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すという素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	対面授業で、プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進めます。また時折、レポートを課します。Teamsのチャネルを通してテキストや資料を配布します。また、レポート課題提示・提出受付はMoodleを通して行います。「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
5	生徒理解の進め方（1）	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
6	生徒理解の進め方（2）	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
7	学級経営の進め方（1）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
8	学級経営の進め方（2）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成29年告示）	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）	文部科学省	
	3			

評価方法（基準）	定期試験 50%、レポート 50%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。定期試験はオンライン Web 試験に変更する場合があります。その場合は試験時間割公開に先立ち指示します。
----------	---

学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
----------	-------------

備考	必ず自分が履修登録をした曜日時限の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしてください。自分が履修登録した曜日時限以外の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしたものは成績評価対象外です（全欠席扱いとし、単位認定しません）。また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。
----	--

科目名	教育相談 (カウンセリングの基礎を含む)	科目名 (英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談 (カウンセリングに関する基礎的知識を含む。) の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1講、配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、カウンセリングの技法	テキスト第2講・第3講、配付資料を用いた予習・復習
3	グループ発表の準備	グループワーク (アイスブレイク含む)	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ (1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第2講、第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ (2)..... 開発的カウンセリング活動	テキスト第2講・第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第11講・第12講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応1	“問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と“問題”	青年期の発達 (認知、自己意識、道徳性、仲間関係等)	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際1	不登校.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習
12	相談援助活動の実際2	いじめ.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習
13	相談援助活動の実際3	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第5講、配付資料を用いた予習・復習
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第7講、配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携	テキスト第15講、配付資料を用いた予習・復習

関連科目	教職課程の科目全般
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかる！教職エクササイズ3 教育相談	森田健宏・吉田佐治子 (編著)	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループ発表 50%、期末試験 50%
-----------	---------------------

学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館3階 (吉田研究室)
----------	---------------

備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
----	---

Teams コードと科目名

火曜 2 限 : dm62fep 21 後-教職-010-教育相談 (火 2) -吉田 佐治子

木曜 1 限 : x0o8r2g 21 後-教職-015-教育相談 (木 1) -吉田 佐治子

木曜 4 限 : 4cvqalv 21 後-教職-020-教育相談 (木 4) -吉田 佐治子

Moodle コース名と登録キー

火曜 2 限 : 2

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」をはじめ履修する学生を対象とする。
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	すべての科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (林研究室)、7号館3階 (吉田研究室)
----------	--

備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。
----	--

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」をはじめて履修する学生を対象とする。
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	すべての科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (林研究室)、7号館3階 (吉田研究室)
----------	--

備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。
----	--

科目名	社会科教育法Ⅰ【地歴分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods I (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大井 秀士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。 授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法及び留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前 既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中・高で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中・高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
4	学習指導案の作成について1	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 学習指導案とは何かを調べておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
5	学習指導案の作成について2	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
6	学習指導案の作成と模擬授業1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
7	学習指導案の作成と模擬授業2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
8	学習指導案の作成と模擬授業3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
9	学習指導案の作成と模擬授業4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
10	学習指導案の作成と模擬授業5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
11	学習指導案の作成と模擬授業6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
12	学習指導案の作成と模擬授業7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
13	学習指導案の作成と模擬授業8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前 どのような授業記録方法があるかを考えておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前 評価方法の種類について考えておく。 事後 評価は自己の教育技術の反映であることを考える。 (4時間程度)

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅱ
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。			
学生への メッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考				

科目名	社会科教育法Ⅱ【地歴分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods II (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大井 秀士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。 授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。

科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分: 教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	学習指導要領歴史的分野(世界史)の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する。(4時間程度)
2	学習指導要領歴史的分野(日本史)の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する。(4時間程度)
3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する。(4時間程度)
4	学習指導案の作成と研究授業実施 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
5	学習指導案の作成と研究授業実施 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
6	学習指導案の作成と研究授業実施 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
7	学習指導案の作成と研究授業実施 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する。(4時間程度)
8	学習指導案の作成と研究授業実施 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
9	学習指導案の作成と研究授業実施 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
10	学習指導案の作成と研究授業実施 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)。
11	学習指導案の作成と研究授業実施 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
12	学習指導案の作成と研究授業実施 9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
13	学習指導案の作成と研究授業実施 10	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討論する。	事前 全員の授業計画案を再度確認	事後 レポート作成、提出。(4時間程度)
15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後 レポート作成、提出。(4時間程度)	

関連科目	社会科・地歴科教育法 I
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
------	------------------------------

(基準)	
学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の研究室等	3号館2階非常勤講師室
備考	

科目名	社会科教育法Ⅲ【公民分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods III (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させない。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらおうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業(3)	模擬授業の実践と指導(3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業(4)	模擬授業の実践と指導(4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う(事前課題)。
15	総括—社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は「1→2」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本教出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	事前学習課題の提出 (30%)、模擬授業 (50%)、最終レポート (20%) 等により、総合的に評価する。
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領 (最新年度版) を第一回目の授業開始までに購入 (準備) しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。入手方法については書店、オンライン書店・ショップ等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室 ※連絡のある方はメールアドレスは j-ono@arc.setsunan.ac.jp まで。
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	社会科教育法Ⅳ【公民分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods IV (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が1
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 (4) 政治教育、市民性教育(シティズンシップ教育)についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。授業は対面で行います。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	政治教育(市民性教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。
13	政治教育(市民性教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成(事前課題)
15	総括—社会科・公民科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法1を既に履修していること。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>出席（全15回出席すること。少なくとも80%以上の出席が必須。出席が80%に満たない者は、以下の基準を満たしていた場合でも成績評価の対象外とする。） 成績評価基準：課題・レポート（提出の締め切りは厳守すること）＝30%、模擬授業＝50%、平常点（授業への貢献度等）＝20%。なお、授業最終日に確認テストを実施する予定です。その場合は、評価基準についても改めて授業内で連絡します。 ※遅刻も欠席扱いとするので注意すること。</p>			
学生への メッセージ	<p>本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方向的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくこととなります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。</p>			
担当者の 研究室等	<p>7号館3階 大野順子研究室 連絡先メールアドレス：j-oono@arc.setsunan.ac.jp</p>			
備考	<p>授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法Iで購入済みの者は購入の必要なし）。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。</p>			

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明・大野 順子・谷口 雄一・林 茂樹・吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義 (体験報告を含む)、演習 (文献購読、発表、討議を含む)、実習 (指導案作成、模擬授業を含む) を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習 (教育実習に係る事前及び事後指導)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
9	指導案の作成 (2)	学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について	授業時に指示する
10	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業 (3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	模擬授業 (4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
14	教育実習の実際 (1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
15	教育実習の実際 (2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目 教職課程で学んだ全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

評価方法 (基準) 課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。

学生へのメッセージ 教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。

担当者の研究室等 吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室 (7号館3階)
谷口研究室 (7号館4階)

備考 教育実習体験発表会 (10月末土曜日)、教育実習総括講義 (11月末土曜日) には必ず出席すること。
ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。
担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。
事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度となる。

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の 探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の 探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の 探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」 レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の 探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の 役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務 (チーム学校運営への対応を 含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する 配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養もともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 7号館3階 朝日研究室

研究室等	
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部 [A]，理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪——ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪——街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まささが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺——高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪——子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

			罪を取り上げる。																	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青バト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえと思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトなどを通じて行う。																			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

評価方法 期末レポート (100%)

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名 (英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</p> <p>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりが無い。</p> <p>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った</p>
---------	--

到達目標	<p>この講義を通じて学生には、</p> <p>「・「被害者」概念について説明できる</p> <p>・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる</p> <p>・犯罪被害者の支援制度について理解できる」</p> <p>ようになることが期待される。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>・新型コロナ変異株の流行により、第1回目の授業から当面のあいだ、本授業はMicrosoft社のteamsを用いたオンデマンド動画配信方式で行う。</p> <p>↓</p> <p>※【講義形式変更告知】職域ワクチン接種が終了したのちの2021年10月28日（木）～</p> <p>・2021年10月28日（木）から対面にて講義を行う。</p> <p>・成績評価は従来通り、teams上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。</p> <p>・課題は対面講義が終了した後に、teams上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動</p>
----------	--

科目学習の効果（資格）	<p>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</p> <p>・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。</p>
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の入手 事前：教科書第1章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2時間）
2	少年犯罪の被害者	・少年法と被害者救済	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2時間）
3	性犯罪の被害者	・性犯罪被害特有の問題点	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
4	ドメスティックバイオレンス（DV）の被害者	・DV被害の特殊性	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「DV」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
5	ストーカー犯罪の被害者	・ストーカーへの対抗手段	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	・インターネット犯罪被害の特殊性	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
7	児童虐待の被害者救済	・児童虐待の意義	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
8	触法精神障害者からの被害	・精神障害者の加害行為と対処法	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
9	犯罪被害救済総論①	<ul style="list-style-type: none"> ・被害届と告訴・告発の効果 ・加害者との示談交渉 ・マスコミ対策 ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第2章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2時間）
10	犯罪被害救済総論②	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴と参加 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者における心情陳述 ・被害者等特定事項の非公開 ・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第3章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間）
11	犯罪被害救済総論③	・損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間）

				事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	12	犯罪被害救済総論④	・被害回復給付金制度	事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	13	犯罪被害救済総論⑤	・犯罪被害者等給付金支給制度	事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間）																
	14	犯罪被害救済総論⑥	・加害者情報へのアクセス ・法テラス	事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）																
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック</td> <td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td> <td>東京法令出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。 ・2021年10月28日（木）から対面にて講義を行う。 ・成績評価は従来通り、teams 上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。 ・課題は対面講義が終了した後に、teams 上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動画ファイルも配信する。 ・受講者は teams 上のレジュメをダウンロードし、各自ブリ 																			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野教授室																			
備考	講義の理解を試すミニツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。																			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているように異なる、また異なっているように似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて講義を進める。具体的なイメージをつかむために、関連する映画作品を鑑賞することも予定している。 【シラバス更新にもなうお知らせ】(2021.04.16) ・講義は、①Teamsを通じたりアルタイム配信(後日視聴も可能)、②Moodleを通じたレジュメ・課題等の配信、という2つの手段を適宜組み合わせさせていただきます。 ・授業形態の変更にもなう計画調整によって、授業の進行スケジュールにも変更が生じます。あらかじめご了承ください。
科目学習の効果(資格)	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。)	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想(1)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
3	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想(2)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
4	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開(1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
5	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開(2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
6	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題(1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
7	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題(2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
8	第I部 相互信頼から相互不信へ	第4章 「小春日和」の時代	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
9	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化(1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
10	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化(2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
11	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権(1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
12	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権(2) 第7章 外交争点としての「慰安婦」問題(1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
13	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題(2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
14	第II部 対立激化への展開	第8章 文在寅政権の転換	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)

	15	映画作品に見る現代韓国	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] 提示する資料を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 提示した資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民 [編著]	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 (基準)	<p>提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。</p> <p>【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.04.16) ・基本的に変更はありません。定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価(100%)を実施します。 (課題の提示および提出は、Moodleを通じて行ないます。)</p>			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室 ※ただし2021年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。			

科目名	AI ビジネス創造実習	科目名 (英文)	Practicum in Business Creation by Using AI
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	近年、情報処理基盤の社会浸透、人工知能 (AI) や IoT 等の最先端技術のオープン化に伴い、既存のビジネスモデルが大きく変化するとされています。本講義では、学生の自由な発想のもと、一人ひとりが独自の AI を作ることで、AI とは何か、AI にできること、AI では難しいことを理解します。そして、作成した AI を持ち寄り、新しいビジネスプランを考えるグループワークを通して、事業創造に必要な企画・構想力を身に着けます。																																																																		
到達目標	(1) AI の基本原理を理解し、AI を活用した既存サービスに関する知識を深めること (2) AI の作り方を知り、独自の AI を作れること (3) AI を活用したビジネスプランを発売し、グループディスカッションにより洗練させた上でプレゼンテーションができること																																																																		
授業方法と留意点	情報処理室を使用した対面授業です。 授業資料 (PDF) は、各回の授業日までに Web Folder の「AI ビジネス創造実習」クラスにアップロードします。 毎回の授業でテーマに関する演習課題を課します。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組みましょう。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方、AI の構築環境の準備</td> <td>シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>AI の基本原理と最新動向 (1)</td> <td>AI の歴史、AI の仕組み、最新動向</td> <td>配布資料の指定頁の予復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>AI の基本原理と最新動向 (2)</td> <td>最新動向の調査、アイデア出し</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>AI を作るための準備 (1)</td> <td>データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>AI を作るための準備 (2)</td> <td>データの整備</td> <td>データの整備、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>AI の作り方</td> <td>CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>AI の使い方</td> <td>画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>AI の評価方法</td> <td>画像認識 AI モデルの評価、再学習</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>AI によるビジネスプランの考案</td> <td>作成した AI の相互評価、グループ分け</td> <td>学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>AI によるビジネスプランの考案 (2)</td> <td>グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方</td> <td>グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>AI によるビジネスプランの考案 (3)</td> <td>ビジネスプランと AI の作成</td> <td>ビジネスプランの文書作成、AI の作成</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>AI によるビジネスプランの考案 (4)</td> <td>ビジネスプランの推敲、AI の作成</td> <td>ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>AI によるビジネスプランの考案 (5)</td> <td>ビジネスプランの推敲、AI の評価</td> <td>ビジネスプランの文書修正、AI の評価</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループによる発表、相互評価</td> <td>授業内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括</td> <td>これまでのまとめ</td> <td>授業内容の振り返り</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習	2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習	3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し	6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	9	AI によるビジネスプランの考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し	10	AI によるビジネスプランの考案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案	11	AI によるビジネスプランの考案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成	12	AI によるビジネスプランの考案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化	13	AI によるビジネスプランの考案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価	14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り	15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習																																																																
2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習																																																																
3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し																																																																
6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
9	AI によるビジネスプランの考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し																																																																
10	AI によるビジネスプランの考案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案																																																																
11	AI によるビジネスプランの考案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成																																																																
12	AI によるビジネスプランの考案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化																																																																
13	AI によるビジネスプランの考案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価																																																																
14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り																																																																
15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り																																																																
関連科目	情報リテラシーやプログラミングに関連する科目を履修済みであることが望ましいでしょう。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人工知能が変える仕事の未来</td> <td>野村 直之</td> <td>日本経済新聞</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人工知能は人間を超えるか</td> <td>松尾 豊</td> <td>角川</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞	2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞																																																																
2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	成績は、演習課題の回答内容に基づき評価します。期限内に提出できなかった場合は、大幅に減点します。																																																																		
学生へのメッセージ	Society 5.0 時代は、高度な情報システムやデータ処理技術を「作る人」よりも、上手に「使う人」が重宝されるでしょう。だれもが、わずかな専門知識と大いなる熱意があれば、驚くようなプロダクトやソリューションを創造することができる世の中になっています。この授業をとおして、そのことを大いに実感してほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 塚田研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	Social Welfare
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとの暮らしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個々人の生き方など、多角的な視点から考えていきます。</p> <p>本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけでなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。</p> <p>SDGs-1, 3, 5, 10, 11, 17</p>
---------	--

到達目標	<p>①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること</p> <p>②日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること</p> <p>③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること</p>
------	--

授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修: 配布資料を熟読すること (2時間)
2	社会福祉の歴史①	諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
3	社会福祉の歴史②	日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
4	社会福祉の実施主体	社会福祉の実施主体について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
5	社会保障の概観	社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
7	認知症の人を社会で支える	認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかんする基本的な知識を踏まえて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
8	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
9	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
10	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
11	地域福祉②	地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
12	地域福祉③	地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
13	地域福祉④	地域が抱える課題とその解決法を模索するワークに取り組みます	事前学習: 地域が抱える課題とその解決法を模索するワークに取り組みます (4時間) 事後学習: 提出した成果物の内容について振り返りを行うこと (2時間)
14	社会福祉と大学生の役割	社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
15	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知	事後学習: 講義の内容について振り返りを行うこと (4時間)

			識、技能、態度についてあらためて考え ます	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のレポート 50%、最終レポート 50%			
学生への メッセージ	社会福祉に関するさまざまな知識、視点を踏まえて、みなさん自身に考えていただく機会になればと考えています。			
担当者の 研究室等	7号館3階(上野山研究室)			
備考				

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 浩
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科:R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本授業で提供する「金融知力 (リテラシー)」とは、経済・金融に関する知識や情報を正しく理解し、自らが主体的に判断できる能力のことであり、社会人として経済的に自立し、より良い暮らしを送っていくうえで欠かせない生活スキルです。</p> <p>講師が、証券業界に長く勤務した経験を生かして、経済・金融の動向、金融商品の基本的な仕組みや特性、リスクマネジメント、金融資産の形成・運用方法について、実例となる日常のニュースを理解しながら、すでに学んでいる知識と融合させて具体的かつ現実に則した「金融知力 (リテラシー)」の習得を目指し</p>
到達目標	<p>経済・金融の仕組みやさまざまな金融商品の性格・特性を理解し、ライフステージのさまざまな局面での金融資産形成における確かな判断や行動に結びつく「金融知力 (リテラシー)」を習得することで、将来の自らの資産形成に的確な判断ができる一助になる事を目標にします。</p> <p>また証券系の研究機関として蓄積した企業評価、市場分析の手法を学び、投資のみならず、就職活動における企業選択にも役立てることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。 ・教材・課題提供型遠隔授業を、行います。 ・教科書と配布レジュメをよく読んで復習を行い、理解を進めていくこと。 ・レポート課題等の提出物は要提出、提出期限を厳守してください。 <p>・毎回レジュメを配布し・時事問題についても解説します</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>日々、刻々と変わるマーケットを理解できる可能性があります。</p> <p>企業経営者の考え方が理解できる可能性があります。</p> <p>中長期の経済トレンドを自ら予測し活動できる可能性があります。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	金融知力リテラシー習得の必要性	科学技術のイノベーションとグローバル化の急速な進展、結果として、様々な市場の変化により、学生諸君を取り巻く環境の変化を紹介し、自らのライフプランの中で「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性を解説します。	少子高齢化問題・財政赤字に関する報道内容の整理確認
2	金融・経済の仕組み①	資産形成の前提となる経済の基礎的条件 (ファンダメンタルズ) の知識を2回にわたって解説します。	経済用語等を理解し、経済記事を読みこなす様習慣を持つ
3	金融・経済の仕組み②	金利や金融政策など経済と金融のかかわり、世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	金融政策全般の再確認
4	ライフプランニング①	ライフプランとは生涯生活設計といった意味で、自分と家族の生活プラン、暮らし方を表します。ライフデザインを描き、ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる
5	ライフプランニング② キャッシュフロー表の作成	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	自分の大学卒業までの学費、大学生の間の生活費について、自身で計算する
6	貯蓄型商品	預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	金融機関の業態の理解に努める
7	リスクとリターンとは	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、その利益は将来回収されるものであり、現時点では必ずしも確定していません。そのためにいろいろな可能性、逆にいえば不確実性があるということになります。「リスク」とはこの不確実性のことをいいます。リスクとリターンの関係、リスクマネジメントについて解説します。	自身の人生設計、今後就職される会社にもリスクリターンの考え方は通じる。派生的に考えてみる
8	アセットクラス※の基礎知識 / 株式 (1) (ESG投資への展開含む)	上場、株式投資の魅力とリスク、取引の仕組みなどについて解説します。 ※アセットクラス: 資産クラス、資産の種類のこと	媒体でのESG投資に関する記事を確認 株式の模擬売買を経験する
9	アセットクラスの基礎知識 / 株式 (2)	マーケット・企業分析株価は、会社の業績のほか、景気、為替相場、金利、需給関係、政治、国際情勢、天候等さまざまな要因によって日々、変動しています。企業の株価や経営効率を判断する投資指標、株価水準の割安・割高を判断する分析手法等について解説し、実際の株式投資や企業分析に役立つ手法を解説します。	企業の開示資料への理解を深める
10	アセットクラスの基礎知識 / 債券 (1) (SDG's含む)	債券とは、国をはじめ、地方公共団体、政府関係機関、事業会社などが広く一般の投資者から、まとまった資金を調達することを目的として発行される証書で	財務省のHPで20年度予算の概要を確認

			す。債券の種類・特徴とリスク、”格付け”について学びます。	
	11	アセットクラスの基礎知識 ／債券（２）－金利と債券	前回は引き続き、債券投資の理解を深めます。債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してください。	債券の発行市場・流通市場への理解を深める
	12	アセットクラスの基礎知識 ／投資信託	投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	銀行・証券の投資信託販売手法に批判存在。整理確認
	13	アセットクラスの基礎知識 ／外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品	外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品の解説します。	日々の為替の推移、変動要因をチェック
	14	ファイナンシャルプランニング、セーフティネット	これまで学んでいた「金融知力（リテラシー）」を総括して解説します。あわせて、金融資産の形成に欠かせないコストや優遇税制制度、預金保険制度などについて解説します。	自身の今後の人生での最優先課題、夢を今一度考えてみる
	15	講義総括・レポート課題の解説	レポート課題の解説と参考資料も提示します	レポート期限は厳守ください
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>授業の参加姿勢 20% 理解度等を総合的に評価します。</p> <p>・レポート： 80%（レポート内容・実施時期は今後確定しますが、講義終了後のレポートを重視します）</p>			
学生への メッセージ	<p>実務経験をベースとたし、マーケットメカニズムを、お伝えできればと考えています。 半年の授業には是非お付き合いください。 授業計画は変更される場合があります</p>			
担当者の 研究室等	11号館1階（教務課）			
備考	<p>質問等は、下記メールで受け付けますが、一定の期間を要する場合があります yayoidai8603@gmail.com</p> <p>この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。</p>			

科目名	暗号資産とデリバティブ	科目名 (英文)	Cryptocurrency and Derivatives
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>社会生活様式の激変から、ICT活用による距離と時間を短縮する社会システムが構築されつつある。その状況下において、通貨流通システムも新たな手法への導入が進んでいる。本講座は工学と経済学の融合科目として、暗号資産（仮想通貨）の汎用性の仕組みと課題、および金融ビジネスで普及が進むデリバティブ取引の基本的仕組みについて学ぶ。</p> <p>【留意点】投機を目的とした仮想通貨の投機手法を学ぶ授業ではありません。</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 金融機関での経営企画、金融商品研究業務 ベンチャー投資財団での投資業務担
到達目標	時代の変遷に則した新たな金融手法、および決済手段の仕組みを学び、金融に係る様々なリスクの知識を得て、自ら将来の資産形成に向けた金融資産の多様性を理解する。また近い将来発行が予測されている「デジタル通貨」の活用とリスク対応についての理解度を高める。
授業方法と留意点	オンライン授業を実施します。毎回の授業に係る資料等はTeamsの「日付」のチャンネル内のファイルに、授業回の前週金曜日に格納しておきますので、各自、印刷準備の上、授業に参加して下さい。毎回、授業内容に関するアンケート（設問）を提示します。当日の24時まで提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	これから社会人および消費生活者として必要な暗号資産の活用理解、およびデリバティブ金融商品のリスク、構造を理解した上での活用方法について会得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 決済手段とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 電子マネーの概念と暗号資産（仮想通貨）との比較	<事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	暗号技術の概要	暗号資産の種類と暗号技術 アンケート設問による授業内容の再確認。	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
3	ビットコイン	ビットコイン型仮想通貨とは？ アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
4	ブロックチェーン	ブロックチェーンとブルーフ・オブ・ワーク法 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
5	暗号資産をめぐる課題	議論体系と法律との関係 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
6	暗号資産の事件簿	暗号資産と国際破綻 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
7	デリバティブを知る	リスクヘッジと金融工学の世界。 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
8	デリバティブ理論とは	デリバティブ理論の基本的な考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
9	投資とキャッシュフロー	キャッシュフロー現在価値の考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
10	株式のキャッシュフロー	株式のキャッシュフローモデルの考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
11	オプション取引	オプションとランダムウォークの基本的考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
12	ブラック＝ショールズモデル	投資手法の機械的考え方であるブラック＝ショールズモデルの仕組み アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
13	リスク管理	デリバティブリスクへの対応とは？ アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
14	投資戦略	イールドカーブの作り方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。

			認	<事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
	15	総論	暗号資産、デリバティブ取引の将来性と課題整理。	<事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	①毎回のアンケート設問に対する回答内容。なお回答は正解/不正解を問うものではありません。自身の考えを述べるとともにその結論に至った理由も記載すること (評価割合: 50%) ②期末レポート (評価割合: 50%)			
学生への メッセージ	今後、身近な決済手段として利用が促進されるものであるからこそ、構造およびリスクについてしっかりと理解してもらいたい。 なお、投機 (ギャンブル) 目的で学ぼうと考えている方は、受講を止めて下さい。			
担当者の 研究室等	11号館 7階 林研究室			
備考	投機 (ギャンブル) 目的で学ぼうと考えている方は、受講を止めて下さい。			

科目名	学びのデザイン論	科目名 (英文)	Designing Learning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子, 梅原 聡
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	体験型学習やサービスマーケティング、PBLではもちろんのこと、授業内でのグループワークやペアワークなど、他者と共に学ぶ機会は今後ますます増えていく。本授業は、他者と関わりながら学ぶ方法を体系的に学ぶことを目的とする。その際、他者の学びを助ける環境の作り手となる視点や、ピア・サポートの視点を取り入れる。 本授業を通して、他者との関わりに苦手意識を持つ学生や、グループワーク等の経験が少ない学生が、他者やグループワークを自分なりにバックアップできるようになることを目指す。
---------	--

到達目標	1. 学びの現場での「私」の姿を捉え、再形成を試みることができる 2. 他者、及びグループとの関係の中における学びの深め方に気づくことができる 3. 体験型学習での学びの深め方に気づくことができる 4. 大学での学び、及び体験型学習での学びへの関心が高まる
------	---

授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせる。演習は、テーマに応じて個人ワーク/ペアワーク/グループワークを用い、適宜ディスカッションやプレゼンテーションの時間を設ける。各テーマのねらいは、以下の通りである。 【私】: 学ぶ「私」の姿を捉える 【私とあなた】: 他者との関わりの中で学習を深める方法を知る 【私とあなたたち】: グループの中で学習を深める方法を知る 【私たちと社会】: 体験型学習の中で学習を深める方法を知る 【再び、私】: 学ぶ「私」の姿を探す 受講生の細かな心情変化や、興味関心を大切
----------	--

科目学習の効果 (資格)	・主に「他の学生等との関わりの中で学ぶ姿勢」の認識・再形成を通じて、他の科目(体験型学習やPBL等)で得られる学びの獲得・さらなる深化が期待できる。 ・他者と支え合いながら共に学ぶ視点や力の獲得を通じて、グループ(学習共同体)への関わりの中で得られる学びの獲得・さらなる深化が期待できる。 ・グループワーク等を用いる学習手法への動機付けを通じて、他の科目履修(体験型学習やPBL等)への積極的な履修意欲・態度の形成が期待できる。
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	【私】1: オリエンテーション/「私」と学び	「私」と学びの関係を、これまでの経験から振り返る	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)
2	【私】2: 学ぶ場面の「私」と他の場面での「私」	場面に応じて異なる顔を持つ「私」を捉える	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
3	【私とあなた】1: 自己表現/コミュニケーション	自分の自己表現やコミュニケーションの特徴に気づく	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
4	【私とあなた】2: 他者を正しく捉えるファシリテーション(1)	ファシリテーション技法の活用を通じて他者に対するバイアスを排除する方法に触れる	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
5	【私とあなた】3: 他者を正しく捉えるファシリテーション(2)	ファシリテーション技法の活用を通じて他者の気づきを引き出す方法に触れる	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
6	【私とあなたたち】1: 心理的安全性の場作り	誰もが安心して発言・行動できる環境デザインの手法に触れる	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
7	【私とあなたたち】2: 他者の助けとなるピア・サポート	他者と深め合う・活かし合う関係性づくりやアクションに触れる	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
8	【私とあなたたち】3: 他者と学習を深めるワークショップ(1)	チーム内での合意形成・対立解消を促すコミュニケーション技法に触れる	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
9	【私とあなたたち】4: 他者と学習を深めるワークショップ(2)	チーム内での創造的発想・深化を促すコミュニケーション技法に触れる	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
10	【私たちと社会】1: プロジェクトマネジメント	体験型学習・探求学習での学習法/プロジェクトデザインに触れる	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケー	

				ションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
11	【私たちと社会】2:プロジェクトラーニング(1):チームビルディング	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、協働意欲が高まる過程を体感する		<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
12	【私たちと社会】3:プロジェクトラーニング(2):発散	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、アイデアの発散過程を体感する		<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
13	【私たちと社会】4:プロジェクトラーニング(3):収束	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、アイデアの収束過程を体感する		<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
14	【私たちと社会】5:プロジェクトラーニング(4):成果まとめ	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、協働成果をまとめる過程を体感する		<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
15	【再び、私】:まとめ/「私」と学び	授業での経験から「私」と学びの関係を探る		<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
関連科目	これまで学んできたこと、これから学ぶこと、すべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来</td> <td>上田 信行, 中原 淳</td> <td>三省堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション</td> <td>安齋勇樹, 塩瀬隆之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>対話型ファシリテーションの手ほどき</td> <td>中田豊一</td> <td>ムラのミライ</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来	上田 信行, 中原 淳	三省堂	2	問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション	安齋勇樹, 塩瀬隆之	学芸出版社	3	対話型ファシリテーションの手ほどき	中田豊一	ムラのミライ
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来	上田 信行, 中原 淳	三省堂																	
2	問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション	安齋勇樹, 塩瀬隆之	学芸出版社																	
3	対話型ファシリテーションの手ほどき	中田豊一	ムラのミライ																	
評価方法(基準)	授業で提示する小課題 60%, レポート課題 40%																			
学生へのメッセージ	本学では、様々な体験型学習が用意されています。本科目では、そうした科目を受講するための基本的な姿勢を身に付けていただきたいと思っています。特に他の学生を支えながら、共に学び進んでいく、そのような姿をイメージしています。“人見知り”だと思っている方、グループワークがどこか苦手だと思っている方にこそ、ぜひ受講していただきたいと思っています。他の学生との関わりやグループワーク等への不安を取り除き、楽しみながら取り組めるように進めていくので、気軽に受講して下さい。																			
担当者の研究室等	吉田:7号館3階																			
備考	教科書は特に指定しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。 詳しい授業方法・評価方法等については、第1回の授業時に説明する。 授業の進行に伴い、シラバスの組み替えや変更を行う場合がある。																			

科目名	SDG s で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 石田 裕子, 郭 進, 加嶋 章博, 小林 健治, 手代木 功基, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1~TT01465a1, L 科: LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1~IT01375a1, P 科: YT01423a2~YT01427a2, J 科: JT01374a~JT01378a1, W 科: WT01352a1~WT01356a1, N 科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来と SDG s	科目全体のガイダンス (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第 5 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
9	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
10	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
11	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
12	産業連関分析	淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
13	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
14	滋賀県朽木地域の森林利用の変遷	淀川源流の森はどのように変化してきたのか? [関連 SDG 15] (担当: 手代木功基)	事前: 教科書[第 3 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	(仮題) SDGs で読み解く淀川流域—近畿の水源から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤編著	昭和堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 第 2 回目~15 回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点) と、期末のレポート (30 点) の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

	いずれか1つを選択し、A4 2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはず。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	1号館 7階 後藤研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1 (貧困をなくそう)、SDG2 (飢餓をゼロに)、SDG3 (すべての人に健康と福祉を)、SDG4 (質の高い教育をみんなに)、SDG5 (ジェンダー平等を実現しよう)、SDG6 (安全な水とトイレを世界中に)、SDG7 (エネルギーをみんなに そしてクリーンに)、SDG8 (働きがいも経済成長も)、SDG9 (産業と技術革新の基盤をつくろう)、SDG10 (人や国の不平等をなくそう)、SDG11 (住み続けられるまちづくりを)、SDG12 (つくる責任 つかう責任)、SDG13

科目名	脳の情報処理	科目名 (英文)	Computing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	人間の知的活動の中核である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。
授業方法と留意点	当面はリモート形式で実施しますが、状況により変更の可能性はあります。 初回の授業で、Teamsの会議にて授業の受講方法についてアナウンスしますので、受講希望者は必ず参加してください。 毎回、関連映像を視聴し、講義内でミニッツペーパーおよび質問作成して提出する。復習のための課題レポートの提出を必要とする。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	脳について学習する上で知っておくべき用語や概念を説明する	課題レポートを仕上げる
2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたしている。それぞれの器官の構造と役割を概説する	課題レポートを仕上げる
3	学習: シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	課題レポートを仕上げる
4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	課題レポートを仕上げる
5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から、人間の認識手法を知る	課題レポートを仕上げる
6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	課題レポートを仕上げる
7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は、意識の注がれるところに集中的に作用する。その現象を説明する	課題レポートを仕上げる
8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが、いかになされるかを概説する	課題レポートを仕上げる
9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	課題レポートを仕上げる
10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による、運動の生成および運動の学習について概説する	課題レポートを仕上げる
11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	課題レポートを仕上げる
12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	課題レポートを仕上げる
13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	課題レポートを仕上げる
14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性、自我や感情について脳の機能を中心に考える	課題レポートを仕上げる
15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ミニッツペーパー等の平素の活動を含めた授業態度と課題レポート 60%、試験 40% を総合して判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	誰もが有しており、最も身近な未知の高度情報処理機構である脳について、さまざまな角度から見ていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館10階 寺内研究室
----------	---------------

備考	本人確認のため、メールで連絡する場合には大学のアドレスから送信してください。
----	--

科目名	使えるデータサイエンス	科目名 (英文)	Useful Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 譲
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的
 これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り

到達目標
 この講義の到達目標は以下の通りである。
 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる
 (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている
 (3) インターネットや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる

授業方法と留意点
 本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。授業時間以外にも利用できるオンラインコンテンツ (履修者のみがアクセス可能) を使って、データサイエンスの利用シーンやビジネスに繋がる知識も学ぶ。また、本科目では【履修学生を 50 人に限定】し、有償の e-Learning 教材を提供する。

科目学習の効果 (資格)
 社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、Society 5.0 時代のデータの価値について C科 伊藤教授、S科 牧野准教授、久保准教授	e-Learning 教材:「第 1 回 データサイエンスとは」
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 2 回 社会で起きている変化」
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 9 回 データを読む (1)」
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 CEI 寺内准教授	e-Learning 教材:「第 11 回 データを説明する」
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S科 橋本講師	e-Learning 教材:「第 10 回 データを読む (2)」
6	オープンデータの収集と活用	RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W科 植杉教授	e-Learning 教材:「第 3 回 社会で活用されているデータ」
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W科 朝田准教授	e-Learning 教材:「第 12 回 データを扱う」
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 6 回 データ活用とは」
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 4 回 データ・AI の活用領域」
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (1)」
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」
12	社会の動きを見るデータ	経済社会データベース (学術データ) の便利な使い方	e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E科 片田准教授	e-Learning 教材:「第 7 回 データ・AI 利活用の現場」
14	普段の SNS 利用から法則を見つける	ノート PC によるフィールドワークノートづくり S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 8 回 データ・AI 利活用の最新動向」
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) C科 伊藤教授、CEI 石井教授、S科 牧野准教授、S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 15 回 データを守る上での留意事項とまとめ」

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		AI・データサイエンス ～リテラシーレベル～ e-learning 教材 (受講者のみ利用可能)	三谷慶一郎

	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業での課題 50%、e-Learning 教材 40%、事前事後の学修進展度(アンケート) 5%、学修ノート 5%、以上を総合して60%以上を合格とする。なお、無断欠席が20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。			
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。			
担当者の 研究室等	1号館3階 伊藤教授室、11号館7階 久保准教授室、牧野准教授室、11号館10階 寺内准教授室、11号館8階 橋本講師室、1号館7階 植杉教授室、朝田准教授室、1号館4階 片田准教授室、7号館5階 石井教授室			
備考				

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TCA1445a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読したうえで課題に取り組む必要があるため、積極的な態度で受講すること。</p> <p>授業方法の変更など、重要な連絡事項は Teams を通じて行うため、かならず内容を確認してください。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとはなにか？なぜ必要なのか？ ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とはなにかを考えること(事前：0.5時間)
	2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)
	3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学のなかにある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学のなかにある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5時間) ・講義で課された課題に取り組むこと(事後：2時間)
	4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間)
	5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsとはなにかについて予習をしておくこと(事前：0.5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間)
	6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)
	7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)
	8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)
	9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：1時間)
	10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)
	11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)
	12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間)
	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(事前：1時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)
	14	グループ課題の発表会	グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(1時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)
	15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義4で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) ・期末レポートを作成すること(1.5時間)
関連科目	キャリアデザインII、インターンシップ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) ※現在7号館工事中のため、11号館11階が仮研究室となります。			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TCA1445a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。 <p>なお、講義は担当講師の人材・教育業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDG</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5時間)
	2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること(0.5時間)
	3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話聴く 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方考えること ・講義で課された課題に取り組むこと(2時間)
	4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと(2時間)
	5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで課題に取り組むこと(2時間)
	6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること(0.5時間)
	7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5時間)
	8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5時間)
	9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(1時間)
	10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5時間)
	11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5時間)
	12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(1時間)
	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること(1.5時間)
	14	グループ課題の発表会	グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(2時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(1時間) 	

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジユメを配布する。			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TCA1445a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。 																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読したうえで課題に取り組む必要があるため、積極的な態度で受講すること。 授業方法の変更など、重要な連絡はTeamsを通じて行うため、かならず内容を確認してください。 また、初回の参加学生数を踏まえ、所属学科別の開講に変更します。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ようこそ、摂南大学へ</td> <td>・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとはなにか？なぜ必要なのか？ ・公と私について考える</td> <td>・自分にとって“キャリアデザイン”とはなにかを考えること(事前：0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>さあ始めよう！大学生活を</td> <td>・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける</td> <td>・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>摂南大学</td> <td>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学のなかにある「機会」について知る ・アセスメントを実施する</td> <td>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学のなかにある「機会」の活用の仕方について考えること(事後：0.5時間) ・講義で課された課題に取り組むこと(事後：2時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自己効力感を高めよう</td> <td>・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション</td> <td>・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SDGsについて考えよう グループ課題の設定</td> <td>・SDGsに対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える</td> <td>・SDGsとはなにかについて予習しておくこと(事前：0.5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>社会は君を待っている</td> <td>・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える</td> <td>・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会の仕組み①</td> <td>・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える</td> <td>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>社会の仕組み②</td> <td>・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション</td> <td>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分づくり①</td> <td>・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク</td> <td>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>自分づくり②</td> <td>・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定</td> <td>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>スケジューリング術</td> <td>・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる</td> <td>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ビブリオバトル①</td> <td>・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する</td> <td>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td>・プレゼンテーションの準備をすること(事前：1時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td>・グループごとのプレゼンテーション</td> <td>・プレゼンテーションの準備をすること(1時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義のおさらい</td> <td>・講義4で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り</td> <td>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) ・期末レポートを作成すること(1.5時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとはなにか？なぜ必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とはなにかを考えること(事前：0.5時間)	2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)	3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学のなかにある「機会」について知る ・アセスメントを実施する	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学のなかにある「機会」の活用の仕方について考えること(事後：0.5時間) ・講義で課された課題に取り組むこと(事後：2時間)	4	自己効力感を高めよう	・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間)	5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	・SDGsに対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGsとはなにかについて予習しておくこと(事前：0.5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間)	6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)	7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)	8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)	9	自分づくり①	・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：1時間)	10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)	11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)	12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間)	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：1時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(1時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)	15	講義のおさらい	・講義4で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) ・期末レポートを作成すること(1.5時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとはなにか？なぜ必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とはなにかを考えること(事前：0.5時間)																																																																
2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)																																																																
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学のなかにある「機会」について知る ・アセスメントを実施する	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学のなかにある「機会」の活用の仕方について考えること(事後：0.5時間) ・講義で課された課題に取り組むこと(事後：2時間)																																																																
4	自己効力感を高めよう	・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間)																																																																
5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	・SDGsに対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGsとはなにかについて予習しておくこと(事前：0.5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間)																																																																
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)																																																																
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)																																																																
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)																																																																
9	自分づくり①	・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：1時間)																																																																
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)																																																																
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)																																																																
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間)																																																																
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：1時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)																																																																
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(1時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)																																																																
15	講義のおさらい	・講義4で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) ・期末レポートを作成すること(1.5時間)																																																																
関連科目	キャリアデザインII、インターンシップ																																																																		
教科書																																																																			

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。																
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) ※7号館が工事中のため、現在は11号館11階にあります																
備考	必要に応じて授業内でレジユメを配布する。																

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TCA1445a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。 <p>なお、講義は担当講師の人材・教育業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDG</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間) ・事後学修：キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間)
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修：各受講科目のノートを整理すること(3時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：摂南大生として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HP の(2時間) ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修：大学生活の目標を再度考えること(2時間)
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修：社会で求められる能力について考えること(3時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：GDP について調べること(1時間) ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：税金について調べること(1時間) ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修：長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：大学へ入学した目的をを考えると(2時間) ・事後学修：学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修：自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点を

	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	まとめること (1時間) <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: キャリアデザインを振り返ること (1時間) ・事後学修: 夏休み以降の大学生活の目標を考えること (3時間) 																
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)																			
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。 																			

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TCA1446a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 (10月まで講義はWeb (Teams) によるリアルタイム講義) 11月5日より対面授業で実施。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前：1時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後：0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後：2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後：0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考える(事前：0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前：0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後：0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後：0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前：0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑩⑪⑫の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前：1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前：0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生への 来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	毎回の授業レポートなどは Teams より提出（対面授業移行後も同様）

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を展開する。毎回、事前学修・事後学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション -あいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修: ビジネスマナーとは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 企業のエコ活動について調べる。 ・事後学修: 仕事とは何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCA について調べる。 ・事後学修: あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400 字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0 をもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修: 来客応対プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にはをする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学習: コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する、(400 字以上)
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: 弔・贈答プリント②をする。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考える。 ・事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめる。

関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のワーク（事前学修、事後学修等）(50%)、期末試験レポート課題（50%）を総合的に判断する。 出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・久保 廣正・白鳥 武・田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:B △C 科: II ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1~TT01465a1, L 科: LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1~IT01375a1, P 科: YT01423a2~YT01427a2, J 科: JT01374a~JT01378a1, W 科: WT01352a1~WT01356a1, N 科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、経済学、環境工学、建築
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り、説明と討議をすることができる。 (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料はフラットファイルを用いて管理してもらいます。 学生は対面授業かオンライン授業を選択して
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が必要かを知る CHAP 1 を協働でサマリー作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後: CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 SDGs カードゲーム 振り返りシート	事前: CHAP2 を学び、ABD サマリーを作成する
3	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP3 リレープレゼン、対話 リレープレゼン、対話 振り返りシート	事前: CHAP 3 を学び、ABD サマリーを作成する
4	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 13 を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化とは」 https://www.youtube.com/watch?v=URSj7PA_ZwY ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化の現状と予測」 https://www.youtube.com/watch?v=JyFOa_Fo3Nk
5	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 14, 15 を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 温暖化の影響へ適応するために」 https://www.youtube.com/watch?v=vQ2scQfpmkw
6	地球共生デザインを考える I: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ
7	地球共生デザインを考える II: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf
8	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1: 目標 2, 3 を学び、ABD サマリーを作成する。 事前 2: 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
9	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: CHAP3 を学び、ABD サマリーを作成する。 事前 2: 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
10	中間成果発表	理解度確認テスト プレゼンテーション 対話 振り返りシート	事前 1: ポスターの準備 事後: 第 1 回レポート
11	食糧安全保障 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示	事前 1: 目標 2 (2.4.2.c) を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。(※日本語字幕を選択する。)

			振り返りシート	The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLUGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t
12	食糧安全保障 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート		事前1：目標：2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前2：フードロスとその日本の現状について理解する。 (※日本語字幕を選択する。) REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp , London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon
13	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート		事前1：目標：8, 9, 12, 17 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJ5FYtfcFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c
14	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート		事前1：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：SDGs 達成のために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第2回レポート
15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート		事前：SDGs1-17 の復習

関連科目

摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊で しっかりわかる教科書」(1680 円+税)	バウンド	技術評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
(基準)

・理解度確認クイズ (個人：10%)
 ・事前・事後学習課題・ABD サマリ (個人：15%)
 ・取組み姿勢 (チーム：20%)
 ・成果発表・プレゼンテーション2回 (チーム：20%)
 ・振り返りシート (個人：10%)、・レポート2回 (個人：20%)、・授業資料管理 (個人：5%)
 ※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。

学生への
メッセージ

この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs 実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。

担当者の
研究室等

大塚教授 (薬学部 11 号館 5F)、久保副学長 (7 号館 8F)、伊藤教授 (1 号館 3F)、喜多教授 (農学部 1 8 号館 2F)、白鳥准教授 (1 2 号館 7階)、佐藤准教授 (1 号館 3F)、田中講師 (1 号館 7F)、横山講師 (総合体育館 1F)

備考
この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・久保 廣正・白鳥 武・田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:B △C 科: II ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1~TT01465a1, L 科: LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1~IT01375a1, P 科: YT01423a2~YT01427a2, J 科: JT01374a~JT01378a1, W 科: WT01352a1~WT01356a1, N 科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、経済学、環境工学、建築
到達目標	(1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について知り、説明と討議をすることができる。 (2) 現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3) 課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4) 自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料はフラットファイルを用いて管理してもらいます。 学生は対面授業かオンライン授業を選択して
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP 1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後: CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 SDGs カードゲーム 振り返りシート	事前: CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP3 リレープレゼン、対話 リレープレゼン、対話 振り返りシート	事前: CHAP 3 を学び、ABD サマリを作成する
4	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化とは」 https://www.youtube.com/watch?v=URSj7PA_ZwY ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化の現状と予測」 https://www.youtube.com/watch?v=JyFOa_Fo3Nk
5	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 14, 15 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 温暖化の影響へ適応するために」 https://www.youtube.com/watch?v=vQ2scQfpmkw
6	地球共生デザインを考える I: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ
7	地球共生デザインを考える II: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf
8	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1: 目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
9	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
10	中間成果発表	理解度確認テスト プレゼンテーション 対話 振り返りシート	事前 1: ポスターの準備 事後: 第 1 回レポート
11	食糧安全保障 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示	事前 1: 目標 2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。(※日本語字幕を選択する。)

			振り返りシート	The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLuGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t
	12	食糧安全保障 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標：2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前2：フードロスとその日本の現状について理解する。 (※日本語字幕を選択する。) REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp , London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon
	13	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標：8, 9, 12, 17 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJ5YtfCFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c
	14	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前1：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：SDGs 達成のために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第2回レポート
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17 の復習
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊で しっかりわかる教科書」(1680 円+税)	バウンド	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> 理解度確認クイズ (個人：10%) 事前・事後学習課題・ABD サマリ (個人：15%) 取組み姿勢 (チーム：20%) 成果発表・プレゼンテーション2回 (チーム：20%) 振り返りシート (個人：10%)、レポート2回 (個人：20%)、授業資料管理 (個人：5%) ※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。			
学生への メッセージ	この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs 実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	大塚教授 (薬学部 11 号館 5F)、久保副学長 (7 号館 8F)、伊藤教授 (1 号館 3F)、喜多教授 (農学部 1 8 号館 2F)、白鳥准教授 (1 2 号館 7階)、佐藤准教授 (1 号館 3F)、田中講師 (1 号館 7F)、横山講師 (総合体育館 1F)			
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。			

科目名	まちづくり入門	科目名 (英文)	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動が続いている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。
到達目標	(1) まちづくりの課題を多面的に理解できる (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持つ
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多様な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。
科目学習の効果 (資格)	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる気持ちを涵養する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義	オリエンテーション 教務部長 C科 伊藤教授	事前: シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後: 学修ポイントに合った計画の提出
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	社会変化とまちづくり 大手前大学 坂倉孝雄 准教授 (前 経済産業省)	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	都市計画とまちづくり C科 熊谷教授	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方プロジェクト推進室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
5	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 (元堺市副市長、元大阪市都市計画局長)	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり W科 野長瀬教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり S科 久保准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり R科 稲地准教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり W科 野村教授	授業担当者から指示する
10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 J科 増田講師	授業担当者から指示する
11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり CEI 上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	文化資源とまちづくり L科 古矢講師	授業担当者から指示する
13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり A科 加嶋教授	授業担当者から指示する
14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり A科 池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表、討論会 教務部長 C科 伊藤教授	事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各回の事後レポート
学生へのメッセージ	ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。
担当者の研究室等	1号館3階 伊藤教授室、1号館4階 熊谷教授室、11号館7階 久保准教授室
備考	

科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]</p>
---------	--

到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
------	--

授業方法と留意点	<p>講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。なお、講義は対面講義とTeamsによるリアルタイム講義の同時進行で行う。各自の事情や希望に合わせて受講形式を選択すること（受講形式固定する必要はない）。対面講義で受講する場合は初回の教室で、Teamsで受講する場合は 9pwmqp6 からクラスに入り、講義日のチャンネルから受講すること。また、対面とウェブのそれぞれの人数の状況を確認してからチーム分けを実施する。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。
--------------	------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 講義の進め方 なぜチームが必要なのかを知る チームビルディングとは何かを理解する 	<p>事前学習：本科目のシラバスを精読し、自身が学びたいことをまとめること（2時間）</p> <p>事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2時間）</p>
2	グループ分けを自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> グループ分け 自己紹介ワーク 	<p>事前学習：自己紹介の内容を考えること（2時間）</p> <p>事後学習：チームにどのように貢献できるかを考える。（2時間）</p>
3	チームビルディングの理論を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> チームビルディングの理論を学ぶ 	事後学習：講義資料を熟読すること（2時間）
4	チームビルディング体験①	<ul style="list-style-type: none"> コンセンサスゲーム チームの10箇条 	<p>事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（2時間）</p> <p>事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返ること（2時間）</p>
5	チームビルディング体験②	チームで推理クロスに挑む	<p>事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（2時間）</p> <p>事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返ること（2時間）</p>
6	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける 	<p>事前学習：今で出会ったリーダーについて思い出し、レポートを作成すること（2時間）</p> <p>事後学習：講義資料を熟読し、自身のリーダーシップの発揮の仕方について考えること（2時間）</p>
7	話し合う技術①	<ul style="list-style-type: none"> GDに関する知識を学ぶ 	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる（3時間）
8	話し合う技術②	<ul style="list-style-type: none"> 議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ 	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる（3時間）
9	組織で学習するためのチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> チームを機能させるために必要な要素を学ぶ 	<p>事前学習：チームにどのように貢献できるかを考えること（2時間）</p> <p>事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2時間）</p>
10	情報の読み取りと活用	<ul style="list-style-type: none"> チームで改善計画を考える 	事後学習：講義資料を熟読すること（2時間）
11	1チームで課題解決に挑む	<ul style="list-style-type: none"> チームでニッポンの課題の解決策を考える 	<p>事前学習：チームにどのように貢献できるかを考えること（2時間）</p> <p>事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2時間）</p>
12	チームで企画する	<ul style="list-style-type: none"> チームで学生提案のPBLプロジェクトを企画する 	<p>事前学習：摂南大学PBLプロジェクトについて調べること（2時間）</p> <p>事後学習：チームでワークに取り組むこと（5時間）</p>
13	チームでワークに取り組む①	<ul style="list-style-type: none"> チームで地域創生のワークに取り組む 	事後学習：チームで発表をする準備をすること（3時間）
14	チームでワークに取り組む②	<ul style="list-style-type: none"> チームで地域創生のワークに取り組む 	<p>事後学習：チームで発表をする準備をすること（3時間）</p> <p>事後学習：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること（2時間）</p>
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	<p>事前学習：提出物などの出し忘れがないか確認する。（1時間）</p> <p>事後学習：講義全体を振り返ること（2時間）、期末レポートを作成すること（4時間）</p>

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> 「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。			
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター（水野研究室）			
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1, L科:LT01366a1~LT01370a1, D科・S科:IT01371a1~IT01375a1, P科:YT01423a2~YT01427a2, J科:JT01374a~JT01378a1, W科:WT01352a1~WT01356a1, N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。 容認することが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・2019年度までの入学生で「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」を取得希望者にとっては、「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修: 私たちの周りにある伝統や習慣について考えること (2時間) ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること (2時間)
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査	・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2時間) ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること (2時間)
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション	・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間) ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること (2時間)
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間)
6	性役割の形成	・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デートDV ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違	・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間) ・事後学修: 中間発表用レポート作成 (2時間)
7	中間発表	・興味のあるテーマに関して、個人発表を行う。	・事前学修: 中間発表準備 (2時間) ・事後学修: 中間発表レポート手直し (2時間)
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化	・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間)
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること (2時間) ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること (2時間)
10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2時間) ・事後学修: アサーティブに話す練習をすること (2時間)
11	アサーティブネス理論②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間) ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成すること (2時間)
12	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デートDVについて現状を理解する	・事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2時間) ・事後学修: 一つの課題を発見し、その解決策の提案についてまとめ、レポートを作成すること (2時間)
13	ダイバーシティマネジメント	・企業比較から政策提言へ	・事前学修: 企業が必ず取り入れているダイバーシ

		ト①		ティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間）																
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）																
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）																
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ジェンダーで学ぶ社会学</td> <td>伊藤公男</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td> <td>木村 涼子 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>性と法律</td> <td>角田 由紀子</td> <td>岩波新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社																	
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房																	
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書																	
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	グローバル・シチズンシップ論 (入門)	科目名 (英文)	Global Citizenship (Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。当該副専攻課程を履修する最初の学期に履修することが望ましい。受講者は、グローバル・シチズンシップ (GC) およびグローバル・シチズンシップ教育 (GCED) の基礎的な概念を理解し、これらの概念が必要とされるに至ったグローバルな歴史的背景と、現在まで続く課題について、基礎的な知識を獲得する。また獲得した知識と理解について、日本語および簡単な英語でアウトプットできるようになることを目指す。 この授業は、GC と GCED に「ついて」の授業である
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 「グローバル・シチズンシップ」および「グローバル・シチズンシップ教育」が現在の国際社会においてどのように定義づけられているか、なぜそうした概念や教育活動が必要とされるようになったのかを説明できる。 背景にある国境を越えた社会課題について、具体例をいくつか挙げながら説明できる。 事前に準備をすれば、上記の説明を日本語だけでなく、平易な英語を用いて行うことができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> いわゆる「実習」ではなく、知識と理解を身につけることを主目標とする授業であるが、アクティブ・ラーニングは GCED の根幹である。教員からの一方向の情報伝達は最小限に留め、受講する学生が自ら資料を読み、考え、他の学生および教員と対話しながら知識をつけ、理解を深めてゆく。学生には、自律的な予習と復習、情報検索やファクトチェック、ディスカッションと質疑への積極的な参加が求められる。 教員によるファシリテーション、学生の質疑やディスカッションなどは原則として日本語で行うが、GC 副専攻の海外実習や EMI (Eng
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、TOEFL、IELTS、英検、国連英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション (1)	オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
2	イントロダクション (2)	チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
3	イントロダクション (3)	「グローバル・シチズンシップ」の概念について、テキスト概観	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
4	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利 (1)	市民性 (citizenship)、主権者教育 (citizenship education)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
5	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利 (2)	人権 (human rights)、世界人権宣言 (Universal Declaration of Human Rights, 1948)、SDGs、政治弾圧 (repression)、難民 (refugees, asylum seekers)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
6	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利 (3)	政治的権利 (political rights)、参政権 (suffrage, voting rights)、反植民地主義運動 (anti-colonial movements)、アイデンティティ政治 (identity politics)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
7	グローバル・シチズンシップと経済的権利 (1)	経済的権利 (economic rights)、労働問題 (labor issues)、公正かつ平等な賃金 (fair and equal wages)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
8	グローバル・シチズンシップと経済的権利 (2)	児童労働 (child labor)、人身売買 (human trafficking)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
9	グローバル・シチズンシップと経済的権利 (3)	企業利益 (corporate interests)、オフショアリング (offshoring)、アウトソーシング (outsourcing)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
10	グローバル・シチズンシップと文化 (1)	グローバル化 (globalization)、均質化 (homogenization)、文化的権利 (cultural rights)、多様性 (diversity)、ハイブリディティ (hybridity)、摩擦 (conflict)、ナショナリズム (nationalism)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
11	グローバル・シチズンシップと文化 (2)	日本における外国人労働者 (foreign workers)、技能実習生 (technical intern trainees)、難民 (refugees)、留学生 (international students)、日本語教育、多文化共生 (multicultural symbiosis)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
12	グローバル・シチズンシップと文化 (3)	多様性 (diversity)、多文化主義 (multiculturalism)、普遍的人権 (universal human rights)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
13	グローバル・シチズンシップと環境問題 ゲスト・レクチャー (1)	問題解決への事例 (1) 西アフリカ半乾燥地での砂漠化とその対処法 関連するキーワード: 砂漠化 (desertification)、土地荒廃 (land degradation)、貧困削減 (poverty alleviation)、異常気象/極端気象 (extreme weather)、水不足 (water scarcity)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
14	グローバル・シチズンシップと環境問題 ゲスト・レクチャー (2)	問題解決への事例 (2) 東アフリカ山間地域における人々の暮らしの向上と生態系保全の両立 関連するキーワード: 森林破壊 (deforestation)、土地荒廃 (land degradation)、貧困削減 (poverty	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。

			alleviation)、生物多様性 (biodiversity)	
	15	総括	授業全体の振り返りワーク	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の際は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常評価 80% (小テスト、平常の提出物、グループワークや質疑への貢献を総合的に評価する) プレゼンテーション課題 20% (作成過程を含む)			
学生へのメッセージ	グローバル・シチズンシップ副専攻、今年度より本格始動します。価値ある学びの場を一緒につくりましょう。			
担当者の研究室等	2号館2階グローバル教育センター			
備考	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックにかかる時間、自発的な英語のトレーニングや、グローバル教育センター主催の学習イベントに参加する時間等も全て合算し、週平均で4時間程度、総計で60時間程度の授業外学修時間を確保すること。			

科目名	グローバル・シチズンシップ論 (応用)	科目名 (英文)	Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。グローバル・シチズンシップ論 (入門) 履修後に履修することが望ましい。</p> <p>本科目はグローバル・シチズンシップ論 (入門) で学んだ知識や概念等をもとに、日本国内における社会課題 (多文化共生、外国人労働者、SDGs など) に焦点を当て、グローバルとローカルのつながりについて学ぶものである。授業自体がグローバル・シチズンシップ教育の一環であり、受講者自身が授業を通じ体験的に学び、実践者として行動していく姿勢が求められる。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本国内における社会課題について、歴史的背景、現状等が理解できる さまざまな分野での実践者の経験から、実践上の留意点を理解できる 身近にある社会課題について分析し、課題解決の方策の提案ができる
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> いわゆる一方的な講義ではなく、学んだことをもとにグループでディスカッションしたり、関心のある課題について調査、発表するなど、主体的に取り組む形式が多い。 取り扱う課題により、外部講師を招聘し、実践に関する講義やワークショップ等も実施する。 <p>・本科目は2021年度後期90分授業x2・3コマの集中講義で実施される予定である。詳細なスケジュールは決定次第、ポータルサイト等で連絡をする。</p> <p>初回授業以降は担当教員からの連絡を常に受け取れるようにしておくことが必要である。</p> <p>・その他、履修にあたって不明</p>
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ	指定された教材の読解、課題を行う
	2	グローバルとローカルのつながり (1) 消費社会	エシカル消費について	指定された教材の読解、課題を行う
	3	グローバルとローカルのつながり (2) 消費社会	ゲスト・レクチャー、ワークショップ	指定された教材の読解、課題を行う
	4	グローバルとローカルのつながり (3) 消費社会	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う
	5	グローバルとローカルのつながり (4) 日本における多文化共生	日本における多文化共生の歴史、課題等	指定された教材の読解、課題を行う
	6	グローバルとローカルのつながり (5) 日本における多文化共生	ゲストレクチャー、ワークショップ 日本における多文化共生 多文化共生マネージャーの取り組み	指定された教材の読解、課題を行う
	7	グローバルとローカルのつながり (6) 日本における多文化共生	外国にルーツを持つ子どもの課題と支援	指定された教材の読解、課題を行う
	8	グローバルとローカルのつながり (7) 日本における多文化共生	災害時の外国人支援	指定された教材の読解、課題を行う
	9	グローバルとローカルのつながり (8) 日本における多文化共生	多様性教育	指定された教材の読解、課題を行う
	10	グローバルとローカルのつながり (9) 日本における多文化共生	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う
	11	グローバルとローカルのつながり (10) SDGs	SDGs と身近な生活のつながり	指定された教材の読解、課題を行う
	12	グローバルとローカルのつながり (11) SDGs	ゲストスピーカー、ワークショップ	指定された教材の読解、課題を行う
	13	グローバルとローカルのつながり (12) SDGs	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う
	14	プレゼンテーション (1)	1回~13回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする	指定された教材の読解、課題を行う
	15	プレゼンテーション (2)	1回~13回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする	指定された教材の読解、課題を行う

関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習、摂南大学 PBL プロジェクトなど
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常評価 60% (平常の提出物、課題への取り組み等総合的に評価) プレゼンテーション課題 40% (作成過程を含む)			
学生への メッセージ	身近な場所で自ら行動が起こせるきっかけになればと思っています。受講生同士の関わりからも多くのことも学んでもらいたいと思いますので、積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名 (英文)	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have le
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire pr
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
	2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
	3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
	4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
	5	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of equality
	6	War and peace Invited speaker (date might change)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of historical events related to war
	7	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	8	Midterm exam: group presentations	Group presentations	
	9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	10	Economic justice	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
	12	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global environmental issues
	13	Cultural rights	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local culture
	14	Cultural rights	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of foreign cultures
	15	Final exam - group presentations	Group presentations	

関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Midterm group presentation: 20% Final group presentation: 20%			
学生への メッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other. We will be working with three groups of students in the United States to learn together on topics related to global citizenship. Please be prepared to work ha			
担当者の 研究室等	2号館2階グローバル教育センター（旧：国際交流センター）			
備考				

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙・久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1, N科: NKY1349a1, AC科・AB科・AF科・AE科: OHU0401a2		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。 学生は対面授業かオンライン授業を選
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、どこへ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABDの体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門: 第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上)
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 第1回レポート 事前学習: SDGsとは何か、指定した資料を調べる(3時間以上)
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAIとは何かを調べる(1.5時間以上)
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 第2回レポート 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読み事前学習シートを作成する(2時間以上)
10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上)
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 第3回レポート(2時間以上)
15	大学教養入門: まとめ	グループワーク「教養とは何か?」	事後学習: 第4回レポート

		事後アンケート	(2時間以上)	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム: 20%) ・中間発表・まとめ (チーム: 20%) ・レポート 4回 (個人: 20%) ・振り返りシート (個人: 15%) ・理解度確認クイズ (個人: 15%) ・事前学習シート (個人: 5%) ・授業資料の管理 (個人: 5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	伊藤謙 (1号館 3F), 久保貞也 (11号館 7F), 石井三恵 (7号館 5F), 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 寺内睦博 (11号館 10F), 佐井英子 (11号館 6F), 瀬川智広 (スポ振)			
備考	この科目は、入学式〜キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙・久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1, N科: NKY1349a1, AC科・AB科・AF科・AE科: OHU0401a2		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。 学生は対面授業かオンライン授業を選
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、どこへ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABDの体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門: 第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上)
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 第1回レポート 事前学習: SDGsとは何か、指定した資料を調べる(3時間以上)
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAIとは何かを調べる(1.5時間以上)
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 第2回レポート 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読み事前学習シートを作成する(2時間以上)
10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上)
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 第3回レポート(2時間以上)
15	大学教養入門: まとめ	グループワーク「教養とは何か？」	事後学習: 第4回レポート

		事後アンケート	(2時間以上)	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム: 20%) ・中間発表・まとめ (チーム: 20%) ・レポート 4回 (個人: 20%) ・振り返りシート (個人: 15%) ・理解度確認クイズ (個人: 15%) ・事前学習シート (個人: 5%) ・授業資料の管理 (個人: 5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部 of 学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	伊藤謙 (1号館 3F), 久保貞也 (11号館 7F), 柳沢学 (8号館 3F), 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 寺内睦博 (11号館 10F), 古矢篤史 (7号館 4F), 羅鵬飛 (経済)			
備考	この科目は、入学式〜キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙・久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1, N科: NKY1349a1, AC科・AB科・AF科・AE科: OHU0401a2		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGs と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。 学生は対面授業かオンライン授業を選
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、どこへ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門: 第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3時間以上)
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 第1回レポート 事前学習: SDGs とは何か、指定した資料を調べる (3時間以上)
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDGs とは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDG s とは何か、図書館、ネットで調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAI とは何かを調べる (1.5時間以上)
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 第2回レポート 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読み事前学習シートを作成する(2時間以上)
10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3時間以上)
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 第3回レポート (2時間以上)
15	大学教養入門: まとめ	グループワーク 「教養とは何か？」	事後学習: 第4回レポート

		事後アンケート	(2時間以上)	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム: 20%) ・中間発表・まとめ (チーム: 20%) ・レポート 4回 (個人: 20%) ・振り返りシート (個人: 15%) ・理解度確認クイズ (個人: 15%) ・事前学習シート (個人: 5%) ・授業資料の管理 (個人: 5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部、学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	伊藤 譲 (1号館 3F), 久保貞也 (11号館 7F), 柳沢学 (8号館 3F), 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 寺本俊太郎 (1号館 3F), 松島裕一 (11号館 9F)			
備考	この科目は、入学式〜キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1459a1, L科: LKY1361a1, D科・S科: IKY1368a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1370a1, W科: WKY1349a1, N科: NTO1350a1~NTO1354a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2)ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身につけている。 (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4)チームワーク能力やリーダーシップを身につけている。 (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6)テーマにそった対話(感想、質疑応答)を行うことができる。 (7)自主学習の習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業の7回目まではオンラインで実施する。7回目の時点で8回目以降を対面授業とするか判断する。授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説(教科書、ABDとは) 協働学習(p.18-47:要約、プレゼン、対話)、振り返りシート	『未来の年表』p.48-79を読み、事前学習シート(①不明な用語を調べる、②重要箇所を抜き出す)を作成する。(2時間程度)
2	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書p.80-108を読み、事前学習シートを作成する。
3	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書p.109-146を読み、事前学習シートを作成する。
4	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	教科書第二部を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)
5	教養としての社会の課題を知る:中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シート(要約)を作成する。 第1回レポート
6	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
7	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。
8	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。
9	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)
10	教養としての社会の課題を知る:中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	「星の王子様」1~10章を読み、事前学習シート(要約、感想)を作成する(2時間程度) 第2回レポート
11	教養としての社会の課題を知る:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書11~20章を読み、事前学習シートを作成する
12	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書21~27章を読み、事前学習シートを作成する
13	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する
14	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話)	ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)

			QFT (中間発表のテーマ出し) 振り返りシート																	
	15	教養としての文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子様</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コロナ後の世界</td> <td>大野和基 (編)</td> <td>文春新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書	2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	コロナ後の世界	大野和基 (編)	文春新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書																	
2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	コロナ後の世界	大野和基 (編)	文春新書																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢／ルーブリック (チーム：15%)、・ファイリング (個人：5%) ・ポスター発表 (チーム：20%) ・レポート 3回 (個人：30%)、・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) ・事前学習シート (個人：10%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？																			
担当者の 研究室等	伊藤 謙 (1号館 3F)、寺内 睦博 (11号館 10F)、石井 三恵 (7号館 5F)、上野山 裕士 (7号館 3F)、水野 武 (7号館 3F)、友枝 恭子 (5号館 1F)、瀧 (スポ振)																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1459a1, L科: LKY1361a1, D科・S科: IKY1368a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1370a1, W科: WKY1349a1, N科: NTO1350a1~NTO1354a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2)ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身につけている。 (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4)チームワーク能力やリーダーシップを身につけている。 (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6)テーマにそった対話(感想、質疑応答)を行うことができる。 (7)自主学習の習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業の7回目まではオンラインで実施する。7回目の時点で8回目以降を対面授業とするか判断する。授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説(教科書、ABDとは) 協働学習(p.18-47:要約、プレゼン、対話)、振り返りシート	『未来の年表』p.48-79を読み、事前学習シート(①不明な用語を調べる、②重要箇所を抜き出す)を作成する。(2時間程度)
2	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書p.80-108を読み、事前学習シートを作成する。
3	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書p.109-146を読み、事前学習シートを作成する。
4	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	教科書第二部を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)
5	教養としての社会の課題を知る:中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シート(要約)を作成する。 第1回レポート
6	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
7	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。
8	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。
9	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)
10	教養としての社会の課題を知る:中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	「星の王子様」1~10章を読み、事前学習シート(要約、感想)を作成する(2時間程度) 第2回レポート
11	教養としての社会の課題を知る:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書11~20章を読み、事前学習シートを作成する
12	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書21~27章を読み、事前学習シートを作成する
13	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する
14	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話)	ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)

			QFT (中間発表のテーマ出し) 振り返りシート																	
	15	教養としての文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子様</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コロナ後の世界</td> <td>大野和基 (編)</td> <td>文春新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書	2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	コロナ後の世界	大野和基 (編)	文春新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書																	
2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	コロナ後の世界	大野和基 (編)	文春新書																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢／ルーブリック (チーム：15%)、・ファイリング (個人：5%) ・ポスター発表 (チーム：20%) ・レポート 3回 (個人：30%)、・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) ・事前学習シート (個人：10%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？																			
担当者の 研究室等	伊藤 謙 (1号館 3F)、寺内 睦博 (11号館 10F)、石井 三恵 (7号館 5F)、上野 山裕士 (7号館 3F)、水野 武 (7号館 3F)、友枝 恭子 (5号館 1F)、瀧 (スポ振)																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
---------	---

到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
------	--

授業方法と留意点	※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する
--------------	------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
	2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
	7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
	12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (35%)、SmartSPI (15%)
-----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 教育イノベーションセンター
------------	---------------------

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的
 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。

到達目標
 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。
 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。

授業方法と留意点
 ※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。
 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。

科目学習の効果 (資格)
 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目
 コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)
 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (35%)、SmartSPI (15%)

学生へのメッセージ
 数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の研究室等
 7号館3階 教育イノベーションセンター

備考

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。 履修者数が多いため、2クラスに分かれて受講していただきます。まずはポータル通知に記載されている自らの担当教員を確認し、担当教員のTeamsに登録してください。Teamsに登録するためのチームコードは寺内: ne1jps0、山岡: 4z6o0s1となっています。間違えないよう気をつけてください。 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安: 30分)・実力テストを復習しておくこと(目安: 30分)
	2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2時間)
	7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2時間)
	12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2.5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (35%)、SmartSPI (15%)
-----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
----------	---------------------

備考	履修者数が多いため、2クラスに分かれて受講していただきます。 まずはポータル通知に記載されている自らの担当教員を確認し、担当教員のTeamsに登録してください。 Teamsに登録するためのチームコードは寺内: ne1jps0、山岡: 4z6o0s1となっています。間違えないよう気をつけてください。
----	---

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的
 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。

到達目標
 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。
 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。

授業方法と留意点
 11月4日以降は対面形式で実施します。基本的に数的能力をメインに学習します。毎回オリジナル教材を用いて様々な問題を解いていきます。取り扱いテーマが広いので、予習・復習が大切です。
 ※授業は対面で進行しますが Teams を連絡用に使い、Moodle で小テストやレポート提出を行います。

科目学習の効果 (資格)
 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用① (割合の基礎と濃度算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用② (損益算の基礎と料金の割引)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③ (損益算の応用と代金の精算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	数的思考⑤	分数の活用 (分割払いと仕事算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	数的思考⑥	速度算の基本	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	復習と中間テスト	今までの問題の復習と中間テスト	1~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
9	数的思考⑦	速度算の応用	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	論理思考①	場合の数と確率	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理思考②	集合の概念	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理思考③	表の読み取り	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理思考④	論理推論①	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理思考⑤	論理推論②	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	復習と期末テスト	今までの問題の復習と期末テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目
 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法 (基準)
 小テスト 30%、中間テスト 20%、期末テスト 35%、SmartSPI 15%
 その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ
 数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の研究室等
 7号館3階 教育イノベーションセンター

備考

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的
 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。

到達目標
 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。
 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。

授業方法と留意点
 11月4日以降は対面形式で実施します。基本的に数的能力をメインに学習します。毎回オリジナル教材を用いて様々な問題を解いていきます。取り扱いテーマが広いので、予習・復習が大切です。
 ※授業は対面で進みますが Teams を連絡用に使い、Moodle で小テストやレポート提出を行います。

科目学習の効果 (資格)
 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用① (割合の基礎と濃度算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用② (損益算の基礎と料金の割引)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③ (損益算の応用と代金の精算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	数的思考⑤	分数の活用 (分割払いと仕事算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	数的思考⑥	速度算の基本	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	復習と中間テスト	今までの問題の復習と中間テスト	1~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
9	数的思考⑦	速度算の応用	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	論理思考①	場合の数と確率	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理思考②	集合の概念	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理思考③	表の読み取り	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理思考④	論理推論①	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理思考⑤	論理推論②	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	復習と期末テスト	今までの問題の復習と期末テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目
 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 小テスト 30%、中間テスト 20%、期末テスト 35%、SmartSPI 15%
 その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ
 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の研究室等
 7号館3階 教育イノベーションセンター

備考

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的
 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。

到達目標
 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。
 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。

授業方法と留意点
 11月4日以降は対面形式で実施します。基本的に数的能力をメインに学習します。毎回オリジナル教材を用いて様々な問題を解いていきます。取り扱いテーマが広いので、予習・復習が大切です。
 ※授業は対面で進行しますが Teams を連絡用に使い、Moodle で小テストやレポート提出を行います。

科目学習の効果 (資格)
 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用① (割合の基礎と濃度算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用② (損益算の基礎と料金の割引)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③ (損益算の応用と代金の精算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	数的思考⑤	分数の活用 (分割払いと仕事算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	数的思考⑥	速度算の基本	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	復習と中間テスト	今までの問題の復習と中間テスト	1~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
9	数的思考⑦	速度算の応用	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	論理思考①	場合の数と確率	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理思考②	集合の概念	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理思考③	表の読み取り	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理思考④	論理推論①	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理思考⑤	論理推論②	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	復習と期末テスト	今までの問題の復習と期末テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目
 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法 (基準)
 小テスト 30%、中間テスト 20%、期末テスト 35%、SmartSPI 15%
 その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ
 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の研究室等
 7号館3階 教育イノベーションセンター

備考

科目名	西洋経済史	科目名 (英文)	Western Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大槻 忠史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2○, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6△, DP7◎, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1019a0		

授業概要・目的	世界の国や地域、社会などがこれまでどのような歴史をたどり、現在の状態に至るのかについて、特に経済活動に関わる部分に焦点を当て、その概観を学ぶ。
到達目標	次の二つを目標とする。第一に、特に重要な活動や出来事について、その概観と背景を理解すること。第二に、それらが現在においてもなお我々の日常生活や社会といかに関わりを持っているのかを理解すること。
授業方法と留意点	1. 基本的には、講義スタイルで授業を進めます。また、コメントシート等の利用により、理解度を測ります。 2. 資料を配布しますが、それらに依存しないこと。講義に集中し、必要に応じてメモを取る習慣をつけて下さい。また、疑問点などは、自ら調べると共に、質問等により自ら解決するように心がけて下さい。
科目学習の効果 (資格)	2年次後半、また3、4年次に履修する科目をより深く理解することにつながると考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済史とは何か? 経済史を通じて何を学ぶのか?	事前: シラバスの熟読 事後: 授業内容の復習
2	中世までの経済活動 (1)	アジアを中心に、中世までの経済活動について概観をえる。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習
3	中世までの経済活動 (2)	ヨーロッパを中心に、中世までの経済活動について概観をえる。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 1
4	経済活動と宗教改革	経済活動と宗教の関係性について考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 2
5	いわゆる「世界の一体化」(1)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、ヨーロッパと中南米地域の関係を考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題
6	いわゆる「世界の一体化」(2)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、ヨーロッパとアフリカ地域の関係を考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題
7	いわゆる「世界の一体化」(3):	いわゆる「世界の一体化」の時期における、アジアの発展、またアジアとヨーロッパとの関係を考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 3
8	イギリスの産業革命	イギリスの産業革命について、産業発展の実態とその背景、影響などについて、考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 4
9	日本の開国と発展	日本の開国とその後の発展について概観を得る。そして、世界市場への参入とその意味という観点から位置付ける。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習
10	イギリスの衰退とアメリカ合衆国の台頭	アメリカ合衆国の台頭について、その背景と実態について概観を得る。そして、それが 20 世紀の世界的な経済活動や体制に与えた影響について考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 5
11	社会主義経済体制の出現	ロシア革命とその実態、影響について、経済的側面から考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 6
12	世界恐慌と経済体制の変化	世界恐慌がもたらした経済活動への影響、また戦時の経済経済体制について概観を得る。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 7
13	第二次世界大戦後の世界経済 (1)	植民地の独立がもたらした影響と世界経済体制の新たな課題について、考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 8
14	第二次世界大戦後の世界経済 (2)	1990 年代以降の世界経済体制とその変化、また経済危機について、考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習
15	まとめと経済発展論の紹介	全体の見取り図を描くと共に、経済発展論について簡潔に学ぶ。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習

関連科目 経済学入門(エコノミックリテラシー)、日本経済史、経済思想史など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特定の教科書は使用しません。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界経済の歴史 (第2版)	金井雄一 ほか	名古屋大学出版会
2	現代日本経済史	中村宗悦	学文社	
3				

評価方法 (基準) レポート(60%)及び授業内課題(40%)を予定しています。授業形式により、変更の可能性あります。

学生へのメッセージ 「歴史を学ぶ」と聞くと、年代や人物、出来事などの暗記と思うかもしれませんが、もちろん、最低限必要な知識はありますが、自分なりに理解することに重点を置いてほしいと思います。担当者は、理解が進めば、知識は後からついてくると考えています。少なくとも本講義では、知識の暗記に終始することは求めません。常に自ら考えることを求めたいと思います。授業で扱うことのできない国や地域、社会、時期、項目などについては、自ら進んで調べてみてください。知識がつながり、理解が深まります。

担当者の研究室等 1号館7階 大槻研究室

科目名	アジア経済史	科目名 (英文)	Asian Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1020a0		

授業概要・目的	日本を含むアジアの経済史をグローバルな観点から学ぶ。
到達目標	日本と密接な関係を持つアジアの経済の歴史をグローバルな観点から学び、経済の多様性を理解すると共にアジアおよび世界の中で日本がどのように行動すべきかを考えられるようにする。
授業方法と留意点	現時点では遠隔授業になりますが大阪府・大学の方針により変更になる場合があります。
科目学習の効果 (資格)	観光産業、貿易関係の仕事に必要な知識を身につけられるほか、公務員試験対策にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	アジアの経済史をグローバルな視点から学ぶ意味とは	事前：中学や高校で習った地理と日本史・世界史の知識を復習しておく 事後：授業の復習
2	アジア域内交易と大航海時代	16世紀のアジアとヨーロッパ、環大西洋の経済はどのような状態だったのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
3	近世東アジアの国際環境	明・清と徳川時代の日本の経済	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
4	インドの植民地化とイギリス	インドとイギリスの経済との関係	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
5	「産業革命」から「バクス・ブリタニカ」へ1	産業革命はなぜイギリスで最初に起きたのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
6	「産業革命」から「バクス・ブリタニカ」へ2	イギリスの金融の発達、ドイツ・アメリカの工業化、帝国主義	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
7	アジアの近代化1	西洋との直面に対する中国の対応	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
8	アジアの近代化2	西洋との直面に対する日本とタイの対応	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
9	アジア経済のモノカルチャー化と再編1	中国・日本・インドの世界経済への統合化	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
10	アジア経済のモノカルチャー化と再編2	東南アジアの世界経済への統合化	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
11	両大戦間期の世界経済とアジア1	1920-30年代の世界経済	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
12	両大戦間期の世界経済とアジア2	1920-30年代の日本とアジアの経済	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
13	戦後世界経済の再建と動揺1	IMF・GATT体制と南北問題	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
14	戦後世界経済の再建と動揺2	変動為替相場制下の世界とアジアの経済	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
15	まとめ	全体のまとめ	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習

関連科目	国際経済論、国際投資論、国際マーケティング論、日本経済史、経済思想史
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間レポート (50%) および期末レポート (50%) で評価する。
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	普段から新聞やテレビ等を通じて、日本国内だけでなく外国にも関心を持つようにしてください。また表面的な現象だけに目を奪われず、なぜそうなっているのかを考えるようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	授業時間外に予習復習および期末レポート作成のために20-30時間の学習が望ましい。
----	---

科目名	ゲーム理論	科目名 (英文)	Game Theory
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2o, DP3o, DP4Δ, DP5o, DP6Δ, DP7o, DP8Δ, DP9o		
科目ナンバリング	WDW3025a0		

授業概要・目的
ゲーム理論は、経済学のみならずあらゆる分野で応用されており、いまや、ものごとを戦略的・論理的に考える基本的な技術といってよいでしょう。ただし、その基本的な方法を習得し、これらに応用するには一定の練習が必要です。本講義では、経済学でも頻繁に適用される非協力ゲームに絞り、基本的な概念の理解と、応用力を身につけるための問題演習に重点を置きます。

到達目標
最終的には、ゲーム理論を利用して戦略的思考を身につけることを目標とします。

授業方法と留意点
本授業は、ほぼ隔週で小テストを実施します。小テストの得点は、成績評価に係りますので、必ず受けるようにしてください。

科目学習の効果 (資格)
他の経済学等の科目 (特に「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」) の学習・理解に資する内容です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ゲーム理論とは何か	イントロダクションとしてミクロ経済学的発想の解説、及びゲーム理論のミクロ経済学への応用例を示します。	授業内容の確認・復習
2	非協力ゲーム 1-1 戦略の支配とナッシュ均衡	標準型ゲーム、純粋戦略、囚人のジレンマ、被支配戦略の逐次消去	授業内容の確認・復習
3	非協力ゲーム 1-2 混合戦略 (1)	ナッシュ均衡、混合戦略	確認テスト 1 (1~2 回までの範囲)
4	非協力ゲーム 1-3 混合戦略 (2)	混合戦略に関する具体例による演習 (復習及び解説) クールノー・モデルなど	授業内容の確認・復習
5	非協力ゲーム 1-4 ゼロ和ゲーム (1)	定和ゲーム、ゼロ和ゲーム、マクスマニ戦略、ミニマクス定理	確認テスト 2 (3~4 回までの範囲)
6	非協力ゲーム 1-5 ゼロ和ゲーム (2)	ゼロ和ゲームに関する具体例による演習 (復習及び解説)	授業内容の確認・復習
7	非協力ゲーム 2-1 展開型ゲーム (1)	展開型ゲーム、ゲームの木、展開型ゲームの戦略型表現	確認テスト 3 (5~6 回までの範囲)
8	非協力ゲーム 2-2 展開型ゲーム (2)	部分ゲーム完全均衡、局所戦略	授業内容の確認・復習
9	非協力ゲーム 2-3 展開型ゲーム (3)	展開型ゲームに関する具体例による演習 (復習及び解説) チェーンストア・パラドクスなど	授業内容の確認・復習
10	非協力ゲーム 2-4 展開型ゲーム (4)	繰り返しゲーム (有限回)	確認テスト 4 (7~9 回までの範囲)
11	非協力ゲーム 2-5 展開型ゲーム (5)	繰り返しゲーム (無限回)、トリガー戦略	授業内容の確認・復習
12	非協力ゲーム 3-1 情報不完備なゲーム (1)	ベイジアンゲーム、ベイジアン=ナッシュ均衡	確認テスト 5 (10~11 回までの範囲)
13	非協力ゲーム 3-2 情報不完備なゲーム (2)	完全ベイジアン均衡 自然 信念 一括均衡 分離均衡	授業内容の確認・復習
14	非協力ゲーム 3-3 情報不完備なゲーム (3)	公共財、逆選択	確認テスト 6 (12~13 回までの範囲)
15	講義のまとめと今後の学習に関するガイダンス	講義のまとめとして基本的な概念の確認と、講義内で扱えなかったさらなるトピックスについて概説します。	期末テストの学習

関連科目
特に「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」その他多数

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
各授業での小テスト約 40%、定期試験約 60% で総合評価します。

学生へのメッセージ
継続的な演習を促すために、小テストを重視します。数学的な式に不安な場合でも、適宜解説を行いながらゆっくり進めます。

担当者の研究室等備考
1号館 7階 植杉教授室 (経済学部)

科目名	計量経済学	科目名 (英文)	Econometrics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2026a0		

授業概要・目的	<p>三題噺 (こぼなし) ではありませんが、次の3つの話を読んでください。</p> <p>1. 皆さんの中には、将棋や囲碁で遊んだことのある方もいると思います。あるいはいまでも、趣味として楽しんでいる方もいるかもしれません。さて、近年は人工知能 (AI) というものが注目されています。その応用として、囲碁や将棋のソフトが開発され、実際に棋士と対戦をしています。この人工知能には、棋譜であらわされた対戦データを使って、囲碁や将棋の戦い方を学習させています。そうやって人工知能は、プロの棋士と対戦できるだけの能力を身につけているのです</p>
到達目標	この講義では、数学、統計学、経済学を融合した学問分野である、計量経済学の基本を習得します。特に、最小二乗法に代表される回帰分析と、必要な統計学の基礎知識 (検定・推定など)、そして経済データの特性について理解を深め、「統計学」の内容よりもより進んだ知識を身に付けます。

授業方法と留意点	<p>この講義は5回目から7回目はオンライン・対面式の併用、8回目以降は対面式で実施します。ただし社会状況の変化に応じて、オンラインで開講する可能性もあります。</p> <p>対面式講義移行後 (8回目以降) に無断欠席の回数が多い学生は、単位取得資格を失います。ご注意ください。</p> <p>この講義で主に利用する ICT ツールは、Microsoft Teams と Microsoft Forms です。オンライン講義を実施する場合は Microsoft Teams でリアルタイム配信をします。下記の Teams コードを利用してこの講義のチーム</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	回帰分析など、基本的なデータ処理の方法が理解できるようになります。また統計学や回帰直線に関する知識は、IT パスポート試験や基本情報技術者試験でも問われています。
--------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	計量経済学とは	計量経済学の概要について説明します。この講義のイントロダクションです。	教科書第1章・講義資料 (1)
2	データの整理①: 統計的記述と確率変数	統計学の基本として、まず経済データの種類について説明し、続いてデータの特性をどうあらわすか、について説明します。また、確率変数についても解説します。	教科書第2章・講義資料 (2)
3	データの整理②: 母集団と標本	母集団と標本は、データを使った分析を進める際に、基本中の基本となる概念です。ここでは母集団と標本の違い、および分布について説明します。	教科書第2章・講義資料 (3)
4	統計的推測: 推定と検定	データ (標本) から母集団の特徴を推測する方法が推定・検定です。統計的な推論のキーとなる概念です。	講義資料 (4)
5	最小二乗法①	計量経済学の中心的課題とも呼べる、回帰分析について解説します。ここではその基本である最小二乗法について扱います。	教科書第3章・講義資料 (5)
6	最小二乗法②	最小二乗法で推定した結果について、その妥当性を検証する方法 (決定係数など) について解説します。また応用例も紹介します。	教科書第3章・講義資料 (6)
7	単回帰分析①	分析のために必要な各種推論 (標準化変量、偏差値、正規分布、t 分布など) について解説します	教科書第4章・講義資料 (7)
8	単回帰分析②	最小二乗法で推定した推定量には、優れた特徴があります。ここではそれらの検定方法などについて解説します。	教科書第4章・講義資料 (8)
9	単回帰分析③	モデルの仮定や最小二乗推定量の特徴について解説します。また、実証分析例も紹介します。	教科書第4章・講義資料 (9)
10	多重回帰分析の基礎①	説明変数の数を増やしたケースについて解説します。実証例も紹介いたします。	教科書第5章・講義資料 (10)
11	多重回帰分析の基礎②	多重回帰分析における推定結果の解釈や、注意すべき点について解説します。実証分析の例も紹介します。	教科書第5章・講義資料 (11)
12	多重回帰分析の拡張	ダミー変数、ラグ変数などの多重回帰分析における重要な応用について解説します。また、重要な問題点である多重共線性についてもここで扱います。	教科書第7章・講義資料 (12)
13	価格指数・デフレータ他	物価をあらわすデータである、物価指数やデフレータについて解説します。また名目変数と実質変数の違いについても扱います。	教科書第6章・講義資料 (13)
14	F 検定	複数の係数の推定値を同時に検定する手法である、F 検定について解説します。	教科書第8章・講義資料 (14)
15	系列相関とその対処法	誤差項が相関を持つこと (系列相関) によってもたらされる問題点と、その検定方法や対処法について解説します。	教科書第9章・講義資料 (15)

関連科目	「統計学」で学んだ内容を事前に復習してください。
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 計量経済学 Excel による実証分析のガイド	山本拓・竹内明香	新世社
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>講義中に出題される練習問題 (25%)、レポート課題 (25%)、試験 (50%)、で評価します。 練習問題は、Microsoft Forms を利用して実施します。その回の講義内容に関するものです。原則として次回講義開始時までを解答期限とします。次回までに提出する宿題だと考えてください (例外もあります)。 また、試験は期末試験です。ただし期末試験の期間に Microsoft Forms を利用して実施する可能性もあります。 この講義では Microsoft Forms を多く利用します。使い方を確認してください。</p>			
学生への メッセージ	<p>初回講義は、Microsoft Teams を利用して実施します。10月11日以降は対面式・オンライン併用で実施します。 疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。なお履修に当たっては、教科書は必ず購入してください。教科書を持っていることを前提に講義を進めます。 この講義は、高校までの数学や統計学の学習内容を基本として展開されます。学習内容の積み重ねが大事です。また、3年次開講科目であることからわかるように、それなりに高度な内容です。ただ</p>			
担当者の 研究室等	1号館7階 小塚研究室			
備考				

科目名	管理会計	科目名 (英文)	Management Control
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW3027a0		

授業概要・目的	管理会計とは、経営管理者の多様な意思決定等の経営管理活動に対して有用な会計情報を提供する一連のプロセスである。本講義では、財務・原価情報を利用した戦略的管理ツールの基礎知識を概説し、そのプロセスを習得することを目的とする。講義では理論を理解し実践力を身につけるため、演習・事例研究などを取り入れる。
到達目標	戦略経営に用いられる管理ツールの理論を理解し、実務でどのように活用されるかを身につけることを本講義の到達目標とする
授業方法と留意点	本授業は①基礎理論の講義、②理論の理解のための演習、③理論を用いた事例研究またはグループワークの3段階で構成される。
科目学習の効果 (資格)	日商簿記、SA、FP、中小企業診断士、税理士、公認会計士受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義全体の概要および講義の進め方などの紹介	レポート
2	管理会計のフレームワーク	管理会計学習の意義、管理会計と財務会計、管理会計と資源配分、管理会計と人間・組織	レポート
3	管理会計の発展史	管理会計の発展過程、管理会計手法 (tool) の変遷過程管理会計モデルなど	レポート
4	簿記の要約	管理会計論の基礎知識として、会計の基本的な仕組みを理解する。会計期間、簿記の5要素、利益計算、貸借対照表・損益計算書	演習問題・レポート
5	投資計画のための管理会計①	複数の投資案の中で、どのように投資案を選択するかについて学習する。投資案の分析ツールとして、NPV法・回収期間法・ROI法を用いる	演習問題
6	投資計画のための管理会計②	複数の投資案の中で、どのように投資案を選択するかについて学習する。投資案の分析ツールとして、NPV法・回収期間法・ROI法を用いる	演習問題・レポート
7	ROIを用いた企業評価	実際の企業の財務諸表を利用し、企業評価を行ってみる。	演習・レポート
8	短期利益計画とCVP分析①	損益分岐点 (BEP) 分析を学習し、実際の企業の利益計画の演習を行う。短期利益計画の意義、CVP分析 (損益分岐点分析)、限界利益・貢献利益	演習問題
9	短期利益計画とCVP分析②	損益分岐点 (BEP) 分析を学習し、実際の企業の利益計画の演習を行う。短期利益計画の意義、CVP分析 (損益分岐点分析)、限界利益・貢献利益	演習問題
10	短期利益計画とCVP分析③	損益分岐点 (BEP) 分析を学習し、実際の企業の利益計画の演習を行う。短期利益計画の意義、CVP分析 (損益分岐点分析)、限界利益・貢献利益	演習問題・レポート
11	価格決定と原価企画①	販売価格の決定のための基本的な方法論を理解する コスト・プラス法・原価企画による法	演習問題
12	価格決定と原価企画①	販売価格の決定のための基本的な方法論を理解する コスト・プラス法・原価企画による法	価格決定の事例研究のレポート
13	セールス・ミックス (Sales Mix)	複数の製品がある場合、利益最大化のためには、どのようなセールス・ミックスをするのかについて学習する。	演習問題
14	事業部組織における業績評価	事業部制組織の業績評価にはどのような経営指標を用いればいいのか、また、その業績評価結果は事業部長のボーナスなどにどのようにリンクさせるべきであるのかについてケースをもって学習する。	事例研究
15	まとめ	まとめと質疑応答	

関連科目	会計学入門・簿記原理Ⅰ・Ⅱ
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 100% (演習・レポートなどに基づいて総合的に評価する)
学生への メッセージ	授業中は計算演習を行うため、電卓を持参すること
担当者の 研究室等	1号館7階 朴教授室 (経済学部)
備考	

科目名	日本産業史	科目名 (英文)	Japanese Industrial History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2○, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7△, DP8○, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3033a0		

授業概要・目的	日本の産業の発展の経緯、現状と今後の展望について理解する。 担当教員の実務経験を生かし、日本産業のイノベーションの実態を論じることとする。
到達目標	①日本産業の発展の経緯と現状を理解する。 ②日本産業の今後の展望について理解する。 ③日本産業のイノベーションについて理解する。
授業方法と留意点	事例、データを示しつつ、授業を進める。 Moodle を活用し、授業を行う。 環境変化により授業方法を修正する場合は、別途指示する。
科目学習の効果 (資格)	①日本の産業の流れについて把握できる。 ②産業界の最近の動向について把握できる。 ②自らのキャリア形成を考える上での基礎が得られる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、日本産業史の概観	日本の産業発展について概説する。基礎的なキーワードについても説明を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
	2	産業発展モデルと日本の主要産業	産業発展モデル、日本における主要産業について概説する。長期間存在した企業群についても概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
	3	繊維産業史	繊維産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
	4	化学産業史	化学産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
	5	造船産業史	造船産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。航空産業についても論じる。	講義中に示した課題を検討してください。
	6	電機産業史	電機産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
	7	機械産業史	機械産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
	8	自動車産業史①	自動車産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
	9	自動車産業史②	日本の自動車産業の競争力を象徴するトヨタ生産方式他のイノベーションについて概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
	10	自動車産業史③	日本の自動車産業の競争力を象徴するトヨタ生産方式他のイノベーションについて概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
	11	第三次産業とサービスイノベーション①	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
	12	第三次産業とサービスイノベーション②	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
	13	第三次産業とサービスイノベーション③	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
	14	ベンチャー企業と技術イノベーション	次世代の経済を担うベンチャー企業の成長と技術イノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
	15	まとめ	日本の産業発展の過程を踏まえたうえで、今後の日本の産業を展望する。	講義中に示した課題を検討してください。

関連科目	日本経済史、日本経済論、関西経済論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テストとレポートにて評価を行う。 小テスト2回=70点、レポート30点、計100点
-----------	---

学生へのメッセージ	日本の産業史を踏まえて、今後の産業発展の方向性を検討してください。 ノートをしっかりとり、復習を行ってください。日本経済史と併せて学ぶことで経済の歴史的俯瞰がより可能となりますので履修時に留意してください。
-----------	--

担当者の	1号館7階
------	-------

研究室等	
備考	

科目名	地域保健医療	科目名 (英文)	Regional Health Service
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3034a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体を中心に保健・医療・福祉は相互に連携し計画を策定しながら住民サービスの向上に努めている。 ・緊急性の視点から医療が優先され医療計画が、昭和60年12月の第1次医療法改正により制度化され、救急医療や感染症医療等への対応を明確化するため国、都道府県あるいは、市町村に対応すべき医療圏が割り当てられている。 ・これら地域医療に関する最新の取り組みおよび現状の課題等について説明する。 ・地域経済を支える地域医療について、課題認識と自ら考える姿勢を喚起することを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療を理解するため、その基礎となる保健医療計画について大阪府を例にして理解する。 ・少子高齢化社会において、自ら判断し行動するための地域での保健医療に関する知識・教養を修得する。 ・地域の医療資源の配分を管理する都道府県業務について大阪府の事例を用いて説明し、他の都道府県の地域医療に関する理解促進を図る。 ・少子高齢化社会における地域医療整備の重要性を理解する。
授業方法と留意点	<p>授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所等でも履修することができる。下記内容を講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健・福祉・医療における総合的なサービス提供の根幹となる保健と医療の連携の必要性和意義について考察する。 ・大阪府保健医療計画に基づき、その必要性和意義について講義する。 ・さらに後半では現状の地域医療が直面する課題について考察する。 ・2018年度に改訂された大阪府医療計画と大阪府
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・広域行政の視点も含め、地域経済を支える保健医療がどのように計画・実施されているかについて現状を把握するとともに今後の課題について考察する。 ・医療事務資格を取得する場合の病院機能の分類 (一般病院、地域医療支援病院、特定機能病院等) を理解し、地域医療での病院の役割を理解する。 ・他学部学生 (薬学部、法学部) とのワークショップでの議論により地域保健医療の多面的な視点での「気づき」を就学する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大阪府保健医療計画について	医療計画策定の意義とその必要性および運用方針について講義する。	大阪府医療計画について 第1章
2	保健医療提供体制の基本的な状況	大阪府における保健医療の提供体制の現状についてデータから考察する。	大阪府医療計画 第2章
3	保健医療従事者の確保と資質の向上	医療へのニーズの拡大に伴いこれを支える医療従事者の確保と資質の向上が必要となる。専門職種別に、その現状と取り組みについて講義する。	大阪府医療計画 第8章
4	医療圏及び基準病床数	保健医療サービスを効率的に提供するにふさわしい地理的広がりとしての医療圏の設定とその範囲内での病床数の設定について考察する。	大阪府医療計画 第3章
5	大阪府における保健医療体制	大阪府下の医療体制の情報提供方法と病院の機能分担および連携について講義する。	大阪府医療計画 第4章 地域医療構想
6	主要な事業ごとの保健医療体制 (4 疾病)	平成18年の改正医療法に基づく医療における4疾病5事業のうち4疾病への現状と医療体制について講義する。	大阪府医療計画 第6章
7	主要な事業ごとの保健医療体制 (5 事業)	平成18年の改正医療法に基づく医療における4疾病5事業のうち5事業への現状と医療体制について講義する。	大阪府医療計画 第6章
8	在宅医療の推進とその他の対策	4疾病5事業以外の重要な保健医療について講義する。	大阪府医療計画 第5章
9	保健医療提供体制と保健医療計画の評価および見直し	現状の保健医療提供体制の充実と評価および見直しについて講義する。	大阪府医療計画 第9章 2次医療圏
10	保健・医療・福祉の総合的な取組	保健、医療、福祉は相互に連携することにより安心安全なまちづくりに貢献することが可能となる。その取り組みとして、それぞれの計画について講義する。	大阪府医療計画 第7章 その他の医療体制
11	健康危機管理体制の構築	地域防災計画と保健医療計画との関連について講義する。	大阪府医療計画 全体で対応
12	これまでのまとめ	大阪府医療計画の意義と今後について、まとめ及び習熟度について考察する。	中間レポート
13	【薬学部、法学部学生とのワークショップ】	多様なIメディア、特にICTツールを活用する。3学部学生によるグループ議論を行う。	Teams、Moodle等による配布資料による課題。
14	同上	同上	同上
15	同上	同上	同上

関連科目	地域医療、地域経済関係科目 メディカルツーリズムを検討するにあたり観光関係科目
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大阪府医療計画と医療構想 (平成30年～平成35年)	大阪府のホームページから取得	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	まちの病院がなくなる！？地域医療の崩壊と再生	伊関友伸	時事通信社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート内容の平均 (70%) 及び、レポート提出回数等を受講態度 (30%) として総合評価する。 ・薬学部、法学部学生との ICT ツールによるワークショップを実施する。ワークショップでの課題に対するレポートを試験に該当する。従ってワークショップ参加を必須とし、ワークショップでのレポート提出された結果をもってレポート平均点算定を行う。 			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学部、法学部の学生との ICT ツールによるワークショップを行う。このワークショップに参加することによって、13, 14, 15 回目の受講に該当する。ワークショップに使用する教材は Moodle 等で配布する。 ・実際の保健医療に関する行政施策についての基礎知識の修得を目指す。さらに今日、地域経済を支える地域医療が直面している課題について考察する。随時、新型コロナウイルス関連の対策等について講義に加える。 ・医薬分業体制の課題や院内、院外での薬剤師の業務の課題及び薬価や診療報酬等の経済的課題について関心を 			
担当者の 研究室等	1号館7階 田井教授室 (経済学部)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療の制度、仕組みについて知る必要性を修得してほしい。 ・医療は、事故や病気の際だけでなく安心・安全な経済活動や地域経済を支える仕組みであることの気づきを期待する。 			

科目名	地域の持続的発展	科目名 (英文)	Sustainable Regional Development
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3035a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部等への依存型社会から自律した住民での地域活動の重要性について講義する。 ・地方公務員が現在取り組んでいる行政と市民活動との協働について詳細に分析する。 ・地域活性化の具体事例から地域経済活性化策研究のフィールドワークに役立つ考え方を修得する。 ・政令指定都市職員として地域活性化事業に従事した経験を活かして、地域の事例に基づき実践的な教育を行う。 ・SDGs11:「住み続けられるまちづくり」に該当。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済発展の契機となる地域活動について求められる考え方を修得する。 ・授業で得られた情報から地域の持続的発展に貢献する対策を考察できる知識を修得する。 ・地域創生 (活性化) の事例から自己での分析力および文章作成力を習得する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。下記内容を講義する。 ・地域を土地の境界によって規定される範囲だけでなく、住民活動や行政との協働活動等に必要エリアとして考察する。 ・住民にとって、安心・安全で住みやすい環境を構築する公共空間を地域と考え、地域での住民の取り組みが持続的に継続あるいは発展している事例に焦点をあて、それらを支える自助、公助そして共助へと展開するプロセス
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・大都市の発展過程を踏まえ、今後の地域の持続的発展には何が具体的に必要であるのかについて、自ら考える姿勢を養う効果を目的とする。 ・今後、議論が本格化されていく「総合区」等広域行政圏に関するまちづくりについての見識を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	日本経済と地方自治体 (デフレ、インフレ社会)	ポストデフレ社会について講義する。	配布資料 第1回
	2	日本経済と地方自治体 (財政赤字と地域再生) (ミレニアムプロジェクトの行方と電子自治体)	・財政赤字の現状と電子自治体について考察する。 ・情報化の推進としての電子自治体構想について講義する。	配布資料 第2回
	3	日本経済と地方自治体 (地域再生の必要性)	「地域再生とは」について「地域経済」の視点から講義する。	配布資料 第3回
	4	地域再生とは (観光づくりの視点)	地域再生、地域経済活性化としての観光の概略を講義する。	配布資料 第4回
	5	地域再生とは (地域産業の活性化)	地域産業、地域振興の視点で講義する。	配布資料 第5回
	6	地域再生とは (地域雇用と人材活用)	地域での雇用及び人材活用について講義する。	配布資料 第6回
	7	地域再生とは (行政のかかわり)	地域再生を支える行政サービスについて講義する。	配布資料 第7回
	8	地域再生とは (まちづくりの視点)	地域再生に求められるまちづくりについて講義する。	配布資料 第8回
	9	IT の活用 (情報アクセスビリティ)	地方自治体における IT 設計・活用について講義する。(情報活用ーアクセスビリティ)	配布資料 第9回
	10	IT の活用 (IT 人材教育)	地方自治体における IT 設計・活用について講義する。(IT の進展と地域における人材教育)	配布資料 第10回
	11	IT の活用 (個人情報保護)	地方自治体における IT 設計・活用について講義する。(個人情報保護)	配布資料 第11回
	12	IT の活用 (情報セキュリティ)	地方自治体における IT 設計・活用について講義する。(情報システムへの脅威への対応)	配布資料 第12回
	13	まちづくりの議論 (PPP Public Private Partnership とは)	PPP についての考え方を講義する。	配布資料 第13回
	14	PPP 推進の条件 (自治体経営における PPP の活用)	自治体経営における PPP の活用について講義する。	配布資料 第14回
	15	・自治体と企業 (事例研究) ・新たな「公益と営利」「官と民」の定義	PPP の事例研究から PPP の視点について講義する。	配布資料 第15回

関連科目 地域経済、観光経済関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜配布する資料		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域経営の新しいパートナーシップ『PPP で始める実践 地域再生』	日本政策投資銀行地域企画チーム	ぎょうせい
	2			
	3			

評価方法 レポート内容あるいは試験等 (70%)、レポート提出回数等を受講態度 (30%) として総合評価する。

(基準)	
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・中央集権的な経済発展構造から地域経済活性化への社会構造の変化についての理解を深める。 ・特に地域社会における ICT の利活用や地域振興について考察する。 ・少子高齢化社会の到来に向け、地域の発展を考える。 ・官民の役割分担、地域振興の有効性など主体的に考える習慣を修得して欲しい。 <p>・政令指定都市に 30 年間勤務した経験から、地域活性化に関する実務的な教育を行う。</p>
担当者の 研究室等	1 号館 7 階 田井教授室(経済学部)
備考	

科目名	中小企業論	科目名 (英文)	Small and Medium-sized Enterprises
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3036a0		

授業概要・目的	現代日本の中小企業が抱えている諸問題・課題を学び、これからの中小企業のあり方、事業発展の可能性・展望を考えていく。 ベンチャー企業、地域経済、関連諸政策についても理解する。 中小企業のイノベーションの実態や中小企業支援のあり方についても論じることとする。 必要に応じてmoodleを用いる。
到達目標	①日本経済・社会のなかで果たしている中小企業の役割を理解すること。 ②中小企業の可能性と諸課題を理解すること。 ③中小ベンチャー企業の実情について理解すること。
授業方法と留意点	第二回より動画形式。第一回分も復習のため動画を見ることが出来る。 必要に応じて、演習を実施する。 小テストの際は授業時間中に実施するので授業開始時刻に遅れないこと。 Moodleを活用し、論じる。
科目学習の効果 (資格)	中小企業経営、ベンチャー企業経営、関連諸政策について理解することができる。 キャリア形成の基礎とすることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	中小企業概論	中小企業の定義、基礎的キーワードについて概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
2	中小企業政策①	高度成長期の中小企業政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
3	中小企業政策②	新しい中小企業政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
4	下請中小企業	下請中小企業の存在、その生き残り戦略について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
5	ベンチャー企業	ベンチャー企業概念、海外の諸状況について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
6	ベンチャー企業政策	新規開業状況について述べ、ベンチャー企業を創出、育成していく政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
7	ベンチャー企業事例①	新規開業後に急成長し大手企業へと転じた事例を概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
8	ベンチャー企業事例②	新規開業後に急成長し大手企業へと転じた事例を概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
9	産業集積と中小ベンチャー企業	産業集積における中小ベンチャー企業の重要性について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
10	産業クラスター政策	国内外の産業クラスター、我が国の産業クラスター政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
11	新事業創造とビジネスプラン	新事業創造の際にはビジネスプランが不可欠である。そのフレームワークについて概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
12	新事業創造とファイナンス	中小ベンチャー企業による新事業創造とファイナンス、金融機関の支援、について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
13	新事業創造事例①	中小ベンチャー企業による新事業創造事例について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
14	新事業創造事例②	中小ベンチャー企業による新事業創造事例について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
15	総括と展望	これまでの講義内容を整理し、まとめを行う。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。

関連科目	日本産業史、関西経済論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域産業の活性化戦略	野長瀬裕二	学文社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト×2 = 計 80%、レポート×1 = 計 20%、合計 100%
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	具体的な中小ベンチャー企業の事例を多数紹介していきますので、興味を持ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階
----------	-------

備考	
----	--

科目名	文化政策論	科目名 (英文)	Cultural Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3038a0		

授業概要・目的	経済や観光において文化の重要性が増している。それに伴い、文化政策の範囲も、文化財保護や芸術振興ばかりでなく、国際貿易や文化産業、知的財産権、都市政策等を含むものへと変化した。この授業では、文化政策の経済的側面に焦点を当てて学習する。他の授業では取り上げないインターネット企業のビジネスモデル等についても、その経済理論を学ぶ。 SDGs-3, 8
到達目標	地域振興、観光、国際貿易における文化の役割を理解できるようになる。文化政策の経済学的側面を理解できるようになる。
授業方法と留意点	文化政策の基礎理論を学ぶとともに、日本や世界の事例を紹介しながら、文化政策の多様な役割について考える。
科目学習の効果 (資格)	魅力的なまちづくりや、観光振興について考えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	この授業の目的と進め方について説明する	学生自身の学習目標を立てる
2	変化する文化政策	文化政策の歴史と変容について講義する	復習
3	文化政策の経済学	文化政策の経済学について学ぶ	復習
4	美術館・博物館	レポート課題と関連する企業ミュージアムについて学ぶ	復習、レポート課題に取り組む (提出日まで引き続き取り組む)
5	文化活動への参加	文化活動への参加を決定する要因は何か、どうやって分析するのか学ぶ	復習
6	文化への公的支援の理論 (1)	政府はなぜ文化を支援するのか、文化政策と産業政策の両面から学ぶ	復習
7	文化への公的支援の理論 (2)	文化への税制インセンティブについて学ぶ	復習
8	日本の文化政策 (1)	日本の文化政策の歴史と特徴を学ぶ	復習
9	日本の文化政策 (2)	文化遺産政策について学ぶ	復習
10	舞台芸術とアートマネジメント	舞台芸術団体の経営やアートマネジメントについて学ぶ	復習
11	クリエイティブ産業	クリエイティブ産業の理論と現状を学ぶ	復習
12	著作権の経済学	著作権の歴史や経済的機能を学ぶ	復習
13	文化と観光、文化と地域経済	文化を活用した観光や地域活性化について学ぶ	復習
14	グローバル化と文化経済	文化的財やサービスの国際貿易について学ぶ	復習
15	まとめ	全体のまとめを行う	復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	文化経済学—理論と実際を学ぶ	後藤和子・勝浦正樹編著	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間レポート (40%)と期末試験 (60%) で評価する
学生へのメッセージ	新しい領域です。新しい現象に興味を持ち、文化に関わる経済について深く、広く学びましょう。
担当者の研究室等	後藤教授室 (1号館7階)
備考	学生の理解度に応じて、シラバスの内容を変更することもあり得る。

科目名	観光産業における経営分析	科目名 (英文)	Business Analysis in Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2042a0		

授業概要・目的	産業・企業の動向を理解していく上で、有価証券報告書といった財務資料を通じた業績把握は不可欠である。本講義では、経営学・産業組織論の諸手法を用いて、主に観光産業に分類される企業を事例として紹介しつつ、経営動向を理解・検討する視点およびそこで用いられる各種指標について学ぶことを目的とする。
到達目標	有価証券報告書等の財務資料を用いて企業業績および産業の動向を理解する能力を養う。
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に理解度を確認する問題を出す。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	財務諸表の仕組み (1)	経営分析で使用する貸借対照表と損益計算書の構造を学ぶ。	講義した内容について復習する。
3	財務諸表の仕組み (2)	企業活動の継続において重要な利益について、その計算方法、経済学的意義などを学ぶ。	講義した内容について復習する。
4	成長性の分析	企業の成長の度合いを示す指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
5	収益性の分析 (1)	企業の収益を判断する際に用いる ROA について学ぶ。	講義した内容について復習する。
6	収益性の分析 (2)	企業の収益を判断する際に用いる ROE について学ぶ。	講義した内容について復習する。
7	収益性の分析 (3)	損益分析点分析を説明する。	講義した内容について復習する。
8	前半の復習および中間レポート	これまでの講義内容を復習し、レポートの内容を提示する。	特になし。
9	安全性の分析 (1)	企業における利益とキャッシュの関係を学ぶ。	講義した内容について復習する。
10	安全性の分析 (2)	短期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
11	安全性の分析 (3)	長期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
12	生産性の分析 (1)	企業の生産性を判断する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
13	生産性の分析 (2)	企業内の各種資源が有効に利用されているかを示す各種指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
14	総合評価 (1)	各種指標を用いて、企業経営を総合的に評価するレーダーチャートを学ぶ。	講義した内容について復習する。
15	総合評価 (2)	指数法を用いて各種指標にウェイトを付け、企業経営を総合的に評価する。	講義した内容について復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	習熟度を確認する中間レポート：50%、学期末レポート：50%で評価する。
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 西川研究室
------------	-------------

科目名	宿泊産業論	科目名 (英文)	Lodging Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2○, DP3○, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3044a0		

授業概要・目的	観光産業の中核を構成する宿泊産業の今日的な動向と問題点を学ぶことを通して、観光立国日本における宿泊産業の経済的、社会的意義を理解する。 また、授業担当者は観光事業会社でホテル支配人として5年間勤務した経験から、宿泊施設経営に関する実践的な教育を行う。																																																																		
到達目標	宿泊産業における経営システムを理解し、宿泊施設の基礎的な経営分析ができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業はホテルの事例を多用しながら、毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていく。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	宿泊関連産業動向の理解																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義概要説明</td> <td>講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 プレテストの実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>宿泊産業とは何か</td> <td>宿泊産業の産業領域について理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>宿泊産業の歴史 I</td> <td>海外 (欧州、米国) における宿泊産業の発展を振り返る。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>宿泊産業の歴史 II</td> <td>日本における宿泊産業の発展を振り返る。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>観光と宿泊産業</td> <td>観光における宿泊産業の位置づけと重要性について考える。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>宿泊産業の種類</td> <td>宿泊産業を形成する多様な各種業態について理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>宿泊産業に関わる法律</td> <td>旅館業法、国際観光ホテル整備法等関連法令について学ぶ。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>宿泊施設 I</td> <td>国際的なホテル分類とその役割・特徴について学ぶ。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>宿泊施設 II</td> <td>国内におけるホテル分類とその役割・特徴について学ぶ。</td> <td>事後：配布資料の復習、課題作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>宿泊施設の運営管理 I</td> <td>主にホテルを事例に宿泊産業の運営について学ぶ。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>宿泊施設の運営管理 II</td> <td>主にホテルの経営指標について学ぶ。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>宿泊施設の運営管理 III</td> <td>宿泊施設の収益性分析について学ぶ。</td> <td>事後：配布資料の復習、演習問題提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>事例研究 I</td> <td>宿泊関連企業の事例研究 (1)</td> <td>事後：配布資料の復習、演習問題提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>事例研究 II</td> <td>宿泊関連企業の事例研究 (2)</td> <td>小テスト 事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>宿泊産業の将来展望とまとめ</td> <td>これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	講義概要説明	講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 プレテストの実施		2	宿泊産業とは何か	宿泊産業の産業領域について理解する。	事後：配布資料の復習	3	宿泊産業の歴史 I	海外 (欧州、米国) における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習	4	宿泊産業の歴史 II	日本における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習	5	観光と宿泊産業	観光における宿泊産業の位置づけと重要性について考える。	事後：配布資料の復習	6	宿泊産業の種類	宿泊産業を形成する多様な各種業態について理解する。	事後：配布資料の復習	7	宿泊産業に関わる法律	旅館業法、国際観光ホテル整備法等関連法令について学ぶ。	事後：配布資料の復習	8	宿泊施設 I	国際的なホテル分類とその役割・特徴について学ぶ。	事後：配布資料の復習	9	宿泊施設 II	国内におけるホテル分類とその役割・特徴について学ぶ。	事後：配布資料の復習、課題作成	10	宿泊施設の運営管理 I	主にホテルを事例に宿泊産業の運営について学ぶ。	事後：配布資料の復習	11	宿泊施設の運営管理 II	主にホテルの経営指標について学ぶ。	事後：配布資料の復習	12	宿泊施設の運営管理 III	宿泊施設の収益性分析について学ぶ。	事後：配布資料の復習、演習問題提出	13	事例研究 I	宿泊関連企業の事例研究 (1)	事後：配布資料の復習、演習問題提出	14	事例研究 II	宿泊関連企業の事例研究 (2)	小テスト 事後：配布資料の復習	15	宿泊産業の将来展望とまとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答	事後：配布資料の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義概要説明	講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 プレテストの実施																																																																	
2	宿泊産業とは何か	宿泊産業の産業領域について理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
3	宿泊産業の歴史 I	海外 (欧州、米国) における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習																																																																
4	宿泊産業の歴史 II	日本における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習																																																																
5	観光と宿泊産業	観光における宿泊産業の位置づけと重要性について考える。	事後：配布資料の復習																																																																
6	宿泊産業の種類	宿泊産業を形成する多様な各種業態について理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
7	宿泊産業に関わる法律	旅館業法、国際観光ホテル整備法等関連法令について学ぶ。	事後：配布資料の復習																																																																
8	宿泊施設 I	国際的なホテル分類とその役割・特徴について学ぶ。	事後：配布資料の復習																																																																
9	宿泊施設 II	国内におけるホテル分類とその役割・特徴について学ぶ。	事後：配布資料の復習、課題作成																																																																
10	宿泊施設の運営管理 I	主にホテルを事例に宿泊産業の運営について学ぶ。	事後：配布資料の復習																																																																
11	宿泊施設の運営管理 II	主にホテルの経営指標について学ぶ。	事後：配布資料の復習																																																																
12	宿泊施設の運営管理 III	宿泊施設の収益性分析について学ぶ。	事後：配布資料の復習、演習問題提出																																																																
13	事例研究 I	宿泊関連企業の事例研究 (1)	事後：配布資料の復習、演習問題提出																																																																
14	事例研究 II	宿泊関連企業の事例研究 (2)	小テスト 事後：配布資料の復習																																																																
15	宿泊産業の将来展望とまとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答	事後：配布資料の復習																																																																
関連科目	観光学入門、観光マーケティング論、観光人材論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	レポート等提出物の提出状況とその内容を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	宿泊産業は観光において重要な役割を果たすだけでなく、地域経済にも大きなインパクトを持ちます。地域経済専攻の方にも興味深いと思います。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	航空産業論	科目名 (英文)	Airline Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3045a0		

授業概要・目的	航空産業の発展は航空会社の戦略によるものだけでなく、国家の政策や国内外の情勢に大きく影響されます。また、航空は観光にとって重要な要素であり、運賃や路線開設・撤退、便数計画などは観光客の動向に影響を及ぼします。この授業は国内大手航空会社で実務経験のある教員が担当し、具体例を交えながらわかりやすく説明することによって、航空産業の全体像を理解することを目的とします。
到達目標	航空産業の全体像を理解し、航空関連についての記事や文献の内容を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めます。
科目学習の効果 (資格)	観光産業の主要産業である航空産業の全体像を理解します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 航空輸送の歴史	授業の概要と進め方および航空輸送の歴史について講義を行う	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
2	国際航空輸送の制度的枠組み	航空輸送にかかわる規範および枠組みについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
3	国際航空における規制緩和の流れ	アメリカ、ヨーロッパ、日本での航空政策の変遷について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
4	LCC	台頭著しいLCCについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
5	航空会社間の連携 (アライアンス)	航空会社間の連携について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
6	空港	日本の空港の現状と課題について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
7	航空安全	航空輸送の安全はどのように守られているのかについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
8	地球環境への取り組み	航空会社の地球環境保全への取り組みについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間) 課題レポート①
9	航空事業の構造	航空事業の特性・基本構造について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
10	レベニュー・マネジメント	国内線・国際線の運賃の特性と収益の最大化について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
11	CS とブランド戦略	航空会社が重視する CS 戦略とブランド戦略について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
12	CRS と IT 戦略	航空会社 IT 戦略とインターネットの影響について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
13	FFP とデータベースマーケティング	航空会社にとっての FFP の役割を講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
14	航空貨物	物流を支える航空貨物輸送について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間) 課題レポート②
15	まとめと補足	授業のまとめと補足事項について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)

関連科目 観光学入門、観光ビジネス英語

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題レポート提出 (2回) 60%、期末レポート 40%

学生へのメッセージ LCCの躍進が話題にのぼることが多い現在、航空産業の動向に興味を持っている人は多いのではないのでしょうか。変化の著しい航空産業について理解を深め、今後のあるべき姿を考えていきましょう。

担当者の研究室等 1号館7階 野村教授室 (経済学部)

備考

科目名	レジャー産業論	科目名 (英文)	Leisure Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△, DP3△, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3046a0		

授業概要・目的	平均寿命の伸長に伴い、余暇活動の在り方が改めて問われています。この授業では日本人のレジャーの特徴を理解した上で、個別レジャー関連産業の動向を取り上げその意義と重要性を理解します。 また、授業担当者は観光事業会社での6年間のレジャー施設運営管理の経験からレジャー産業に関する実践的な教育を行います。			
到達目標	日本でのレジャー産業の特徴と役割が理解できている。			
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。			
科目学習の効果 (資格)	レジャー関連産業動向の理解			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	レジャーとは何か	講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 レジャーの定義を理解する。	事後：配布資料の復習
	2	レジャーの種類	レジャー活動にはどのようなものがあるか理解する。	事後：配布資料の復習
	3	レジャーの規模	日本におけるレジャー活動の経済的な規模を理解する。	事後：配布資料の復習
	4	わが国のレジャーの歴史 I	日本人のレジャー活動の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
	5	わが国のレジャーの歴史 II	日本人のレジャー活動の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
	6	レジャー関連産業とは何か	レジャー関連産業の領域を理解する。	事後：配布資料の復習
	7	レジャー産業 I (スポーツ産業①)	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	8	レジャー産業 II (スポーツ産業②)	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。	小テスト 事後：配布資料の復習
	9	レジャー産業 III (健康産業①)	健康産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	10	レジャー産業 IV (健康産業②)	健康産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習、 課題作成提出
	11	レジャー産業 V (外食産業①)	外食産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	12	レジャー産業 VI (外食産業②)	外食産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	13	レジャー産業 VII (旅行業)	レジャー活動における旅行業の役割を考える。	事後：配布資料の復習
	14	今後のレジャー産業の展望	今後のレジャー産業の在り方考える。	小テスト 事後：配布資料の復習
	15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答	事後：配布資料の復習
関連科目	観光学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題、レポート100%			
学生へのメッセージ	幅広い産業領域を扱うので、普段から余暇・レジャー関連ニュースに関心を持っておいってください。			
担当者の研究室等備考	1号館7階 持永教授室 (経済学部)			

科目名	観光資源論	科目名 (英文)	Resources for Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3049a0		

授業概要・目的	観光の対象や観光行動の目的となる観光資源に関して、経済学や文化人類学等を利用した学際的な視点から講義を行い、観光の対象となる資源を意識的に作り出していくことの重要性和、資源とされる側（地域の人々の生活、環境、文化など）への配慮を常に持つことの重要性を共に考えてもらうことを目的とする。
到達目標	観光資源となりうるものには様々なものがあることを理解する。また「観光する側」「観光を企画する側」だけでなく、「観光の対象とされる側」にも配慮した行動をとることができるようになる。
授業方法と留意点	毎回、具体的な事例を用いて授業を行う。受講者数によっては、発表してもらうこともあり得る。受講者の理解度に応じて、授業内容の変更もあり得る。
科目学習の効果（資格）	観光や地域に関係する業界、自治体などで業務を行う際に役立てることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	自然	観光資源として自然を扱う場合の注意点、エコツーリズムの課題について考える。	事後：授業の復習
3	農業	グリーンツーリズムの問題点について考える。	事後：授業の復習
4	食べ物	特産品やB級グルメを利用した観光開発の課題を考える。	事後：授業の復習
5	伝統・歴史	エスニックツーリズムの問題点、地域の民俗芸能・伝統・歴史が観光化されることによって生じる課題について考える。	事後：授業の復習
6	世界遺産	世界遺産の概要について理解を深めるとともに、世界遺産に指定されることによる諸問題について考える。	事後：授業の復習
7	工業	近年注目を浴びている産業観光についての理解を深める。	事後：授業の復習
8	交通	本来は移動の手段である交通が観光資源となる例を知るとともに、交通を観光資源とする場合の課題を考える。	事後：授業の復習
9	スポーツ	スポーツをすることやスポーツイベントと観光との関係について認識する。	事後：授業の復習
10	芸術	アートツーリズムの効果と課題について考える。	事後：授業の復習
11	コンテンツ	コンテンツ（小説、映画、TVドラマ、アニメ等）の舞台を巡る観光の現状について認識を深めるとともに、抱える課題について考える。	事後：授業の復習
12	スピリチュアルなもの	最近流行しているパワースポット巡りなどについて課題を考える。	事後：授業の復習
13	医療	メディカルツーリズムの課題を理解する。	事後：授業の復習
14	教育・学習	修学旅行や留学と観光との関係を考える。	事後：授業の復習
15	期末レポート	授業中に課題を出し、期末レポートを作成する	

関連科目	観光経済論、観光産業政策論、文化政策論
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	文化経済学	後藤和子・勝浦正樹編著	有斐閣
	2	ローカルコンテンツと地域再生	増淵敏之著	水曜社
	3			

評価方法（基準）	中間レポート40%、期末レポート60%で評価する。
----------	---------------------------

学生へのメッセージ	観光について批判的に見る視点も身に付けた上で「どのような観光のあり方が望ましいのか」を考えてください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室（経済学部）
----------	-------------------

備考	授業後の復習および期末レポート作成などの授業外の学修時間を授業合計で20～30時間程度行うことが望ましい。
----	---

科目名	国際金融論	科目名 (英文)	International Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	羅 鵬飛
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3055a0		

授業概要・目的	国際的な資本取引には為替取引が付随しており、為替レートの動向が対外投資の成果に明らかな影響を及ぼす。そこで、本講義では、国際金融の基礎的事項として、主に為替レートに関するトピックスを扱う。
到達目標	外国為替市場の現状や為替レートの決定要因についての理解を深めるとともに、為替レートに関わる現在の問題について、自ら考察できる知識を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	講義資料を中心にオンライン講義をする。毎回の講義資料をMoodleで配布する。
科目学習の効果 (資格)	国際金融に関する記事やニュースを理解し、それに関して自分自身の意見を述べるができるようにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義の紹介	授業の復習
2	国際収支の見方	国際収支の作成方法と見方を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
3	為替レートの定義、為替変動 (円高・円安) が経済に与える影響	各種の為替レートの定義・計算方法を説明する。円高・円安が貿易収支におよぼす影響について説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
4	外国為替市場の構造、外国為替市場における取引の変遷	外国為替市場の仕組みを説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
5	国際通貨制度、国際通貨・基軸通貨	さまざまな為替制度および基軸通貨の米ドルについて説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
6	円高・円安と貿易収支	円高・円安が貿易収支におよぼす影響について説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
7	世界の通貨制度	さまざまな世界の通貨制度を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
8	主要通貨の動向とその背景：円相場の推移	円相場の推移について説明する	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
9	主要通貨の動向とその背景：米ドルとユーロの行方	米ドルとユーロの相場の推移について説明する	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
10	長期為替決定理論：購買力平価	為替レートの決定理論の一つである購買力平価説を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
11	短期為替決定理論：金利平価	為替レートの決定理論の一つである金利平価説を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
12	為替レートの予想とニュース、日本円のリスク回避機能	為替レートの予想に関してニュースがどのような役割を果たすかを解説する。国際金融市場における円のリスク回避機能。低金利政策の下のキャリートレード。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
13	為替レートの予想とニュース、日本円のリスク回避機能	為替レートの予想に関してニュースがどのような役割を果たすかを解説する。国際金融市場における円のリスク回避機能。低金利政策の下のキャリートレード。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
14	為替介入	外国為替市場に政府が介入する意味と限界について解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
15	まとめと総括	まとめをし、質問があれば答える。	事前：教材全体の復習 事後：全体の講義を参考に繰り返し復習する。

関連科目	国際経済論, 国際投資論,
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	徹底解説 国際金融	清水・大野・松原・川崎	日本評論社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際金融のしくみ第4版	秦・本田・西村	有斐閣
	2	国際金融論入門	佐々木百合	新世社
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (60%)、期末レポート (40%) 定期試験：MOODLEで授業内容に関するミニテストを4-5回行う (進行状況によって回数を調整する可能性がある。計算問題を含む) 期末レポート：為替レートに関するテーマについてレポート作成 (具体的なテーマは後半の講義で詳しく説明する)
-----------	--

学生へのメッセージ	予習・復習は積極的に行って、授業内容に分からないところを質問してください。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 (経済学部)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	国際マーケティング論	科目名 (英文)	International Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ, DP3o, DP4o, DP5o, DP6Δ, DP7o, DP8Δ, DP9o		
科目ナンバリング	WDW3056a0		

授業概要・目的	この講義では、国際マーケティングについて基本的知識と基礎的なフレームワークを修得することを目的としています。マーケティング初学者を対象ということで、まずマーケティングの基本的概念を説明した後に、国際マーケティングについて説明します。
到達目標	国際マーケティングについて理解を深めることを目指します。
授業方法と留意点	第7回から、対面授業

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	国際マーケティングの全体像を示します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング志向に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスの基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング・ミックスに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	市場細分化	市場細分化について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、市場細分化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	競争戦略	企業の競争関係について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、競争戦略に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングと国際化	国際的な市場展開について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティングと国際化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	グローバル・マーケティングリサーチ	国際的に展開する場合のマーケティングリサーチについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングリサーチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	海外市場への参入方式	海外市場へ参入する場合の方式について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、海外市場への参入方式に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	国際マーケティングと製品政策	国際マーケティングと製品政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと製品政策に関する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	国際マーケティングと価格政策	国際マーケティングと価格政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと価格政策に関する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	国際マーケティングと広告政策	国際マーケティングと広告政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと広告政策に関する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	国際的なサプライチェーン・マネジメント	国際的なサプライチェーン・マネジメントに関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際的なサプライチェーンに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	グローバルな組織デザイン	グローバルな組織設計について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバルな組織デザインに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	国際マーケティングにおける調整	グローバルに展開する時の調整について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングの調整に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティング全般に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グローバル・マーケティング戦略	三浦俊彦、丸谷雄一郎、犬飼知徳	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末レポート (100%)
-----------	---------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	1 1 号館 8 階 武居教授室
備考	

科目名	EU経済論	科目名 (英文)	EU Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上 典之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3057a0		

授業概要・目的	1950年代に始まったEU (欧州連合) 統合は、1999年に共通通貨ユーロを導入した。また、21世紀に入ると中東欧を中心とする諸国が加盟を果たし、EUは28ヶ国からなる体制を形成した。こうした「深化」と「拡大」を続けた結果、EUは国際経済・国際金融、さらには国際政治面で一段とその重要性を高めてきた。このように順調に進展してきたかみえたEU経済であるが、2008年夏以降、ユーロ危機、経済金融危機に見舞われている。また、至近時点では、中東諸国からの難民が流入するようになっている。本講義では、EUとは何か、EU
到達目標	本講義の目標は、上記のようなEUの動きを分析することにより、それらの内容を理解し、EUの諸政策が国際経済、あるいは日本経済、日本の政治状況に及ぼす影響を理解することにある。
授業方法と留意点	ダイナミックに変化しつつあるEUという組織について分析するため、日頃から新聞・雑誌などの国際経済欄を丁寧に読んでおくことが望ましい。なお、今学期の講義は講義時間帯にオンラインで行う。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	EUとは?	EUという非常に理解しにくい組織の特徴について概説する。	授業の復習
2	欧州統合の歴史 (1)	第二次世界大戦後の欧州の復興のプロセス、シューマン宣言に始まる欧州統合の歴史の振り返る。	事前: 前回の内容の再確認 事後: 授業の復習
3	欧州統合の歴史 (2)	EUの前身であるECからEUへの変化を紹介する。	事前: 前回の講義で指示した内容の予習 事後: 授業の復習
4	EU 諸機関の役割と意思決定プロセス	欧州委員会、欧州議会、欧州理事会、EU理事会及び欧州司法裁判所などのEUの諸機関の役割について紹介する。	事前: 前回の講義で指示した内容の予習 事後: 授業の復習
5	通貨統合 I	欧州通貨制度 (EMS) など、為替レート安定化への試みを紹介する。ユーロ導入と欧州中央銀行の役割を論じる。	事前: 前回の講義で指示した内容の予習 事後: 授業の復習
6	通貨統合 II	ギリシャ危機、ユーロ危機について論じる。	事前: 前回の講義で指示した内容の予習 事後: 授業の復習
7	EUの競争政策	EUの競争政策について紹介する。	事前: 前回の講義で指示した内容の予習 事後: 授業の復習
8	EUの高等教育政策	EUによる大学教育政策について紹介する。	事前: 前回の講義で指示した内容の予習 事後: 授業の復習
9	共通通商政策	EUの貿易・通商政策及びその効果・影響について論じる。	事前: 前回の講義で指示した内容の予習 事後: 授業の復習
10	社会労働政策	EUがどのような社会を目指しているのかについて紹介する。	事前: 前回の講義で指示した内容の予習 事後: 授業の復習
11	Brexit とその影響	英国のEU脱退とはなにか、なぜ起こったのか、その影響と共に解説する。	事前: 前回の講義で指示した内容の予習 事後: 授業の復習
12	EU拡大とEUの改革	EUがどこまで拡大するのか、そのためにはどのような改革が必要かを論じる。	事前: 前回の講義で指示した内容の予習 事後: 授業の復習
13	EUそのものの将来	EUが目指そうとしている方向性を論じる。	事前: 前回の講義で指示した内容の予習 事後: 授業の復習
14	EUと日本	日・EU関係を振り返り、至近時点での動きを紹介する。日・EU経済連携協定についても触れる。	事前: 前回の講義で指示した内容の予習 事後: 授業の復習
15	まとめ	まとめをし、質問があれば答える。	事前: 教材全体の復習 事後: 全体の講義を参考に繰り返し復習する。

関連科目	地域統合論、国際金融論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代ヨーロッパ経済第5版	田中・久保他	有斐閣
2				
3				

評価方法 (基準)	講義中に指示する課題2問 (20点×2=40点) のレポートと期末テスト (60点) で評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	EUのみならず、それが日本経済や政治にどのように反映されるのかが実感できる講義としたい。教材としてプリント等を配布する。なお、教材となるプリント (課題付き) はteamsに貼り付けておく。
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	毎回講義の最後に次回の準備のための課題を提供する。成績評価はその中の2問を選択してレポートを作成してもらう。なお、レポートの課題提出は、各講義終了後次の講義開始時間までとする。
----	--

科目名	農業・資源経済学	科目名 (英文)	Economics of Agriculture and Resources
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3058a0		

授業概要・目的	本講義では、人間の生活を支える食料生産を担う農業とエネルギー産業について経済的に考察する。 食糧生産を担う農業は、私たちの生活を支える基本的な産業である。伝統的に農業は地域共同体の再生産と一体の自給自足的な形態で営まれてきたが、現代の農業は商品作物の販売を目的とする商業的農業である。多国籍アグリビジネスによる途上国の農業支配は、途上国の伝統的な農村構造を解体し、単一の商品作物の生産に特化させて途上国農業を変容させた (モノカルチャー)。さらに、近年の日本農業は経済のグローバル化の影響を受けて国際競争に
到達目標	食料と農業、エネルギーと資源産業に関する諸問題と経済構造について、認識を深める。まずは、良質の海外ドキュメンタリーを視聴し、現実の経済関係についてイメージを豊かにすることを目指す。
授業方法と留意点	視聴覚教材を活用した対面講義形式で行う予定であったが、オンラインでは動画配信が困難な場合には内容紹介にとどめる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	特になし

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	——	——
2	グローバリゼーションと世界の農業(1) コーヒー豆から見えるグローバル経済	農産物価格の低迷と農業国の貧困、フェア・トレード運動。 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「エチオピア コーヒー生産国の悲劇」(原題 "Black Gold", Fulcrum Productions, イギリス, 2005年)	事後・レポート提出
3	グローバリゼーションと世界の農業(2) ブランテーションと現代の奴隷労働	アメリカ企業が所有するドミニカ共和国のサトウキビ畑で働くハイチ人不法移民労働者 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業～前編 さとうきび農場の奴隷たち」(原題 "Big Sugar", Galafilm, カナダ, 2005年)	事後・レポート提出
4	先進国の「豊かな」食生活とその問題(1) 砂糖の大量消費と生活習慣病	砂糖産業、清涼飲料水産業のマーケティング 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業～後編 肥満を招く甘い誘い」(原題 "Big Sugar", Galafilm, カナダ, 2005年)	事後・レポート提出
5	先進国の「豊かな」食生活とその問題(2) 食品廃棄物	先進国における大量の食品廃棄と途上国の貧困、飢え 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「食品廃棄物を減らせるか」(原題 "Taste the Waste", Schnittstelle Film Koln & Thurn Film, ドイツ, 2010年)	事後・レポート提出
6	農業の工業化 アメリカのトウモロコシ農業の工業化	遺伝子組み換え作物。トウモロコシの工業利用。バイオプラスチック、バイオ燃料。 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「キング・コーン～トウモロコシの国を行く」(原題 "King Corn", Mosaic Films / itvs, アメリカ, 2008年)	事後・レポート提出
7	持続可能な農業を目指して工業化された農業への批判	持続可能な農業を目指すアメリカの取り組み 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「食料増産へのチャレンジ 変わる企業型農業 ～アメリカ～」(原題 "Jimmy's Global Harvest Ep3, BBC Scotland, イギリス, 2010年)	事後・レポート提出
8	石油の世紀	19世紀～21世紀の石油の世界史、欧米石油メジャーによる石油採掘競争と協調、列強による植民地分割と世界大戦、資源ナショナリズムと OPEC、オイルショック、石油生産国対消費国 視聴覚教材: 「石油の世紀」など	事後・レポート提出
9	戦後日本の石油開発	戦後の日本の石油戦略、欧米石油資本と民族資本 視聴覚教材: NHK「プロジェクト X 挑戦者たち 夢遙か、決戦への秘策 炎のアラビア/巨大油田に挑んだ技術者たち」など	事後・レポート提出
10	日本の原子力政策	戦後日本の原子力政策、国策民営路線の破綻 視聴覚教材: NHK 教育「原発事故への道程(前篇)置き去りにされた慎重論」2011年。	事後・レポート提出
11	バイオ燃料とその問題	アメリカ、トウモロコシのバイオ燃料利用急増による穀物価格高騰 視聴覚教材: NHK スペシャル「ファンド	事後・レポート提出

			マナーが食を操る～穀物高騰の裏で」2007年。 ブラジル。サトウキビ原料のバイオ燃料産業育成による貧困対策。 視聴覚教材：NHKスペシャル「ラテンアメリカの挑戦」2006年。 インドネシアとマレーシア。パームオイル(椰子油)の生産拡大と熱帯雨林破壊、温暖化促進。 視聴覚教材：NHKクローズアップ現代「地球温暖化 森林破壊を食い止める」2007年。	
	12	シェールガス アメリカのブームと環境問題	未曾有の埋蔵量を誇るアメリカのシェールガスの引き起こす新たな環境問題、水質汚染、地震 視聴覚教材：BS世界のドキュメンタリー「ガスランド」(原題「Gasland」, Gasland Productions, アメリカ、2010年)	事後・レポート提出
	13	自然エネルギー(1) 太陽光発電	太陽光発電。日本企業の先進性と海外企業のキャッチアップ	事後・レポート提出
	14	自然エネルギー(2) 風力発電	風力発電。デンマーク、ドイツ企業の先進性、日本企業の追撃	事後・レポート提出
	15	講義のまとめ	——	事後・レポート提出
関連科目	経済地理、地球環境経済、国際経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	質問提出(10%)、期末レポート(90%)で評価する。			
学生へのメッセージ	農業と資源産業は、私たちの生活の基礎となる食糧、エネルギーの供給や自然環境保全に関わる重要な産業分野です。関心の高い学生の参加を求めます。			
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)			
備考	テーマや視聴覚教材は、現実の情勢に応じて更新される場合がある。			

科目名	国際経済の新動向	科目名 (英文)	New Trends in International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3060a0		

授業概要・目的	本講義では最新の世界の経済問題や潮流を幅広く学習する。																																																																		
到達目標	各地域の経済を把握することで世界経済の動きを俯瞰できるようになること。																																																																		
授業方法と留意点	講義の映像と一緒に講義ノートを使って理解する。																																																																		
科目学習の 効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義のガイダンス、イントロダクション</td> <td>コース内容の説明</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アジアの発展</td> <td>リーマンショック 世界恐慌</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本の可能性は？</td> <td>金融緩和</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>移民を受け入れる国は栄える</td> <td>EU 移民と犯罪</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>北朝鮮はこれから成長する</td> <td>朝鮮半島統一 少子化</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>韓国財閥</td> <td>農業 米軍</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中国の世界覇権</td> <td>米中貿易戦争の影響</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>チャイナリスク</td> <td>出生率 借金</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>アメリカ経済</td> <td>貿易戦争</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ロシア経済</td> <td>ウラジオストック</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>インド経済</td> <td>官僚制度</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>社会の大変化</td> <td>情報の入手法 投資の成功哲学</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>お金と経済のありかた</td> <td>キャッシュレス社会</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>AI と成長する産業</td> <td>ETF</td> <td>講義の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめー復習</td> <td></td> <td>講義の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	講義のガイダンス、イントロダクション	コース内容の説明	講義の復習	2	アジアの発展	リーマンショック 世界恐慌	講義の復習	3	日本の可能性は？	金融緩和	講義の復習	4	移民を受け入れる国は栄える	EU 移民と犯罪	講義の復習	5	北朝鮮はこれから成長する	朝鮮半島統一 少子化	講義の復習	6	韓国財閥	農業 米軍	講義の復習	7	中国の世界覇権	米中貿易戦争の影響	講義の復習	8	チャイナリスク	出生率 借金	講義の復習	9	アメリカ経済	貿易戦争	講義の復習	10	ロシア経済	ウラジオストック	講義の復習	11	インド経済	官僚制度	講義の復習	12	社会の大変化	情報の入手法 投資の成功哲学	講義の復習	13	お金と経済のありかた	キャッシュレス社会	講義の復習	14	AI と成長する産業	ETF	講義の復習	15	まとめー復習		講義の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義のガイダンス、イントロダクション	コース内容の説明	講義の復習																																																																
2	アジアの発展	リーマンショック 世界恐慌	講義の復習																																																																
3	日本の可能性は？	金融緩和	講義の復習																																																																
4	移民を受け入れる国は栄える	EU 移民と犯罪	講義の復習																																																																
5	北朝鮮はこれから成長する	朝鮮半島統一 少子化	講義の復習																																																																
6	韓国財閥	農業 米軍	講義の復習																																																																
7	中国の世界覇権	米中貿易戦争の影響	講義の復習																																																																
8	チャイナリスク	出生率 借金	講義の復習																																																																
9	アメリカ経済	貿易戦争	講義の復習																																																																
10	ロシア経済	ウラジオストック	講義の復習																																																																
11	インド経済	官僚制度	講義の復習																																																																
12	社会の大変化	情報の入手法 投資の成功哲学	講義の復習																																																																
13	お金と経済のありかた	キャッシュレス社会	講義の復習																																																																
14	AI と成長する産業	ETF	講義の復習																																																																
15	まとめー復習		講義の復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	中間試験 30%、期末試験 70% で評価する。																																																																		
学生への メッセージ																																																																			
担当者の 研究室等	1号館7階 田中研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	産業組織論	科目名 (英文)	Industrial Organization
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3063a0		

授業概要・目的	産業組織論とはミクロ経済学の応用分野であり、主に市場構造と企業の市場行動および市場成果の関係と、それらへの政策効果を分析する。本講義ではミクロ経済学、特に不完全競争市場の分析を復習した後に、競争政策の3つの柱であるカルテル、企業結合、私的独占に関する経済分析と政策について、具体的な事例を用いながら説明する。寡占市場における企業行動、市場均衡、および競争政策について、理論的また直感的に理解することを目的とする。
到達目標	ミクロ経済学を基礎にして、市場の構造・行動・成果の枠組で産業組織を理解すること、および競争政策の理論と実際の基本について理解することを目標とする。産業組織の理論を事例に基づいて理解し、現実に応用できることを目指す。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義を行いますので、事前の予習と事後の復習をしてください。授業はパワーポイントを用いて行います。産業組織論の理論を事例と結び付けて理解できるよう、授業には毎回出席し、考えながら理解するようにしてください。理解を深めるために練習問題を出し、提出してもらおうとともに授業中に解説します。その際には、学生に答えてもらい、理解度を確かめ、難しいところや間違いやすいところを開示します。2回目以降の授業はオンラインで実施します。Teams と Moodle で参加してください。
科目学習の効果 (資格)	特定の市場や産業の枠を超え、市場や産業一般について成り立つ原理を理解することで、どのような業界で仕事をするにしても、市場や産業を理解するのに通用する考え方を身につけることができます。不完全競争に関する理解を深めることができるので、ミクロ経済学の公務員試験にも有益です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	産業組織論の課題と歴史 (1)	産業組織論とは、古典的産業組織論の成立と SCP パラダイム、を説明する。	教科書第1章第1～2節の予習と授業の復習
2	産業組織論の課題と歴史 (2)	ハーバード・シカゴ論争とアンチトラスト・レボリューション、新産業組織論・新実証主義的産業組織論・ポストシカゴ学派、を説明する。	教科書第1章第3～4節の予習と授業の復習
3	産業組織分析の基礎 (1)	完全競争と不完全競争、消費者の行動と需要の価格弾力性、費用の諸概念と企業の行動 (前半)、を説明する。	教科書第2章第1～3節の予習と授業の復習
4	産業組織分析の基礎 (2) 独占企業の価格決定	費用の諸概念と企業の行動 (後半)、市場均衡と経済厚生、独占企業の価格設定と非効率性、を説明する。	教科書第1章第3～4節、第3章第1節の予習と授業の復習
5	ゲーム論理論の基礎 (1)	ゲーム理論とは、ゲームの定式化、を説明する。	教科書第6章第1～2節の予習と授業の復習
6	ゲーム論理論の基礎 (2)	ナッシュ均衡、サブゲーム完全均衡、を説明する。	教科書第6章第3～4節の予習と授業の復習
7	前半の復習	前半の講義内容に関する練習問題の解説をする。	前半の講義内容に関する練習問題の提出と復習
8	寡占市場の理論 (1)	寡占市場での価格と生産量、クールノー競争、を説明する。	教科書第7章第1～2節の予習と授業の復習
9	寡占市場の理論 (2)	寡占の市場構造、さまざまな寡占企業の行動、を説明する。	教科書第7章第3～4節の予習と授業の復習
10	カルテル (1)	カルテルとは、カルテルの実現、カルテルが実現しやすい市場環境、を説明する。	教科書第8章第1～3節の予習と授業の復習
11	カルテル (2)、市場支配力、集中度と市場画定 (1)	カルテルに対する規制、市場支配力、集中度、を説明する。	教科書第8章第4節、第9章第1～2節の予習と授業の復習
12	市場支配力、集中度と市場画定 (2) 合併と企業結合規制 (1)	伝統的な市場範囲の画定方法、新しい市場範囲の画定方法、合併とは、を説明する。	教科書第9章第3～4節、教科書第10章第1節、の予習と授業の復習
13	合併と企業結合規制 (2)	合併の動機、水平的合併の厚生効果、企業結合規制、を説明する。	第10章第2～4節の予習と授業の復習
14	戦略的行動と市場の独占化	戦略的行動とは、略奪価格と評判形成、略奪価格に対する競争政策、を説明する。	教科書第11章第1、3、4節の予習と授業の復習
15	後半の復習	後半の講義内容に関する練習問題の解説をする。	後半の講義内容に関する練習問題の提出と復習

関連科目: ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ、サービス産業論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブラクティカル産業組織論	泉田成美・柳川隆	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	競争の戦略と政策	柳川隆・川濱昇	有斐閣
2	ベーシック経済法	川濱昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子	有斐閣	
3				

評価方法 (基準): 期末試験 (50%) と 2回の練習問題の提出内容 (各25%、計50%) で評価する。期末試験はレポート試験とします。

学生へのメッセージ: 特に復習を重視してください。練習問題は必ず提出し、疑問点があれば解説授業の際に確認してください。練習問題では出席者のなかから指名して解答してもらいますので、積極的に取り組んでください。

担当者の 研究室等	1号館7階 柳川研究室
備考	

科目名	現代ファイナンス論	科目名 (英文)	Modern Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3064a0		

授業概要・目的	日本においては、長期にわたって景気の低迷とデフレ（継続的な物価下落）が続いていたことから、金融政策のあり方とその効果について関心が高まってきました。しかし担当者がこのシラバスを執筆している2021年1月現在では、新型コロナウイルス禍による経済活動の低迷に直面し、その追加的政策手段の乏しさが問題となっています。この点では、追加的な手段を取ることができているアメリカと対照的です。 さて、近年の金融政策は、金融市場を利用したものが主流となっております。では、金融政策はどのような手段で実施され、どのような効果があるのか、この講義では、マクロ経済学でも取りあげている、金融政策の効果とそれを行う中央銀行の役割について、より深く考察します。さらに現在実施されている非伝統的金融緩和と政策についても言及します。履修者の皆さんが、この講義で得た知識をもとに、金融政策について自分自身の意見を持つことができるようになってほしいと考えています。
到達目標	この講義では、マクロ経済学でも取りあげている、金融政策の効果とそれを行う中央銀行の役割について、より深く考察します。さらに現在実施されている非伝統的金融緩和と政策についても言及します。履修者の皆さんが、この講義で得た知識をもとに、金融政策について自分自身の意見を持つことができるようになってほしいと考えています。
授業方法と留意点	この講義で主に利用するICTツールは、Microsoft Teams と Microsoft Forms です。初回講義は Microsoft Teams で実施します。下記の Teams コードを利用してこの講義のチームに参加してください。緊急用に Moodle のコースも設定していますが、原則利用しない方針です。 この講義では、1回目から7回目はオンライン授業（開講曜日・時限に Microsoft Teams で講義を配信）で、8回目の講義より対面式で開講します。対面式講義移行後（8回目以降）に無断欠席の回数が多い学
科目学習の効果（資格）	金融政策に関する知識を習得できます。また、金融に関するニュースの理解が深まります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに：この講義で学ぶこと：金融・金融政策とは何か	授業内容の概要、注意事項の説明、イントロダクション	シラバスをよく読んでおくこと 講義資料（1）
2	基本事項の復習①：金融政策の効果	金融政策は何のために行うのか／中央銀行は何か	講義資料（2）
3	基本事項の復習②：貨幣の分類と金利／金融市場の分類	貨幣（マネーストック）の分類／貨幣と金利の関係について	講義資料（3）
4	基本事項の復習③：金融市場の分類する金融調節の実際	金融政策のオペレーションの場である、金融市場について	講義資料（4）
5	基本事項の復習④：金融政策の伝統的手段	金融政策の伝統的手段である、公定歩合操作・預金準備率操作・公開市場操作について	講義資料（5）
6	基本事項の復習⑤：金融調節・実際の金融政策運営	金融機関の資金繰りに対応した資金供給調整の実際について／波及経路について	講義資料（6）
7	基本事項の復習⑥：マクロ経済学理論と金融政策	貨幣数量説（長期モデル）と IS-LM モデル（短期モデル）の復習	講義資料（7）
8	日本銀行による金融政策の実際	1990 年台末からの日本における金融政策の変遷について	講義資料（8）
9	非伝統的金融政策とは何か	ゼロ金利政策など非伝統的金融政策の概要について	教科書第1章
10	非伝統的金融政策の効果：理論的なメカニズム（1）	流動性の罅について／非伝統的金融政策の株価・為替レートを通じた効果など	教科書第2章
11	非伝統的金融政策の効果：理論的なメカニズム（2）	流動性の罅／ゼロ金利コミットメント／Krugman モデル／実証的な証拠	教科書第2章・3章
12	「2%物価安定目標」の是非	デフレ均衡について／Bullard の理論モデルについて	教科書第4章
13	非伝統的金融政策の副作用	3つの主要リスク／出口戦略	教科書第5章
14	マイナス金利とは何か	日本におけるマイナス金利政策の概要／实体经济への影響	教科書第6章
15	まとめ		これまでの講義内容

関連科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、金融論
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	非伝統的金融政策 -- 政策当事者としての視点	宮尾龍蔵	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベーシックプラス 金融論 第2版	家森信善	中央経済社
2				
3				

評価方法（基準）	練習問題（25%）、レポート（25%）、試験（50%）で評価します。
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	初回講義は、Microsoft Teams で実施します。教科書を持っていることを前提に講義を進めます。教科書は必ず購入してください。 疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。また例題や練習問題にも積極的に取り組んで下さい。 この講義は、これまでに学んだ内容の積み重ねが大切です。また、それなりに高度な内容も含まれます。講義をただ聞いているだけでは、十分に理解できません。きちんと出席するだけでなく、復習をして理解に努めてください。「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」や金融関係科目の内容を
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 小塚研究室
------------	-------------

科目名	ファイナンシャル・プランニング	科目名 (英文)	Financial Planning
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2o, DP3o, DP4Δ, DP5◎, DP6o, DP7o, DP8Δ, DP9o		
科目ナンバリング	WDW3065a0		

授業概要・目的	FP3 級取得レベルの知識の習得			
到達目標	FP 技能士の資格試験は毎年5月・9月・1月に実施されますが、夏期休暇中の授業の復習を通じて、9月試験の合格を目指します。			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則的に講義形式です。 ・講義内で頻繁に問題演習を行います。 ・おおそ講義2回に1回は確認テストを行います。成績評価にも関連しますので、確認テストは必ず受けるようにしてください。 			
科目学習の効果 (資格)	FP3 級の取得、FP2 級の学習への予備的学習			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ファイナンシャル・プランニングとは何か	ファイナンシャルプランニングおよびファイナンシャルプランナー (以下FP) に関する概要	特になし
	2	ライフプランニングと資金計画 (1)	ライフプランニングの考え方・手法	第2回の復習
	3	ライフプランニングと資金計画 (2)	公的年金制度	第3回の復習
	4	ライフプランニングと資金計画 (3)	ライフプラン策定上の資金計画	第2回から第4回までの復習 (第5回に確認テスト①)
	5	確認テスト① + リスク管理 (1)	生命保険	第5回の復習
	6	リスク管理 (2)	損害保険 第三の保険	第5回から第6回までの復習 (第7回に確認テスト②)
	7	確認テスト② + 金融資産運用 (1)	各種経済指標 マーケット環境の理解 投資信託	第7回の復習
	8	金融資産運用 (2)	債券・株式 その他金融商品 金融資産に係る税金 ポートフォリオ運用	第7回から第8回までの復習 (第9回に確認テスト③)
	9	確認テスト③ + タックスプランニング (1)	所得税制度 各種所得①	第9回の復習
	10	タックスプランニング (2)	各種所得② 所得税計算	第9回から第10回までの復習 (第11回に確認テスト④)
	11	確認テスト④ + 不動産 (1)	不動産の価格 不動産取引に係る法律 不動産登記	第11回の復習
	12	不動産 (2)	不動産に係る関連法規 (都市計画法・建築基準法など) 不動産に係る税金	第11回から第12回までの復習 (第13回に確認テスト⑤)
	13	確認テスト⑤ + 相続・事業承継 (1)	贈与・相続制度	第13回の復習
	14	相続・事業承継 (2)	贈与・相続に係る税金	第13回から第14回までの復習 (第15回に確認テスト⑥)
	15	確認テスト⑥ + 今後の学習について	期末テストについて 今後のFP学習について	特になし
関連科目	金融論・地域金融論など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	確認テスト (計6回) 60%、定期試験 40%			
学生へのメッセージ	FP 試験の範囲は非常に広範ですが、それだけ幅広いファイナンスや経済学の学習が可能です。これまで学んだ事項を、現実の生活に応用するための基礎力を学ぶことができますので、資格取得を目指すきっかけとして積極的に参加してください。			
担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室 (経済学部)			
備考	病欠その他都合により確認テストが受けられない場合には、理由を添えて、後日受けるようにしてください (もし受けないと、その回のテストは0点扱いとします)。FP 試験は年間3回あります (5月・9月・1月) ので、積極的に受験することを勧めます。			

科目名	アメリカ経済・文化論	科目名 (英文)	Economy and Culture of the U.S.
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3066a0		

授業概要・目的	<p>【4月22日(木)以降のオンライン授業について】 オンライン授業の方式は授業内容を事前収録したオンデマンド方式とします。資料配布は「Teams」で行います。この授業は「レジュメ、講義動画、例題ファイル (毎回ではありません)」から成り立っており、それらを Teams で配布します。</p> <p>【授業概要】 アメリカは世界一の経済大国であるとともに、世界文化の中心地でもあります。そんなアメリカを目指して世界中の観光客がアメリカを訪れており、今やフランスやスペインとともに観光大国と呼ばれるようになったアメリカの状況</p>
到達目標	アメリカ文化の概要とそれを支えるアメリカ経済を客観的なデータで把握し、経済と文化の関係を理解できるようになります。履修者はこの授業を受けることによってアメリカ経済・社会の現状と世界への影響についてデータを用いた実践的な知識と理解を深めることができます。
授業方法と留意点	<p>【4月22日(木)以降のオンライン授業について】 オンライン授業の方式は授業内容を事前収録したオンデマンド方式とします。資料配布は「Teams」で行います。この授業は「レジュメ、講義動画、例題ファイル (毎回ではありません)」から成り立っており、それらを Teams で配布します。</p>
科目学習の効果 (資格)	アメリカ文化と経済の状況について客観的なデータで説明できるようになります。特にアメリカ経済・社会の現状と世界への影響についてデータを用いて実態を説明できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	なぜアメリカ経済を学ぶのか	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
2	アメリカ史(1)	なぜイギリスから独立したのか	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
3	アメリカ史(2)	南北戦争と建国理念	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
4	アメリカ史(3)	開拓とフロンティア精神	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
5	アメリカ史(4)	巨大企業と大量生産	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
6	アメリカ史(5)	大恐慌と経済復興	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
7	アメリカ国家の仕組み(1)	大統領と二大政党制	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
8	アメリカ国家の仕組み(2)	州の独立と連邦議会	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
9	アメリカ国家の仕組み(3)	社会保障と公的年金	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
10	アメリカ経済の仕組み(1)	スタグフレーションとレーガノミクス	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
11	アメリカ国家の仕組み(2)	ニューエコノミーとは何か	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
12	アメリカ国家の仕組み(3)	リーマンショックと世界金融危機	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。

				【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジユメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。																
	13	現代アメリカの課題(1)	IT革命とイノベーション	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジユメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。																
	14	現代アメリカの課題(2)	オバマケアと社会保障	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジユメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。																
	15	現代アメリカの課題(3)	GAF A と世界経済	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジユメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。																
関連科目	観光学入門、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論、観光経済論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門アメリカ経済 Q&A100</td> <td>坂出健・秋元英一・加藤一誠</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門アメリカ経済 Q&A100	坂出健・秋元英一・加藤一誠	中央経済社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	入門アメリカ経済 Q&A100	坂出健・秋元英一・加藤一誠	中央経済社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	【オンライン授業に伴う成績評価の変更】 授業半ばで課す中間レポートを50点、期末レポートを50点として合計して総合評価します。																			
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。																			
担当者の 研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)																			
備考																				

科目名	交通経済論	科目名 (英文)	Economic Analysis of Transportation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3067a0		

授業概要・目的	人類が経済活動を発展させていくにあたって町と町の間で物を運ぶということが大変重要な課題でした。つまり、交通経済は社会が発展していくためにとても重要な要素となっているのです。この授業では交通経済の考え方について現実社会の事例をあげながら、その理論的な考え方を解説していきます。
到達目標	現実社会においてどのような事例が交通経済論の範囲なのか理解できるようになります。交通経済に関する現実社会の事例について基礎的なデータを扱うことができるようになります。
授業方法と留意点	第8回(11月9日)から対面授業に切り替わり、第15回まで8回分が対面授業です。この授業は教科書を用いず、毎回、レジュメをWebfolderで配布しますので、各自がダウンロード・印刷して持参してください。
科目学習の効果(資格)	現実社会の交通経済について客観的なデータで説明することができるようになります。特に現在の日本経済における交通の役割についてデータを用いて実態を説明できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	社会における交通経済の重要性	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
2	社会における交通経済(1)	マイカーやタクシーの利用選択	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
3	社会における交通経済(2)	さまざまな交通機関における運賃	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
4	交通サービスの特殊性(1)	トラック、バスなどの利用率	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
5	交通サービスの特殊性(2)	ラッシュアワーと交通機関の選択	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
6	交通データの分析	さまざまな交通機関の輸送量	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
7	交通の費用	交通機関への需要	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
8	運賃理論	混雑と交通量	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
9	運賃政策	交通企業と運賃	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
10	規制政策	規制緩和と交通機関	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
11	交通投資	交通プロジェクト大規模投資	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
12	外部補助と内部補助	高速道路と経営問題	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
13	交通ネットワーク	利用者行動と混雑緩和	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。

				【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
	14	交通経済の展望	交通経済と国民経済	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
	15	まとめ	交通経済の重要性を振り返る	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
関連科目	観光経済論、観光資源論、航空産業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	交通経済学入門(新版)	竹内健蔵	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内で課す中間レポート50点分と期末レポート50点分を総合して評価します。提出にはWebfolderを使用します。第8回(11月9日)から対面授業に切り替わりましたが、成績評価方法に変更はありません。中間レポート、期末レポートの提出にはWebFolderを用います。			
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。			
担当者の 研究室等 備考	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)			

科目名	サービス産業論	科目名 (英文)	Service Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3068a0		

授業概要・目的	産業組織論を基礎にしてサービス産業における市場の構造、行動、成果および競争政策と規制政策の概要について、一般的な理論と具体的な産業の事例を説明する。近年急速に展開するプラットフォームビジネスによる流通のイノベーション、電力市場の自由化や水道事業民営化といった公益事業サービスの変容についての概要を理解し、これらの産業に対する競争政策と規制政策のあり方について理解することも目的とする。
到達目標	サービス産業における企業の行動と市場成果および政策について、一般的な理論と具体的な事例の視点から理解できることを目標とする。また、プラットフォームビジネスや電力自由化、水道民営化など、近年急速に展開する流通サービス市場、公益事業サービス市場の変容と政策動向について理解することを目標とする。
授業方法と留意点	基礎的な知識については主に教科書に沿って講義を行います。現代の産業については各種参考文献を紹介しながら講義を行います。事前の予習と事後の復習をしてください。 授業はオンラインとなり、リアルタイム (ライブ) とオンデマンドを併用します。主として知識を得るときにはオンデマンドとし、課題の振り返りはリアルタイム (ライブ) とします。1回目の授業は9月13日 (月) 3限に、Teamsを用いたリアルタイム (ライブ) で行います。 (変更) 11月8日より対面で実施します。
科目学習の効果 (資格)	企業の価格戦略やさまざまな戦略や企業への規制について、特に近年の経済に大きな影響を与えているプラットフォームビジネスや変容する公益事業ビジネスについて知ることは、ビジネスに携わったり、日常生活を送るうえで非常に有益です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	サービスの販売価格戦略 (独占企業の価格設定) (2)	市場分割による価格差別、二部料金と抱き合わせ、を説明する。	教科書第3章第3～4節の予習と授業の復習
3	流通 (垂直的な統合と制限) (1)	垂直的な取引と企業間関係、垂直的統合による効率性と排除、を説明する。	教科書第12章第1～2節の予習と授業の復習
4	流通 (垂直的な統合と制限) (2)	ブランド内競争の制限、ブランド間競争の制限、を説明する。	教科書第12章第3～4節の予習と授業の復習
5	課題1の振り返り	課題1の解説や補足説明をする。	課題レポート1の提出と振り返り
6	プラットフォームビジネス (1)	プラットフォームビジネスの現状を説明する。	参考文献 (授業中に紹介する) の予習と授業の復習
7	プラットフォームビジネス (2)	プラットフォームビジネスへの競争政策、を説明する。	参考文献 (授業中に紹介する) の予習と授業の復習
8	課題2の振り返り	課題2の解説や補足説明をする。	課題レポート2の提出と振り返り
9	公益事業の規制 (自然独占と規制) (1)	費用通減産業と自然独占、公正報酬率規制とアパーチ・ジョンソン効果、自然独占分野の規制緩和・民営化、を説明する。	教科書第4章第1～3節の予習と授業の復習
10	公益事業の規制 (自然独占と規制) (2) 公益事業の規制緩和の効果 (参入の経済効果)	インセンティブ規制、参入の経済効果、コンテストブル市場理論、を説明する。	教科書第4章第4節、第5章第1～3節の予習と授業の復習
11	電力 (1)	電力システム改革、発電設備の確保、を説明する。	参考文献 (授業中に紹介する) の予習と授業の復習
12	電力 (2)	送配電設備の確保、電力システムの安定運用、を説明する。	参考文献 (授業中に紹介する) の予習と授参考文献の予習と業の復習
13	水道 (1)	上下水道事業の現状、近年の動向、広域化・共同化の状況、を説明する。	参考文献 (授業中に紹介する) の予習と授業の復習
14	水道 (2)	上下水道について、官民連携の状況、諸外国の状況、の説明をする。	参考文献 (授業中に紹介する) の予習と授業の復習
15	課題3の振り返り	課題3の解説や補足説明をする。	課題レポート3の提出と振り返り

関連科目	ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ、産業組織論
------	-----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	公益事業の変容	公益事業学会	関西学院大学出版会
3			

評価方法 (基準)	3回の課題レポートの合計点 (第1回35点、第2回30点、第3回35点、計100点) により評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	サービス産業ではプラットフォームビジネスの急速な発展や電力・ガスの自由化のように大きな変化が生じています。それに対応して政策も変化しています。電力・ガスの市場では脱炭素社会の実現に向けて大きく変わろうとしています。一方、高齢化社会のなかで水道のようにインフラの維持が難しくなっているサービスもあります。こうした現代の大きな変化や課題について経済学的に理解することを目指しましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 柳川研究室
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	公共経済学	科目名 (英文)	Public Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3069a0		

授業概要・目的	社会には市場メカニズムだけでは実現できない社会全体の利益が存在します。その実現のためには公的部門の活動が不可欠です。この講義では、我々のライフサイクルの諸現象（特に社会保障の問題）を追いながら、それを支える制度を経済学の視点から説明していきます。
到達目標	次の項目について説明ができて、必要に応じて計算できることを目標とする。 ・公共経済学の基礎的理論。 ・社会保障制度（教育、雇用保険、労災保険、年金、医療、社会保険など）。 ・講義の知見から自身の今後のライフイベントとその対処策を考えることができる。 ・現代日本で起こっている社会保障の問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。
授業方法と留意点	Moodleによる教材・課題提供型授業として実施します。 ※2021年11月8日(月)より対面授業として実施します。
科目学習の効果 (資格)	・自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）することができる。 ・自身の人生とライフイベントを客観視できるようになり、キャリア形成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法、授業内容の全体像について説明します。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
2	ライフサイクルと社会保障制度	生涯から死までのライフサイクル（ライフサイクル仮説）と社会保障の関わりについて学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
3	少子高齢化問題	人口統計を確認し、人口減少社会における社会保障制度のあり方を学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
4	人生前半の社会保障(1)	幼児教育から中等教育まで、なぜ教育は行われるのかを考えます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
5	人生前半の社会保障(2)	人はなぜ進学するのか。高等教育の社会的意味を考えます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
6	社会保険制度(1)	民間医療保険を題材にして逆選択の概念について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
7	社会保険制度(2)	社会保険制度が雇用・賃金に与える影響について学習します。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
8	失業	労働市場の均衡と失業理論について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
9	雇用保険・労災保険	雇用保険と労災保険について学び、就労期のセーフティネットのあり方について、考えます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
10	公的年金制度	公的年金制度の内容について学び、人生100年時代の資産形成について考えます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
11	医療保険制度	医療保険制度について、逆選択の理論を復習しながら説明します。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
12	公共経済学の理論	市場均衡は最適な資源配分を実現するかどうかを解説します。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
13	公共経済学の理論	公害はなぜ起こるのかを例に外部性の概念について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
14	公共経済学の理論	公的年金を題材にして不確実性の概念について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
15	まとめ	これまでの講義を振り返り、公共経済学の基本的な考え方を復習します。	（事前）これまでの配付資料を読み、ノートの整理を行う（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。

関連科目	労働経済学, 公共政策論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ライフサイクルの経済学	橋木俊昭	ちくま新書
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎の課題 (70%) : 授業内容に関する問題 (選択式, 計算問題が中心)。 ・試験に代わる復習問題 (10%) : 授業内容に関する問題 (選択式, 計算問題が中心)。 ・試験に代わるレポート (20%) : 授業内容に関するテーマについての説明文。 			
学生への メッセージ	ライフサイクルの諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。公的部門が行う政策とそれによって形作られる法律と制度の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか, 経済学的思考で考えてください。参考書は購入必須ではありませんが, 手元にあると学習の助けとなると思います。			
担当者の 研究室等	1号館7階 平尾研究室 (経済学部)			
備考				

科目名	公益会計論	科目名 (英文)	Accounting of Public Utilities
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3070a0		

授業概要・目的	<p>・企業の財政状態や経営成績を把握するための財務会計と同様にバランスシート等を導入して、長期的な収支や事業実績を把握するため、発生主義や複式簿記を採用する自治体が増加している。</p> <p>・その意義について講義する。民間企業同様、自治体も経営責任が問われる時代であり、その情報提供手法である公(益)会計処理について理解する。</p> <p>・政令指定都市における一般会計、公営企業会計の部署での予算・決算調書、市議会答弁作成・実施等の経験を活かして公益会計が市民への説明責任を果たすべき仕組みであるとの視点から、あるべき方向性を</p>
到達目標	<p>・企業会計は、発生主義、複式簿記を採用している。</p> <p>・国や多くの地方自治体は、現金主義、単式簿記を採用している。</p> <p>・両者の違いを理解し、東京都や大阪市が導入している複式簿記方式の会計の意義について理解する。</p> <p>・今後検討されている国や地方自治体業務の国民への説明責任を達成するための公益会計の果たす役割を理解する。</p>
授業方法と留意点	<p>・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。下記内容を講義する。</p> <p>・簿記及び会計学関連科目の履修済を奨励する。これらの科目の基礎知識が履修に必要である。</p> <p>・公益を目的とした公会計は、国及び地方公共団体で行われている会計であり、地方自治法に基づき、詳細については条例・規則に規定され、一般会計、特別会計は、会計年度独立の原則を採用し、単年度会計、現金主義、単式簿記の処理を行っている</p>
科目学習の効果(資格)	<p>・地方自治体における予算・決算処理や会計処理体系など基本的な公会計知識を習得する。</p> <p>・複式簿記、発生主義会計処理を前提とする簿記、会計学等の受験科目がある資格試験における会計処理の理解の一助となる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	公益会計(公会計)とは簿記の常識	公会計とは何か、簿記とは何かについて講義する。	配布資料 「作る」－簿記の常識
2	会計の意義	会計の前提、基本ルール及び作成する財務諸表について講義する。	配布資料 「読む」－会計の常識
3	公会計の意義	公会計の対象、法及び現状と基準について講義する。	教科書 第1章 公会計の基礎
4	財務報告	財務報告、発生主義及び財務諸表の焦点、現金主義との比較等について講義する。	教科書 第2章 財務報告
5	財務諸表の構成要素－資産と負債	財務諸表の構成要素の定義、特徴及び資産、負債について講義する。	教科書 第3章 財務諸表の構成要素(1)－資産と負債
6	財務諸表の構成要素－収益と費用	(収入、歳入)と(支出、歳出)について講義する。	教科書 第4章 財務諸表の構成要素(2)－収益と費用
7	公的部門の業績評価	公的部門の評価について講義する。	教科書 第5章 公的部門の業績評価
8	中央政府会計－我が国の中央政府会計制度	中央政府における予算制度について講義する。	教科書 第6章 中央政府会計(1)－我が国の中央政府会計制度
9	中央政府会計－会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要	予算制度の問題点と予算編成改革について講義する。	教科書 第7章 中央政府会計(2)－会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要
10	地方政府会計－我が国の地方自治体会計の概要	地方自治体の会計制度の概要、予算・決算及び収入・支出等について講義する。	教科書 第8章 地方政府会計(1)－我が国の地方自治体会計の概要
11	地方政府会計－新公会計改革と財政健全化法	新地方公会計改革による財務諸表関係について講義する。	教科書 第9章 地方政府会計(2)－新公会計改革と財政健全化法
12	これまでのまとめ(習熟度等の検証)	これまでの一般会計についての理解と習熟度について試験またはレポート作成によって評価する。	第11回までの資料等
13	公営企業会計	公営企業会計について講義する。	教科書 第10章 公営企業会計
14	各国の政府会計－アメリカ	アメリカの公会計について講義する。GPRA(政府業績評価法)について講義する。	教科書 第11章 各国の政府会計(1)－アメリカ
15	各国の政府会計－イギリス	イギリスの公会計について講義する。ブレア政権での予算会計改革について講義する。	教科書 第12章 各国の政府会計(2)－イギリス

関連科目	地方自治法、財政法等の行政法関連の科目および簿記、会計学関係の科目 地方自治論
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公会計	稲沢克祐	同文館出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公会計改革 ディスクロージャが『見える行政』をつくる	公会計改革研究会	日本経済新聞社
2				
3				

評価方法(基準)	レポート内容あるいは試験等(70%)、レポート提出回数等を受講態度(30%)として総合評価する。
学生への	・公務員を目指す場合、地方公共団体等が実施している基本的な会計処理や予算積算制度を理解するための講義である。

メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の会計処理との比較も行う。 ・税金がどのように会計処理されるのか、経済学部学生として公会計への関心を持って頂きたい。 ・簿記や会計学の講義を修得していることが望ましい。 ・仕訳や資産評価などの民間企業会計処理について理解していることが望ましい。 ・勘定科目、仕訳、財務諸表の知識が必要です。日商簿記3級程度の勘定科目と仕分け処理の関係を理解していることが必要です。 ・地方公務員
担当者の研究室等	1号館7階 田井教授室(経済学部)
備考	

科目名	社会保障論	科目名 (英文)	Social Security
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大槻 忠史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3071a0		

授業概要・目的	社会保障の制度について、日本を主たる例として、実証及び理論の両側面から理解すること。また、1つの問題について、様々な立場・視点から考察をすることで、社会の多様性について考えるきっかけとすること。
到達目標	次の二つを目標とします。(1) 上記の概要・目的に必要な初・中級程度の知識の習得すること、(2) 日本の社会保障制度について、歴史の変遷とその背景を考慮しつつ、現状と問題を受講者各自の視点で考えられるようになること。
授業方法と留意点	基本的に講義形式にて行います。 コメントシート等で受講者の理解度の確認するとともに、場合によっては、授業内容を変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	社会保障を含め、日本の社会制度全般について考える手がかり、またその視点が得られるようになると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	社会保障とは何かを考える。	事前：シラバスの熟読 事後：授業内容の復習
2	日本の労働と社会保障:分析の視点 (1)	社会において「働くこと」とはどういうことか、その意味を考える。	事前：事前課題 1 事後：授業内容の復習
3	日本の労働と社会保障:分析の視点 (2)	若者という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：事前課題 2 事後：授業内容の復習
4	日本の労働と社会保障:分析の視点 (3)	高齢者という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：事前課題 3 事後：授業内容の復習
5	日本の労働と社会保障:分析の視点 (4)	ジェンダー、家庭という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：事前課題 4 事後：授業内容の復習
6	日本の労働と社会保障:分析の視点 (5)	雇用形態の多様性という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：事前課題 5 事後：授業内容の復習
7	日本の労働と社会保障:分析の視点 (6)	外国人労働及び「就職氷河期世代」という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：事前課題 6 事後：授業内容の復習
8	日本の労働と社会保障:分析の視点 (7)	労働についての理論的側面から、これまでの内容を検討する。	事前：事前課題 7 事後：授業内容の復習、小課題
9	日本の社会保障 (1) : 財源	日本の社会保障を支える財源と実態について考察する。	事前：事前課題 8 事後：授業内容の復習
10	日本の社会保障 (2) : 医療保険制度の変遷と実態	日本の医療保険制度について、歴史の変遷と現状を考察する。	事前：事前課題 9 事後：授業内容の復習
11	日本の社会保障 (3) : 医療保険制度とその問題	日本の医療保険制度について、その問題点を考察する。	事前：事前課題 10 事後：授業内容の復習
12	日本の社会保障 (4) : 年金制度の変遷とその実態	日本の年金制度について、歴史の変遷と現状を考察する。	事前：事前課題 11 事後：授業内容の復習
13	日本の社会保障 (5) : 年金制度とその問題	日本の年金制度について、その問題点を考察する。	事前：事前課題 12 事後：授業内容の復習
14	日本の社会保障 (6) : 諸外国の現状	諸外国の事例をいくつか紹介することで、日本の社会保障制度を相対的に見る視点をえる。	事前：事前課題 13 事後：授業内容の復習
15	まとめ	日本の社会保障制度をめぐる実態と問題点について、これまでのまとめを行い、日本社会の現状を認識する。	事前：事前課題 14 事後：授業内容、及び未定着部分の再復習

関連科目	労働経済学など。
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特定の教科書は利用しません。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働経済学入門-新しい働き方の実現を目指して	脇坂明	日本評論社
2	現代日本経済史	中村宗悦	学文社	
3				

評価方法 (基準)	期末試験 60 (%)、及び課題 40 (%)とします。 但し、授業形式により変更の可能性があります。
学生へのメッセージ	社会保障(制度)は、ライフステージのどの段階においても、必ず何らかの関わりがあります。その現状と課題などについて、受講者のそれぞれの立場で自ら考える機会にして欲しいと思います。
担当者の研究室等	1号館7階 大槻講師研究室
備考	

科目名	世界観光事情	科目名 (英文)	International Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3072a0		

授業概要・目的	近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています。一方で、急激な変化であるため、日本での観光に対する研究や認識は十分に進んでいません。この授業では、日本と世界の観光の現状について、さまざまなデータで客観的に眺め、世界の観光事情について理解を深めます。
到達目標	日本と世界の観光の現状について客観的なデータで把握し、経済における観光の役割を理解することを目標とします。特に日本経済における観光の役割についてデータを用いて実践的な知識と理解を得られるようになります。
授業方法と留意点	第8回(11月10日)から対面授業に切り替わり、第15回まで8回分が対面授業です。この授業は実習型授業ですので、本来は出席重視です。オンライン授業時の第1回から第7回までは出席の代替方法として3回に1回の課題提出を課していました。対面授業に切り替わりましたので、対面授業8回中の6回以上、出席してください。詳細は対面授業再開時の第8回レジュメに記載しています。
科目学習の効果(資格)	日本と世界の観光の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。日本経済における観光の役割について最新の状況はどうなっているかデータを用いて説明できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要の紹介	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
2	世界の観光の動向(1)	国際観光客の動向	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
3	世界の観光の動向(2)	国際観光客増加の要因	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
4	日本の観光の動向(1)	近年の訪日外国人旅行者の動向	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
5	日本の観光の動向(2)	訪日外国人旅行者増加の要因	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
6	観光産業	産業としての観光のとらえ方	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
7	観光政策	観光行政の変遷と観光政策	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
8	ツーリズム	体験型旅行としてのツーリズムの形態	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
9	MICE	MICEの4つの形態と今後の可能性	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
10	観光のデータ分析(1)	世界各国の観光客の動向についてデータ分析	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
11	観光のデータ分析(2)	訪日外国人旅行者の地域分布についてデータ分析	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
12	観光のデータ分析(3)	RESASによる都道府県観光客の動向の分析	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
13	観光のデータ分析(4)	RESASによる市町村観光客の動向の分析	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
14	観光のデータ分析(5)	データ分析結果のレポートへの反映	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の重要点	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。

関連科目	観光経済論 観光産業政策論 観光資源論 レジャー産業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内で課す中間レポート 50 点分と期末レポート 50 点分を総合して評価します。提出にはWebfolderを使用します。第1回から第7回までのオンライン授業時には2回のレポートを課しました。第8回から第15回までの対面授業では授業内で課題提出を課しています。これらを合計して50点分とし、期末レポートを50点分として総合評価します。第8回から第15回までの対面授業では6回以上の出席が必要です。			
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等 備考	1号館7階 朝田准教授室 (経済学部)			

科目名	会社法	科目名 (英文)	Corporate Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高間 佐知子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2075a0		

授業概要・目的	この講義では、「会社法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的としている。経済社会において会社という存在が活動するなかで、どのようにして組織されていて、またどのようにして活動しているのか、法的な観点から学んでいく。会社経営の要にもなるコーポレートガバナンスに対する法規定を中心に、経営者である取締役の法的責任についても言及する。
到達目標	この講義の目標は、会社法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、会社法に関する法的問題点に対して論理的に検討できるようになることである。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してほしい。事後学習として分からない単語は参考書で調べるなどして解決し、また、授業中の課題も確実に理解するよう疑問点は早めに解消すること。 令和元年会社法改正に対応していない参考書も多いので、改正部分については最新の六法や改正に対応した参考書で補うようにすること。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス実務法務検定3級合格レベルの知識は最低でも習得する。その他、就職試験や公認会計士試験などに必要な基礎知識を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	株式会社のしくみ	株式会社の資金調達や内部組織、株式会社の諸原則。	所有と経営の分離、有限責任について調べておく。(約60分)
3	株主の権利	自益権・共益権・単独株主権・少数株主権。	株主の権利にはどのようなものがあるか調べておく。(約60分)
4	株式会社の種類・機関	公開会社、大会社、機関設置の基本事項。	会社の機関とは何か調べておく。(約40分)
5	株主総会の役割	株主総会の権限、招集、議決方法、利益供与。	株主総会とは何か調べておく。(約60分)
6	取締役・代表取締役の役割	取締役・取締役会の役割、代表取締役の選任・役割。	取締役会および代表取締役について調べておく。(約60分)
7	取締役の義務	善管注意義務、協業避止義務、利益相反取引規制、監視義務。	取締役の義務について簡単に調べておく。(約60分) *講義形式の変更(対面+Teamsによるハイフレックス形式)
8	取締役の責任	会社に対する責任、第三者に対する責任、株主代表訴訟、刑事責任。	株主代表訴訟とは何か調べておく。(約60分)
9	取締役の責任軽減制度、保険制度、報酬規制	責任軽減制度、D&O保険、報酬決定に関する規制。	D&O保険について調べておく。(約60分)
10	経営・会計に関する監督機関	監査役、監査役会、会計監査人、会計参与。	監査役について調べて取締役との違いを検討する。(約60分)
11	委員会制度	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	指名委員会等設置会社について調べておく。(約60分)
12	会社の機関構成	会社の機関設計に関する法的規制。	機関設計に関する会社法の条文を調べておく。(約60分)
13	会社の資金調達	株式発行の形態・手続。	直接金融、間接金融、自己資本、他人資本について調べておく。(約60分)
14	株式発行の瑕疵	有利発行の概要、差止請求、無効の訴え。	有利発行とは何か簡単に調べておく。(約40分)
15	総括	課題についての復習	今まで学習したことを見直しておく。(約5時間)

関連科目	民法、商法
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	会社法	神田秀樹	弘文堂
3			

評価方法 (基準)	課題1～4(40%)及び最終課題(60%)によって評価する。
学生へのメッセージ	法律は難しいイメージがあるかもしれないが、何をするにしても法律はついて回ってくるので、社会に出て講義で学んだことが少しでも役立つように自分なりに頑張ってもらいたい。
担当者の研究室等	11号館10階
備考	11月5日第7回講義より対面講義とTeamsによるリアルタイムオンライン講義を併用します。対面講義を原則とするものですので、授業時間内にTeamsにアクセスするようにしてください。

科目名	行政法	科目名 (英文)	Administrative Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2076a0		

授業概要・目的	私たちの生活や新聞で目にする多くの事柄には、さまざまな行政活動や行政サービスが関わっています。行政法とは、そのような多岐にわたる行政の活動・サービスの根拠や仕組みを規律する法規の総称です。この授業では、行政プロセスを規律するそのような法的な仕組み、ルールとしてどのようなものがあるか、具体例に即して学ぶことを目的としています。
到達目標	この授業では、学生に次の3点を達成することが期待されます。 (1) 具体例に即して、行政法の基本原則・原則を理解する。 (2) 具体例に即して、行政法の基本的な制度・仕組みを読み解く能力を習得する。 (3) 具体的問題について、行政法の原則、制度をもとに思考・処理する力を身につける。
授業方法と留意点	・新型コロナウイルス感染防止対応に伴う変更点 授業は、Microsoft Teams を用いて、時間割どおりの曜日・時限で講義型の授業を動画配信して行います。 授業後は、直ちに録画したものをアップしますので、通信障害などによりリアルタイムで受講できない場合には、録画をご覧ください。 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください。 ・その他 思考の促進、理解の確認のために学生に対して質疑応答などの双方向コミュニケーションに努めます。講義では

科目学習の効果 (資格)	公務員試験および各種の資格試験で問われる行政法の基礎学力の習得。
--------------	----------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 行政法の意義	授業・試験方法、成績評価などの説明。 行政法と社会の関わりを解説する。	事前学習:教科書 Chapter 1 を事前に読んでおくこと。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	2	法律による行政の原理	法律による行政の原理 (法治国原理) の考え方と、その派生原理を学ぶ。	事前学習:教科書 Chapter 2 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	3	行政法の一般原則 (1)	比例原則を中心に、法治国原理に基づく一般原則を学ぶ。	事前学習:教科書 Chapter 3 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	4	行政法の一般原則 (2)	説明責任を中心に、市民参加に関する一般原則を学ぶ。	事前学習:教科書 Chapter 4 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	5	行政行為 (1)	行政行為の基本的考え方 内容・手続に関するルール	事前学習:教科書 Chapter 5 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	6	行政行為 (2)	行政裁量の基本的考え方と司法審査の枠組み	事前学習:教科書 Chapter 6 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	7	行政手続	行政手続の基本的考え方、具体的なルールを学ぶ。	事前学習:教科書 Chapter 7 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	8	行政計画	都市計画を中心に、行政計画の基本的な内容とそれを巡るルールを学ぶ。	事前学習:教科書 Chapter 8 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	9	行政指導	行政指導の特徴と、その法的な規律について学ぶ。	事前学習:教科書 Chapter 9 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	10	行政上の義務履行確保	代執行制度を中心に義務履行の基本的仕組みについて学ぶ。	事前学習:教科書 Chapter 11 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	11	行政訴訟法 (1)	取消訴訟の基本的仕組み、要件	事前学習:教科書 Chapter 12 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	12	行政訴訟法 (2)	取消訴訟以外の抗告訴訟について、義務付け訴訟を中心に学ぶ。	事前学習:教科書 Chapter 12 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	13	行政不服申立て	行政不服審査法の考え方と仕組みについて学ぶ。	事前学習:教科書 Chapter 16 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	14	国家賠償	違法な行政の活動による損害の賠償制度について。	事前学習:教科書 Chapter 17 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。
	15	損失補償	適法な行政活動により生じる損失の補償の仕組みについて。	事前学習:教科書 Chapter 18 を事前に読む。 事後学習:講義・教科書の内容を整理、要約する。

関連科目	憲法, 民法
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会とつながる行政法入門	大橋洋一	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	行政法 I 現代行政過程論	大橋洋一	有斐閣
	2	グラフィック 行政法入門	原田大樹	新世社
	3	行政法判例 50!	大橋真由美ほか	有斐閣

評価方法 (基準)	・演習問題: 40% ・ミニツペーパー: 30% ・期末テスト: 30% *実施方法未定。
-----------	---

学生へのメッセージ	公務員志望、社会問題に関心のある学生の受講を歓迎します。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	笛木講師室 (11号館9階)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	労働法	科目名 (英文)	Labor Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2077a0		

授業概要・目的	労働法は労働者と使用者との契約関係を規律する「労働保護法」と労働組合の団体行動を規律する「労働団体系」の2分野に大きく分けられますが、この授業では双方の分野を含めて労働法を概観します。
到達目標	この授業を通じて、学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義はTeamsによるオンライン方式で行います。動画その他の講義資料をオンデマンドの方式により配信しますので、受講生は定められた講義時間にチームにアクセスして下さい。アクセスのためのTeamsコードは avd2z1g です。但し、11月10日の第8回講義以降は教室における対面授業として実施します。 授業では教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布します。また、関連する判例や資料を指定することもあります。可能な限り六法を準備して下さい。オンライン講義では課題を課することがあります。
科目学習の効果 (資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものであるはずで。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	労働法の意義と基本構造	・労働法の全体像、規律構造 ・労働者の権利について	教科書第1編(2頁-22頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
2	労働者保護の一般原則 労働契約	・労基法の適用範囲 ・労働契約の基本	教科書第2編第1章から第3章の2まで(24頁-79頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
3	労働契約の当事者の権利義務	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務 ・配転と使用者の業務命令権	教科書第2編第3章の3から6まで(79頁-109頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(2時間)
4	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第2編第4章(110頁-131頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
5	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第2編第5章の1から6(132頁-154頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
6	休憩・休日 年次有給休暇 年少者と女性労働者の保護	・休憩に関する規制 ・年休権の内容 ・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第2編第5章の7から第7章まで(154頁-184頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
7	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第2編第8章(185頁-204頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
8	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第2編第9章(205頁-223頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
9	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分内容	教科書第2編第10章(224頁-242頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
10	解雇・定年・退職 多様な働き方	・解雇の法理 ・パート労働、派遣労働	教科書第2編第11、12章(243頁-286頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
11	労働組合の基本	労働組合の意義と目的	教科書第4編第1、2章(312頁-329頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
12	団体交渉と労働協約	・団体交渉権の保障とその範囲 ・労働協約の効力	教科書第4編第3、4章(330頁-354頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
13	労働争議	・争議行為の意義と限界	教科書第4編第5章(355頁-379頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
14	組合活動と不当労働行為	・就業時間中の組合活動 ・不当労働行為の意義と救済	教科書第4編第6、7章(380頁-418頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
15	まとめ・追補	これまでのまとめと、あまり触れられなかった問題の補足	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと(1時間)

関連科目	日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法 [第12版]	安枝英諄・西村健一郎	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働判例百選 [第9版]		有斐閣
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末テスト(7割)、受講の態度及び授業中の小テスト(3割)を基礎とした総合評価をします。
-----------	--

学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室
----------	--------------

備考	小テストを実施した場合、次回講義で問題の解説を行います。
----	------------------------------

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション Vacations	授業内容の説明 リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストを準備する
	2	Growing Up	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 2
	3	Entertainment	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 3
	4	Food and Drink	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 4
	5	Travel and Tourism	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 5
	6	Education	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 6
	7	Fashion	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 7
	8	Living Abroad	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 8
	9	Working Life	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 9
	10	Health	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 10
	11	Changing Times	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 11
	12	Student Life	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 12
	13	The Arts	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 13
	14	Shopping	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 14
	15	Review	単語小テスト リスニング 語彙の確認	テキスト unit1 ~unit14

		ディスカッション	
関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	インタビューで学ぶ世界の英語 World Interview	Miles Craven/城 由紀子 SEIBIDO
	2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	NISHIYA Koji 成美堂
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% weekly assignments (毎回授業内容に関する課題を提出していただきます。) 35% review quiz (定期試験に代わる復習テスト) 35%		
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション Friends	授業内容の説明 リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストを準備する unit 15
2	Sport	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 16
3	Politics	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 17
4	Animals	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 18
5	Money Matters	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 19
6	Cultural Identity	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 20
7	Family	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 21
8	Youth Culture	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 22
9	Dating and Marriage	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 23
10	Crime	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所 Unit 24
11	SNS	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所
12	Job Hunting	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所
13	Tattoos	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所
14	Games	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	1500Core Vocabulary for the TOEIC Test 指定箇所
15	Review	単語小テスト リスニング 語彙の確認	テキスト unit1 ~unit14

		ディスカッション	
関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	インタビューで学ぶ世界の英語 World Interview	Miles Craven/城 由紀子 SEIBIDO
	2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	NISHIYA Koji 成美堂
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% TOEIC Bridge score 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 60%		
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	英語 II a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、練習問題に取り組む	特になし
2	Unit 1: Restaurant	リスニング、スピーキング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
3	Unit 1: 人称代名詞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
4	Unit 2: Entertainment	リスニング、スピーキング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
5	Unit 2: 不定代名詞と再帰代名詞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
6	Unit 3: Business .	リスニング、スピーキング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
7	Unit 3: 現在・過去の時制	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	Unit 1-3の復習
8	Unit 4: Office	リスニング、スピーキング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
9	Unit 4: 現在完了	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
10	Unit 5: Telephone .	リスニング、スピーキング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
11	Unit 5: 時・期間を表す前置詞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
12	Unit 6: Letter & E-mail	リスニング、スピーキング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
13	Unit 6: 位置・場所を表す前置詞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
14	まとめ1	Unit 1-6の復習、およびまとめテスト	Unit 1-6の復習
15	まとめ2	Unit 1-6の復習、まとめテストの返却、解説	Unit 1-6の復習

関連科目	実践英語 II a
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Best Practice for the TOEIC Listening and Reading Test	吉塚 弘 他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生へのメッセージ	この授業ではTOEIC対策のテキストを用います。毎回授業の前半はテキストの問題に取り組み、後半はそこから発展させて、スピーキング、ライティング課題に取り組みます。インプットした英語表現を状況に合わせて応用し、アウトプットできるようにしていきましょう。授業時間が限られていますので予習は必須です。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階 後期 7号館 2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 10% In-class quizzes 10% Homework assignments 10% Class participation and attitude, ability 70%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	3号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	他の英語科目
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>A Little History of the World</td> <td>E. H. Gombrich</td> <td>Yale University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版) (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	A Little History of the World	E. H. Gombrich	Yale University Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版) (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	A Little History of the World	E. H. Gombrich	Yale University Press														
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版) (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 80%																
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。																
担当者の 研究室等	3号館2階非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。4回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ・毎回授業の始めに前回の授業の復習小テスト（3～5分）を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 小テスト	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 小テスト答え合わせ Lesson 1 を始める	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
2	1-1 No Poverty 貧困をなくそう	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
3	1-11 Donate what you don't use	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
4	2-1 Zero Hunger 飢餓をゼロに	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
5	2-11 Avoid throwing away food	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
6	3-1 Good Health & Well-being すべての人に健康と福祉を	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
7	3-11 Vaccinate your family to protect them and improve public health	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
8	中間テスト 4-1 Quality Education 質の高い教育をみんなに	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	中間テストの勉強 下読みと単語調べ、exercise の予習 (1 時間)
9	4-11 Help children in your community to read	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
10	5-1 Gender Equality ジェンダー平等を実現しよう	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
11	5-11 Call out sexist language and behavior	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
12	6-1 Clean Water & Sanitation 安全な水とトイレを世界に	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
13	6-11 Avoid wasting water	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
14	7-1 Affordable & Clean Energy エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
15	最終テスト	後半の学習内容の確認テスト	最終テストに向けての勉強

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>AFP World News Report 5 (「AFP ニュースで見る世界 5」)</td> <td>宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	AFP World News Report 5 (「AFP ニュースで見る世界 5」)	宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	AFP World News Report 5 (「AFP ニュースで見る世界 5」)	宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子	成美堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題(English Central) 20%			
	授業への参加度(小テスト、質問に対する発言、中間・期末テスト、宿題等) 80%			
学生への メッセージ	<p>持続可能な開発目標として国連が掲げている 17 項目を読んでいます。 指定された箇所を必ず予習しておくこと。余裕ができ授業中での理解度も高まります。</p> <p>Teams はリアルタイムで行います。 コロナの感染状況によっては授業計画が多少変わることもある。</p>			
担当者の 研究室等	3号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。			

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 1. 手紙 (導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義 (1. 手紙) の予習
	2	1. 手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	3	2. ファックス	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	4	3. 電子メール	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	5	4. 電話	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	6	5. 面会の申し入れ	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	7	6. ホテルの予約	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	8	7. オフィスの移転通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	9	8. 支店の開設案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	10	9. レセプションへの招待	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	11	10. アンケートの回答依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	12	11. 資料の送付依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	13	12. 慶弔	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	14	13. 会議の通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
		15	1. 手紙～13. 会議の通知	既習範囲の総復習 定期試験の準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂版)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<table border="0"> <tr> <td>全学共通英語課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>課題レポート</td> <td>80%</td> </tr> </table>	全学共通英語課題	20%	課題レポート	80%
全学共通英語課題	20%				
課題レポート	80%				

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道 (= easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張ってください! Keep your chin up
-----------	--

担当者の研究室等	3号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。elearning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席(=オンラインによる課題の未提出)のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	事前学習課題：テキストに書かれている映画の概要を読む 事後学習課題：指定した内容の復習
2	Unit 1: The Woman in the Picture	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニング)	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
3	Unit 1: The Woman in the Picture (文法：分詞)	・単語/文法テスト ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
4	Unit 2: Back to Titanic	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニング)	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
5	Unit 2: Back to Titanic (文法：受動態)	・単語/文法テスト ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
6	Unit 3: Leaving Port	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニング)	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
7	Unit 3: Leaving Port (文法：助動詞)	・単語/文法テスト ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
8	中間テスト	これまでの学習内容より、中間テスト	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
9	Unit 4: Don't Do It	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニング)	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
10	Unit 4: Don't Do It (文法：仮定法)	・単語/文法テスト ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
11	Unit 5: Do You Love him?	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニング)	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
12	Unit 5: Do You Love him? (文法：進行形)	・単語/文法テスト ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
13	Unit 6: I Can't See You	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記

			・映画鑑賞（読解・リスニング）	事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
	14	Unit 6: I Can't See You (文法：関係詞1)	・単語/文法テスト ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ 期末テストの準備
	15	期末テスト	これまでの学習内容より、期末テスト	これまでの総復習
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Learn English with Titanic	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(課題の提出、中間・期末・単語テスト等を含む) 80%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回単語テストを行うので、指定範囲を覚えてくること。 ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること(携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。続く場合は単位を認めない。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象</p>			
担当者の 研究室等	非常勤講師室(前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIA
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-JIA2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR・JIA2.1)を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-JIA2.11を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業方針・評価方法などの説明	事前：教科書に目を通しておく。
	2	Unit 1 On My Way to Silicon Valley	現在時制の復習、及びUnit 1の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	3	Unit 2 Welcome to San Francisco	代名詞の復習、及びUnit 2の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	4	Unit 3 First Day of Internship	前置詞の復習、及びUnit 3の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	5	Unit 4 Times, but	過去時制の復習及び、Unit 4の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	6	Unit 5 They Look Good on You	可算・不可算名詞の復習及び、Unit 5の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	7	Unit 6 Tech Talk	Wh 疑問文の復習及び、Unit 6の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	8	Unit 7 You're Sitting on It	進行形の復習及び、Unit 7の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	9	Unit 8 Going Green	助動詞の復習及び、Unit 8の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	10	Unit 9 Time to Work	未来の形の復習及び、Unit 9の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	11	Unit 10 Know Your Business	比較級&最上級の復習及び、Unit 10の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	12	Unit 11 The Job Interview	現在完了の復習及び、Unit 11の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	13	Unit 12 Is Your Company Right for You?	接続詞の復習及び、Unit 12の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	14	Unit 13 Email Matters	動名詞・不定詞の復習及び、Unit 13の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	15	Unit 14 On the Move	否定文の復習をしながら、Unit 14の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Booster!	Robert Hickling ほか	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語が話せれば、読めれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	3号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業や課題について質問がある学生は、学籍番号、名前、クラス名、受講曜日を必ず記入し下記のアドレスに連絡して下さい。 chikako.toda@edu.setsunan.ac.jp
	辞書は毎回の授業に持参すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。

事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 7: 数量形容詞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
3	Unit 8: Bank & Post Office	リスニング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
4	Unit 8: 自動詞と他動詞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
5	Unit 9: New Products	リスニング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
6	Unit 9: 形容詞を作る接尾辞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
7	Unit 10: Travel 1	リスニング問題に取り組む	Unit 1-3 の復習
8	Unit 10: 副詞を作る接尾辞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
9	Unit 11: Travel 2	リスニング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
10	Unit 11: 分詞構文	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
11	Unit 12: Job Applications	リスニング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
12	Unit 12: 比較	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
13	Unit 13: Shopping / Unit 13:	リスニング問題、語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
14	まとめ1	Unit 7-13 の復習、およびまとめテスト	語彙問題の予習、文法事項の確認
15	まとめ2	Unit 7-13 の復習、およびまとめテストの解説	語彙問題の予習、文法事項の確認

関連科目	実践英語 I a
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	この授業ではTOEIC対策のテキストを用います。毎回授業の前半はテキストの問題に取り組み、後半はそこから発展させて、スピーキング、ライティング課題に取り組みます。インプットした英語表現を状況に合わせて応用し、アウトプットできるようにしていきましょう。授業時間が限られていますので予習は必須です。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階 後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。質問等は Teams のチャット機能を用いて対応する。
----	---

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検討

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation. Exam 20%, In-class quizzes, Homework assignments, Class participation, attitude, ability 80% All adapted for the online learning environment.
-----------	--

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	他の英語科目
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版) (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 80%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	・演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ・各 Lesson の終わりにまとめの語彙テスト (3~5 分) を行う。 ・4 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ・遠隔授業では常に Teams を使うが、予定表、解答の掲載やテストは Moodle を使うので自己登録しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	9-11 Think of innovative new ways to repurpose old material	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
3	10-1 Reduced Inequalities 人や国の不平等をなくそう	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
4	10-11 Raise your voice against discrimination	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
5	11-1 Sustainable Cities & Communities 住み続けられるまちづくりを	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
6	11-11 Bike, walk, or use public transportation	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
7	12-1 Responsible Consumption & Production つくる責任、つかう責任	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
8	12-1 Responsible Consumption & Production つくる責任、つかう責任 中間テスト (予定)	Exercise (語彙、英問英答など) 前半の学習の確認テスト (予定)	中間テストの勉強 下読みと単語調べ、exercise の予習 (1 時間)
9	12-11 Recycle paper, plastic, glass, and aluminum	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
10	13-1 Climate Action 気候変動に具体的な対策を	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
11	13-11 Educate young people on climate change	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
12	14-1 Life Below Water 海の豊かさを守ろう	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
13	14-11 Avoid plastic bags to keep the ocean safe and clean	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
14	単語テスト、授業 まとめ (復習) テスト	後半の学習の確認テスト	まとめテストに備えて復習しておくこと
15	まとめテストの解答・解説 (実力問題に挑戦)	テストの答え合わせ (教科書に出て来た語彙の総復習など)	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AFP World News Report 5 (「AFP ニュースで見る世界 5」)	宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -- Revised Edition--	西谷 恒志	成美堂

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、中間及び期末テスト、宿題等も含む) 80%			
学生への メッセージ	持続可能な開発目標として国連が掲げている 17 項目の後半部分を読んでいます。Lesson 9 から始めます。(途中計画通りに進まないこともあります。) 各 Lesson の DVD を見て、状況を掴んでおくようにしてください。 事前に予習(単語調べ、どんな英文構成かを見ておくなど)が済んでいるものとして授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シラバスの説明 14. 議事録 (導入)</td> <td>授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など</td> <td>次回講義 (14. 議事録) の予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>14. 議事録</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>15. 物品の購入</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>16. 社内研修の案内</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>17. 社外研修の報告</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>18. 日程の中間報告</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>19. 引合い (1)</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>20. 引合い (2)</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>21. 注文</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>22. 代金の回収</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>23. クレームと調整</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24. 履歴書</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>25. 応募の手紙</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>26. 推薦状</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>14. 議事録～26. 推薦状</td> <td>既習範囲の総復習 定期試験の準備</td> <td>定期試験の準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	シラバスの説明 14. 議事録 (導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義 (14. 議事録) の予習	2	14. 議事録	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	3	15. 物品の購入	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	4	16. 社内研修の案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	5	17. 社外研修の報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	6	18. 日程の中間報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	7	19. 引合い (1)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	8	20. 引合い (2)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	9	21. 注文	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	10	22. 代金の回収	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	11	23. クレームと調整	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	12	24. 履歴書	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	13	25. 応募の手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	14	26. 推薦状	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	15	14. 議事録～26. 推薦状	既習範囲の総復習 定期試験の準備	定期試験の準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	シラバスの説明 14. 議事録 (導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義 (14. 議事録) の予習																																																																
2	14. 議事録	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
3	15. 物品の購入	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
4	16. 社内研修の案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
5	17. 社外研修の報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
6	18. 日程の中間報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
7	19. 引合い (1)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
8	20. 引合い (2)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
9	21. 注文	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
10	22. 代金の回収	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
11	23. クレームと調整	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
12	24. 履歴書	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
13	25. 応募の手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
14	26. 推薦状	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
15	14. 議事録～26. 推薦状	既習範囲の総復習 定期試験の準備	定期試験の準備																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Essentials of Global Business English</td> <td>豊田 暁 他</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂版)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂版)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂版)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 課題レポート 80% (授業内で、課題・小テスト・後期末試験を実施)																																																																		
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道 (= easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張ってください! Keep your chin up																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	・前期と同様に、毎回、指定範囲を課題として提出し、教員が提示する解説資料を読んで学習する。 ・課題を解く際に、分からない単語やフレーズは、辞書や文法書などで調べること。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: be 動詞	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
3	Unit 2: 一般動詞 (現在形)	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
4	Unit 3: 一般動詞 (過去形)	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
5	Unit 4: 進行形	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
6	Unit 5: 未来表現	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ +中間テスト
7	Unit 6: 助動詞 +中間テスト	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング +これまでの内容より中間テスト	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
8	Unit 7: 受動態	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
9	Unit 8: 現在完了形	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
10	Unit 9: 比較	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
11	Unit 10: 分詞	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
12	Unit 11: 不定詞	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
13	Unit 12: 関係詞	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
14	Unit 13: 接続詞・前置詞	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
15	期末テスト	これまでの学習内容より、期末テスト	これまでの総復習

関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1	Let's Learn English with Pop Hits! (ポップス でスタート! 基礎英語)	Teruhiko Kadoyama, Timothy F. Hawthorne	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧 版) (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回単語テストを行うので、指定範囲を覚えてくること。 ・ グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・ 辞書か電子辞書を必ず持参すること (携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。 ・ 積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 <p>① 私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。続く場合は単位を認めない。 ② 睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象</p>			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-JIA2-2)を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR・JIA2.1)を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-JIA2.11)を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 *授業で使用使用する教科書、ノートは毎回必ず持参すること。教科書未購入の場合単位認定されないことがあります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 01 : What's your major?	授業についての説明。 be 動詞の復習。 単語テスト	事前：シラバスを読む。単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
2	02 : How do you like your new school? 03 : Let's me introduce a new member to you.	一般動詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
3	04 : How was your Golden Week?	未来形の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
4	05 : I'm looking for a part-time job.	進行形の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
5	06 : What do you call this in Japanese?	受動態の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
6	07 : Have you been there?	現在完了形の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
7	中間テスト	単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
8	08 : Could you tell me how to get there?	助動詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
9	09 : What do you want me to do?	不定詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
10	10 : I'm on the tight budget.	関係詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
11	11 : What do you think of this program?	形容詞・副詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
12	12 : I'm reviewing what I studied.	接続詞・前置詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
13	13 : Final exam week is so stressful!	動名詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
14	14 : Is this your first trip abroad?	分詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
15	8-14のまとめテスト	総復習 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Read Aloud & Learn English On Campus	角山照彦 ほか	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語が話せれば、読めれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	辞書は毎回の授業に持参すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。
----	--

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	1234567
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3305c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期は CEFR-J [B1.1]、後期は CEFR-J [B1.2] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit 1. I'm in the computer business.	Introduction. Talking about your job.	Page 6-7.
2	Unit 1. I'm in the computer business.	Job titles, company organisation.	Page 6-7.
3	Unit 2. No, he's the boss!	Introducing people	Page 8-9.
4	Unit 2. No, he's the boss!	Job descriptions, department names.	Page 8-9.
5	Unit 3. This is where we have lunch.	Explaining office layout.	Page 10-11.
6	Unit 3. This is where we have lunch.	Location, ordinal numbers.	Page 10-11.
7	Unit 4. Can I use your phone.	Giving instructions, saying telephone numbers.	Page 12-13.
8	Unit 4. Can I use your phone. Mid-term test	Using sequencing words	Page 12-13.
9	Unit 5. How about some coffee?.	Inviting, making arrangements.	Page 14-15.
10	Unit 5. How about some coffee	Places of entertainment..	Page 14-15.
11	Unit 6. Can you meet me at the airport?	Talking about travel plans, making arrangements.	Page 20-21.
12	Unit 6. Can you meet me at the airport?	Air travel, dates	Page 20-21.
13	Unit 7. I'll take care of it.	Offering to help, apologising.	Page 22-23.
14	Unit 7. I'll take care of it.	Talking about things are in the office.	Page 22-23.
15	Final test.	Final test.	Study for test.

関連科目	ビジネスイングリッシュ II
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work (student book)	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford University Press
2	Passport to Work (workbook)	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford University Press	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
2				
3				

評価方法 (基準)	Participation and assignments: 100%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most. Pair and group work will form the core of each lesson. I'm looking forward to meeting you!
担当者の研究室等	3号館 2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	891011121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 峰子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3305c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期は CEFR-J [B1.1]、後期は CEFR-J [B1.2] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	講義の進め方、評価方法の説明。	シラバスを読んでおくこと。
2	Chapter 1 Telephone 1	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
3	Chapter 2 Business Email	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
4	Chapter 3 Telephone 2	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
5	Chapter 4 Business Letter	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
6	Chapter 5 At the Reception Desk	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
7	前半学習の確認 / Chapter 6 Corporate Websites	Chapter 1-5 の内容について理解を深め、到達度を確認する / ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	既習学習内容の整理、辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
8	Chapter 7 Company Profile	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
9	Chapter 8 Product Advertisements	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
10	Chapter 9 Your Job	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
11	Chapter 10 Product Specifications	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
12	Chapter 11 Business Plans	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
13	Chapter 12 Operating Instructions	ビジネスシーンにおける基本表現について理解を深め、到達度を確認する。	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
14	後半学習の確認	Chapter 6-12 の内容について理解を深め、到達度を確認する。	既習の学習内容を整理し、復習を行うこと。
15	前期の復習と総括	Chapter 1-12 のふりかえり学習を行う。	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。

関連科目	ビジネスイングリッシュ II
------	----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Getting Global!	辻本智子 / 野口ジュディ / 深山晶子 / 椋平淳 / 桐村亮 / 村尾純子	金星堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題・発表 100%
学生へのメッセージ	積極性を重視します。積極的に授業に参加してください。
担当者の研究室等	3号館2階 非常勤講師
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題や発表の準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。課題に関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業時に対応する。

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名 (英文)	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	1234567
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3306c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introducing the course. Getting to know each other activities.	Lecture. Pair work, Group work.	
2	Talking about yourself, and past experiences, qualifications and skills.	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
3	Talking about yourself, and past experiences, qualifications and skills.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
4	Dealing with inquiries. Talking about things you haven't and done yet.	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
5	Making Predictions. and Comparisons.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
6	Dealing with numbers.	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
7	General office conversations and body language	Listening,	Review to be completed.
8	General office conversations and body language	Listening, Speaking.	Review to be completed.
9	Asking and giving travel advice.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
10	Talking about preferences. Offering Congratulations.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
11	Review	Listening	
12	Current events. and review.	Listening, Speaking, Reading &	
13	Seasonal Activities.	Listening and Vocabulary.	
14	Talking about passed events and the New Year. Review.	Vocabulary, Listening and Speaking. Pair and group work.	
15	Quiz and Review	Listening, Reading writing.	

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work.	Angela Buckingham	Oxford
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC 30% Other 70% (See below) Being prepared for class (being on time with your file of class prints and completed homework on your desk and ready to start) 15%. Homework 5%. Following instruction, participation and contribution to pairs or groups w
-----------	---

学生へのメッセージ
良い成績を取るためには、授業に参加すること、学びたいという姿勢、態度が大切です。もちろん出席することが重要です。This business course is a communication course, so students should try to use their English as much as possible. A good attitude towards learning and participating are important to getting a good gr

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名(英文)	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	891011121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 峰子
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP7⑥		
科目ナンバリング	WEN3306c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	講義の進め方、評価方法の説明。 (Teams でのオンライン授業)	シラバスを読んでおくこと。
2	Chapter 13 Talking about the News	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。 (Teams でのオンライン授業)	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
3	Chapter 14 Science News	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。 (Teams でのオンライン授業)	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
4	Chapter 15 Tourist Information	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。 (Teams でのオンライン授業)	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
5	Chapter 16 Safety Signs	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。 (Teams でのオンライン授業)	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
6	Chapter 17 Dinner Talk	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。 (Teams でのオンライン授業)	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
7	前半学習の確認 / Chapter 18 Abstracts	Chapter 13-17 の内容について理解を深め、到達度を確認する/ ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。 (対面授業)	既習学習内容の整理、辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
8	Chapter 19 Preparation for Meetings	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。 (対面授業)	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
9	Chapter 20 Data and Graphs	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。 (対面授業)	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
10	Chapter 21 Presentation 1	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。 (対面授業)	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
11	Chapter 22 Presentation 2	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。 (対面授業)	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
12	Chapter 23 Various Requests	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。 (対面授業)	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
13	Chapter 24 Patent Description	ビジネスシーンにおける基本表現について理解を深め、到達度を確認する。 (対面授業)	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。
14	後半学習の確認	Chapter 18-24 の内容について理解を深め、到達度を確認する。 (対面授業)	既習の学習内容を整理し、復習を行うこと。
15	後期の復習と総括	Chapter 13 -24 のふりかえり学習を行う。 (対面授業)	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。

関連科目	ビジネスイングリッシュⅡ
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Getting Global!	辻本智子 / 野ロジュディ / 深山晶子 / 椋平淳 / 桐村亮 / 村尾純子	金星堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法	課題・発表 100%
------	------------

(基準)	
学生へのメッセージ	積極性を重視します。積極的に授業に参加してください。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Class Introduction		Class Introduction
2	Personal Information	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
3	挨拶、自己紹介等の会話	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
4	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
5	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
6	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1 and 2 Test
7	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
8	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
9	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
10	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
11	旅行の会話	～はどこですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3 and 4 Test
12	旅行の会話	～はどこですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
13	買い物の会話	～はいくらですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
14	買い物の会話	～はいくらですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6
15	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6

関連科目 他の英語のクラスすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English In Common 1		Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 平常点 (毎週のクイズ 40%、発表 30%、課題提出 30%) にて評価する。

学生へのメッセージ Be prepared to speak in class. Looking forward to seeing you.
ZOOM ID: 933 5591 9028
PASS CODE: 176372

担当者の研究室等 非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)

備考 事前・事後学習課題については 1 日 90 分程度行うこと。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/ 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test I I / Achievement Test, Units 4-6	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, Fifth Edition	Helegsen, Wiltshier, Brown	Pearson
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger.
	2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
	3	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	4	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	5	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	6	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). / Units 1&2 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	7	Unit 3: Talking about art (using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation,	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

		pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	reading and listening tasks.	
	8	Unit 3: Talking about art (using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	9	Unit 4: Describing people (using relative clauses). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 4: Describing people (using relative clauses). / Units 3&4 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense) / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.
関連科目	英語基礎会話 b			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Level 2 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406114-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) Others (20%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/ 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test I I / Achievement Test, Units 4-6	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	3号館 2階 非常勤講師室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	Students will take part in course and student introduction activities.	Students should study the content of the days lesson
	2	Conversation Strategies	How to extend conversation by using comments and follow-up questions.	Students should study the content of the days lesson
	3	Unit 1: Jobs	Vocabulary Introduction Listening Activity Wh-Questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
	4	Unit 1: Jobs	Presentation Skills Mini-Presentation 1: Your ideal job	Students should study the content of the days lesson
	5	Unit 2: Daily Activities	Vocabulary Introduction Listening Activity Yes/No questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
	6	Unit 2: Daily Activities	Presentation Skills Mini-Presentation 2: Your daily routine	Students should study the content of the days lesson
	7	Conversation Strategy	Students will learn how express their opinions and phrases to agree and disagree with opinions that they hear.	Students should study the content of the days lesson
	8	Midterm Assessment	Students will complete a review activity demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
	9	Unit 4: Feelings	Vocabulary Introduction Listening Activity Subject and Object pronouns	Students should study the content of the days lesson
	10	Unit 4: Feelings	Presentation Skills Mini-Presentation 3: What makes you happy?	Students should study the content of the days lesson
	11	Unit 6: Talking about the past	Vocabulary Introduction Listening Activity Simple Past Tense	Students should study the content of the days lesson
	12	Unit 6: Talking about the past	Presentation Skills Mini-Presentation 4: My Favorite Vacation	Students should study the content of the days lesson
	13	Downtown	Vocabulary Introduction Listening Activity Prepositions of place	Students should study the content of the days lesson
	14	Final Assessment	Students will complete a review activity demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
	15	Discussion Activity	Students will do discussion activities in small groups.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加 (ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 70% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。) Midterm Assessment Activity 15% Final Assessment Activity 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills, as well as practice in writing. Students will work in pair
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。 会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	3号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/ 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test I I / Achievement Test, Units 4-6	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	3号館 2階 非常勤講師室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/ 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	
15	Conversation Test I I / Achievement Test, Units 4-6	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, Fifth Edition	Helegsen, Wiltshier, Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な言葉の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	3号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger.
	2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
	3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	6	Unit 2: Sharing personal information. / Units 1 & 2 test. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

	pairs and		
7	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and gro	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 4: Talking about habits and routines. / Units 3 & 4 test. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exerci	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.com) corresponding to the unit studied in class. Repea

	14	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) Others (20%)			
学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck! In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Any student who is absent for			
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	Students will take part in course and student introduction activities.	Students should study the content of the days lesson
	2	Conversation Strategies	How to extend conversation by using comments and follow-up questions.	Students should study the content of the days lesson
	3	Unit 1: Jobs	Vocabulary Introduction Listening Activity Wh-Questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
	4	Unit 1: Jobs	Presentation Skills Mini-Presentation 1: Your ideal job	Students should study the content of the days lesson
	5	Unit 2: Daily Activities	Vocabulary Introduction Listening Activity Yes/No questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
	6	Unit 2: Daily Activities	Presentation Skills Mini-Presentation 2: Your daily routine	Students should study the content of the days lesson
	7	Conversation Strategy	Students will learn how express their opinions and phrases to agree and disagree with opinions that they hear.	Students should study the content of the days lesson
	8	Midterm Assessment	Students will complete a review activity demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
	9	Unit 4: Feelings	Vocabulary Introduction Listening Activity Subject and Object pronouns	Students should study the content of the days lesson
	10	Unit 4: Feelings	Presentation Skills Mini-Presentation 3: What makes you happy?	Students should study the content of the days lesson
	11	Unit 6: Talking about the past	Vocabulary Introduction Listening Activity Simple Past Tense	Students should study the content of the days lesson
	12	Unit 6: Talking about the past	Presentation Skills Mini-Presentation 4: My Favorite Vacation	Students should study the content of the days lesson
	13	Downtown	Vocabulary Introduction Listening Activity Prepositions of place	Students should study the content of the days lesson
	14	Final Assessment	Students will complete a review activity demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
	15	Discussion Activity	Students will do discussion activities in small groups.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加 (ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 70% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。) Midterm Assessment Activity 15% Final Assessment Activity 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills, as well as practice in writing. Students will work in pair
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3号館 2階/後期 7号館 2階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 What's your name?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
3	Unit 1 What's your name?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
4	Unit 2 I love fashion!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
5	Unit 2 I love fashion!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
6	Unit 3 How do you stay healthy?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
7	Unit 3 How do you stay healthy?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
8	Unit 4 How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
9	Unit 4 How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
10	Unit 4 How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
11	Unit 5 What's that?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
12	Unit 5 What's that?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
13	Unit 6 What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
14	Unit 6 What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
15	Unit 6 What's your dream? その他の学習活動	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技	宿題をする

		術、語彙、文法を学ぶ	
関連科目	英語基礎会話Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	English Firsthand (Fifth Edition) Success: Student Book with MyMobileWorld ISBN: 9789813132764	Marc Helgesen, John Wiltsher, & Steven Brown
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業中の取り組み(課題・発表を含む)と宿題: 100%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	3号館2階非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールや出講時に非常勤講師室にて対応する		

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。 会話力、T O E I Cの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	3号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業の進め方、評価の方法などの説明 ・簡単な自己紹介	・事前学習： 英語で自己紹介ができるように考えてくる
2	Unit 1: Smartphone (過去形)	・単語テスト ・スマートフォンをテーマにリスニング、スピーキング、文法 (過去形) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
3	Unit 2: Date (過去形の否定文)	・単語テスト ・デートをテーマにリスニング、スピーキング、文法 (過去形の否定文) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
4	Unit 3: Cooking (命令形)	・単語テスト ・料理をテーマにリスニング、スピーキング、文法 (命令形) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
5	Unit 4: Homework (to 不定詞)	・単語テスト ・宿題をテーマにリスニング、スピーキング、文法 (to 不定詞) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
6	Unit 5: LINE messages (現在進行形)	・単語テスト ・ラインのメッセージをテーマにリスニング、スピーキング、文法 (現在進行形) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認 ・中間テストの準備
7	中間テスト	これまで学んだことより中間テスト (ペア・グループの発表+筆記)	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit1~5の総復習
8	Unit 6: At a sweets parlor (There is)	・単語テスト ・お菓子をテーマにリスニング、スピーキング、文法 (There is) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
9	Unit 7: Type (形容詞)	・単語テスト ・タイプをテーマにリスニング、スピーキング、文法 (形容詞) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
10	Unit 8: Instant noodles (比較)	・単語テスト ・インスタント麺をテーマにリスニング、スピーキング、文法 (比較) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
11	Unit 9: Running (can)	・単語テスト ・ランニングをテーマにリスニング、スピーキング、文法 (can) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
12	Unit 10: Hokkaido (未来形 1)	・単語テスト ・北海道をテーマにリスニング、スピーキング、文法 (未来形) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
13	Unit 11: Part-time job (未来形 2)	・単語テスト ・アルバイトをテーマにリスニング、スピーキング、文法 (未来形) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
14	Unit 12: Convenience store (丁寧な表現)	・単語テスト ・コンビニをテーマに	事前学習： ・Key words の単語を覚える

			リスニング、スピーキング、文法（丁寧な表現）の力をつける ・小テスト	事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認 ・発表の準備
	15	発表	これまで学んだことより発表（ペア・グループの発表＋筆記）	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit6～12の総復習
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Fun Time!-Basic English for Communication-	Masaki Makino and Junya Hirano	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト 20% ・中間テスト＋発表 60% ・平常点：20%（課題の提出等） 注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。（＝3 回を超えるオンラインによる課題の未提出があった場合、単位を認めない）			
学生への メッセージ	本授業では、基本的な英会話力の向上を目指す。日常における様々なシーンを想定し、会話がスムーズにできるように練習する。ペアワークやグループワークなどを通じて、自分のことを一方的に話すだけでなく、相手の話を聞いてそれに受け答えできるように訓練をする。また様々な英語表現に触れ、会話の幅を広げることも本授業の目的の一つである。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業やグループワークへの積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。多少の間違いがあっても、自分の考えを述べようとする方学生にはどんどん成績を上げていきます。 ・ただし、授業に関 			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Class Introduction		Class Introduction
2	Personal Information	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
3	挨拶、自己紹介等の会話	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
4	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
5	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
6	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1 and 2 Test
7	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
8	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
9	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
10	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
11	旅行の会話	～はどこですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3 and 4 Test
12	旅行の会話	～はどこですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
13	買い物の会話	～はいくらですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
14	買い物の会話	～はいくらですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6
15	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6

関連科目 他の英語のクラスすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English In Common 1		Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 平常点 (毎週のクイズ 40%、発表 30%、課題提出 30%) にて評価する。

学生へのメッセージ Be prepared to speak in class. Looking forward to seeing you.
ZOOM ID: 950 9215 6053
PASS CODE: 374754

担当者の研究室等 非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)

備考 事前・事後学習課題については 1 日 90 分程度行うこと。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス、現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Class introduction
2	現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7
3	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7
4	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7 test
5	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8
6	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8
7	U7～9の見直し、復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 9
8	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 9
9	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8 and 9 Test
10	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10
11	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10
12	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 11
13	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 11
14	復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10 and 11 Test
15	テーマは自由に選択、ペアでロールプレイを行う。	授業でペアを組み会話を実演	Class Wrap-up

関連科目 他の英語のクラスすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		Pearson
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 出席は必ずすること。3週間ごとにスピーキングクイズを行う。授業前の準備(単語・文法の使い方)も、評価に反映する。やる気があるかどうかをみていきます。
評価割合は「授業前準備 20%、授業態度 30%、スピーキングクイズやテスト 50%」とします。

学生への 私は、このクラスの生徒のすべてが、真剣に英語でのコミュニケーションスキルを向上することを願っています。私は、学生のクラスでの最善の

メッセージ	努力を見てみたい。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 ZOOM ID:933 5591 9028 PASSCODE:176372

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	15	Conversation Test II / Achievement Test, Units 16-20	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, 5th Edition	Helgesen, Wiltshier, Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15%学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation, review greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
	2	Unit 7: Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	3	Unit 7: Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	4	Unit 8: Describing places (using second conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	5	Unit 8: Describing places (using second conditional). Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	6	Unit 9: Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	7	Unit 9: Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	8	Unit 10: Speculating on	Students will discover, practice	Complete online homework

		the past (using may, might, could couldn't, and must have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	(https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	9	Unit 10: Speculating on the past (using may, might, could couldn't, and must have). / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 11: Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups. Units 3 & 4 test.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 11: Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 12: Discussing the news (using reported speech). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 12: Discussing the news (using reported speech).. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 12 review. Units 11 & 12 Test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

関連科目

英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice Level 2 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406114-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test II / Achievement Test, Units 16-20	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15%学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Review of summer holiday	Review Activity based on the material from Semester 1. Discussion of summer holiday activities	Students should study the content of the days lesson
	2	People we Admire	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Simple past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
	3	People we Admire	Presentation Skills. Mini-Presentation 1: Describing someone you admire.	Students should study the content of the days lesson
	4	At a Supermarket	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Count and Noncount nouns Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
	5	At a Supermarket	Presentation Skills. Mini-Presentation 2: Teaching a recipe to the class.	Students should study the content of the days lesson
	6	Health Problems	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: "Should" for giving advice. Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
	7	Health Problems	Presentation Skills. Mini-Presentation 3: How to treat a health problem	Students should study the content of the days lesson
	8	Midterm Writing Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
	9	Midterm Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to do a short speaking activity to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
	10	Cities	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Wh-Questions with the past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
	11	Cities	Presentation Skills. Mini-Presentation 4: Vacation Recommendation. Describing where to go and why.	Students should study the content of the days lesson
	12	Travel Plans	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Future plans with "be going to" and "might". Group speaking task.	Students should study the content of the days lesson
	13	Travel Plans	Presentation Skills. Mini-Presentation 5: Your plans for the Spring Vacation	Students should study the content of the days lesson
	14	Final Writing Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of all the material presented in the course.	Students should study the content of the days lesson
15	Final Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to complete a short speaking assignment which will demonstrate their understanding of the speaking skills presented in this course.	Students should study the content of the days lesson	

関連科目	英語基礎会話 b
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6</td> <td>Susan Stempleski</td> <td>Oxford</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	Homework Assignments 10% Classwork 35% Mini-Presentations 15% Midterm Assessments 20% Final Assessments 20%																
学生への メッセージ	We will return to the classroom for face to face classes from November 8th.																
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する																

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題	

関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。 会話力、T O E I Cの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	15	Conversation Test II / Achievement Test, Units 16-20	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15%学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	15	Conversation Test II / Achievement Test, Units 16-20	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, 5th Edition	Helgesen, Wiltshier, Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15%学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑩		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
	2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. / Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

		conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
	8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. / Units 11 & 12 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.

		pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Review of summer holiday	Review Activity based on the material from Semester 1. Discussion of summer holiday activities	Students should study the content of the days lesson
	2	People we Admire	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Simple past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
	3	People we Admire	Presentation Skills. Mini-Presentation 1: Describing someone you admire.	Students should study the content of the days lesson
	4	At a Supermarket	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Count and Noncount nouns Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
	5	At a Supermarket	Presentation Skills. Mini-Presentation 2: Teaching a recipe to the class.	Students should study the content of the days lesson
	6	Health Problems	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: "Should" for giving advice. Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
	7	Health Problems	Presentation Skills. Mini-Presentation 3: How to treat a health problem	Students should study the content of the days lesson
	8	Midterm Writing Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
	9	Midterm Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to do a short speaking activity to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
	10	Cities	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Wh-Questions with the past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
	11	Cities	Presentation Skills. Mini-Presentation 4: Vacation Recommendation. Describing where to go and why.	Students should study the content of the days lesson
	12	Travel Plans	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Future plans with "be going to" and "might". Group speaking task.	Students should study the content of the days lesson
	13	Travel Plans	Presentation Skills. Mini-Presentation 5: Your plans for the Spring Vacation	Students should study the content of the days lesson
	14	Final Writing Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of all the material presented in the course.	Students should study the content of the days lesson
	15	Final Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to complete a short speaking assignment which will demonstrate their understanding of the speaking skills presented in this course.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Homework Assignments 10% Classwork 35% Mini-Presentations 15% Midterm Assessments 20% Final Assessments 20%			
学生への メッセージ	We will return to the classroom for face to face classes from November 8th.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (後期 7号館 2階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 7 It was great!	授業の進め方や評価方法などの説明 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	2	Unit 7 It was great!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	3	Unit 7 It was great!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	4	Unit 8 How much do you know?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	5	Unit 8 How much do you know?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	6	Unit 9 She can really sing!	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	7	Unit 9 She can really sing!	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	8	Unit 10 What do you like to do?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	9	Unit 10 What do you like to do?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	10	Unit 10 What do you like to do?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	11	Unit 11 Of course you can.	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	12	Unit 11 Of course you can.	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	13	Unit 12 What happened next?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会	宿題をする

			話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	
	14	Unit 12 What happened next?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	15	Unit 12 What happened next? その他の学習活動	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
関連科目	英語基礎会話 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand (Fifth Edition) Student Book with MyMobileWorld ISBN: 9789813132764	Marc Helgesen, John Wiltsher, & Steven Brown	Pearson
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の取り組み (小テスト・課題・発表を含む) と宿題 : 100%			
学生へのメッセージ	学期途中で、新型コロナウイルスの感染状況の改善等により、対面授業になる場合があります。その場合は、利用する I C T ツール等で連絡されます。			
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールや出講時に非常勤講師室にて対応する			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。 会話力、T O E I Cの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・前期と同様に、毎回、指定範囲を課題として提出し、教員が提示する解説資料を読んで学習する。 ・課題を解く際に、分からない単語やフレーズは、辞書や文法書などで調べる。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。 ・3回を超える課題の未提出があった場合、原則単位不可とします。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: ファストフード店での注文	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・ファストフード店での注文について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
3	Unit 2: レストランでの来客対応	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・レストランでの来客対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
4	Unit 3: 接客サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・接客サービスについて、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
5	Unit 4: コンビニやスーパーでの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・コンビニやスーパーでの対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
6	Unit 5: 会計	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・会計時の対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ、中間テストの準備
7	中間テスト	これまでの内容より中間テスト (ペア・グループワーク+筆記)	Unit1~5の総復習
8	Unit 6: 苦情対応	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・苦情対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
9	Unit 7: ホテルでの宿泊客の受付	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・宿泊客の受付について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
10	Unit 8: サービス提供、近隣情報の案内	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・サービス提供、近隣情報の案内の仕方について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
11	Unit 9: 観光案内	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・観光案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
12	Unit 10: 道案内	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・道案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
13	Unit 11: 交通機関や観光施設の案内	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・交通機関や観光施設の案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
14	Unit 12: 発券機や機器の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・発券機や機器の説明について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ、期末テストの準備

			・小テスト	
	15	発表	これまでの内容より発表 (ペア・グループワーク+筆記)	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ、Unit6~12の総復習
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	You're Welcome Communication with Tourists Made Easy	Tae Kudo	Cengage Learning
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト20% ・中間テスト+発表60% ・平常点：20% 			
学生への メッセージ	<p>本授業では、前期に引き続き、基本的な英会話力の向上を目指す。特に日本を観光中の外国人への案内を想定し、的確な会話ができるように練習をする。ペアワークやグループワークなどを通じて、会話のキャッチボールがスムーズにできるように訓練を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業やグループワークへの積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。多少の間違いがあっても、自分の考えを述べようとする方学生にはどんどん成績を上げていきます。 ・ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績の低下だけでなく、単位の取得にも影響を及ぼす。 			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス、現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Class introduction
2	現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7
3	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7
4	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7 test
5	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8
6	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8
7	U7～9の見直し、復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 9
8	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 9
9	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8 and 9 Test
10	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10
11	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10
12	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 11
13	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 11
14	復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10 and 11 Test
15	テーマは自由に選択、ペアでロールプレイを行う。	授業でペアを組み会話を実演	Class Wrap-up

関連科目 他の英語のクラスすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		Pearson
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 出席は必ずすること。3週間ごとにスピーキングクイズを行う。授業前の準備 (単語・文法の使い方) も、評価に反映する。やる気があるかどうかをみていきます。
評価割合は「授業前準備 20%、授業態度 30%、スピーキングクイズやテスト 50%」とします。

学生への 私は、このクラスの生徒のすべてが、真剣に英語でのコミュニケーションスキルを向上することを願っています。私は、学生のクラスでの最善の

メッセージ	努力を見てみたい。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 ZOOM ID:950 9215 6053 PASSCODE:374754

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長谷川 雄高
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1310a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	文章の書き方1	レポート・論文の基本事項について	教科書の「文章の書き方2」をよむ (30分)、ワークシートの作成 (30分)
3	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方について	教科書の「事実と意見」をよむ (30分)、ワークシートの作成 (30分)
4	事実と意見	事実と意見の書き分けについて	教科書の「課題①説明文」を読む (10分)、ワークシートの作成 (30分)、課題1作成の準備 (70分)
5	課題①説明文	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く	教科書の「構成」を読む (30分)
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書の「要約」を読む (30分) ワークシートの作成 (30分)
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	教科書の「文章を引用する」を読む (30分)、ワークシートの作成 (30分)
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書の「図表を引用する」を読む (30分)、ワークシートの作成 (30分)
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書の「意見を述べる」を読む (30分)、ワークシートの作成 (30分)
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	教科書の「課題②論説文」を読む (20分)、ワークシートの作成 (30分)、課題2作成の準備 (70分)
11	課題②論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書の「レポートの書き方1」を読む (30分)
12	レポートの書き方1	レポートの体裁について学ぶ	教科書の「レポートの書き方2」を読む (30分)、ワークシートの作成 (30分)
13	レポートの書き方2	レポート作成の注意点をささげる	レポート作成の準備 (70分)、ワークシートの作成 (30分)
14	課題③レポートの作成	レポートを作成する	—
15	おわりに	レポートの講評・まとめ	ワークシートの作成 (30分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	新しい技術、「論理的な文章」を書くことに挑戦してみましょう。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期3号館2階/後期7号館2階)
----------	--------------------------

備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間となる。 提出課題については、対面授業時には授業中に、遠隔授業時には授業プリントもしくはTeamsの機能を用いて、フィードバックを行う。 質問等は、出講時には非常勤講師室において、それ以外もしくは遠隔授業の場合はメール・Teamsの機能を用いて対応する。
----	---

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、漢字について系統的に学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)
	2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	15	レポート課題 (課題③)	レポートをまとめる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題①と② (各 20%)、レポート課題 (30%)、その他の提出物 (30%) で評価する。ただし、課題①、課題②、レポート課題のうち、ひとつでも提出がない場合は不合格となる。また、提出物が 5 回ない場合も不合格となる。なお、課題①、課題②、レポート課題についての評価基準は出題の際に示す。(提出課題には締め切りを設けるので守ること。締め切りを過ぎた提出課題は不可とする。)
-----------	---

学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	講義内容の質問については提出物にその欄を設ける。提出課題のフィードバックについては解答とともに示す。
----	--

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	長谷川 雄高
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書「第 1 回 文章の書き方 1」をよむ (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項について	教科書の「文章の書き方 2」をよむ (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方について	教科書の「事実と意見」をよむ (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
4	事実と意見	事実と意見の書き分けについて	教科書の「課題①説明文」を読む (10 分)、ワークシートの作成 (30 分)、課題 1 作成の準備 (70 分)
5	課題①説明文	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く	教科書の「構成」を読む (30 分)
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書の「要約」を読む (30 分) ワークシートの作成 (30 分)
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	教科書の「文章を引用する」を読む (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書の「図表を引用する」を読む (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書の「意見を述べる」を読む (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	教科書の「課題②論説文」を読む (20 分)、ワークシートの作成 (30 分)、課題 2 作成の準備 (70 分)
11	課題②論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書の「レポートの書き方 1」を読む (30 分)
12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	教科書の「レポートの書き方 2」を読む (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	レポート作成の準備 (70 分)、ワークシートの作成 (30 分)
14	課題③レポートの作成	レポートを作成する	—
15	おわりに	レポートの講評・まとめ	ワークシートの作成 (30 分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	新しい技術、「論理的な文章」を書くことに挑戦してみましょう。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間となる。 提出課題については、対面授業時には授業中に、遠隔授業時には授業プリントもしくは Teams の機能を用いて、フィードバックを行う。 質問等は、出講時には非常勤講師室において、それ以外もしくは遠隔授業の場合はメール・Teams の機能を用いて対応する。
----	--

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ウエ
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、漢字について系統的に学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)
	2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	15	レポート課題 (課題③)	レポートをまとめる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題①と② (各 20%)、レポート課題 (30%)、その他の提出物 (30%) で評価する。ただし、課題①、課題②、レポート課題のうち、ひとつでも提出がない場合は不合格となる。また、提出物が 5 回ない場合も不合格となる。なお、課題①、課題②、レポート課題についての評価基準は出題の際に示す。(提出課題には締め切りを設けるので守ること。締め切りを過ぎた提出課題は不可とする。)
-----------	---

学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	講義内容の質問については提出物にその欄を設ける。提出課題のフィードバックについては解答とともに示す。
----	--

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長谷川 雄高
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2311a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す (60分)
2	プリント資料の解説と前期の復習 (前半)	前期の内容を復習する	プリント資料を読む (60分)
3	プリント資料の解説と前期の復習 (後半)	課題①のテキスト (プリント資料) の解説を行う	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う (150分)
4	課題①「論説文」の作成	各人で、ディスカッションの素材となる課題①論説文を作成する	—
5	ディスカッションとは	ディスカッションの技法・類型などについて	ディスカッションの準備を行う (60分)
6	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分け	ディスカッションの準備を行う (60分)
7	ディスカッション①	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
8	ディスカッション②	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
9	ディスカッション③	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
10	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの技法・類型などについて	プレゼンテーション資料の作成準備を行う (60分)
11	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方や資料作成について	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う (90分)
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
14	プレゼンテーション③	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
15	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章 (要旨) を作成する	—

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 必須課題を1つでも提出しない場合は不合格となる。		
学生への メッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)		
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間となる。 提出課題については、授業プリントもしくはTeamsの機能を用いて、フィードバックを行う。 質問等は、メール・Teamsの機能を用いて対応する。		

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1312a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるために演習を適宜行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>整式の計算 (1)</td> <td>・計算の法則 ・因数分解</td> <td>第 1 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>整式の計算 (2)</td> <td>・整式の割り算 ・剰余、因数の定理</td> <td>第 1 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分数式・無理式 (1)</td> <td>・通分の規則</td> <td>第 2 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>分数式・無理式 (2)</td> <td>・平方根、立方根 ・有理化の計算</td> <td>第 2 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1 次方程式 (1)</td> <td>・等式の基本法則</td> <td>第 3 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1 次方程式 (2)</td> <td>・方程式の導き方 ・解き方</td> <td>第 3 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1 次不等式 (1)</td> <td>・不等式の基本法則</td> <td>第 3 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1 次不等式 (2)</td> <td>・不等式の導き方 ・解き方</td> <td>第 3 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立 1 次方程式 (1)</td> <td>・連立方程式の導き方</td> <td>第 4 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立 1 次方程式 (2)</td> <td>・解き方 ・基本法則</td> <td>第 4 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立 1 次方程式 (3)</td> <td>・消去法</td> <td>第 4 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>場合の数 (1)</td> <td>・数え上げの原則</td> <td>第 5 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>場合の数 (2)</td> <td>・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ</td> <td>第 5 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>確率 (1)</td> <td>・確率の計算</td> <td>第 6 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>確率 (2)</td> <td>・くりかえす試行の確率</td> <td>第 6 章の問 課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の問 課題レポート	2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	第 1 章の問 課題レポート	3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート	4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート	5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート	6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート	7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート	8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート	9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート	10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート	11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート	12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート	13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート	14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート	15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の問 課題レポート																																																																
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	第 1 章の問 課題レポート																																																																
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート																																																																
4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート																																																																
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート																																																																
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート																																																																
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート																																																																
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート																																																																
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート																																																																
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート																																																																
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート																																																																
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート																																																																
13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート																																																																
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート																																																																
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート																																																																
関連科目	数学基礎 II、統計学、経済学関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	演習課題 (30%) 及び最終回のレポート (70%) の合計で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 3 階 数学研究室 (学期途中で 5 号館 1 階へ移転予定)																																																																		
備考	事前・事後学習は毎回 1 時間以上かけること。 演習課題は採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。																																																																		

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2313a1		

授業概要・目的
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標
 この授業を通じて学生には、
 (1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。
 (2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。
 (3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。
 (4) 基本的な関数の積分計算ができる。
 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

授業方法と留意点
 第6回授業まではTeamsによるリアルタイム方式の動画配信型授業を行い、第7回授業からは対面での授業を行う。各授業テーマごとに学習内容の理解の促進と達成の度合いをみるために演習を適宜行う。

科目学習の効果(資格)
 数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の間 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の間 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の間 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の間 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の間 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の間 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の間 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の間 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の間 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間 課題レポート
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の間 課題レポート

関連科目
 数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 演習課題(30%)及び最終回のレポート(70%)の合計で評価する。

学生へのメッセージ
 数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。

担当者の研究室等
 3号館3階 数学研究室(学期途中に5号館1階へ移転予定)

備考
 事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。
 演習課題は採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	経済情報論	科目名 (英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WIL1314a1		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	パソコンによる課題作成を通じた学習が中心となる。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学習が求められる。 オンライン授業の形態としては、動画配信型授業（ハイフレックス方式）で実施する。 Teams を使ってリアルタイムで動画配信、質疑応答を行う。 教材の配布、課題の提出等は、Moodle を使用する。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	2	インターネットの活用とセキュリティ (1)	インターネット環境と情報検索	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	3	インターネットの活用とセキュリティ (2)	インターネットの光と影	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	4	パソコンの活用	ファイルとフォルダーの操作、Windows アプリケーションの利用	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	5	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文字の書式設定・保存	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	6	文書作成 (2)	文書の作成、箇条書き、タブとインデント	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	7	文書作成 (3)	表の作成、画像、図形の挿入と編集	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	8	文書作成 (4)	表現力アップのための応用技術、アウトライン、レポート作成に活用できる機能	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	9	前半のまとめ、中間レポート課題	前半のまとめと振り返り、中間レポート課題	タイピング練習 (5分) 前半の内容を復習しておく (90分)
	10	表計算 (1)	表の作成と編集、セルの書式設定、集計表の作成	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	11	表計算 (2)	グラフの種類と作成	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	12	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	13	プレゼンテーション (2)	図表の活用、スライドの視覚効果	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	14	プレゼンテーション応用	表計算で作成したグラフの活用、テーマ別スライド作成	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	15	後半のまとめ、最終レポート課題	後半のまとめと振り返り、最終レポート課題	タイピング練習 (5分) 後半の内容を復習しておく (90分)

関連科目 I C T 概論、ビジネス情報処理 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (50%)、レポート課題 (50%) をもとに総合的に評価します。 この授業は演習中心であるため、単位修得には8割以上の課題提出が必要となります。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	11号館8階(栢木教授室)
備考	レポート課題は回収後、解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	世界の歴史	科目名 (英文)	World History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1406a2		

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなからうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたことと教わった人も少なくないだろう。中国を代表として他の地域の都市の歴史もあわせてみることで、このような通説を疑い考えなおす。そのようにして、都市を窓に歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各單元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果 (資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって (1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
2	歴史を学ぶにあたって (2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	歴史を学ぶにあたって (3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	都市を窓に世界史をみる (1)	視点をしぼる必要性、人間社会の焦点、魅力と危険が背中合わせ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	都市を窓に世界史をみる (2)	都市は文明とともにあった、世界的な共通性、歴史の大きな流れがみえる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	都市を窓に世界史をみる (3)	都市とは壁で囲まれているもの、西洋でも中東でも中国でも、世界史からみえてくる日本史の個性	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	中国都市 (1)	「止まっている」「同じことのくり返し」という偏見、都市ができて国家ができる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	中国都市 (2)	1000年前の大転換、防衛から経済へ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	中国都市 (3)	近現代を先取りしたウオーターフロント型の都市、世界の先端を行った貨幣経済の発展	同上の課題に加えて小レポート。
10	中国都市 (4)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	中国都市 (5)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さかった、農業中心の経済、「肉食＝豊か」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	ヨーロッパ都市	政治の分裂と自治の発展、宗教と経済の結びつき	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前、「産業革命」は何が「革命」なのか	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰、歴史に学ぶ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト (40点)、②レポート (30点)、③レスポンスペーパー (30点+α)。第3に60点に達するならば、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイル
-----------	--

学生へのメッセージ	歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あら
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	政治学	科目名 (英文)	Political Science
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑩		
科目ナンバリング	WS01412a2		

授業概要・目的	日々ニュースで報じられる政治の動きを、政治学という学問的な裏付けを基礎にしてとらえることを目標とする。政治体制・政党制など、政治学の理論的な整理を試みるとともに、国際政治についても目を向けていきたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本や主要国の政治制度（議会や行政機関）及び選挙制度、自由民主主義、政党や利益集団、福祉国家といった政治学の重要な項目について習得するとともに、戦後日本の政治史を理解することが期待される。
授業方法と留意点	【4月15日更新】 授業実施体制の変更に伴い、当面の間「遠隔授業」（教材・課題提供型）を行います。 受講に必要な情報はすべてMoodleより行いますので、下記を参照の上、必ずMoodleの登録をしておいて下さい。 コース名：政治学（日本の政治）＜2021年度前期 金曜4限W・2 担当：森康一＞ 登録キー：1206
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治学や政治史の内容が一般教養として問われる。また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。この授業によって、上記に関して必要な基本的な知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の政治・国際面を読む習慣をつける
2	政治制度と選挙制度 (1)	近代社会と現代社会、および近代国家について	近代市民社会と現代大衆社会の違いについて調べておく (約1時間)
3	政治制度と選挙制度 (2)	近代議会主義と選挙制度について日本の国会の選挙制度について	小選挙区制と比例代表制の違いについて調べておく (約1時間)
4	国家の政治体制 (1)	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	自由主義と民主主義について調べておく (約1時間)
5	国家の政治体制 (2)	自由民主主義体制の分類について	世界で自由民主主義体制と呼ばれる国々がどのくらいあるか調べておく (約1時間)
6	国家の政治体制 (3)	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	1989年の東欧革命について調べておく (約1時間)
7	各国の政治制度・選挙制度	米・英・仏・独の政治制度、選挙制度について	大統領制と議院内閣制の違いについて調べておく (約1時間)
8	政党と利益集団 (1)	政党の機能や分類、政党制について	イギリスの初期政党 (トリー党・ホイッグ党) について調べておく (約1時間)
9	政党と利益集団 (2)	利益集団の機能や分類、活動および日本の利益集団政治について	「鉄の三角形」とは何か調べておく (約1時間)
10	政治と経済・福祉 (1)	政治と経済の関わりについて	「大きな政府」「小さな政府」について調べておく (約1時間)
11	政治と経済・福祉 (2)	戦後の福祉国家について	日本の社会保障制度について調べておく (約1時間)
12	戦後政治史 (1) 敗戦・占領	初期占領改革について	GHQのいわゆる「五大改革指令」について調べておく (約1時間)
13	戦後政治史 (2) 講和と55年体制の成立	吉田・鳩山内閣期の国内政治・国際政治について	1950年代の外交政策について調べておく (約1時間)
14	戦後政治史 (3) 自民党政権	自民党の派閥政治について	現在の自民党の派閥の沿革について調べておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと、試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする (約4時間)

関連科目 政治・外交関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代政治学	加茂利男 他	有斐閣
2	はじめての政治学	北山俊哉 他	有斐閣	
3				

評価方法 (基準)	<p>【4月15日更新】</p> <p>小テストはMoodleから行います。 また、期末試験実施が不可能な場合はレポートに変更します。 Moodleからの連絡をよく注意しておいて下さい。 -----</p> <p>原則として10回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。 ○平常点 20%：小テスト×2回 (第6回・第11回の授業日に Moodle から実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点) ○期末試験 80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行</p>
-----------	--

学生へのメッセージ 日々ニュースや新聞にふれて、世界で起きていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようになしてください。

担当者の研究室等 11号館5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)

科目名	世界の政治	科目名 (英文)	Politics in the World
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WS02413a2		

授業概要・目的
この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。

到達目標
この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。

授業方法と留意点
【11月11日更新】
11月26日の<第9回>から対面授業に移行します。

【8月26日更新】
オンライン授業の実施に変更になります。オンデマンド式の「教材・課題提供型授業」をしていきます。
受講する方は、Moodleにて
コース名：世界の政治<2021年度後期 金曜2限W・2 担当：森康一>
登録キー：1206
で登録してください。

授業の進め方や授業動画についてなど、Moodleのコースに記載していますので、登録の上、そちらをご覧ください。

【旧】
プリントと板書により講義

科目学習の効果 (資格)
公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。
この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく (約2時間)
2	冷戦時代の国際関係 (1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく (約30分) レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
3	冷戦時代の国際関係 (2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく (約30分) レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
4	冷戦時代の国際関係 (3)	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく (約30分) レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
5	冷戦時代の国際関係 (4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく (約30分) レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ (1)	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく (約30分) レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ (2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく (約30分) レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく (約30分) レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	「9.11テロ」について調べておく (約30分) レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
10	米口の核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「ブラハ演説 (2009)」について調べておく (約30分) レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく (約30分) レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく (約30分) レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく (約30分) レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく (約30分) レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、レポートの準備をする (約3時間)

関連科目 政治・外交関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣	
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア (田中明彦訳)	有斐閣	

評価方法 (基準)	○平常点 20% : 小テスト×2回 (第6回・第11回の授業日に Moodle から実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回 10 点満点) ○期末レポート 80% : 5 問出題し、そのうち 2 問を選択して書いてもらいます。Moodle から提出。各問 40 点満点。 の合計点によって評価を行います。
学生への メッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起きていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
備考	

科目名	生物学	科目名 (英文)	Biology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾崎 清和
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP7⑥		
科目ナンバリング	WNA1415a2		

授業概要・目的	人体の構造、機能および病気とともに、ヒトを含む生物の多様性、分類および生態系に関して概説する。社会人として知っておくべき生物学的な常識を身につけることを目的とする。
到達目標	人体の構造や機能に関する知識を得ることができるとともに、生物の多様性や生態系に関する基礎的な知識も同時に取得できる。
授業方法と留意点	対面授業を基本として、必要に応じて遠隔授業（教材・課題提供型授業）にて実施する。
科目学習の効果（資格）	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生物、生態系とは	授業中のルール説明・試験方法について 生物や生態系の基礎知識を問う ビデオ「人体ミクロの大冒険 プロローグ」	――
2	細胞	細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	DNA	DNA、タンパク合成、細胞の増殖に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	神経細胞	神経細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	神経系	神経系、脳に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	生命誕生	生殖系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	ホルモンと自律神経	自律神経と内分泌系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	習熟度試験前半	講義前半の習熟度試験	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	血液、免疫	血液、免疫系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	腎臓	腎臓に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	筋肉と脂肪	骨格系、脂肪に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	骨	骨に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	肝臓、消化器	肝臓と消化器に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	癌	腫瘍に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	習熟度試験後半	講義後半の習熟度試験	――

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューステージ生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	毎回の小テスト(課題)を50%、習熟度試験を40%および授業態度：授業への呼応状況10%により総合的に判断する
学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
担当者の研究室等	枚方・薬学部6号館3階病理学研究室1
備考	事後学習60分、授業日の授業前に小試験対策の事前学習30分が必要です。 授業中の小テストについてはテスト終了後に解説する

科目名	科学技術教養V1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy V1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	居場 嘉教. 井尻 貴之. 尾山 廣. 川崎 勝己. 中嶋 義隆. 西村 仁. 船越 英資. 宮崎 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で、課題配信型 (Moodle) での授業を行う。講義ごとに講義メモまたは、Moodle 上で講義内容の理解度を確認する小テストなどを行う。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	不妊のしくみ	日本人夫婦 (カップル) は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
2	病気と遺伝子	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷 (変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
3	なぜ肥満は問題なのか?	肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染 (インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり、約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の 30% を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物 (タンパク質) を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)

			概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	
	11	くすりとゲノム	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
関連科目	科学技術教養 V2			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内容の理解度を確保するもの 30%、およびレポート・小論文・演習問題などの課題 70%の総合点で評価する。			
学生へのメッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。本講義は生物・薬を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。 毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。			
担当者の研究室等	1 号館 9 階 川崎, 尾山, 西村, 中嶋, 宮崎, 船越, 井尻, 居場研究室			
備考	レポート・課題は各教員が採点した後、適宜返却する。			

科目名	科学技術教養R1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy R1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川上 比奈子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 榎 愛, 坂本 淳二, 竹村 明久, 樋口 祥明
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑩		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。 オムニバス形式の中で、建築設計や都市計画の実務経験を持つ教員が、建築やまち・都市がどのように創
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	ICT ツールを使用または活用する。オムニバス形式の講義中心授業である。場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。必ず、期日までに課題を提出すること。最終回には、まとめテストを行う。担当者によっては、講義時間内に小テストを行う場合があるので、注意すること。提出された課題や小テストの中で誤解や不正解の多かった点は授業内で解説する。理解できない時は疑問点を質問してほしい。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	(オリエンテーション) 自然の力をかりた住宅デザイン	(科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。) 古代より人間は自然と共生するためにさまざまな工夫をこらした。世界各地におけるそれらの住まいの事例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
4	環境配慮型デザインプロセス	環境配慮型建築・設備設計のデザインプロセスと、住宅のパッシブ・アクティブ技術を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
6	健康で快適な生活とにおける対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内での問題や対策の考え方について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人との関わりのはなしから、香りや人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどのように決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)

	12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間）																
	13	住環境における図の役割	身近に用いられている図の重要性とその役割について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間）																
	14	住環境と情報技術	私たちが毎日暮らす空間で利用されている情報技術について事例を通して学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1時間） ・復習：全授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめテストの準備をしておくこと（1時間）																
	15	解説 まとめテスト	解説およびまとめテストを実施する。	予習：講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること（1時間）																
関連科目	なし																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養（R1） 住環境デザイン学科 教科書</td> <td>摂南大学理工学部住環境デザイン学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養（R1） 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養（R1） 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。																			
学生への メッセージ	毎回の課題提出をもって出席とします。15 回目のまとめテストは、可能な限り、対面で行う予定です。状況によって対面が不可能な場合はオンラインに変更します。Teams の投稿欄において周知するので、注意してください。																			
担当者の 研究室等	住環境デザイン学科共通準備室 12号館7階 樋口教授室、山根講師室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、大橋准教授室 12号館6階 坂本教授室																			
備考	場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。講義に係る予習・復習などの学習時間は、毎回1.5時間程度を目安とする。提出された課題や小テストの中で誤解や不正解の多かった点は授業内で解説してフィードバックする。理解できない時は疑問点を質問してほしい。 各回の課題については、随時評価の上返却する。																			

科目名	科学技術教養A1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy A1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加嶋 章博, 池内 淳子, 大谷 由紀子, 木多 彩子, 小林 健治, 白須 寛規, 西村 勝尚, 宮本 征一, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。(SDGs-11)
到達目標	インテリアから都市空間にいたるまで、広範な建築技術、建築デザイン、建築文化における現状と課題を通して、建築がどのような影響を及ぼすものかを理解する。その上で、身近な生活環境から公共的な都市空間にいたるまで、そのあり方を的確に考察することができる基本的な教養を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書・資料等は、各講義時に配布する。 Teams や Moodle 等を活用する授業があるため、詳細について初回授業で説明する。 各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。各講の内容に沿った演習課題を毎回実施する。
科目学習の効果(資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	建築とは何か	建築の考え方、建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	建築と都市環境	建築と都市の関係、都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	建築の内装	インテリア、家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	建築の外装・外構	外装材とは、エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築のUD	こどもと建築、バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書・資料等は、授業で配布予定。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	計15回の課題(各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・グループワーク・ディスカッション等により構成され、それぞれの割合の合計が100%となる)により評価する。期末試験は行わない。原則として、課題提出の割合が80%以上の履修者を成績評価の対象とする。
----------	---

学生へのメッセージ	授業で得た建築学に関する基礎的な知見を、日常生活や社会で起こっている様々な事象に照らして、自ら考え判断することを心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階・各授業担当者の研究室
----------	------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、原則として、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる(出席率80%以上を成績評価の対象/30分以上の遅刻は欠席扱いとする/遅刻は2回で欠席1回とみなす)。事前あるいは事後学習として、教科書の当該回の範囲または指定した資料等を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以内
----	--

上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養M1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy M1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江 昌朗, 池田 周之, 植田 芳昭, 岸本 直子, 諏訪 晴彦, 原 宣宏
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑩		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。 教科書を準備すること。なお、適宜、追加資料を配布する。 講義の最後に、課題を提出する。原則、次回の講義のはじめに、採点済みの課題を返却する。 時間配分の目安：講義 (約 60 分) ⇒ 質疑応答 (15 分) ⇒ 課題 (15 分)
科目学習の効果 (資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは？	<ul style="list-style-type: none"> 機械工学の発展の歴史を概観する。 「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。 	事前：テキスト第1章を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
2	道具を作る (1) - ヒトと道具	<ul style="list-style-type: none"> 道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ 農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具 	事前：テキスト第2章 2.1-2.3 を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
3	道具を作る (2) - 作り方	<ul style="list-style-type: none"> 鍛造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断 	事前：テキスト第2章 2.4-2.5 を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
4	モノの材料を知る (1) - 金属材料	<ul style="list-style-type: none"> 金属材料はなぜ素材たり得るか？ 鉄鋼の製造方法 	事前：テキスト第3章 (鉄つくりの変遷) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
5	モノの材料を知る (2) - セラミックス・ポリマー	<ul style="list-style-type: none"> セラミックス・ポリマーの構造 (金属と何が異なるか？) 高強度・機能性材料の話 	事前：テキスト第4章 (非金属材料) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
6	モノの材料を知る (3) - 新素材	<ul style="list-style-type: none"> 新素材と高度産業化社会 形状記憶、超伝導、ナノ材料 	事前：テキスト第5章 (新素材) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
7	ものづくり (1) - 母なる機械	<ul style="list-style-type: none"> 機械部品を作る機械 (工作機械の歴史) 機械時計、工具と運動、機械部品 	事前：テキスト第6章 (母なる機械) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
8	ものづくり (2) - 精密に加工する	<ul style="list-style-type: none"> 精度を追求する (コンピュータと工作機械) 精密加工、マシニングセル、ナノ加工 	事前：テキスト第7章 (精密に加工する) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
9	ものづくり (3) - 工場 (ファクトリー)	<ul style="list-style-type: none"> 世界が学ぶ・日本が誇る製造システム 無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式 	事前：テキスト第8章 (ファクトリー) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
10	大きな力を得る (1) - 車輪	<ul style="list-style-type: none"> 作業を補助する機械の歴史 車輪、滑車、てこ、歯車 	事前：テキスト第9章 (人間の作業を補助する機械) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
11	大きな力を得る (2) - 建設運搬機械	<ul style="list-style-type: none"> 巨大な力を得るためのアクチュエータ 油圧・水圧・空気圧機器、電動機 	事前：テキスト第10章 (力を伝える・増幅する機械) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
12	大きな力を得る (3) - パワーアシスト	<ul style="list-style-type: none"> アクチュエータの知能化とパワーアシスト パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉 	事前：テキスト第11章 (機械の知能化) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
13	ミクロの機械 (1) - 精密機械	<ul style="list-style-type: none"> 小さくなることで変わる使い方 時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器 	事前：テキスト第12章 (精密機械) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
14	ミクロの機械 (2) - 小さく作る	<ul style="list-style-type: none"> 小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ 微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡 	事前：テキスト第13章 (小さくつくる) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)
15	ミクロの機械 (3) - 小さくて広大な世界	<ul style="list-style-type: none"> 半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 カプセル内視鏡、鞭毛モーター 	事前：テキスト第14章 (小さくて広大な世界) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間)

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回提出する課題（各回 10 点満点）に基づき成績評価をする。 ・ 満点は 150 点（講義 15 回分）で、これを 100 点満点に換算する。 		
学生への メッセージ	<p>機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどのような乗り物が実現されているか？ 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。</p>		
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1 号館の 3 階・4 階・5 階]		
備考	<p>出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 ・ 30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・ 遅刻は 2 回で欠席 1 回とみなす。 <p>※ 詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養 M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。</p> <p>【フィードバック】原則、講義の初めに、前回の課題（採点済み）を返却する。</p>		

科目名	科学技術教養 E 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy E1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田 喜章, 井上 雅彦, 奥野 竜平, 金澤 尚史, 工藤 隆則, 鹿間 信介, 檜橋 祥一, 西 恵理, 堀内 利一, 山田 逸成
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	[オンライン (教材・課題提供型) 授業] 電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。 毎回、課題レポートが用意されている。課題レポートの提出はMoodle上で行う。課題レポートのフィードバックもMoodle上で行う。
科目学習の効果 (資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。これらの原理や特性を知ること、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ること、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	科学技術教養の意義 電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、1次電池と2次電池	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。売電のしくみ。	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
8	モールス通信から携帯電話へ	モールス通信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
12	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、立体映像表示の原理と実例	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
13	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
14	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間
15	マルチメディア技術	ICカード、公衆無線LAN、カーナビゲーションシステム、電子カルテ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業の各回で課される課題レポートの合計点で評価する。原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
担当者の研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学科教員室 責任者：片田（1号館4階）
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として課題レポートの提出率80%以上を成績評価の対象とする。 課題提供はMoodle上で行い、課題レポート提出はすべてMoodle上で行う。 課題レポートには提出期日がある。 課題レポートの結果はMoodle上で個別に通知する。

科目名	科学技術教養C1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy C1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石田 裕子, 伊藤 譲, 片桐 信, 熊野 知司, 佐藤 大作, 田中 賢太郎, 福島 徹, 水野 忠雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。 ・歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。 ・講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。 <p>2021年4月26日の第2回講義から、Teamsによる動画配信のオンライン授業となります。課題の提出もTeamsで行います。講義日までにTeamsへの登録を済ませて</p>

科目学習の効果 (資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い。・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締固めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ。水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間。地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C1	都市環境工学科全教員	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講メモ 50%, レポート 50%の総合点で評価する。 ※レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。 この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の 研究室等	講義担当者居室 1号館 3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含めは、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 T 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy T2
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東 武大, 小林 俊公, 友枝 恭子, 長島 健, 東谷 篤志
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	「信念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由したオンライン授業で実施する。テキスト及び毎回の配布資料に基づく講義主体の授業とする。講義ごとに講義メモの提出を求めるとともに、レポート等の課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マクスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
10	レーザー光	光を発するもの (光源) には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード (LED) が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
11	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)

			線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。																	
	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)																
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)																
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)																
	15	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題(1 時間)																
関連科目	数学・物理の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 T1(教科書は初回講義時に配布)</td> <td>基礎理工学機構</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 T1(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養 T1(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。																			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1 号館 2 階, 3 号館 3 階(学期途中で 5 号館 1 階へ移転予定), 8 号館 2 階]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。																			

科目名	経済キャリア入門	科目名 (英文)	Introduction to Career Design for Economics Students
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1501a3		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>なお、講義は対面による講義と Teams を用いたリアルタイム講義を同時進行で行う。 各自の事情や希望に合わせて受講形式を選択すること（受講形式は固定しなくともよい）。 対面で受講する場合は初回の教室と同じ 1231、Teams で受講する場合は ry4s2w4 からクラスに入り、講義日のチャネルで受講すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること (0.5 時間)
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：摂南大として、建学の精神と教育理念を理解すること / 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること (0.5 時間) ・事後学修：講義で課された課題に取り組むこと (2 時間/継続)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：SDGs とは何かについて予習しておくこと (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・事後学修：期末レポートを作成すること (1.5 時間)

関連科目 キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ

エンプロイメントデザイン I、エンプロイメントデザインII				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内活動 (30%)、グループ課題(20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井)			
備考	1. 2020年度以前入学の再履修者はこの教室で実施する。 2. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 3. ミニレポートは採点した後に返却する。			

科目名	キャリアデザイン	科目名 (英文)	Career Design
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1502a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 なお当面の間は Teams を使用して時間割通りにリアルタイム講義を行う Teams コード : q4iuolu
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活 1 年目で経験したことを思い出しておくこと (事前 : 1 時間) ・配布したレジュメを見直すこと (事後 : 0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと (事後 : 2 時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること (0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる (事後 : 0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる (0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考える (事前 : 0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること (事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること (事前 : 0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること (0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること (事後 : 0.5 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること (事後 : 0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること (1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える (事前 : 0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること (0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること (0.5 時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑩⑪⑫の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと (事前 : 1 時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる (事前 : 0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (0.5 時間)

関連科目 キャリアデザイン I・III、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生への 来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野）
備考	各課題の提出方法は講義内で提示する。

科目名	キャリアプラン	科目名 (英文)	Career Plan
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑩, DP9⑩		
科目ナンバリング	WCA1503a3		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材 (人財) になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義では能動的な姿勢が求められる。 なお、講義は対面による講義と Teams を用いたリアルタイム型の講義の同時進行で行う。 各自の事情に合わせて、受講形式を選択すること。 対面講義での受講は初回と同じ教室で、Teams で受講する場合は i4whgry から入り、各日の講義チャンネルから受講すること。
科目学習の効果 (資格)	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	事後学習：配付資料を熟読すること (1 時間)
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べる (1 時間)
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べる (1 時間)
4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考える (1 時間)
5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	事後学習：配付資料を熟読し、グループワークに取り組むこと (2 時間)
6	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと (1 時間)
7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーション	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと (1 時間) 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること (0.5 時間)
8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること (1 時間)
9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること (0.5 時間)
10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること (0.5 時間)
11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	事後学習エントリーシートを作成する準備をしておくこと (1 時間)
12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること (1 時間)
13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること (1 時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること (1 時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること (1 時間)

関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、教的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義での提出物 (30%)、グループ課題 (20%)、期末レポート (50%) を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。
担当者の研究室等	教育イノベーションセンター (水野研究室)
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名 (英文)	Employment Design II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1505a3		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。なお、本講義は Teams と用いてリアルタイム Web 講義を実施する。学生は時間割通りに下記の Teams コードから暮らすに入り、該当日の講義チャンネルに立てられた会議室から受講すること。 Teams コード：v2yvhd
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・事前学修：シラバスを熟読すること(1時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
2	警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	社会人として転職4回で5社目に勤務しながら週末にNPOも立ち上げたばかりが、20歳から40歳まで何を悩んでどう生きてきたかの事例紹介(社会起業家)	・ゲストのキャリアの履歴とその節目で感じたことをお話いただきます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
4	SDGs で世の中を変える～未来の子どもたちのためにやるべきこと～	SDGsについて、ゲスト企業の取り組みについてお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
5	社会問題と対峙する仕事-ソーシャルワーカーについて-(摂南大学OB・ソーシャルワーカー)	①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。 ②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して伝える、事例検討を行います。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
6	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ(IT/役員)	・現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を実例を通じて解説します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	【業務告白】フツのサラリーマンがPRの仕事の経験から感じたこと(グループ広報)	自身のキャリア・経験談など、2社3職種から学んだことを中心にお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間) ・中間レポートを作成すること(1.5時間)
8	My proud work しあわせのまちづくり?主役は地域住民!『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方?(社会福祉協議会職員)	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
9	プログラマを目指して摂南大学に入学してからNPO代表になるまで(摂大OB/NPO法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタンププログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器にNPO法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
10	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
11	信用金庫の仕事と期待される人財(金融/人材開発)	仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
12	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	ともに強いまちを創る～公務員という選択～(摂南大学OB/市役所職員)	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	先人(企業家)に学ぶ仕事への心構え(商工会議所/職員)	・企業家から学ぶ、仕事のコツについてお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)

	15	講義のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間) ・事後学修：最終課題を作成すること(2.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想レポート(30%)、中間レポート1回(30%)、期末レポート1回(40%)を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、撰大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター(上野山) 教育イノベーションセンター(水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA2506a3		

授業概要・目的	<p>この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じる事が期待される。インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。</p> <p>なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 S</p>
到達目標	<p>就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。</p> <p>インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。</p> <p>なお、講義は対面による講義と Teams を用いたリアルタイム型講義を同時進行で行う。</p> <p>各自の事情や希望に合わせて受講形式を選択すること (受講形式は固定しなくともよい)。</p> <p>対面で受講する場合は初回の教室と同じ 1152、Teams で受講する場合は 3fzlpv からクラスに入り、講義日のチャンネルで受講すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	<ul style="list-style-type: none"> ・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること (1 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (2 時間)
2	企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (3 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (1 時間)
3	実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること (1 時間) ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (3 時間)
4	効果的なプレゼンテーションとは	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること (1 時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること (3 時間)
5	課題のプレゼンテーション①	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 回目の課題をプレゼンテーションする 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：第 4 回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること (3 時間) ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる (1 時間)
6	社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること (2 時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること (2 時間)
7	社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> ・文書でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (2 時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること (2 時間)
8	社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (2 時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること (2 時間)
9	履歴書を記入する	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ用の履歴書を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと (2 時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を書き直すこと (2 時間)
10	グループワーク①	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (2 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)
11	グループワーク②	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること (2 時間) ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること (2 時間)
12	事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問のマナーと準備について 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること (2 時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること (2 時間)
13	課題のプレゼンテーション②	<ul style="list-style-type: none"> ・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (2 時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること (2 時間)

	14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(2時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(2時間)
	15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップIで学んだことをまとめること(2時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(3時間)
関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップII(企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	各課題55%とレポート45%(企業研究のPPTと企業研究レポート25%、最終レポート20%)を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	<p>インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)</p> <p>インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</p>			
担当者の研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	<p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。</p> <p>インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。</p>			

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA3507a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 なお、直前学修および実習の有無・形態に関してはインターンシップⅠで伝達する。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。

科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。
-------------	-------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	直前学修① 6月19日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 *スーツ着用のこと	・事前学習：社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(1時間)
2	直前学修② 6月19日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修：事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
8	事後学修① 9月18日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
9	事後学修② 9月18日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
10	事後学修③ 9月25日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
11	事後学修④ 9月25日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
12	事後学修⑤ 10月2日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習：実習記録簿を見直してくること(1時間)
13	事後学修⑥ 10月2日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)
14	事後学修⑦ 10月16日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学修：全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること *学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること
15	事後学修⑧ 10月16日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	

関連科目	インターンシップⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など)(40%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	1. 「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。			

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1509a3		

授業概要・目的	数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと
授業方法と留意点	「教材・課題提供型授業」を実施します。 テキストの指定された問題を①自力で解く→②解説を確認して解き方を理解する→③類題を解く という流れで取り組みます。 問題に集中して取り組むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	事後学修：実力テストの復習 30分以上を目安とする
2	算数・数学の基礎	割合と比	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題 (濃度算・仕事算他)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
4	算数・数学の文章題②	金銭の文章題 (損益算)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
5	算数・数学の文章題③	速度の文章題 (速度算)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
6	復習①	計数問題の復習	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
7	中間テスト	中間テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習 30分～1時間程度を目安とする
8	思考力が必要な算数・数学①	集合	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
9	思考力が必要な算数・数学②	場合の数	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
10	思考力が必要な算数・数学③	確率	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
11	思考力が必要な算数・数学④	図表問題① (表の読み取り・資料解釈)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
12	思考力が必要な算数・数学⑤	図表問題② (表の読み取り・資料解釈)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
13	思考力が必要な算数・数学⑥	推論①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
14	思考力が必要な算数・数学⑦	推論②	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
15	復習②	論理問題の復習	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2				
3				

評価方法 (基準)	「小テスト 40%」+「中間・期末試験 50%」+「Smart SPI 10%」で成績をつけます。
学生への	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。

メッセージ	毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	2 号館 2 階 ラーニングセンター (旧学習支援センター)
備考	『厳選！数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1509a3		

授業概要・目的	数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと。
授業方法と留意点	※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習 30分以上を目安とする
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分以上を目安とする
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする
	9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	14	培った思考力を応用問題に活かす	これまで取り組んできた問題の応用問題	全ての問題を事前に復習 30分以上を目安とする
15	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習 30分～1時間程度を目安とする	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manner I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	江頭 麻里
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1510a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営者としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を展開する。毎回、事前学修・事後学修課題の提出があるのでできちんと取り組むこと。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	仕事の進め方と組織活動	<ul style="list-style-type: none"> 定型業務と非定型業務 コスト意識とエコ活動 仕事の基本の8つの意識 話し方と聞き方 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。 事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定とPDCA サイクル	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定 (MBO) PDCA とは チームと個人の役割 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: PDCA について調べる。 事後学修: あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールの作り方 業務としての出張-YTT 方式- 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 事後学修: あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な敬語表現の復習 ビジネスの場での使用方法-TP0 をもとに- 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 敬語プリント①をする。 事後学修: ケーススタディプリントをする。
6	電話対応	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスフォンの扱い方 5W2H から 6W3H へ 簡潔メモの作り方 不在処理と伝言 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 電話対応プリントをする。 事後学修: ロールプレイングを繰り返す。
7	来客対応	<ul style="list-style-type: none"> 組織図と対応 簡単な応対から不在処理や重複処理まで 名刺交換 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 来客対応プリント①をする。 事後学修: 来客対応プリント②をする。
8	ハウ・レン・ソウ	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスにおける「報連相」 指示の受け方 業務の優先順位 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる 事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	<ul style="list-style-type: none"> 社外文書が基本 商取引文書と社交文書の相違 社内文書と社外文書の種類 ファイリング 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネス文書始める前にをする。 事後学修: ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	<ul style="list-style-type: none"> 実践 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネス文書③をする。 事後学修: ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	<ul style="list-style-type: none"> 通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 作成上の注意点 郵便・宅配便の知識 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 事後学修: メール文書を作成する。
12	法的業務	<ul style="list-style-type: none"> 押印と印鑑の意味 内容証明 個人情報保護 (P マーク) コンプライアンス 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: コンプライアンスについて調べる。 事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する (400字以上)。
13	設営の基本	<ul style="list-style-type: none"> YTT 方式からの業務遂行 確認の必要性 他部署とのコミュニケーションの必要性 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 事後学修: 設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	<ul style="list-style-type: none"> 慶弔時の基本的マナー 「式」について 業務としての贈答 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 事後学修: ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 外国人同僚・異文化への対応 働き方とキャリア開発 公共の場でのマナー 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 事後学修: 全体をまとめる。

関連科目 キヤリアデザイン I・II、インターンシップ I・II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	複数回のレポート (50%)、期末試験課題 (50%) を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	ビジネスマナーⅡ	科目名 (英文)	Business Manner II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1511a3		

授業概要・目的	企業等のビジネス組織における積極的なコミュニケーションや人間関係調整の必要性をビジネスマナーの視点から考え、ビジネス実務能力とは何かを理解する。 社会生活におけるマナーの重要性を認識し、社会人としての基礎であるビジネス実務能力を養う。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	社会人としてのコミュニケーション能力（非言語ならびに言語能力）とビジネス実務能力の向上を図ることである。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を展開する。毎回、事前学修・事後学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務能力が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ビジネスマナーからビジネス実務へ	<ul style="list-style-type: none"> 授業のオリエンテーション ビジネスにおける最低限のルール確認 ビジネス用語の基本 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：ビジネスマナーⅠを受講した学生は学んだことを復習する。受講していない学生は自身のマナーについて考える。 事後学修：オリエンテーション内容についてレポートを作成する。
2	正しい姿勢と動作	<ul style="list-style-type: none"> 第一印象の重要性の確認 姿勢のワンポイントアドバイス 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：自身の第一印象の良い点、改善すべき点をメモする。 事後学修：第一印象の重要性についてレポートを作成する。
3	PDCA サイクルと YTT 方式	<ul style="list-style-type: none"> PDCA サイクルの重要性 YTT 方式の活用法 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：日常において段取りが悪かった事例の内容を6W3Hでまとめる。 事後学修：その改善点を考え、記録する。
4	アサーティブな自己表現	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意思を伝える方法 ロールプレイング 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：日常において伝えたくても伝えられなかった内容を思い出し、メモする。 事後学修：相手に理解される伝え方についてレポートを作成する。
5	敬語表現と逆説得	<ul style="list-style-type: none"> 敬語の復習とビジネスにおける「NO」の伝え方 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：テキスト内の敬語に関する項目を完成する。 事後学修：逆説得をまとめ、レポートを作成する。
6	環境プロデューサーとしての言動と「誠意」ユニバーサルマナー	<ul style="list-style-type: none"> 相手の適切な言動を引き出す環境づくりから、空間的及び心理的距離からみえる「誠意」とは何かの考察 相手の立場を考えたユニバーサルマナーを考える 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：「環境プロデューサー」の意味を考え、理解する。 事後学修：「誠意」の意味とコミュニケーションにおける距離を理解し、レポートを作成する。
7	「確実・迅速・丁寧」と信頼関係	<ul style="list-style-type: none"> 信頼関係の構築方法とコミュニケーションを築くキーワード ※対面授業に切り替え 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：日常生活において「確実・迅速・丁寧」に行動できているか振り返る。 事後学修：ビジネスにおいてなぜ「信頼関係」が必要なのか理解し、レポートを作成する。
8	処理業務の基本と応用クレーム対応	<ul style="list-style-type: none"> 来客対応、業務処理、重複業務処理とTPOの関係性 具体例とその解決手順を考察 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：TPO 意味を考え、処理業務の事例からその解決手順を考える。 事後学修：処理業務に関するレポートを作成する。
9	設営の基本 会議運営方法、プレゼンテーションの方法	<ul style="list-style-type: none"> 設営業務の基本 会議に参加する心構え 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：会議に参加するための心構えを考える。 事後学修：YTT 方式を基に工程表を手直しする。
10	設営の応用とドキュメント作成	<ul style="list-style-type: none"> 文書処理、ならびにビジネス文書の書き方とファイリング 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：手順を理解したら、人が集まる会合等を企画・計画する。 事後学修：企画文書、開催通知を作成する。
11	ケーススタディ①	<ul style="list-style-type: none"> 事例研究 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：自ら優先順位を決め、処理する手順を考える。 事後学修：ケーススタディプリント①をする。
12	ケーススタディ②	<ul style="list-style-type: none"> 事例研究 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：実務処理能力を高めることを理解する。 事後学修：「わかることからできること」に関するレポートを作成する。
13	わかることからできることへ	<ul style="list-style-type: none"> 必要とされるビジネスマナーおよび実務内容のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：ビジネスマナーの必要性を考える。 事後学修：ビジネスマナーを再考し、その必要性を頭の中で理解し、「わかる」という段階から、身体と心の一致である行為を促し、「できる」という実践へ移行させると同時に、自信へと繋ぐ。
14	キャリア開発と自己啓発	<ul style="list-style-type: none"> 自分で実践するキャリア開発 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：キャリア開発の必要性は何を意味しているか、将来にとってどのように必要か考える。 事後学修：キャリアに関するレポートを作成する。
15	振り返りとまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：ライフプランの中のキャリアプランを立案、評価する。

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務ワーク	石井三恵、他	泉文堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のワーク（事前学修、事後学修等）（50%）、期末試験レポート課題（50%）を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある。			
学生への メッセージ	ビジネスの基本は、幼いころから家庭や学校で学んだことの延長線上にあります。決して初めて学ぶことではありません。 だれもが過去に成功体験や失敗体験を数多く持っており、それを振り返ることから始まります。 まずは、TPOを考え、自分の言動を意識してみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。 レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	経済学特別講義 I	科目名 (英文)	Special Lecture on Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木田 洋一
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1076a0		

授業概要・目的	近年 SDGs、CSR と言われる企業の社会的責任とは何か？ 企業は世の中の役に立つことで利益を得て、存在し続けられる。ところが目先の利益を追い社会での役割、責任を疎かにしていることが明らかになると社会から糾弾される。具体的な企業の不祥事の事例を調べ、何故失敗したのか、何故批判されたのかを考え、現代における企業の社会的責任を理解する。 ※ (株) 毎日放送で記者、経済部長、コンプライス・広報・人事などを担当する役員
到達目標	実際の企業の失敗事例から企業と社会の関係性を理解する。何故失敗したのかという疑問を繰り返すことで、ひとつの考え方ではなく別の角度から発想するというクリティカル思考力や社会を広く見る俯瞰の目の育成を目指す。
授業方法と留意点	授業計画は最新の事例等に応じて適宜見直し、変更するので ニュース等に目を通し、気になった企業の社会的責任に関するニュースをチェックしてください。
科目学習の効果 (資格)	就活だけではなく、働き始めてから社会人として 目先ではなく広く社会全体を見渡し、新しい時代の企業、仕事、働き方を考える力を養える。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	企業の社会的責任とは？ 組織内では当たり前なのが難しい 企業を見る目を養うために何が必要か	(事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
2	昔からあった企業倫理	近江商人の「三方よし」や渋沢栄一の名言など様々な企業の家訓、社是を読み解く	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
3	時代とともに社会の求めるものも変わる	食品の規制の歴史を例にして時代とともに変わる社会が求める企業の責任	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
4	企業の CSR の見方・評価は？	就活とは企業と学生の見合い、必ず必要になる企業の見方	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
5	今、何故 SDGs や CSR が求められるのか	SDGs の意味と企業の対応。 各企業のコンプライアンス憲章、コーポレートガバナンス、CSR の比較する	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
6	不祥事事例から学ぶ 1	放送局の不祥事から考える放送に求められるものは？そして何が起こったのか	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
7	不祥事事例から学ぶ 2	危機管理広報のお手本という、ジョンソン & ジョンソン事件とパナソニックのファンヒーター事故などから社会と向き合う対応について知る	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
8	不祥事事例から学ぶ 3	会見で失敗は何故か起こるのか 雪印乳業事件から急増した謝罪会見の意味、吉本興業開業問題は？	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
9	不祥事事例から学ぶ 4	大学の不祥事で考える、大学の社会的責任 日大アメフト部問題など	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
10	不祥事事例から学ぶ 5	電通の過労死問題と働き方改革 過重労働問題で企業の在り方とともに変わる働き方と問題点 さらに、コロナ対策で働き方が変わるか	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
11	情報化の時代の不祥事から学ぶ	情報漏洩事件が続出し、GAF A 規制など 個人情報と企業が持つ責任	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
12	なぜ、失敗するのか？	相次いだデータ偽装などで見る慣習に 潜む罠など	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
13	経営としてどうすればいいのか？	経営としての CSR、コーポレートガバナンス 利益と社会的責任のバランス 今求められるコーポレートガバナンス；社外役員の役割を考える	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
14	働くものとしてどうしたらいいのか？	これまでの事例などから働くものとして どう考え、行動するか	(事前) 次の授業の事例について調べる (事後) 授業の内容で、疑問、意見をまとめ小レポートに
15	まとめ	これまでの授業のポイント	(事後) 授業の内容をレポートにまとめる

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題提出（60%）：毎回の事例やニュースに関する小レポート ・レポート（40%）：最終回に出す課題のレポート 		
学生への メッセージ	<p>授業内容をこれから社会に出ていく時、企業と社会を見る時に活かして欲しい。失敗した企業はダメなのではなく、それを活かしてどう変わったかを見て欲しい。さらに自身が仕事をする時に、本当に会社、業界の当たり前でそれでもいいのかと疑問を持って行動できるようになってもらいたい</p>		
担当者の 研究室等			
備考			

科目名	経済学入門 (エコノミックリテラシー)	科目名 (英文)	Economic Literacy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1001a0		

授業概要・目的	経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。 SDGs-9, 10, 13
到達目標	経済学の基本的な考え方や用語を理解する。新聞の経済記事が読めるようになる。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。また、これらと並行して課題を課す。適宜、レジュメを配布する。 ゲストの日程の都合により、シラバスの変更があり得る。また、受講者の理解度によって、シラバスの変更もあり得る。
科目学習の効果 (資格)	経済学的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	大きな社会問題、身近な経済問題 (1)	身近な経済問題について考える 例：なぜ消費税率を上げるの？ なぜ人手不足なのに賃金が上がらないの？	講義内容の復習
3	大きな社会問題、身近な経済問題 (2)	グローバル化が経済にどのような影響を与えているのか考える：インバウンドの増加 (観光)、国際貿易、為替レートなど	講義内容の復習
4	経済学的な発想とは (1)	効率性と公平性	講義内容の復習
5	経済学的な発想とは (2)	需要と供給の世界：マイクロ経済学1	講義内容の復習
6	ゲスト講師：読売新聞大阪本社 広報宣伝部長・戸田博子氏 「経済記事を楽しもう～新聞の読み方」	経済記事の読み方について、読売新聞大阪本社の広報宣伝部長からレクチャーを受ける	講義内容の復習
7	経済学的な発想とは (3)	需要と供給の世界：マイクロ経済学2	講義内容の復習
8	経済学的な発想とは (4)	経済全体を丸ごとつかむ：マクロ経済学1	講義内容の復習
9	経済学的な発想 (5)	経済全体を丸ごとつかむ：マクロ経済学2	講義内容の復習
10	財政について考える (1)	日本財政の現状、財政赤字の原因と問題点 現代財政の3つの機能	講義内容の復習
11	財政について考える (2)	税について考える	講義内容の復習
12	協力の科学としての経済学	ゲーム理論とは？	講義内容の復習
13	少子高齢化と地域経済	少子高齢化が進む都市と農村の問題について考える	講義内容の復習
14	観光と経済	観光と経済の関係、	講義内容の復習
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習

関連科目 マクロ経済学 I・II、マイクロ経済学 I・II

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	中間試験 (40%) と期末試験 (60%) で評価する。
学生へのメッセージ	経済学的考え方の基礎を習得し、経済新聞も読めるようになりましょう。 疑問点・わからない点があれば授業中でかまいませんので聞いてください。
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室 (経済学部)
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。 授業中に発表 (プレゼンテーション) を求めることもあります。

科目名	経済学入門 (エコノミックリテラシー)	科目名 (英文)	Economic Literacy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1001a0		

授業概要・目的	経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。
到達目標	2年次配当科目である、マクロ経済学・ミクロ経済学で用いられる基礎的な概念や必要な知識を習得し、次学年への準備をおこなう。
授業方法と留意点	基本的には配布プリントを中心とした講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを、別途の配付プリントを参照しながら解説する。また、これらと並行して小テストや課題を課す予定である。
科目学習の効果 (資格)	経済学的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、単元テスト・課題提出の方法について、成績評価方法、(必要に応じ Teams を利用したオンライン授業の方法)について説明する。	
	2	経済学の歴史	経済学の発展に貢献した人物やその考え方を歴史的に学ぶ。	
	3	国民経済計算	マクロ経済学で用いられる基礎的な概念(国内総生産・三面等価の原則等)を理解する。	単元テスト 1
	4	財政政策・租税①	マクロ経済学の分析の入門として、45度線分析の構造を理解する。	単元テスト 2
	5	財政政策・租税②	マクロ経済学の分析の入門として、45度線分析を行い、乗数効果について理解する。	
	6	金融政策・金利	マクロ経済学の分析の入門として、各種金融政策を学ぶ。また、金利に対する理解を深める。	単元テスト 3
	7	消費者理論①	ミクロ経済学の分析の入門として、効用関数、限界効用、消費者余剰、最適消費量等の概念を理解する。	単元テスト 4
	8	消費者理論②	演習問題を通じて、消費者理論への理解を深める。	
	9	生産者理論	ミクロ経済学の分析の入門として、費用関数、限界費用、生産者余剰、最適生産量等の概念をおおまかに理解する。	
	10	市場均衡・余剰分析①	ミクロ経済学の分析の入門として、完全競争市場における均衡の性質を学ぶ。	単元テスト 5
	11	市場均衡・余剰分析②	前回に引き続き、完全市場均衡に関する静学分析を通じて、均衡の性質について理解を深める。	
	12	ゲーム理論	非協力ゲームの戦略型ゲームの構造を理解する。囚人のジレンマ・ナッシュ均衡を理解する。ゲーム理論の経済学への応用の基礎を学ぶ。	単元テスト 6
	13	統計学の基礎の基礎	経済学でなぜ統計学が必要なのかを理解する。記述統計量(平均・分散・標準偏差・相関係数)を計算できるようにする。	単元テスト 7
	14	現実の経済を学ぶために	これから経済学部で現実の経済をどのように学ぶのかガイダンスを行う。	単元テスト 8
	15	期末テスト	期末テスト	

関連科目	マクロ経済学 I・II、ミクロ経済学 I・II、統計学、ゲーム理論等
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験(60%)・単元テスト(40%)に基づく総合評価による。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	質問があれば気軽に上記方法にてアクセスして下さい。
-----------	---------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)
備考	

科目名	地域経済入門	科目名 (英文)	Introduction to Regional and Urban Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1002a0		

授業概要・目的	グローバル経済が進む中で地域経済は大きく変動しており、さまざまな観点から注目されている。地域経済学の入門として、この講義では地域経済学の基礎知識を修得する。この授業を履修することによって、グローバル化の中の地域経済について理解し、観光にも応用できる地域経済学の基礎的素養を身につける。 SDGs-9, 11
到達目標	地域経済とは何か、産業連関表や経済波及効果等の基本的な考え方が理解できるようになる。なぜ、人や企業は大都市に集積するのか等、空間と経済についても理解できるようになる。
授業方法と留意点	授業は、基本的に、前回の復習、本日の授業テーマの講義や学生による発表、授業内容に対応する課題の提示の順序で進めていく。
科目学習の効果 (資格)	地域経済を理論と実証の両面から学び、地域経済の現状や政策を理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	地域経済学の課題と地域経済の学び方について説明する。	地域経済に関する新聞記事を見つけ、発表準備をする (2回目以降も同様)
2	地域経済学の課題	地域概念、グローバル化と地域経済について学習する。	講義の復習
3	日本の地域構造	産業構造の変化や情報化と地域構造の変化について学習する。	講義の復習
4	地域経済と所得形成	地域経済計算とその概念、地域所得の決定について学習する。	講義の復習
5	産業連関分析	産業連関表の考え方、経済波及効果の算出方法を学習する。	講義の復習
6	地域成長の経済分析	地域経済の成長を説明するモデルである「需要主導型モデル」と「供給主導型モデル」について学習する。	講義の復習
7	地域間取引の理論	比較優位と地域間取引について学習する。	講義の復習
8	地域間格差と人口移動	地域間格差が存続する理由と地域間の人口移動について学習する。	講義の復習
9	産業の立地	工業立地論、空間的集積、外部経済について学習する。	講義の復習
10	都市の成立・発展	集積の経済や都市発展のメカニズムについて学習する	講義の復習
11	商店街の活性化	日本の商業の課題、特に商店街空洞化の現状や問題点を知り、商店街活性化の成功事例について学習する。	講義の復習
12	地域政策 1	地域政策の目的と地域開発戦略、日本の地域・都市政策について学習する。	講義の復習
13	地域政策 2	地域政策と観光について学習する	講義の復習
14	文化による地域再生	文化を生かした都市・地域の再生について学習する	講義の復習
15	期末レポート	授業中に課題を出して期末レポートを作成してもらう	全体の復習

関連科目 経済学入門 (エコノミックリテラシー)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域経済入門第3版	山田浩之・徳岡一幸編	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	文化経済学—理論と実際を学ぶ	後藤和子・勝浦正樹編著	有斐閣
2			
3			

評価方法 (基準)	期末レポート (60%)、中間レポート (30%)、授業への参加 (10%) を総合的に評価する。授業の進捗状況により、授業内容や評価方法を変更する可能性がある。
学生へのメッセージ	地域経済学は幅広い学問領域です。授業では教科書に沿って、地域経済学の主要な項目をひとつひとつ履修することにより、地域経済学の体系的な知識を身につけることを目指します。また、実際の地域や政策に関する新しい動向も紹介します。観光や国際にも応用できるような力を身につけましょう。
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室 (経済学部)
備考	学生の理解度に応じて授業内容を変更することがある。

科目名	地域経済入門	科目名 (英文)	Introduction to Regional and Urban Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1002a0		

授業概要・目的	グローバル経済が進む中で地域経済は大きく変動しており、さまざまな観点から注目されている。地域経済学の入門として、この講義では地域経済学の基礎知識を修得する。とりわけ、産業連関表の応用として、最近注目されている経済波及効果の分析を学習する。
到達目標	この授業を履修することによって、①地域経済学の基礎知識を身につける。②産業連関表のしくみおよび経済波及効果の分析を理解できる。③グローバル経済の中で地域経済の活性化の重要性を実感する。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントについて解説)、練習問題 (内容に対応する課題) の形式で進めていく。
科目学習の効果 (資格)	地域経済を理論と実証の両面から学び、実際の地域経済データを用いての数値分析の能力を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	地域経済学の課題と地域経済の学び方について説明する。	授業後、アンケートの実施。
2	地域の概念と基本地域メッシュ	地域の概念と地域メッシュについて説明する。	
3	日本の地域構造と人口動態	日本の地域構造と人口動態について説明する。	授業後、練習問題の提出
4	地域経済計算とその概念	地域経済計算とその概念について説明する。	授業後、練習問題の提出
5	地域所得の決定	地域所得の決定について説明する。	授業後、練習問題の提出
6	産業分類と産業連関表	日本の産業分類と産業連関表の基本取引表について紹介する。	
7	産業連関分析 (1)	経済波及効果の算出方法について説明する。	授業後、課題の提出
8	産業連関分析 (2)	経済波及効果の分析実例を紹介する。	
9	まとめ、中間テスト	1回から8回までの内容のまとめと中間テスト。	1回から8回までの内容を復習すること。
10	地域間取引の理論	比較優位と地域間取引について説明する。	授業後、練習問題の提出
11	地域経済成長の理論 (1)	移出基盤モデルについて説明する。	
12	地域経済成長の理論 (2)	特化係数法と基盤比率について説明する。	授業後、課題の提出
13	地域間格差と人口移動	統計分析の手法を用いて地域間格差を考察し、地域間格差と人口移動の関係について説明する。	
14	地域政策について	地域政策の目的と地域開発戦略について説明する。	授業後、課題の提出
15	総まとめ	講義の総まとめ及び期末試験の対策を説明する。	

関連科目	特になし
------	------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域経済学入門 第3版	山田浩之 徳岡一幸	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業での提出課題 20%、小テスト 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
-----------	---

学生へのメッセージ	地域経済学は幅広い学問領域であるが、授業中、学生諸君がイメージしやすい面白い題材を選択し、講義を行っていくと思う。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 郭准教授室 (経済学部)
------------	--------------------

科目名	観光学入門	科目名 (英文)	Basics to Tourism Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1003a0		

授業概要・目的	少子高齢化の時代を迎え、交流人口の増加を期待される観光は日本の重要政策に位置づけられ、今後ますますその必要性が高まってくると考えられます。この授業では観光経済を学ぶうえでの観光の基礎知識を習得することを目的とします。また、授業担当者は観光事業会社での観光事業全般の運営・マネジメント経験から得た知見をふまえ、観光に関する実践的な教育を行います。
到達目標	観光振興の意義を理解し、観光について書かれた記事や文献を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果 (資格)	観光経済を学ぶ上での基礎知識の習得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	観光と観光学	観光とは何か？観光の定義、観光の果たす役割・意義を考える。	事後：配布資料の復習
3	観光の歴史 I	観光の世界史・日本史を講義する。(古代～近世)	事後：配布資料の復習
4	観光の歴史 II	観光の世界史・日本史を講義する。(近代～現代)	事後：配布資料の復習 レポート
5	観光と行動	観光行動の形と仕組みについて考える。	事後：配布資料の復習
6	観光と経済 I	観光の持つ経済的なインパクトを理解する。	事後：配布資料の復習
7	観光と経済 II	経済の一般理論と観光市場の関係について理解する。	事後：配布資料の復習
8	観光と観光情報	観光における情報の重要性を理解する。	事後：配布資料の復習 レポート
9	観光と交通	交通が観光に果たす役割を考える。	事後：配布資料の復習
10	観光と観光資源	観光資源の特徴と要件を理解する。	事後：配布資料の復習
11	観光と法律	観光に関わる法律、条約、条例やそれぞれの役割について理解する。	事後：配布資料の復習 レポート
12	観光産業 I	旅行業の役割とこれからのあり方を講義する。	事後：配布資料の復習
13	観光産業 II	宿泊産業・航空産業の特徴と役割について講義する。	事後：配布資料の復習
14	新しい観光と観光政策	新しい観光のあり方と課題は何か、また観光立国を推進する国の観光政策について講義する。	事後：配布資料の復習
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	事後：配布資料の復習 レポート

関連科目	観光人材論、観光マーケティング論
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	レポート等提出物の提出状況とその内容について総合的に評価します。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	観光はさまざまな形でニュースや記事にとりあげられています。普段から時事問題にも注意をしておいてください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 持永教授室 (経済学部)
------------	--------------------

科目名	観光学入門	科目名 (英文)	Basics to Tourism Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1003a0		

授業概要・目的	定住人口に代わって交流人口による地域経済の活性化が期待できるのが観光です。日本はこれまで国の政策として訪日外国人観光客誘致に取り組んできましたが、少子高齢化が進むわが国にとって、観光は今後さらに重要性を増していくものと考えられます。この授業は、航空会社とホテルにおいて実務経験のある教員が担当し、観光現象を具体的に分かりやすく説明することによって、観光の基礎知識を習得することを目的とします。
到達目標	観光振興の意義を理解し、観光現象について書かれた文献や記事の内容を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果 (資格)	観光経済を学ぶ上での基礎的な知識を習得します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要と進め方および観光がなぜ注目されているのかについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
2	観光と観光学	観光の定義、観光の意義を講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
3	観光の歴史 (1)	観光の世界史・日本史を講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
4	観光の歴史 (2)	観光の世界史・日本史を講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
5	観光と情報	観光と情報のかかわりについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
6	観光と環境	観光が自然や環境といかに関わっていくべきかについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
7	観光と観光対象 (1)	観光の対象について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
8	観光と観光対象 (2)	観光の対象について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間) 課題レポート①
9	観光と地域社会	観光と地域社会のつながりについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
10	観光と経済	観光の持つ経済的なインパクトを理解し、経済の理論で観光の市場を考える	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
11	観光と交通	観光における交通の特徴と役割について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
12	観光と旅行業	旅行業の役割とこれからのあり方について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
13	観光と宿泊業	宿泊産業の特徴と役割について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
14	新しい観光の形	近年出現してきた新しい観光の形について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間) 課題レポート②
15	現代観光の課題と観光政策	日本の観光が持つ課題と観光政策について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間) 期末レポート

関連科目	航空産業論、宿泊産業論
------	-------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

評価方法 (基準)	課題レポート (2回) 60%、 期末レポート 40%
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	観光に関するトピックスは頻繁にニュースや記事に取り上げられています。普段から時事問題にも注意をしておいてください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	11月4日から授業は対面で実施しますが、配布資料はMoodleにアップロードしますので、毎回各自でダウンロードしてください。課題レポート・期末レポートについても、アップロードと提出はMoodleを利用します。
----	--

科目名	国際経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1004a0		

授業概要・目的	初めて経済学を学ぶ初学者が、経済のグローバル化が進展する 21 世紀の世界経済と日本経済について、おおよそのイメージを獲得することが、この授業の目的である。この授業では、経済グローバル化の推進主体や諸制度、グローバル化によって発生した諸問題について講義する。さらに、経済のグローバル化が日本経済（国民経済）や世界の変化にどのような影響を及ぼしているか講義する。
到達目標	この授業に参加する学生の目標は、第一に、現代の経済グローバル化と日本経済の変化、世界の変化との関係について学び、これから大学で経済学を学ぶモチベーションを高めることである。第二に、大学の講義でのノートの取り方や小論文の書き方について学び、基礎的な学習方法を身につけることである。
授業方法と留意点	講義形式で行う。しっかりと講義を聴いて、疑問点を明確にしながら授業に臨んでもらいたい。高校までとは異なる大学でのノートのとり方、小論文の書き方や作法についても簡単にレクチャーするので、身につけること。
科目学習の効果 (資格)	経済グローバル化についての基礎的素養の獲得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	経済のグローバル化 (1) 国境を越えるグローバル企業の経済活動	GAF A、トヨタ、租税回避	講義の復習
3	経済のグローバル化 (2) 国境を越える移民の増加と排外主義の高まり	トランプ現象、日本の外国人労働者	講義の復習
4	経済のグローバル化 (3) 国境を越える地球環境問題、国際協力と国益の対立	地球温暖化問題、パリ協定、脱炭素経済	講義の復習
5	経済のグローバル化 (4) 国境を越える経済危機と金融のグローバル化	リーマンショック、世界恐慌、金融と実体経済	講義の復習
6	経済のグローバル化 (5) 日本経済のグローバル化と国内地域間格差の拡大	東京一極集中、過疎過密問題、人口減少問題、下請中小企業の苦境	講義の復習
7	経済のグローバル化 (6) 途上国の貧困問題と新興国の経済成長	モノカルチャー経済、累積債務問題、世界食糧危機、WTO 体制	講義の復習
8	経済のグローバル化 (7) 講義のまとめと小論文執筆レクチャー	序論・本論・結論 パラグラフ・ライティング 参考文献の引用と出典明記	講義の復習
9	消費者の行動	選好の定義 MRS	講義の復習
10	消費者の行動	ラグランジュ未定乗数法 効用最大化 需要関数の導出	講義の復習
11	消費者の行動	所得効果 代替効果 需要の価格弾力性 消費者余剰	講義の復習
12	生産者の行動	生産関数 費用関数	講義の復習
13	生産者の行動	供給関数の導出 生産者余剰	講義の復習
14	市場の均衡	余剰分析 税制の効果	講義の復習
15	国際貿易の理論	国際市場における政策の効果	講義の復習

関連科目 経済地理、西洋経済史、アジア経済史、日本経済史、地球環境経済、農業経済論、社会経済学 I、II、アメリカ経済・文化論、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	資本主義の現在	豊福裕二	文理閣
2			
3			

評価方法 (基準) 小論文 50%、期末試験 50%
なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

学生へのメッセージ 経済学は、現実の経済活動について生き生きとしたイメージを得るところから始まる。まだ経済生活に入っていない学生は、現実の経済活動についてイメージをもつことが難しい。これが初学者にとって経済学が困難な理由の一つである。しかし、君たちが将来経験する就職活動は、自分を労働力市場に投げ出し、商品として販売するという経済活動である。そして、君たちの就職活動は、世界経済に連動した日本企業の動向に大きく

	影響を受ける。就職活動を開始するまでに、自分の個人的人生に影響を与える世界の経済動向について、ある程度の見通しをもつこと
担当者の研究室等	1号館7階 野口研究室、田中研究室
備考	本講義は、第1～8回を野口が、第9～15回を田中が担当します。 小論文は野口が、期末試験は田中が採点します。

科目名	国際経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1004a0		

授業概要・目的	初めて経済学を学ぶ初学者が、経済のグローバル化が進展する 21 世紀の世界経済と日本経済について、おおよそのイメージを獲得することが、この授業の目的である。この授業では、経済グローバル化の推進主体や諸制度、グローバル化によって発生した諸問題について講義する。さらに、経済のグローバル化が日本経済（国民経済）や世界の変化にどのような影響を及ぼしているか講義する。
到達目標	この授業に参加する学生の目標は、第一に、現代の経済グローバル化と日本経済の変化、世界の変化との関係について学び、これから大学で経済学を学ぶモチベーションを高めることである。第二に、大学の講義でのノートの取り方や小論文の書き方について学び、基礎的な学習方法を身につけることである。
授業方法と留意点	講義形式で行う。しっかりと講義を聴いて、疑問点を明確にしながら授業に臨んでもらいたい。高校までとは異なる大学でのノートのとり方、小論文の書き方や作法についても簡単にレクチャーするので、身につけること。
科目学習の効果 (資格)	経済グローバル化についての基礎的素養の獲得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	消費者の行動 1	消費者選好 限界代替率	講義の復習
3	消費者の行動 2	効用最大化 需要関数の導出	講義の復習
4	生産者の行動 1	生産関数 限界生産	講義の復習
5	生産者の行動 2	利潤最大化 供給関数の導出	講義の復習
6	余剰分析	消費者余剰 生産者余剰	講義の復習
7	輸入関税政策	輸入関税政策 輸入数量規制	講義の復習
8	輸出補助金政策	輸出補助金政策 輸出数量規制	講義の復習
9	経済グローバル化についての基礎的素養の獲得	GAF A、トヨタ、租税回避	講義の復習
10	経済のグローバル化 (2) 国境を越える移民の増加と排外主義の高まり	トランプ現象、日本の外国人労働者	講義の復習
11	経済のグローバル化 (3) 国境を越える地球環境問題、国際協力と国益の対立	地球温暖化問題、パリ協定、脱炭素経済	講義の復習
12	経済のグローバル化 (4) 国境を越える経済危機と金融のグローバル化	リーマンショック、世界恐慌、金融と実体経済	講義の復習
13	経済のグローバル化 (5) 日本経済のグローバル化と国内地域間格差の拡大	東京一極集中、過疎過密問題、人口減少問題、下請中小企業の苦境	講義の復習
14	経済のグローバル化 (6) 途上国の貧困問題と新興国の経済成長	モノカルチャー経済、累積債務問題、世界食糧危機、WTO 体制	講義の復習
15	経済のグローバル化 (7) 講義のまとめと小論文執筆 レクチャー	序論・本論・結論 パラグラフ・ライティング 参考文献の引用と出典明記	講義の復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	資本主義の現在	豊福裕二	文理閣
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小論文 50%、期末試験 50% なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
-----------	--

学生へのメッセージ	経済学は、現実の経済活動について生き生きとしたイメージを得るところから始まる。まだ経済生活に入っていない学生は、現実の経済活動についてイメージをもつことが難しい。これが初学者にとって経済学が困難な理由の一つである。しかし、君たちが将来経験する就職活動は、自分を労働力市場に投げ出し、商品として販売するという経済活動である。そして、君たちの就職活動は、世界経済に連動した日本企業の動向に大きく影響を受ける。就職活動を開始するまでに、自分の個人的人生に影響を与える世界の経済動向について、ある程度の見通しをもつこと
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 野口研究室、田中研究室
----------	-------------------

備考	本講義は、第1～8回を野口が、第9～15回を田中が担当します。 小論文は野口が、期末試験は田中が採点します。
----	---

科目名	会計学入門	科目名 (英文)	Introduction to Accounting
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2○, DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW1005a0		

授業概要・目的	企業には、株主、投資家、銀行などの債権者、取引先、従業員等、多様な利害関係者がある。この利害関係者に「経営活動結果」を報告するためのプロセスが会計である。この一連のプロセスは法的規制を受けながら、社会的制度として行われている。このような会計制度の基盤となる会計理論が会計学であり、会計学入門では、会計とは何か、会計と企業との係わり、会計の種類などを初心者に向けて概説する。会計学の基礎理論を修得することによって、【簿記原理Ⅰ・Ⅱ】「管理会計」など経営関連科目の基礎を構築することを目標とする。
到達目標	会計学の意義および会計（簿記）の基本的な用語を理解すること。また、簿記全体の流れがわかり、基本的な会計帳簿の作成が可能となることを本授業の到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は Moodle で行う。パワー・ポイントの動画をアップロードするので、受講して課題を提出する。課題を提出期限内に提出するために、必ず時間割のスケジュールとおり受講することをお勧めします。
科目学習の効果（資格）	本授業は経営分野すべての基礎である会計学の基礎知識の習得が可能な内容である。また、日商簿記・税理士・会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、講義概要	授業の進め方、15回の授業概要の説明	学期中の授業の流れを把握できること
2	会計学とは	会計学のフレームワークを説明、会計の分類および会計学における簿記の位置づけ等	レポート・演習
3	財務諸表と簿記の5要素	2つの財務諸表（貸借対照表と損益計算書損益）の理解、簿記の5要素（資産・負債・資本と費用・収益）について説明	レポート・演習
4	取引と仕訳①	会計における取引の意味を理解し、会計帳簿（簿記）作成のルールである「仕訳」に理解と演習	レポート・演習
5	取引と仕訳②	会計における取引の意味を理解し、会計帳簿（簿記）作成のルールである「仕訳」に理解と演習	レポート・演習
6	転記と総勘定元帳①	仕訳結果に基づいて、各勘定科目別の帳簿を作成する「転記」のルールを理解、総勘定元帳の作成及び締切方法	レポート・演習
7	転記と総勘定元帳②	仕訳結果に基づいて、各勘定科目別の帳簿を作成する「転記」のルールを理解、総勘定元帳の作成及び締切方法	レポート・演習
8	転記と総勘定元帳③	仕訳結果に基づいて、各勘定科目別の帳簿を作成する「転記」のルールを理解、総勘定元帳の作成及び締切方法	レポート・演習
9	会計期間・利益計算法	利益計算を行う期間である「会計期間」の意義、会計における2つの利益計算法、B/S・P/Lの関係	レポート・演習
10	試算表の意義・作成①	決算の準備段階である試算表の意義・目的・フォームの理解と作成	レポート・演習
11	試算表の意義・作成②	決算の準備段階である試算表の意義・目的・フォームの理解と作成	レポート・演習
12	精算表の理解と作成①	精算表の意義・フォームに理解、試算表に基づいて、本決算手続きである精算表の作成	レポート・演習
13	精算表の理解と作成②	精算表の意義・フォームに理解、試算表に基づいて、本決算手続きである精算表の作成	レポート・演習
14	貸借対照表と損益計算書の作成	簿記における最終報告書（財務諸表）である貸借対照表と損益計算書の理解と作成	レポート・演習
15	まとめ	14回の授業のまとめと質疑応答	レポート

関連科目 「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」「管理会計」の基礎となる科目である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準） 平常点40%（レポート）、定期試験60%

学生へのメッセージ 1回目のガイダンスは必ず出席すること。本授業は内容が続いているので、授業内容の理解のためには全ての授業内容を受講することが求められる。
※「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」、「管理会計」を履修予定の場合は、本科目を履修しておくことを勧める。

担当者の研究室等 1号館7階 朴教授室（経済学部）

科目名	日本経済史	科目名 (英文)	Japanese Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7△, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1006a0		

授業概要・目的	今日の日本経済システムを理解するために、日本の経済史を、産業化の発展段階、政治・経済・社会の諸制度の変化および国際環境の変化との関連で学習する。
到達目標	現代の日本経済を理解するために、歴史的な流れを把握できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	第二回より動画形式。第一回分も復習のため動画を見ることが出来る。 必要に応じて、演習を実施する。 小テストの際は授業時間中に実施するので授業開始時刻に遅れないこと。 動画視聴の際にノートを必ずとるようにしてください。 Moodleを活用し、論じる。
科目学習の効果 (資格)	現在の日本の社会システム、経済システムがなぜこのようになったのかを理解できる。 歴史的に物事を理解する基礎が身につく。 日本経済の流れを他の人 (含む外国人) に説明する基礎が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、幕末期以前の流れ	イントロダクション、なぜ歴史を学ぶか、幕末期以前の政治経済の流れを学ぶ。	教科書を通覧しておくこと
2	幕末期、明治維新	幕末期の政治経済、維新政府の誕生とその初期の政策 (版籍奉還、廃藩置県、地租改正、秩禄処分等) を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
3	殖産興業と松方財政	殖産興業の実態を理解した後、大隈財政と比較しながら松方財政の内容とそれが日本経済に与えた影響を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
4	日清・日露戦争と日本経済	1890年代から1910年代の国際情勢と日本の政治経済との関係を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
5	日本の産業革命 (1)	日本の産業革命の実態を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
6	日本の産業革命 (2)	日本の産業の基礎となる官営工業、民間企業、金融システムの確立を中心に学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
7	第一次世界大戦と日本経済	第一次世界大戦前の日本の政治経済制度の特徴を理解し、大戦後に日本がどのように変化したかを学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
8	両大戦間期	第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時期に、日本経済は、本格的な経済成長を開始した。この時期の日本経済の概略を、国際的変化 (機軸国アメリカの登場) と国内的変化 (日本的労使関係の形成等) の視点から考察する。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
9	昭和恐慌	1929年から始まった世界恐慌の影響が、日本経済を直撃した。これを昭和恐慌という。この昭和恐慌の中身を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
10	高橋財政	昭和恐慌を沈静化しようとした高橋是清の経済政策の手法を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
11	戦時経済 (1)	軍備拡張の政治方針に沿って、軍需主導による重化学工業化の道を歩んでいった日本経済を、その当時の国際環境 (世界経済のブロック化) の中で理解する。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
12	戦時経済 (2)	戦時統制経済が戦後の日本経済システムの源流を形成した側面を、企業体制、労使関係、金融制度と企業間関係、政府企業間関係の4点にわたって学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
13	戦後経済改革	日本の戦争行動を防ぐために、占領軍は、各種の対日政策をとった。ここでは、それを、内政・財政制度改革、財閥解体、労働改革、農地改革の4点にわたって学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
14	経済復興	第二次世界大戦後成立した冷戦体制のもとで、日本は、戦前の「富国強兵」から「強兵なき富国」へと国家の進むべき方向を転換した。ここでは、その端緒となった経済復興政策とその効果について学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
15	経済成長への出発	高度経済成長の基盤形成期から近年に至る経済状況の流れを学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。

関連科目	日本経済論、日本産業史、関西経済論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	概説日本経済史	三和良一	東京大学出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テストとレポートにて評価を行う。 小テスト2回=80点、レポート20点、計100点			
学生への メッセージ	日本経済の歴史的な流れを把握し、現在の日本経済の理解につなげるようがんばってください。 日本産業史と合わせて履修することで、歴史的な流れをさらに俯瞰できるようになりますので、履修時に留意してください。			
担当者の 研究室等	1号館7階 野長瀬教授室			
備考				

科目名	日本経済論	科目名 (英文)	Contemporary Japanese Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1007a0		

授業概要・目的	この講義では、日本経済の動きを観察できるようになるためのツール（マクロ経済理論の入門）を習得し、日本経済の各種データを確認することでその現状を把握します。
到達目標	日本経済の次の項目について説明できて、必要に応じて計算できることを目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化社会、合計特殊出生率 ・フローとストック、名目と実質、GDP ・物価指数 ・三面等価の原則 ・信用創造 ・金融政策、マネーサプライ、マネタリーベース ・投資、利子 ・労働需給、失業 ・社会保障、社会保険 <ul style="list-style-type: none"> ・経済学の基礎的な考え方を知る。 ・日本経済の現状に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。
授業方法と留意点	時間割どおりの曜日・時限で授業を遠隔で行う動画配信型授業（リアルタイム方式）として実施します。 使用するICTツールはMicrosoft Teamsです。 ※2021年11月17日(水)より対面授業として実施します。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生き方を日本経済のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）することができる。 ・日本での就職活動を客観視できるようになり、職業選択に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、内容の概観、評価方法の確認を行い、学習の準備をします。	シラバスを確認し、講義内容、評価方法について確認する。
2	人口と日本経済	日本の人口構造は今後大きく変化していきます。人口減少、高齢化、少子化、合計特殊出生率をキーワードに日本の人口構造を説明します。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
3	日本経済の大きさ（GDP）	日本経済の大きさをつかむためにつくり出されているのが国民経済計算です。GDPの計算方法を学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
4	物価指数	物価の安定自身が経済政策の重要な目標であるため、物価の変動をあらわす物価指数について、計算方法を学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
5	三面等価の原則	一国経済において家計、企業、政府、海外という4つの経済主体が生産、所得、支出という3つの経済活動を行っています。それらが等しくなることを計算を通して学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
6	銀行の信用創造	貸し手のお金を借り手がスムーズに使えるようになることが金融の役割です。その創造メカニズムを計算を通して学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
7	金融政策	中央銀行は、様々な金融調整手段を使って物価の安定と経済成長を実現しようとします。中央銀行の役割を学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
8	投資と利子 (1)	企業が生産活動を行うには設備などへの投資が必要になります。どのような判断の下に投資が行われるのかを計算を通して学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
9	投資と利子 (2)	金利には多くの種類があります。投資の関係で利子の大きさを把握するため、計算問題を通して、利子について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
10	日本の労働市場（雇用と失業）	「働く意思を持つ全ての人に働く機会がある」ことを完全雇用といえます。日本の労働市場の需給状況を学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
11	日本的雇用慣行	1980年代頃まで日本的雇用慣行は国際的に高く評価されていましたが、バブル経済崩壊後、大幅な見直しが求められています。近年の働き方改革について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
12	産業構造の変化	日本経済が成長していくためには成長性の高い産業への産業構造の変化が必要です。今後の産業構造の変化の方向について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
13	社会保障と財政 (1)	社会保障負担の増大が現時点の雇用・賃金に影響を与えることを計算を通して	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分）

			学びます。	(事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。																
	14	社会保障と財政(2)	日本の年金制度・医療保険の制度を、財政との関わりで学びます。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。																
	15	まとめ	これまでの授業内容をまとめ、定期試験にそなえます。	(事前)これまでの配付資料を読み、ノートの整理を行う(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。																
関連科目	日本経済史、マクロ経済学 I																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門マクロ経済学—大きくつかむ経済学のエッセンス</td> <td>小林弘明ほか</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門マクロ経済学—大きくつかむ経済学のエッセンス	小林弘明ほか	実教出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	入門マクロ経済学—大きくつかむ経済学のエッセンス	小林弘明ほか	実教出版																	
2																				
3																				
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎の課題(70%)：授業内容に関する問題(選択式、計算問題が中心)。 ・試験に代わる復習問題(10%)：授業内容に関する問題(選択式、計算問題が中心)。 ・試験に代わるレポート(20%)：授業内容に関するテーマについての説明文。 																			
学生へのメッセージ	日本経済の現状は皆さんの生活と密接に関わる事象です。日本経済の変化が皆さんの生活にどのように関わるのか、経済学的思考で考えてください。参考書は購入必須ではありませんが、手元にあると学習が進めやすと思います。																			
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室																			
備考																				

科目名	経営学	科目名 (英文)	Business Administration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤 秀昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1008a0		

授業概要・目的	経営学の諸理論について概説します。特に本講義では、戦略、組織行動、アントレプレナーシップに関する理論に焦点を当てます。受講生は、人や組織がどのように考え、行動するのかについて、経営学が蓄積してきた仮説を学ぶことができます。講義担当者は、民間企業における研修業務担当の経験から、講義内容の実践的な活用方法を教授します。
到達目標	① 本講義を通じて受講生は、経営戦略論、経営組織論の基礎的な内容を説明できるようになります。 ② 本講義を通じて受講生は、企業がなぜ特定の行動をとるのか (why クエスチョン) について、自らの意見を述べるスキルを身につけることができます。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進めます。 講義内容の理解を深めるために、毎回の講義終了後に小レポートの提出を求めます。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義の目的・到達目標・成績評価について説明します。また、経営学において、理論と現象の関係がどのように捉えられているのかを考えます。	事前：シラバスを読んでおく (10分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
2	感情とモチベーション	経営学において、認知バイアスやモチベーションの理論がどのように用いられているのかを考えます	事前：前回の配布資料に目を通して復習を行う (10分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
3	イノベーションとアントレプレナーシップ	経営学において、いわゆるイノベーション・アントレプレナーシップと呼ばれる概念がどのように用いられているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (15分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
4	組織意思決定と組織学習	組織がいかにして意思決定を行い、学習をするのかについて考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (20分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
5	知の探索・知の深化	知の探索・知の深化理論の成果について考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (25分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
6	エージェンシー理論	経営学において、エージェンシー理論がどのように用いられているのか考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (30分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
7	ゲーム理論	経営学において、ゲーム理論がどのように用いられているのか考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (35分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
8	競争の型と戦略の関係	経営学が明らかにした競争の型と戦略の関係について考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (40分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
9	リーダーシップの理論	経営学におけるリーダーシップ研究の成果を考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (45分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
10	エコノミック・ソシオロジー	社会学を基礎とした経営学の諸仮定について考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (50分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
11	共進化のダイナミズム	経営学が共進化という概念をいかにして企業に当てはめて説明しているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (55分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
12	持続的な競争優位とダイナミック・ケイパビリティ	経営学がいかにして競争優位の源泉を説明しているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
13	弱いつながりの強さ	経営学において、ソーシャル・ネットワーク理論がどのように用いられているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
14	組織エコロジーと VSRS メカニズム	経営学において、VSRS メカニズムがどのように適用されているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)
15	経営学が答える why クエスチョン	経営学が答えようとしている why クエスチョンについて、本講義における検討を振り返ります	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界標準の経営理論	入山章栄	ダイヤモンド社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小レポート（毎回の講義終了後に提出）40%、期末レポート（全15回の講義終了後に提出）60%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	佐藤秀昭講師室（11号館7階）			
備考				

科目名	経済地理	科目名 (英文)	Economic Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1009a0		

授業概要・目的	経済のグローバル化は、日本経済および地域経済に様々な影響をもたらしている。円高が進むもとの、日本の輸出製造業の大企業が海外へと生産拠点を展開して多国籍化をすすめ、経済の空洞化が危惧されている。高度な技術力で日本のものづくりを支え、地域経済の担い手となってきた中小企業は、大企業の多国籍化のもとで、再編と淘汰を余儀なくされている。国際競争力の強化を求める日本企業は、賃金コストの圧縮のため、非正規雇用の拡大を進めたが、労働者の収入の低下をもたらして国内消費を制限し、日本経済の成長を制約する要因となっている。国内																																																																		
到達目標	経済グローバル化と日本経済の関わりについて、歴史的・具体的に分析する方法について学ぶ。																																																																		
授業方法と留意点	教科書にしたがった講義形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義ガイダンス</td> <td>講義概要、教科書紹介</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本の大企業のグローバル化と中小企業</td> <td>教科書 第1章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム</td> <td>教科書 第2章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制</td> <td>教科書 第3章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>アメリカ企業・政府によるグローバル化</td> <td>教科書 第4章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本の流通の再編と寡占化</td> <td>教科書 第5章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>地球環境問題</td> <td>教科書 第7章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>グローバル化のもとでの日本の労働者の状態</td> <td>教科書 第8章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本における外国人労働者</td> <td>教科書 第9章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>労使関係の日本-スウェーデン比較</td> <td>教科書 第13章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料</td> <td>教科書 第10章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>地域間格差の拡大と日本財政</td> <td>教科書 第11章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グローバル化と税制改革</td> <td>教科書 第12章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>現代資本主義の特徴と日本社会</td> <td>教科書 序章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—	2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習	3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習	4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習	5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習	6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習	7	地球環境問題	教科書 第7章	事前・教科書予習	8	グローバル化のもとでの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習	9	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習	10	労使関係の日本-スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習	11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習	12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習	13	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習	14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習	15	まとめ		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—																																																																
2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習																																																																
3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習																																																																
4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習																																																																
5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習																																																																
6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習																																																																
7	地球環境問題	教科書 第7章	事前・教科書予習																																																																
8	グローバル化のもとでの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習																																																																
9	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習																																																																
10	労使関係の日本-スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習																																																																
11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習																																																																
12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習																																																																
13	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習																																																																
14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習																																																																
15	まとめ																																																																		
関連科目	国際経済学入門、日本経済論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>資本主義の現在-資本蓄積の変容とその社会的影響</td> <td>豊福裕二編</td> <td>文理閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	資本主義の現在-資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	資本主義の現在-資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	質問提出 (10%)、期末レポート (90%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	普段から新聞やテレビなどで、現実の経済の動きについて関心を持ってください。積極的に質問をしてください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室 (経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	ミクロ経済学 I	科目名 (英文)	Microeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2010a0		

授業概要・目的	ミクロ経済学は「選択の科学」です。本講義では、個々の経済主体（＝消費者、企業、政府）が様々な状況下でどのような選択（もしくは意思決定）を行うかに焦点を当て、経済分析の枠組みを理解することを目標とします。ミクロ経済学の基礎、とりわけ消費者理論・企業理論・社会厚生に重点を置いて解説します。
到達目標	市場における消費者と企業の行動や物価と生産量の決定の仕方を理解し、応用ミクロ経済学の範囲である産業組織論、国際経済学等の基礎知識を習得する。
授業方法と留意点	10回目に中間試験、15回目に期末試験を Moodle で行います。 期末試験対策のために14回目の授業で試験のベースとなる例題の解説を Teams で行います。 それ以外の回については、Moodle、Web Folder に講義資料を Upload しておきます。 Moodle: 講義スライド・例題 (PDF) Web Folder: 講義スライド・例題 (音声入力 Powerpoint) 連絡手段に Teams を使いますので登録お願いいたします。
科目学習の効果 (資格)	すべての経済学の基礎となる考え方が身に付きます。経済学検定試験など資格試験を準備するうえでの基礎知識も身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	市場における需要と供給の作用	市場における需要と供給曲線がどのように求められ、また市場の均衡がどのようにして決まるかを説明する。	テキスト4章予習・復習と例題1の学習 (1時間)
2	弾力性とその応用	消費者の需要の弾力性と生産者の供給の弾力性について説明する。	テキスト5章予習・復習と例題2の学習 (1時間)
3	消費者選択の理論1 (無差別曲線、予算制約)	消費者の効用・予算がどのように表現されるのかを説明する。	テキスト21章予習・復習と例題3の学習 (1時間)
4	消費者選択の理論2 (効用最大化、需要曲線の決定)	消費者が限られた予算の中で効用を最大化するためにどのように需要額を決定するかについて説明する。	テキスト21章予習・復習と例題4の学習 (1時間)
5	競争市場における企業1	企業の生産活動について説明する。	テキスト13章予習・復習と例題5の学習 (1時間)
6	競争市場における企業2	企業が利潤最大化をするためにどのように生産額を決めるかについて説明する。	テキスト14章予習・復習と例題6の学習 (1時間)
7	消費者、生産者、市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、社会の厚生について説明する。	テキスト7章予習・復習と例題7の学習 (1時間)
8	価格規制	政府が行う価格規制の役割と影響を説明する。	テキスト6章予習・復習と例題8の学習 (1時間)
9	余剰分析の応用1 (課税の費用)	税金による経済厚生への影響について説明する。	テキスト8章予習・復習と例題9の学習 (1時間)
10	中間試験		
11	余剰分析の応用2 (国際貿易)	国際貿易が生じるメカニズムについて説明する。	テキスト9章予習・復習と例題10の学習 (1時間)
12	独占	独占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	テキスト15章予習・復習と例題11の学習 (1時間)
13	寡占	寡占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	テキスト16章予習・復習と例題12の学習 (1時間)
14	期末試験前の復習	例題7～12について解説	例題7～12について事前に自分で解いて理解しておくこと (1.5時間)
15	期末試験		

関連科目: ミクロ経済学 II、公共政策論、産業組織論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マンキュー経済学 (1) ミクロ編	N. グレゴリー マンキュー	東洋経済新報社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準): 中間試験 (30%)、定期試験 (70%) で評価します。中間試験において不正行為等をした学生の間接テストの点数は 0 になり、また悪質な場合には定期試験の受験を認めません。私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。

学生へのメッセージ: 疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。

担当者の研究室等: 1号館7階 名方准教授室 (経済学部)

備考:

科目名	ミクロ経済学 I	科目名 (英文)	Microeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F G H I
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2010a0		

授業概要・目的	経済学の最も基本となるミクロ経済学を学び、経済学的な考え方を習得することを目的とします。具体的には、消費者や企業といった経済主体がどのように行動するか、市場で売り手と買い手がどのような条件で取引するか（市場均衡）、そして市場均衡の社会的な望ましさの評価（経済厚生）とその改善のための政府のとりべき政策についての基本を、講義や練習問題を通じて学びます。
到達目標	消費者や企業がどのように行動するか、消費者と企業は市場でどのような取引をする（市場均衡）か、市場均衡の社会的な望ましさ（経済厚生）をどのように評価するか、市場均衡で経済厚生が望ましくないのはどのようなときか、そして、経済厚生を改善するためには政府はどのような政策をとるべきか、についての基本を理解できることを目標とします。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義を行いますので、事前の予習と事後の復習をしてください。授業はパワーポイントを用いて行います。使用する資料はMoodleを通じて配布します。ミクロ経済学は積み重ねの学問ですので、毎回欠かさず出席をして復習をしてください。理解を深めるために練習問題を出し、提出してもらったと同時に授業中に解説します。その際には、学生に答えてもらい、理解度を確かめ、難しいところや間違いやすいところを解説します。2回目以降の授業はオンラインで実施します。TeamsとMoodleで参加してください。
科目学習の効果（資格）	ミクロ経済学は経済学のもっとも基礎となる分野で、その後に学ぶすべての経済学科目の学習の理解に有益です。経済学的な見方を習得することは、ビジネスにおける判断にも個人としてのさまざまな選択・意思決定の際にも有益です。公務員試験や経済学を含む資格試験に必須の科目で、それらの試験の準備にも有益です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学とは（1）	ミクロ経済学の対象と課題、消費者の行動と需要曲線、を説明します。	教科書第1章第1～2節の予習と授業の復習
2	ミクロ経済学とは（2）	企業の行動と供給曲線、市場の均衡、を説明します。	教科書第1章第3～4節の予習と授業の復習
3	ミクロ経済学とは（3）	経済厚生、比較静学、を説明します。	教科書第1章第5～6節の予習と授業の復習
4	消費者の行動（1）	消費者の行動とは、効用の最大化、を説明します。	教科書第2章第1～2節の予習と授業の復習
5	消費者の行動（2）	最適消費計画と個別需要曲線、右下がりの需要曲線、を説明します。	教科書第2章第3～4節の予習と授業の復習
6	企業の行動（1）	企業の行動とは、企業の技術選択、総費用曲線とさまざまな費用概念、を説明します。	教科書第3章第1～2節の予習と授業の復習
7	企業の行動（2）	生産量の決定、供給曲線、を説明します。	教科書第3章第3～4節の予習と授業の復習
8	前半の復習	前半の講義内容に関する練習問題の解説をします。	前半の講義内容に関する練習問題の提出と復習
9	前半の復習の続き 市場均衡と経済厚生（1）	前半の講義内容に関する練習問題の解説の続き、を説明します。 市場メカニズムの特長、を説明します。	前半の講義内容に関する練習問題の復習の続き 教科書第4章第1節を予習と授業の復習
10	市場均衡と経済厚生（2）	効率性と公平性、市場メカニズムがうまく機能しない場合、を説明します。	教科書第4章第4～5節の予習と授業の復習
11	不完全競争の市場（1）	不完全競争市場とは、独占市場と企業行動、を説明します。	教科書第5章第1～2節の予習と授業の復習
12	不完全競争の市場（2）	寡占市場、不完全競争市場の何が問題なのか、を説明します。	教科書第5章第3～4節の予習と授業の復習
13	外部性と公共財（1）	外部性の問題と対応策、を説明します。	教科書第11章第1節の予習と授業の復習
14	外部性と公共財（2）	共有資源の問題と対応策、公共財の問題と対応策、を説明します。	教科書第11章第2～3節の予習と授業の復習
15	後半の復習	後半の講義内容に関する練習問題の解説をします。	後半の講義内容に関する練習問題の提出と復習

関連科目 ミクロ経済学Ⅱ、産業組織論、サービス産業論、公共政策論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミクロ経済学・入門（新版）	柳川隆・町野和夫・吉野一郎	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（70%）、2回の練習問題の提出内容（各15%、計30%）、計100%で評価する。ただ授業中の受講態度により加点・減点することがある。期末試験は対面を実施する予定です（コロナの状況により変更となる可能性があります）。
学生へのメッセージ	特に復習を重視して下さい。練習問題は必ず提出し、疑問点があれば解説授業の際に確認してください。練習問題では出席者のなかから指名して解答してもらいますので、積極的に取り組んでください。
担当者の研究室等備考	1号館7階 柳川研究室

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	科目名 (英文)	Microeconomics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2o, DP3o, DP4Δ, DP5o, DP6Δ, DP7o, DP8Δ, DP9o		
科目ナンバリング	WDW2011a0		

授業概要・目的	国際経済学、労働経済学、産業組織論、財政学等の応用ミクロ経済学の基礎となるミクロ経済学について学ぶ。とりあげるテーマはミクロ経済学Ⅰとほとんど同じであるが、数式や計算を通じてミクロ経済学Ⅰで学んだことに対する深い理解が得られることを目標とする。また新しいテーマとして①消費者の期待効用、②寡占市場における企業間の競争、③外部性・公共財の3点を取り上げる。
到達目標	市場における消費者、企業、政府の行動を理解し、また市場の失敗である「公共財」「外部性」「寡占・独占」の問題を数式を使って解けるようにする。
授業方法と留意点	5回目、10回目に小テスト、15回目に定期試験をMoodleで行います。 期末試験対策のために14回目の授業で試験のベースとなる例題の解説をTeamsで行います。 それ以外の回については、Moodle、Web Folderに講義資料をUploadしておきます。 Moodle: 講義スライド・例題 (PDF) Web Folder: 講義スライド・例題 (音声入力 Powerpoint) 連絡手段にTeamsを使いますので登録お願いいたします。
科目学習の効果 (資格)	経済学検定試験や公務員試験の勉強に役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	市場における需要と供給の作用	市場において需要と供給曲線がどのように求められ、またどのように市場の均衡が決まるかについて説明する。	講義ノートの復習と例題1の自主学習 (1時間)
2	消費者の行動	消費者が限られた予算の中で効用を最大化するためにどのように必要額を決定するかについて説明する。	講義ノートの復習と例題2の自主学習 (1時間)
3	消費者の期待効用	不確実性のもとでの消費者の行動について説明する。	講義ノートの復習と例題3の自主学習 (1時間)
4	1~3 回目のテーマに関する練習問題	例題1~3についての解説	講義ノートの復習と例題1~3の自主学習 (1時間)
5	例題1~3の確認と小テスト		
6	競争市場における企業の行動Ⅰ	競争市場における企業の利潤最大化行動について説明する。(生産要素が1つの場合)	講義ノートの復習と例題4の自主学習 (1時間)
7	独占	独占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	講義ノートの復習と例題6の自主学習 (1時間)
8	寡占Ⅰ	寡占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	講義ノートの復習と例題7の自主学習 (1時間)
9	6~9 回目のテーマに関する練習問題	例題4~6についての解説	講義ノートの復習と例題4~6の自主学習 (1時間)
10	例題4~6の確認と小テスト		
11	社会厚生	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性について説明する。	講義ノートの復習と例題8の自主学習 (1時間)
12	外部性	市場が完全競争にならない原因である外部性の問題について説明する。	講義ノートの復習と例題9の自主学習 (1時間)
13	公共財	市場が完全競争にならない原因である公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習と例題10の自主学習 (1時間)
14	11~13回目のテーマに関する練習問題	例題7~9についての解説	講義ノートの復習と例題7~9の自主学習 (1時間)
15	定期試験 (例題1~9)		

関連科目: ミクロ経済学Ⅰ、経済数学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準): 2回にわたる小テスト (各15%、合計30%) と定期試験 (70%) で評価します。小テストにおいて不正行為 (明らかにおかしな間違いをした解答で類似している場合はそのように判断する可能性があります) をした学生には小テストの点数は0になります。

学生へのメッセージ: 疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。

担当者の研究室等: 1号館7階 名方准教授室 (経済学部)

備考:

科目名	マクロ経済学 I	科目名 (英文)	Macroeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F G H I
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2012a0		

授業概要・目的	マクロ経済は、一国単位での経済活動の状況を分析する学問です。この動きは、毎日の新聞・ニュースで紹介されています。設備投資のこと、円相場のこと、景気のこと、日銀のことー 将来、社会人になると、これら経済の動きを知っておく必要があります。その多くは、この講義で扱うようなマクロ経済学の基本知識があると、理解できることがほとんどです (もちろん、マクロ経済にはまだ解明されていない謎もあります)。この講義は、知っておくべきマクロ経済学の基礎理論を習得すること、そして実際のマクロ経済の動向について経済学に基づいた視点
到達目標	基本的なマクロ経済学の知識を習得するとともに、粗削りでもよいので、現実経済に対して自分なりの見解を述べるができるようになることを目標としています。
授業方法と留意点	(1) この講義は遠隔式で実施します。Microsoft Teams を利用し、リアルタイムで講義を配信します。 (2) 講義資料は Web Folder、及び Microsoft Teams の各講義回チャンネルにアップロードします。 (3) 講義中の課題 (練習問題) は Microsoft Forms による解答フォームに解答してください。なお練習問題には、解答期限を設けます。 (4) 講義資料には、PowerPoint と PDF ファイルがあります。PowerPoint ファイルには、解説用の音声ファイルを埋め込んでおりま
科目学習の効果 (資格)	現実経済の基本的な知識が身につくので、新聞の経済関係の記事が読めるようになります。また、公務員試験や経済学検定試験に出題される内容の基本事項を習得することができます。ただしこの講義で扱う内容は基本項目であるため、国家公務員、都道府県庁などの専門試験については、本講義の内容では十分ではありません。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義の進め方について	講義資料 (1)
2	マクロ経済の基礎 (1)	マクロ経済循環、マクロ経済指標について	講義資料 (2)
3	マクロ経済の基礎 (2)	支出と需要、フローとストックについて	講義資料 (3)
4	経済成長と景気循環	成長の要因と好況・不況の定義について	講義資料 (4)
5	物価とインフレーション	物価の決定と物価変動の要因について	講義資料 (5)
6	失業 マクロ経済政策	失業についての考え方、フィリップス曲線、日本の失業について	講義資料 (6)
7	マクロ経済政策	政府や中央銀行による政策 (マクロ経済政策) とその効果について	講義資料 (7)
8	マクロ経済と金融	マクロ金融に関する基本事項 (利子率、債券価格、貨幣需要)、銀行 (日本銀行) の役割について	講義資料 (8)
9	乗数効果	4 5 度線分析とその応用について	講義資料 (9)
10	国民所得の決定	望ましい国民所得の水準とその決定について	講義資料 (10)
11	IS-LM 分析 (1)	短期モデルである IS-LM モデルを構成する、財市場の均衡条件 (IS 曲線) について	講義資料 (11)
12	IS-LM 分析 (2)	短期モデルである IS-LM モデルを構成する、貨幣市場の均衡条件 (LM 曲線) について	講義資料 (12)
13	IS-LM 分析 (3)	IS-LM モデルによる、財政政策・金融政策の分析について	講義資料 (13)
14	貿易と海外投資	経常収支・金融収支の関係と国際収支表の見方について	講義資料 (14)
15	為替レート	2 国間の通貨の交換比率である、為替レートについて	講義資料 (15)

関連科目 経済学入門 (エコノミック・リテラシー)、マクロ経済学Ⅱ、現代ファイナンス論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	有斐閣アルマ	マクロ経済学入門 (第5版)	福田慎一・照山博司
2				
3				

評価方法 (基準) 講義中の課題 (25 点、講義資料掲載の練習問題)、試験 (50 点、予定を変更して 1 回のみ実施)、レポート (25 点、出題時期は未定) で評価します。練習問題 (Microsoft Form を利用) には解答期限を設けております。解答期限は、出題のタイミングによって変わりますが、原則として次の講義開始時まで、とします。なお、試験についても、Microsoft Forms を利用する予定です。

学生へのメッセージ 疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」です。なお、Microsoft Forms を利用した出欠調査を実施します。講義開始から 30 分以内に回答してください。

担当者の研究室等 1 棟 7 階 小塚研究室

備考

科目名	マクロ経済学 I	科目名 (英文)	Macroeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2012a0		

授業概要・目的	この授業では、マクロ経済学の基礎、とりわけ、国民所得、失業率、利子率、物価等主要な経済変数・指標がどのように決定され、どのように変動するかを解説する。
到達目標	集計された経済変数間の関係に法則性を見だし、一国全体の経済変動のメカニズムを理解することを目標とする。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントについて解説)、練習問題 (内容に対応する課題) の形式で進めていく。さらに、マクロ経済分析に重要な諸概念の理解を深めるため、数値例を用いた例題を解きながら講義を進める。
科目学習の効果 (資格)	マクロ経済学を学ぶことによって、日本経済および世界経済の動向を理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス・マクロ経済学とは	マクロ経済学はどのような学問かについて解説する。	授業後、アンケートの実施。
2	GDPに関する基礎知識 (I)	付加価値の概念、GDP と GNP の区別について解説する。	
3	GDPに関する基礎知識 (II)	GDP の三面等価と GDP デフレーターについて解説する。	授業後、課題の提出
4	マクロ経済学における需要と供給	需要、供給および均衡の概念について解説する。	授業後、課題の提出
5	有効需要と乗数メカニズム	有効需要原理と消費関数について解説する。	授業後練習問題の提出
6	国民所得の決定	国民所得はどのように決まるかについて解説する。	授業後練習問題の提出
7	インフレギャップとデフレギャップ	完全雇用 GDP、インフレギャップ及びデフレギャップについて解説する。	
8	利子率と投資	利子率と投資との関係について解説する。後半は小テストを行う。	
9	貨幣の機能と債券	貨幣の機能、貨幣と債券の関係について解説する。	授業後、課題の提出
10	貨幣の需要	貨幣の需要と貨幣需要曲線について解説する。	
11	中央銀行と貨幣の供給	中央銀行の機能と貨幣供給について解説する。	授業後、課題の提出
12	貨幣市場の均衡と利子率の決定	貨幣市場の均衡、利子率はどのように決まるのかについて解説する。	
13	金融政策の手段と効果	中央銀行による金融政策とその効果について解説する。	授業後、課題の提出
14	IS-LM 分析 (I)	財市場と貨幣市場との関係を考える IS-LM 分析について解説する。	授業後練習問題の提出
15	IS-LM 分析 (II)	IS-LM 分析に基づく財政政策と金融政策について解説する。	

関連科目	マクロ経済学 II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業での提出課題 20%、小テスト 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
-----------	---

学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	マクロ経済学Ⅱ	科目名 (英文)	Macroeconomics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW2013a0		

授業概要・目的	本講義では、マクロ経済学Ⅰの授業内容を踏まえ、引き続きマクロ経済理論を学習する。特に経済政策、労働市場と失業、インフレーションとデフレーション、経済成長、国際マクロ経済学などのトピックスを取り上げて学習する。
到達目標	講義を履修することで、マクロ経済学における諸概念をより深く理解した上、様々な経済現象を自ら分析できる能力を身につける。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントの解説)、練習問題 (内容に対応する課題) の形式で進めていきます。さらに、マクロ経済分析に必要な諸概念の理解を深めるため、値例を用いた例題を解きながら講義を進める。
科目学習の効果 (資格)	中級レベルのマクロ経済学への橋渡しとなるように、マクロ経済学の理論を体系的に理解する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	マクロ経済学Ⅱの内容の概略を紹介する。	授業後、アンケートの実施。
	2	IS-LM 分析の復習	IS-LM 分析を復習し、その応用について解説する。	授業後練習問題の提出
	3	マクロ経済政策の効果Ⅰ	マクロ経済学における財政政策について解説する。	
	4	マクロ経済政策の効果Ⅱ	マクロ経済学における金融政策について解説する。	授業後、課題の提出
	5	労働市場と賃金率の決定	労働市場における需要曲線と供給曲線の導出及び賃金率の決定について解説する。	
	6	マクロ経済学の総供給と総需要	労働市場から総供給の導出、IS-LM 分析から総需要曲線の導出について解説する。	授業後、課題の提出
	7	物価水準の決定	マクロ経済学における総需要と総供給による物価水準の決定について解説する。	授業後練習問題の提出
	8	まとめ、中間テスト	前半のまとめと中間テストの実施。範囲は1回目から7回目の内容とする。	授業前、7回目までの内容を復習すること
	9	AD-AS 分析と経済政策	物価が変動する AD-AS 分析における経済政策の効果、物価一定と仮定した IS-LM 分析と比較して、その違いについて理解する。	授業後練習問題の提出
	10	インフレーションとデフレーション	インフレーションとデフレーションの概念および物価指数について解説する。	授業後練習問題の提出
	11	インフレ率と失業率の関係	フィリップス曲線を紹介し、インフレーションと失業の関係などを解説する。	授業後練習問題の提出
	12	国際収支と海外部門の導入	国際収支表を理解し、海外部門を考慮する開放マクロ経済学について紹介する。	
	13	為替レートの決定理論	為替レート概念、国際通貨制度、購買力平価理論などについて解説する。	授業後練習問題の提出
	14	IS-IM-BP 分析と経済政策の有効性	海外部門を考慮した IS-LM-BP 分析を学ぶ。開放マクロ経済の下で、経済政策の有効性を再考する。	
	15	まとめ、総合演習	重要なポイントのまとめ及び総合演習を行う。	

関連科目	マクロ経済学Ⅰ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業での提出課題 20%、中間テスト 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
-----------	--

学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	マクロ経済学Ⅰを履修するのが望ましい。
----	---------------------

科目名	社会経済学 I	科目名 (英文)	Social Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F G H I
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2014a0		

授業概要・目的	「資本主義」とよばれる経済システムが、どのような要素で成り立っており、それが歴史的にどのように変化してきたのかを理解する。そして、現在の資本主義システムの特徴を理解し、今後どのように変わっていくかについて考察を行っていく。
到達目標	次の項目について説明でき、必要に応じて (古典派の) 経済理論について計算ができることを目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> 資本主義経済の基本的な仕組みを説明することができる。 資本主義経済の歴史的な変化について説明することができる。 現代の資本主義経済が、国ごとに多様であることを説明することができる。 上記のような知識を踏まえて、現在見られる経済関連のニュースを理解し、自分の判断を持てるようになる。
授業方法と留意点	時間割どおりの曜日・時間で授業を遠隔で行う動画配信型授業 (リアルタイム方式) として実施します。 使用する I C T ツールは Microsoft Teams です。
科目学習の効果 (資格)	経済関連のニュースに関心を持ち、それを理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	資本主義は神か悪魔か	資本主義では当たり前と思われていることを、国際比較や歴史を参考に、もう一度考えてみる。	(事前) 教科書第1章前半を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
2	経済学者の資本主義に対する見方	アダム・スミス、マルクス、ウェーバーなどの資本主義の見方を学び、資本主義をみるポイントがいくつかあることを学ぶ。	(事前) 教科書第1章後半を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
3	資本主義の基本要素 (1) : 社会的分業と貨幣	市場による調整と雇用関係という資本主義の基本要素を、「所有」や「社会的分業」という視点から見直す。	(事前) 教科書第2章「私的所有、あるいは私有財産」から「貨幣の機能」までを読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
4	資本主義の基本要素 (2) : 雇用関係と企業	雇用関係という資本主義の基本要素を、「労働力商品の特殊性」や「私企業としての資本の運動」という視点から考える。	(事前) 教科書第2章「資本主義の雇用関係」から「資本は企業の形態をとる」までを読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
5	資本主義の社会的機構	資本主義における社会的制度 (株式会社、流通機構、銀行、国家など) がどのようなものであるかを学ぶ。	(事前) 教科書第2章「資本主義の流通機構」から「近代国家」までを読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
6	生産・価値・利潤	まず、社会の人々が生き残るには、経済的にどのような条件が満たされなければならないかを考察する。これを、社会的再生産の観点という。それを理解した上で、個々の商品の価値 (価格) とそこから生まれる利潤がどういふものかを考える。	(事前) 教科書第3章「労働と生産性」から「利潤成立の条件」を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
7	再生産と資本蓄積	資本主義経済が再生産されつつ発展していく過程がどのようなものであるかを学ぶ。	(事前) 教科書第3章「生産性上昇とその社会的効果」から「投資と貯蓄」を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
8	市場経済と競争	様々な市場 (財市場、労働市場、金融市場) における競争のあり方とその結果を学習する。	(事前) 教科書第3章「労働市場と失業」から「競争と独占・革新」を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
9	資本主義の成立	資本主義の成立過程を、歴史的に理解する。	(事前) 教科書第4章前半を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
10	19世紀の資本主義	19世紀の資本主義と20世紀以降の資本主義は、同じ資本主義でも異なる。19世紀の資本主義の特質を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	(事前) 教科書第4章後半を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
11	20世紀資本主義	20世紀資本主義の成長局面の特徴を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	(事前) 教科書第5章前半を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
12	21世紀に入る資本主義	グローバル化の進展、金融資本の肥大化とバブルの形成、国家政策の効力低下、環境問題の深刻化などによって20世紀資本主義は、新しい局面に入りつつある。これらの諸問題を概観する。	(事前) 教科書第5章後半を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
13	新しい技術・労働・企業・市	新しい技術 (情報通信技術など) が労働	(事前) 教科書第7章前半を読み、独自のノートを

		場	様式、雇用関係、企業のあり方、取引関係などに与える影響を考える。	まとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。																
	14	資本主義にとっての難問	先進国における少子高齢化、新興国台頭による食料・資源問題、地球規模の環境問題、金融資本の肥大化による実体経済の混乱など、資本主義にとっての新たな難問を考察し、あり得べき解決策を考える。	(事前) 教科書第7章後半を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。																
	15	まとめ	これまでの授業を振り返り、重要点を確認し、足りなかった部分を補足する。	(事前) 教科書を全章読み、講義内容の全体を確認する (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。																
関連科目	社会経済学 II, 経済思想史																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図解雑学 資本主義のしくみ</td> <td>八木紀一郎・宇仁宏幸</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業での課題 (70%) : 授業内容に関する問題 (選択式, 計算問題, 論述式が中心)。 ・試験に変わる復習問題・レポート (30%) : 授業内容に関する復習問題とレポート提出。 																			
学生へのメッセージ	教科書を参照しながら授業を行います。この本は経済的事柄について分かりやすく書かれています。したがって、まず、この本の図を見ながら本文を読み返してください。																			
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室																			
備考																				

科目名	社会経済学 I	科目名 (英文)	Social Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2014a0		

授業概要・目的	「資本主義」とよばれる経済システムが、どのような要素で成り立っており、それが歴史的にどのように変化してきたのかを示した上で、現在の資本主義システムの特徴を明らかにした上で、今後どのように変わっていくかについて議論する。 SDGs-1, 8, 9, 10
到達目標	・資本主義経済の基本的な仕組みとそれを構成する各種概念を説明することができる。 ・資本主義経済の歴史的な変化について説明することができる。 ・上記のような知識を踏まえて、現在見られる経済関連のニュースを理解し、自分の判断を持てるようになる。
授業方法と留意点	教科書を用いた講義。 教科書を適宜用いるので、第1回から必ず利用できるようにすること。
科目学習の効果 (資格)	経済関連のニュースに関心をもち、それを理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	経済学者の資本主義に対する見方	アダム・スミス、マルクス、ウェーバーなどの資本主義の見方を学び、資本主義をみるポイントがいくつかあることを学ぶ。	教科書第1章後半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
3	資本主義の基本要素 (1) : 社会的分業と貨幣	市場による調整という資本主義の基本要素を、「所有」や「社会的分業」という視点から見直す。	教科書第2章「私的所有、あるいは私有財産」から「貨幣の機能」までを予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
4	資本主義の基本要素 (2) : 雇用関係と企業	雇用関係という資本主義の基本要素を、「労働力商品の特殊性」や「私企業としての資本の運動」という視点から考える。	教科書第2章「資本主義の雇用関係」から「資本は企業の形態をとる」までを予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
5	資本主義の社会的機構	資本主義における社会的制度 (株式会社、流通機構、銀行、国家など) がどのようなものであるかを学ぶ。	教科書第2章「資本主義の流通機構」から「近代国家」までを予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
6	生産・価値・利潤	まず、社会の人々が生存し続けるには、経済的にどのような条件が満たされねばならないかを考察する。これを、社会的再生産の観点という。それを理解した上で、個々の商品の価値 (価格) とそこから生まれる利潤がどのようなものかを考える。	教科書第3章「労働と生産性」から「利潤成立の条件」を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
7	再生産と資本蓄積	資本主義経済が再生産されつつ発展していく過程がどのようなものであるかを学ぶ。	教科書第3章「生産性上昇とその社会的効果」から「投資と貯蓄」を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
8	市場経済と競争	様々な市場 (財市場、労働市場、金融市場) における競争のあり方とその結果を学習する。	教科書第3章「労働市場と失業」から「競争と独占・革新」を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
9	資本主義の成立	資本主義の成立過程を、歴史的に理解する。	教科書第4章前半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
10	19世紀の資本主義	19世紀の資本主義と20世紀以降の資本主義は、同じ資本主義でも異なる。19世紀の資本主義の特質を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	教科書第4章後半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
11	20世紀資本主義	20世紀資本主義の成長局面の特徴を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	教科書第5章前半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
12	21世紀に入る資本主義	グローバル化の進展、金融資本の肥大化とバブルの形成、国家政策の効力低下、環境問題の深刻化などによって20世紀資本主義は、新しい局面に入りつつある。これらの諸問題を概観する。	教科書第5章後半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
13	新しい技術・労働・企業・市場	新しい技術 (情報通信技術など) が労働様式、雇用関係、企業のあり方、取引関係などに与える影響を考える。	教科書第7章前半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
14	資本主義にとっての難問	先進国における少子高齢化、新興国台頭による食料・資源問題、地球規模の環境問題、金融資本の肥大化による実体経済の混乱など、資本主義にとっての新たな難問を考察し、あり得べき解決策を考える。	教科書第7章後半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、重要点を確認し、足りなかった部分を補足する。	教科書をひととおり読み、自分の理解度をチェックし、期末試験に向けた準備を行う。

関連科目	社会経済学 II, 経済思想史								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業時間内外の課題 70%、期末レポート 30%の割合で評価します。授業時間内外の課題では Moodle を利用するので、授業初回での指示にしたがって速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けないので注意してください。			
学生への メッセージ	毎回、講義で教科書を参照しますので、教科書は、必ず買ってください。 この本では、一流の研究者が経済的事柄について分かりやすく書いています。したがって、まず、この本の図を見ながら、本文を読み返してください。くれぐれも、ウェブサイトだけを見るのはやめましょう。そこでは、ときどき、きわめて偏った説明がされています。			
担当者の 研究室等	1号館7階 原田准教授室			
備考				

科目名	社会経済学Ⅱ	科目名 (英文)	Social Economics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9△		
科目ナンバリング	WDW2015a0		

授業概要・目的	<p>通常、経済学はその分析対象を経済活動＝取引が行われる場を「市場」に限定する。しかし、経済取引の場は市場に限られないし、経済活動は他者と関係を取り結ぶということでもある。また、私たちは日々の暮らしの中で、さまざまな面で社会的な関係をもつが、そこでは一定の行動ルール＝制度が存在する。そのことは経済的取引においても当てはまり、あらゆる経済活動は——市場取引さえも——一定の制度的な枠組みに従っていると考えることができ、現実にもそうである。</p> <p>この講義は、経済活動における制度の存在とその役割を重視する制度経済学の</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済活動を理解する上での「制度の重要性」を説明できる。 ・ 労働力商品の特殊性と賃労働関係について説明することができる。 ・ 資金の多面的役割を、資金交渉制度の多様性の説明に適用できる。 ・ 技能形成や生産組織が国ごとにどのように異なるかについて説明することができる。 ・ コーポレート・ガバナンスの多様性を規定する諸要因を具体的に述べるることができる。 ・ 企業の資金調達方法の国ごと違いについて説明することができる。 ・ 社会保障制度の多様性を規定する諸要因を述べるることができる。 ・ 制度と経済パフォ
授業方法と留意点	適宜資料を配布しつつ、講義形式による授業を行う。演習問題を行うなどして、授業の理解を促進する。
科目学習の効果 (資格)	社会経済学 (制度経済学) が経済の動きをどのように説明するかを理解することで、標準的な経済学との比較が可能になり、現実の経済社会で起きている問題を理解する上で、多様なものの見方を行うことができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	これまでに学習した経済学と制度経済学との違いについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。
2	市場とコーディネーション	市場による調整と制度による調整 (コーディネーション) の違いについて議論する	教科書第 6 章「市場による調整」から「資本主義の多様性」までを予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
3	技能形成のちがいがい	労働者の技能形成や教育制度が国によってどのように異なるかを理解する。	教科書第 6 章「技能形成のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
4	生産組織のちがいがい	企業における生産組織が国によってどのように異なるかを解説し、そのような違いが各国の経済活動の特化に影響を与えることを理解する。	教科書第 6 章「生産組織のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
5	雇用制度のちがいがい	雇用制度が国によってどのように異なるかを解説する。	教科書第 6 章「雇用制度のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
6	労使関係と賃金交渉のちがいがい	労使関係と賃金交渉制度が国によってどのように異なるかを解説する。	教科書第 6 章「労使関係と賃金交渉のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
7	資金調達のちがいがい	企業による資金調達が国によってどのように異なるかを明らかにする。	教科書第 6 章「資金調達のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
8	企業統治のちがいがい	企業は誰のものであるかを議論した上で、企業統治が国によってどのように異なるかを明らかにする。	教科書第 6 章「企業統治のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
9	福祉制度のちがいがい	社会保障制度が国によってどのように異なるかを明らかにする。	教科書第 6 章「福祉制度のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
10	制度と経済パフォーマンス	経済制度が異なることで経済パフォーマンスがどのように異なるかについて議論する。	事前学習課題を読み込む。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
11	制度の補完性	異なる分野の制度がどのような関係をもつ可能性があるかについて解説する。	教科書第 6 章「制度の補完性」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
12	資本主義の多様性	資本主義経済が全体としてどのように多様となるかについて、各種議論を紹介しつつ明らかにする。	教科書第 6 章「米国型資本主義」「日本型資本主義」「発展途上国の資本主義」「中国の「社会主義市場経済」」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
13	経済システムと政治システム	制度の多様性を生み出す要因として政治を取り上げ、経済システムと政治システムとの対応について議論する。	事前学習課題を読み込む。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
14	米国型資本主義に収れんするか	金融化やグローバル化といった潮流の中で、資本主義の多様性がどのように推移するかについて議論する。	教科書第 6 章「米国型資本主義に収れんするか」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
15	まとめ	これまでの議論を振り返って、資本主義経済の多様性と動態について改めて考える。	これまでの授業全体を復習して、期末試験に向けた準備を行う。

関連科目	社会経済学Ⅰ
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業時間内外の課題 (70%), 期末レポート (30%) の割合で評価します。授業時間内外の課題では Moodle を利用するので、速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けないので注意してください。		
学生への メッセージ	経済学は、抽象的な概念やモデルを用いて議論を行います。その際、何が原因でどのようなことが生じるのかという因果関係を理解することが重要となります。そうした考え方を身につけるには、それなりの労力が必要です。授業では、社会経済学・制度経済学の基礎的な概念を少しずつ説明していきますが、ただ授業を聞いているだけでそうした考え方を身に付けるのは困難でしょう。受講生の皆さんには問題演習などを通じて、積極的に学修に取り組んでもらいたいと思います。		
担当者の 研究室等	1号館7階 原田准教授室		
備考			

科目名	統計学	科目名 (英文)	Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F G H I
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2016a0		

授業概要・目的	<p>「結果を残すことが大切だ」ービジネスの世界でもスポーツの世界でもよく聞くこの言葉は、確かに1つの真理です。では、結果を残すためにはどうすればよいのでしょうか。「努力」はもちろん、大切ですが。そして(悪いことをせずに)結果を残せるならば、「勤」や「運の強さ」に頼ることも良いでしょう。しかしこれらだけで良いのでしょうか。</p> <p>より良い結果を残すための行動、あるいはそのための「努力」の1つの方向性として、「データに基づいた分析」があります。それまでに取り組んだ人達の結果をもとに、結果を残せた要因や失敗の原因を調</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データを通じて、世の中のことを知る。 2. データに騙されないように、データの特性を知る。 3. 世の中のことを知るための基本的な統計分析の手法を修得する。 4. 確率変数、分布など、今後の学習の基礎となる知識を習得する(計量経済学の前提科目です)。
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> (1) 対面式講義が実施できない場合は、Microsoft Teams を利用して講義をリアルタイム配信します。 (2) 講義資料は Web Folder 及び Microsoft Teams の各講義回のチャンネルにアップロードします。 (3) 講義中の課題(練習問題)や質問の投票は Microsoft Forms を利用して回答してください。なお、練習問題や投票には、制限時間を設けますので、気をつけてください。 (4) 講義資料には、PowerPoint と PDF ファイルがあります。PowerPoint ファイルには解説用
科目学習の効果(資格)	データに惑わされず、データを上手に活用するための基礎知識が身に付きます。また、統計検定など資格試験を準備するうえでの統計学・確率の基礎知識が身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに:注意事項/この講義で学ぶこと	授業内容の概要、データ分析の目的	シラバスおよび配布資料(1)
2	データと仮説:「修羅の国」の話/肉じゃがに何の肉を使うか?	データを通して世の中を見る	配布資料(2)
3	度数分布:日本の家計はお金持ちか?	平均と分散の話 データの散らばりを視覚的にとらえる	配布資料(3)
4	2変数間の関係 :アニメ「サザエさん」と景気	共分散、相関係数	配布資料(4)
5	確率(確率、独立試行) :番号「111111」の宝くじを手に入れたら?	確率の基本と独立な試行について	配布資料(5)
6	確率(条件付確率) :実践・モンティ・ホール問題	条件付確率とベイズの定理の基本	配布資料(6)
7	確率変数と分布(1) :「偏差値」はこの話です	正規分布とその使い方について	配布資料(7)
8	確率変数と分布(2) :自然界の法則?	その他の分布	配布資料(8)
9	標本平均の分布 :視聴率調査の不思議	標本の意味、標本平均について	配布資料(9)
10	標本分散の分布 :「分散」に平均と分散?	標本分散の意味・特徴について	配布資料(10)
11	推定(1)	推定概念、点推定について	配布資料(11)
12	推定(2)	区間推定について	配布資料(12)
13	検定(1)	仮説検定の考え方	配布資料(13)
14	検定(2)	様々な検定について	配布資料(14)
15	講義のまとめ	講義の復習、要点のまとめ、定期試験に対するアナウンス	これまでの講義資料

関連科目	この講義は、計量経済学の前提科目です。
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	統計学入門	森棟公夫	新世社
	2	基本統計学 第3版	谷崎久志 他	東洋経済新報社
	3	統計学から始める計量経済学	北坂真一	有斐閣ブックス

評価方法(基準)	講義中の課題(練習問題、配点25点)、試験(配点50点)、レポート(配点25点)で評価します。Microsoft Forms で解答する練習問題は、解答期間を設けます。原則として次回の講義開始時までを練習問題の解答期限とします。また、試験はMicrosoft Forms を利用して実施します。
----------	---

学生へのメッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」です。高校の数学では、統計学についてほとんど触れないことが多いので、初めて聞く内容も多いかと思います。講義をただ聞いているだけでは、十分に内容を理解することはできません。復習をきちんとしてください。この講義は遠隔式ですが、Microsoft Forms を利用した出欠調査を実施します。無断欠席が多い場合は、単位取得を認めません。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	統計学	科目名 (英文)	Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	熊川 剛久
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2016a0		

授業概要・目的	大学で学問を学ぶためには、統計学の基本的な知識が不可欠です。また、ビジネスの現場においても、統計学に基づいた根拠のある主張を求められます。この授業で、統計学の基礎を一緒にこつこつ学んでいきましょう。
到達目標	統計学の基礎的な知識を身につけ、使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	この授業では、受講生自身が手を動かして問題を解いていくというエクササイズを大切にします。授業をただ聞いているだけでは、統計学を修得することは難しいです。ぜひ積極的に授業に参加してください。
科目学習の効果 (資格)	統計学の基礎的な知識を身につけることで、応用科目へと橋を架けることができます。また、各種資格試験における統計学や確率論の問題が解けるようになります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	度数の分布	度数分布表、ヒストグラムと度数分布多角形、幹葉図、相対度数、累積度数と累積相対度数	シラバス、配布資料
	2	代表値、四分位数と箱ひげ図	平均値、中央値、最頻値、四分位数、五数要約と箱ひげ図、ヒストグラムと箱ひげ図	配布資料
	3	分散と標準偏差	分散と標準偏差、手順表の利用、分散を求めるもう一つの式	配布資料
	4	散布図と相関係数 (1)	散布図と相関、共分散	配布資料
	5	散布図と相関係数 (2)	相関係数、相関の強弱、相関係数に関する注意点	配布資料
	6	回帰分析 (1)	回帰直線	配布資料
	7	回帰分析 (2)	決定係数	配布資料
	8	中間試験	中間試験	配布資料
	9	標本調査 (1)	全数調査と標本調査	配布資料
	10	標本調査 (2)	無作為抽出と乱数	配布資料
	11	確率と確率分布 (1)	確率の定義と定理	配布資料
	12	確率と確率分布 (2)	確率変数と確率分布	配布資料
	13	確率と確率分布 (3)	二項分布と正規分布	配布資料
	14	推測統計 (1)	仮説検定	配布資料
	15	推測統計 (2)	区間推定	配布資料

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての統計学	鳥居泰彦	日本経済新聞出版
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内で取り組む課題の結果 : 10% 最終課題の結果 : 90% 合計 100%、100 点満点で評価いたします。
-----------	--

学生へのメッセージ	統計学は数学を使いますが、できるだけ分かりやすい解説ができるようがんばります。授業では、いつでも質問していただいて大丈夫です。気になったことは遠慮なくどんどん聞いてください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	統計学演習	科目名 (英文)	Seminar in Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2017a0		

授業概要・目的	情報化社会において、統計学を用いたデータ分析のスキルと知識は必要不可欠である。本講義はコンピューターを使った正しいデータ分析の方法を習得することを目的にしている。
到達目標	統計学の基礎知識を理解し、経済データの収集・処理の能力を養う。 各授業・ゼミで課される課題や卒業論文の作成に役に立つデータ分析のスキルを身につける。
授業方法と留意点	授業は情報演習室で統計ソフトを利用した実習形式になる。 欠席が続くと授業に追いつくのが困難になる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の全体像を紹介した上、授業の進め方と統計ソフトの使い方などについて説明を行う。	事後学習課題
2	記述統計の基礎 1	データの基本統計量、ヒストグラムなどについて説明する。	事後学習課題
3	記述統計の基礎 2	データの散布図、相関係数などについて説明する。	事後学習課題
4	経済データの扱い方	経済データの種類と入手の方法について説明する。	事後学習課題
5	単純回帰モデル、最小二乗法 1	最小 2 乗法について理論的な説明を行う。	事後学習課題
6	単純回帰モデル、最小二乗法 2	統計ソフトによる単純回帰モデルの分析方法を学ぶ。	事後学習課題
7	単純回帰モデル、最小二乗法 3	単純回帰モデルの応用例をいくつか紹介する。	事後学習課題
8	中間テストと解説	前半の内容を演習を通じて理解すること。	
9	回帰モデルの仮説検定 1	確率分布と仮説検定の考え方について説明する。	事後学習課題
10	回帰モデルの仮説検定 2	回帰モデルによる分析結果の解釈方法を説明する。	事後学習課題
11	多重回帰モデル 1	多重回帰モデルによるデータ分析の方法について説明する。	事後学習課題
12	多重回帰モデル 2	経済学で多重回帰モデルの応用例を紹介する。	事後学習課題
13	ダミー変数とその応用	ダミー変数を用いたモデルの推定結果の意味を説明する。	事後学習課題
14	回帰モデルの診断と選択	正しい分析モデルの選択について実践的な方法を学ぶ。	事後学習課題
15	総まとめと演習問題		

関連科目	統計学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業での提出課題 20%、中間テスト 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
-----------	--

学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館 7階 郭准教授室
------------	--------------

科目名	経済データサイエンス入門	科目名 (英文)	Introduction to Data Science for Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	熊川 剛久
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2018a0		

授業概要・目的	この授業は、データを分析して解釈したり、データに基づいて意思決定を行ったりする際に、知っておくべき大切な知識を身につけることを目指します。
到達目標	データの質や分析の質の良し悪しを判断することができる。 データの解釈において、身近に潜む落とし穴に落ちることなく、適切な解釈ができるようになる。
授業方法と留意点	受講生が主役となり、問題やクイズに挑戦する時間を大切にします。 ぜひ積極的に授業に参加してください。
科目学習の効果 (資格)	データの解釈についての鋭い視点を身につけることで、卒業研究に役立つのはもちろんのこと、社会人になったあとも物事の本質を見抜くことができるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業についてのガイダンス	授業についてのガイダンス	シラバス、配布資料
2	データに含まれるバイアス (1)	測定基準の問題	配布資料
3	データに含まれるバイアス (2)	選択バイアスの問題	配布資料
4	データに含まれるバイアス (3)	観測介入の問題	配布資料
5	データに含まれるバイアス (4)	人為的な問題	配布資料
6	データ分析の落とし穴 (1)	データ操作の問題	配布資料
7	データ分析の落とし穴 (2)	データの利用可能性の問題	配布資料
8	データ分析の落とし穴 (3)	分析目的にまつわる問題	配布資料
9	前半のふりかえり	前半のふりかえり	配布資料
10	データ解釈の落とし穴 (1)	信頼性の問題	配布資料
11	データ解釈の落とし穴 (2)	認知バイアスの問題 (1)	配布資料
12	データ解釈の落とし穴 (3)	認知バイアスの問題 (2)	配布資料
13	データ活用の落とし穴 (1)	意思決定の問題	配布資料
14	データ活用の落とし穴 (2)	データの取得費用の問題	配布資料
15	データ活用の落とし穴 (3)	データ管理の問題	配布資料

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
授業内の課題：10%
最終課題：90%
合計100%、100点満点で評価いたします。

学生へのメッセージ
授業はZoomによるライブ形式 (リアルタイム) で行います。
Zoom ミーティングの URL は、ポータルのお知らせと Teams のページに初回授業の前日までに掲載するようにいたします。
ご確認をお願いいたします。

担当者の研究室等
研究室は1号館7階です。

備考

科目名	労働経済学	科目名 (英文)	Labour Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2019a0		

授業概要・目的	<p>講義では、労働統計などから、キャリア形成に役立つデータを紹介し、そこから何がでてくるのかを説明します。経済学が明らかにしてきた事実から自身の今後のキャリア形成を考えると同時に、社会問題としての労働問題も同時に理解していきます。</p> <p>本講義では、様々な労働統計、データ、図表からどこに注目し、何がでてくるのかを説明していきます。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 労働経済学の基礎的な考え方を知る。 講義の知見から自身の今後のキャリア形成を考えることができる。 現代日本で起こっている労働問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。
授業方法と留意点	時間割どおりの曜日・時限で授業を遠隔で行う動画配信型授業（リアルタイム方式）として実施します。使用するICTツールはMicrosoft Teamsです。
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）することができる。 就職活動を客観視できるようになり、職業選択に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法、授業内容の全体像について説明します。	教科書を購入し「はしがき」を読む。
2	働き方の変化	労働市場とは何かを説明し、就労状況が時代によって変動するのはなぜなのかを考えます。	（事前）教科書第1章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
3	キャリアをデザインすること	進路選択や就職にとって大切なこととは何かを解説します。職業や働き方の調べ方を説明します。	（事前）教科書第2章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
4	求職と求人	企業は毎年多くの人を採用しています。逆に、毎年多くの人が就職・転職しています。そこにはどうしてもミスマッチが生まれますが、そのメカニズムを探ります。	（事前）教科書第3章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
5	就職活動と大学教育	教育、特に大学教育に関する個人の選択について、経済学的な考え方を学びます。	（事前）教科書第4章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
6	賃金格差	賃金は生産性によって決まる。したがって、賃金格差を分析する場合、その生産性の差を決定づける要因を考えなければなりません。	（事前）教科書第5章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
7	昇進と昇格	会社で働く人の大きな関心事に出世があります。社長や管理職の実態を把握し、訓練、選抜、労働意欲の観点から出世の仕組みを説明します。	（事前）教科書第6章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
8	労働時間と休暇	仕事と生活をバランスさせることは、働く人にとって重要なテーマです。労働時間や休暇の実態、それらが健康や家庭生活に及ぼす影響を考えます。	（事前）教科書第7章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
9	福利厚生	企業は従業員の福利厚生にどれほどの費用を投じているのか、またその理由は何か、といった点を探っていきます。	（事前）教科書第8章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
10	ダイバーシティ	男性労働者だけではなく、多様な人材活用が求められています。日本企業の女性活用の実態を見ていきます。	（事前）教科書第9章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
11	離職と転職	会社辞める理由は多々ありますが、会社辞める決断をする背景や辞めた後に起こる事実について学びます。	（事前）教科書第10章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
12	解雇と失業	自分の雇用がどの程度安定的かは、働く上での重要な関心事でしょう。美豆から望まない離職がどうして起きるのかを考えます。	（事前）教科書第11章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
13	定年退職	いつかは引退の日がやってきます。定年制や継続雇用の現状や経済学的な考え方を学びます。	（事前）教科書第12章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
14	コーポレートガバナンスと従業員	株主、経営者といった企業の様々な利害関係者と従業員の関係を説明します。	（事前）教科書第13章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。
15	様々なキャリア	会社だけが働く場所ではないだろう。国内企業で働く以外の働き方を考えてみる。	（事前）教科書第14章を読み、独自のノートをとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する（60分）。

関連科目	公共経済学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャリアのみかた (改訂版)	阿部正浩・松繁寿和	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	どうする日本の労働政策	櫻井純理編	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業での課題 (70%) : 授業内容に関する問題 (選択式, 計算問題, 論述式が中心)。 ・試験に変わる復習問題・レポート (30%) : 授業内容に関する復習問題とレポート提出。 			
学生への メッセージ	労働の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。労働市場の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか, 経済学的思考で考えてください。			
担当者の 研究室等	1号館7階 平尾研究室 (経済学部)			
備考				

科目名	経済思想史	科目名 (英文)	History of Economic Ideas
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大槻 忠史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2○, DP3○, DP4◎, DP5○, DP6△, DP7◎, DP8○, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2020a0		

授業概要・目的	我々が「経済学」と呼ぶこの学問がこれまでどのような歴史をたどり、どのような問題意識の下で発展してきたのかについて、その概観を学ぶ。
到達目標	次の二つを目標とする。第一に、経済学にこれまで存在してきた諸概念や理論を理解すること。第二に、それらが我々の日常生活や社会といかに関わりを持ちつつ発展してきたのかを理解すること。
授業方法と留意点	1. 基本的には、講義スタイルで授業を進めます。また、コメントシート等の利用により、理解度を測ります。 2. 資料を配布しますが、それらに依存しないこと。講義に集中し、必要に応じてメモを取る習慣をつけて下さい。また、疑問点などは、自ら調べると共に、質問等により自ら解決するように心がけて下さい。
科目学習の効果 (資格)	ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎的内容の習得、また経済史や経済思想史の基礎と位置付けることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済思想史とは？経済思想史を通じて何を学ぶのか？	事前：シラバスの熟読 事後：授業内容の復習
2	古代と中世の「経済」思想	古代と中世の「経済」	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題1
3	重商主義と経済学	重商主義の時代の経済学：その背景と概観	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題2
4	古典派経済学 1	古典派経済学の成立と A. スミス	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題3
5	古典派経済学 2	産業革命と R. マルサス	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習
6	古典派経済学 3	D. リカードと R. マルサス	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習
7	市場経済への批判 1	ドイツ歴史学派	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題4
8	市場経済への批判 2	ユートピアと社会主義思想	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習
9	市場経済への批判 3	K. マルクスの経済学：背景と展開	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題5
10	新古典派経済学	限界革命：ミクロ経済学の形成・発展	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題6
11	市場経済への批判 4	T. ヴェブレン	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題7
12	経済学の新たな展開 1	J. M. ケインズ：マクロ経済学の形成・発展	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習
13	経済学の新たな展開 2	J. A. シュンペーターの経済学	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題8
14	経済学と日本	「経済学」の輸入以前と輸入直後、そしてその後の概観	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習
15	まとめ	全体の見取り図を作成する	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習

関連科目 経済学入門(エコノミックリテラシー)、ミクロ経済学、マクロ経済学、世界経済史(西洋経済史)、日本経済史など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特定の教科書は利用しない。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済学の歴史：市場経済を読み解く	中村達也 ほか	有斐閣アルマ
2	経済思想 <第2版>	八木紀一郎	日本経済新聞出版社	
3				

評価方法 (基準) レポート(60%)及び授業内課題(40%)を予定しています。授業形式により、変更の可能性があります。

学生へのメッセージ 「歴史を学ぶ」と聞くと、年代や人物、出来事などの暗記と思うかもしれませんが、もちろん、最低限必要な知識はありますが、経済学の歴史を自分なりに理解することに重点を置いてほしいと思います。担当者は、理解が進めば、知識は後からついてくると考えています。少なくとも本講義では、知識の暗記に終始することは求めません。常に自ら考えることを求めたいと思います。

担当者の研究室等備考 1号館7階 大槻研究室

科目名	世界経済史	科目名 (英文)	World Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大槻 忠史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2021a0		

授業概要・目的	世界の国や地域、社会などがこれまでどのような歴史をたどり、現在の状態に至るのかについて、特に経済活動に関わる部分に焦点を当て、その概観を学ぶ。
到達目標	次の二つを目標とする。第一に、特に重要な活動や出来事について、その概観と背景を理解すること。第二に、それらが現在においてもなお我々の日常生活や社会といかに関わりを持っているのかを理解すること。
授業方法と留意点	1. 基本的には、講義スタイルで授業を進めます。また、コメントシート等の利用により、理解度を測ります。 2. 資料を配布しますが、それらに依存しないこと。講義に集中し、必要に応じてメモを取る習慣をつけて下さい。また、疑問点などは、自ら調べると共に、質問等により自ら解決するように心がけて下さい。
科目学習の効果 (資格)	2年次後半、また3、4年次に履修する科目をより深く理解することにつながると考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済史とは何か? 経済史を通じて何を学ぶのか?	事前: シラバスの熟読 事後: 授業内容の復習
2	中世までの経済活動 (1)	アジアを中心に、中世までの経済活動について概観をえる。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習
3	中世までの経済活動 (2)	ヨーロッパを中心に、中世までの経済活動について概観をえる。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 1
4	経済活動と宗教改革	経済活動と宗教の関係性について考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 2
5	いわゆる「世界の一体化」(1)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、ヨーロッパと中南米地域の関係を考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題
6	いわゆる「世界の一体化」(2)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、ヨーロッパとアフリカ地域の関係を考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題
7	いわゆる「世界の一体化」(3):	いわゆる「世界の一体化」の時期における、アジアの発展、またアジアとヨーロッパとの関係を考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 3
8	イギリスの産業革命	イギリスの産業革命について、産業発展の実態とその背景、影響などについて、考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 4
9	日本の開国と発展	日本の開国とその後の発展について概観を得る。そして、世界市場への参入とその意味という観点から位置付ける。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習
10	イギリスの衰退とアメリカ合衆国の台頭	アメリカ合衆国の台頭について、その背景と実態について概観を得る。そして、それが 20 世紀の世界的な経済活動や体制に与えた影響について考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 5
11	社会主義経済体制の出現	ロシア革命とその実態、影響について、経済的側面から考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 6
12	世界恐慌と経済体制の変化	世界恐慌がもたらした経済活動への影響、また戦時の経済経済体制について概観を得る。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 7
13	第二次世界大戦後の世界経済 (1)	植民地の独立がもたらした影響と世界経済体制の新たな課題について、考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習と小課題 8
14	第二次世界大戦後の世界経済 (2)	1990 年代以降の世界経済体制とその変化、また経済危機について、考察する。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習
15	まとめと経済発展論の紹介	全体の見取り図を描くと共に、経済発展論について簡潔に学ぶ。	事前: 事前課題について、調べる 事後: 授業内容の復習

関連科目 経済学入門(エコノミックリテラシー)、日本経済史、経済思想史など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特定の教科書は使用しません。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界経済の歴史 (第2版)	金井雄一 ほか	名古屋大学出版会
2	現代日本経済史	中村宗悦	学文社
3			

評価方法 (基準) レポート(60%)及び授業内課題(40%)を予定しています。授業形式により、変更の可能性あります。

学生へのメッセージ 「歴史を学ぶ」と聞くと、年代や人物、出来事などの暗記と思うかもしれませんが、もちろん、最低限必要な知識はありますが、自分なりに理解することに重点を置いてほしいと思います。担当者は、理解が進めば、知識は後からついてくると考えています。少なくとも本講義では、知識の暗記に終始することは求めません。常に自ら考えることを求めたいと思います。授業で扱うことのできない国や地域、社会、時期、項目などについては、自ら進んで調べてみてください。知識がつながり、理解が深まります。

担当者の研究室等 1号館7階 大槻研究室

科目名	簿記原理 I	科目名 (英文)	Principles of Bookkeeping I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW1022a0		

授業概要・目的	一定期間 (通常 1 年間) の経営成績を企業内外部の利害関係者に報告するための一連のプロセスが会計システムであり、会計システムの中で会計情報を作るようになる。会計情報を作るための重要な手段が簿記であるため、簿記の基本を理解することで、実際の企業経営に必要な財務情報の作成・管理の仕組みを把握する。簿記の基本的な手続きを理解し、日常的な取引を適切な勘定科目を用いて帳簿記録 (仕訳) ができるように「取引」と「勘定科目」の説明を行う。また簿記における最終結果物である財務諸表の作成を身につけるとともに企業の財務諸表が読め
到達目標	(1) 簿記で使われる勘定科目の理解 (2) 簿記の基本的な手続き (特に、日常の手続き) の理解 (3) 会社の財務諸表 (決算報告書) が理解できて、読めること (4) 経営管理における財務管理の必要性の理解
授業方法と留意点	授業はパワーポイントと板書を並行する。授業は 90 分を一つの単位で、「理論説明」「演習」「確認テスト」として構成される。毎回の授業内容は演習と確認テストを通じて、90 分の時間内に理解できるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	本授業は経営分野すべての基礎である会計学の基礎知識の習得が可能な内容である。また、日商簿記・税理士・会計士・中小企業診断士、FP、SA 等経営会計関連資格の基礎科目である。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	ガイダンス・簿記の概要	講義の進め方、講義の概要などを説明
授業計画	2	日常の手続き：現金・現金過不足	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、現金と関連する取引について学習する	演習問題・確認テスト
	3	日常の手続き：当座預金・小口現金①	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、当座預金と小口現金と関連する取引の仕組みを理解し、関連する取引を記録できるようにする	演習問題・確認テスト
	4	日常の手続き：当座預金・小口現金②	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、当座預金と小口現金と関連する取引の仕組みを理解し、関連する取引を記録できるようにする	演習問題・確認テスト
	5	日常の手続き：手形①	手形の仕組、種類 (約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・確認テスト
	6	日常の手続き：手形②	手形の仕組、種類 (約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・確認テスト
	7	日常の手続き：手形③	手形の仕組、種類 (約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・確認テスト
	8	その他の日常 (期中) の取引①	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	9	その他の日常 (期中) の取引②	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	10	その他の日常 (期中) の取引③	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	11	その他の日常 (期中) の取引④	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	12	その他の日常 (期中) の取引⑤	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト

	13	総勘定元帳の締め切りプロセス	期中に日常的に発生する取引を記録した総勘定元帳の締め切りプロセスを学習する。資産勘定科目・負債勘定科目・資本勘定科目の締め切りと次期繰り越しの手續きおよび、収益勘定科目と費用勘定科目の損益への振り替え手續きを理解する。	演習問題・確認テスト
	14	試算表および精算表の理解	決算報告書である精算表の形式および内容を理解し、また精算表の作成過程である試算表を理解し、作成手續きを学習する。	演習問題・確認テスト
	15	まとめ	講義のまとめおよび質疑応答	演習問題
関連科目	「会計学入門」「簿記原理Ⅱ」「管理会計論」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末評価 60%、平常点 40% (授業中の演習・レポートなどで総合的に評価する)			
学生への メッセージ	「簿記原理Ⅰ」を履修するためには、「会計学入門」を履修しているか、または、それに相当する基礎知識を習得していることが望ましい。			
担当者の 研究室等	1号館7階 朴教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	簿記原理Ⅱ	科目名 (英文)	Principles of Bookkeeping II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW2023a0		

授業概要・目的	一定期間の経営成績を企業内外部の利害関係者に報告するためには、年1回決算を行う。本講義では、決算手続きを理解し、決算決算報告書（財務諸表；貸借対照表と損益計算書）の作成ができるように、企業会計基準に沿って決算手続きの解説と演習を行う。
到達目標	1. 簿記の基本的な手続きの理解 2. 日常の手続き・決算手続きができること 3. 財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の作成と解説ができること
授業方法と留意点	授業は Moodle で行う。パワーポイントを動画にしてアップロードするので、受講して課題を提出する。課題は提出期限を厳守しなければ評価対象にならないため、必ず時間割のスケジュールとおりに受講して期限内に提出してください。
科目学習の効果 (資格)	日商簿記・税理士・公認会計士・中小企業診断士、FP、SA 等経営会計関連資格の基礎科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	商品取引の記帳 I	売買業において最も頻繁に発生する商品取引の記録方法である分記法と3分法の理解と記帳	演習問題または課題の提出
3	商品取引における期末手続き①	3分法を採用した場合の期末手続きの必要性、売上原価・商品売買益の計算の仕組みの理解、3分法で用いられる勘定の記帳と理解と演習	演習問題または課題の提出
4	商品取引における期末手続き②	3分法を採用した場合の期末手続きの必要性、売上原価・商品売買益の計算の仕組みの理解、3分法で用いられる勘定の理解と記帳	演習問題または課題の提出
5	商品取引における期末手続き③	3分法を採用した場合の期末手続きの必要性、売上原価・商品売買益の計算の仕組みの理解、3分法で用いられる勘定の理解と記帳	演習問題または課題の提出
6	収益・費用の繰延べ①	利益計算は「同じ期間に発生した収益と費用」のみ集計する。そのため決算時には「費用の前払」「収益の前受」金額は利益計算で調整（削除）する必要がある。このような調整手続きが繰延べである。繰延の仕組みと手続きを理解・演習	演習問題または課題の提出
7	収益・費用の繰延べ②	利益計算は「同じ期間に発生した収益と費用」のみ集計する。そのため決算時には「費用の前払」「収益の前受」金額は利益計算で調整（削除）する必要がある。このような調整手続きが繰延べである。繰延の仕組みと手続きを理解・演習	演習問題または課題の提出
8	収益・費用の見越し①	利益計算は「同じ期間に発生した収益と費用」のみ集計する。そのため決算時には「費用の未払」「収益の未収」金額は利益計算で調整（削除）する必要がある。このような調整手続きが見越しである。繰延の仕組みと手続きを理解・演習	演習問題または課題の提出
9	収益・費用の見越し②	利益計算は「同じ期間に発生した収益と費用」のみ集計する。そのため決算時には「費用の未払」「収益の未収」金額は利益計算で調整（削除）する必要がある。このような調整手続きが見越しである。繰延の仕組みと手続きを理解・演習	演習問題または課題の提出
10	現金過不足・消耗品と消耗品費①	現金過不足の意味と処理方法、消耗品と消耗品費勘定の理解と決算手続きの演習	演習問題または課題の提出
11	現金過不足・消耗品と消耗品費②	現金過不足の意味と処理方法、消耗品と消耗品費勘定の理解と決算手続きの演習	演習問題または課題の提出
12	貸倒れ・貸倒損失・貸倒引当金	経営上、発生する貸倒れに関連する勘定の理解と、決算手続きの演習	演習問題または課題の提出
13	固定資産と減価償却費①	固定資産と関連して発生する費用勘定科目である減価償却費の意味を理解し、決算手続きを演習。また減価償却費の記帳方法である直接法と間接法における勘定記入と理解	演習問題または課題の提出
14	固定資産と減価償却費②	固定資産と関連して発生する費用勘定科目である減価償却費の意味を理解し、決算手続きを演習。また減価償却費の記帳方法である直接法と間接法における勘定記入と理解	演習問題または課題の提出
15	まとめ	講義のまとめおよび質疑応答	

関連科目	「会計学入門」「簿記原理Ⅰ」「管理会計論」
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60% 平常点 40% (主に課題・レポ)			
学生への メッセージ	第1回目のガイダンスは必ず出席する。講義内容は複数週に渡ってつながっており、継続的に受講したほうが理解しやすい。 ※「簿記原理Ⅱ」を履修するためには、「簿記原理Ⅰ」「会計学入門」を履修しているか、または、それに相当する基礎知識を習得していることが望ましい。			
担当者の 研究室等	1号館7階 朴教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	財政学	科目名 (英文)	Public Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2024a0		

授業概要・目的	日本における予算制度、歳出と歳入、税金のあり方、公債の特徴、地方財政制度について説明し、現在の日本が直面している財政の状況、財政赤字、高齢化に伴う社会保障、地方分権等の問題についての理解を深めます。																																																																		
到達目標	現在の日本の財政が直面している財政赤字、社会保障、所得税・消費税・法人税などの税金の問題を具体的な数字を見ることによって理解し、一国民として今後の日本の将来を考えてもらう。																																																																		
授業方法と留意点	10回目に中間試験、15回目に期末試験を Moodle で行います。 それ以外の回については、Moodle、Web Folder に講義関係の資料を Upload しておきます。 Moodle: 講義スライド (PDF) Web Folder: 講義スライド (音声入力) 連絡手段に Teams を使う可能性がありますので登録お願いいたします。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	私達の身近な問題である、財政赤字、税金、社会保障の問題が詳しくわかります。また公務員試験の勉強にも役立ちます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>財政論とは?</td> <td>財政学の考え方と財政の役割について説明する。</td> <td>講義ノートの復習 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>予算原則と予算制度</td> <td>日本の予算制度について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>歳出と歳入</td> <td>我が国の財政事情について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>社会保障制度 I</td> <td>年金・医療保険・生活保護等について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>社会保障制度 II</td> <td>年金・医療保険・生活保護等について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各国の財政事情</td> <td>先進国の財政事情について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>税金</td> <td>直接税・間接税の特徴について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>我が国の租税制度 I</td> <td>所得税、支出税、法人税について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>我が国の租税制度 II</td> <td>消費税、贈与税、最近の税制改革について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>中間試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>公債</td> <td>我が国の公債について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>公債の理論</td> <td>公債による経済的な影響について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>地方財政 I</td> <td>国と地方の役割分担について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>地方財政 II</td> <td>地方税と補助金 (国庫支出金、地方交付税) について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末試験</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	財政論とは?	財政学の考え方と財政の役割について説明する。	講義ノートの復習 (1時間)	2	予算原則と予算制度	日本の予算制度について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)	3	歳出と歳入	我が国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)	4	社会保障制度 I	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)	5	社会保障制度 II	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)	6	各国の財政事情	先進国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)	7	税金	直接税・間接税の特徴について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)	8	我が国の租税制度 I	所得税、支出税、法人税について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)	9	我が国の租税制度 II	消費税、贈与税、最近の税制改革について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)	10	中間試験			11	公債	我が国の公債について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)	12	公債の理論	公債による経済的な影響について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)	13	地方財政 I	国と地方の役割分担について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)	14	地方財政 II	地方税と補助金 (国庫支出金、地方交付税) について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)	15	期末試験		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	財政論とは?	財政学の考え方と財政の役割について説明する。	講義ノートの復習 (1時間)																																																																
2	予算原則と予算制度	日本の予算制度について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)																																																																
3	歳出と歳入	我が国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)																																																																
4	社会保障制度 I	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)																																																																
5	社会保障制度 II	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)																																																																
6	各国の財政事情	先進国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)																																																																
7	税金	直接税・間接税の特徴について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)																																																																
8	我が国の租税制度 I	所得税、支出税、法人税について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)																																																																
9	我が国の租税制度 II	消費税、贈与税、最近の税制改革について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)																																																																
10	中間試験																																																																		
11	公債	我が国の公債について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)																																																																
12	公債の理論	公債による経済的な影響について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)																																																																
13	地方財政 I	国と地方の役割分担について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)																																																																
14	地方財政 II	地方税と補助金 (国庫支出金、地方交付税) について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1時間)																																																																
15	期末試験																																																																		
関連科目	公共政策論、公共経済学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	Moodle の課題 (全 12 回、30%)、中間試験 (20%)、期末試験 (50%) で総合的に評価します。 私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。課題や中間試験において不正行為が確認された場合、0 点にいたします。またその不正行為が悪質な場合は定期試験の受験を認めません。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。																																																																		
担当者の研究室等	1 号館 7 階 名方准教授室 (経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	金融論	科目名 (英文)	Money and Banking
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2025a0		

授業概要・目的	「金融論」は、経済学の実用分野の一つです。景気、金利や物価などがどのように金融システムの中で決定されているのか(マクロ的な金融論)、個人や企業、銀行や日本銀行などの各経済主体がどのように行動するのか(ミクロ的な金融論)を中心に、基礎的な部分を解説をしていきます。
到達目標	マクロ金融論・ミクロ金融論の理解を通じて、金融政策及びファイナンス理論に関する知識を深め、新聞の経済記事等の理解がスムーズに行えるようになる。
授業方法と留意点	基本的に講義形式をとります。第8回にマクロ的な金融論にかかわる範囲、第15回にミクロ的な金融論にかかわる範囲についての理解を問う試験を授業内で行います。
科目学習の効果 (資格)	マクロ経済学・ミクロ経済学の理解補助 ERE (経済学検定試験) や FP (ファイナンシャルプランナー) をはじめとして、各種資格試験問題にも対応

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	45 度線分析②	消費関数 相対所得仮説 ライフサイクル仮説 恒常所得仮説	消費関数に関する議論の理解・復習
3	金利とマクロ経済 IS-LM 分析①	利子率 投資の限界効率 投資関数 資産価格の決定式 トービンの q	資産価格の決定式をはじめとする各項目に関する理解・復習
4	金利とマクロ経済 IS-LM 分析②	IS-LM モデル 金融・財政政策 流動性のわな	IS-LM モデルの理解・復習
5	物価とマクロ経済 AD-AS 分析①	物価指数 AS 曲線	AS 曲線の導出方法の理解復習
6	物価とマクロ経済 AD-AS 分析②	AD 曲線 AD-AS モデル	AD 曲線の導出方法及び AD-AS モデルの概略の理解・復習
7	為替レート	為替レートの決定理論 購買力平価説 裁定取引	為替レートの決定理論についての概略を理解・復習
8	まとめとテスト	7 回までのまとめとテスト (試験範囲は第 1~7 回)	-----
9	ポートフォリオ理論	期待効用仮説 平均・分散アプローチ 効率性フロンティア 分離定理	統計学の基礎知識とポートフォリオ理論の概略を確認・復習
10	CAPM (資本資産評価モデル)	マーケットリスク・プレミアム リスクフリー・レート ベータ スワップレシオ	統計学の基礎知識と CAPM の概略の理解・復習
11	投資決定理論	NPV (ネット・プレゼント・ヴァリュー) B/S P/L キャッシュフロー 資本コスト	NPV の理解・復習
12	MM 理論と企業財務政策	MM 理論の第 1 命題 最適資本構成	MM 理論の概略についての理解・復習
13	民間銀行の役割と行動	マネーサプライ 信用創造	信用創造のメカニズムについて理解・復習
14	日本銀行の役割と行動	ハイパワード・マネー 金融政策	各種金融政策とその波及効果について理解・復習
15	まとめとテスト	14 回までのまとめとテスト (試験範囲は第 9 回~14 回)	-----

関連科目	マクロ経済学・ミクロ経済学など。
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (60%) + 第 8 回・第 15 回に行われる試験 (20% + 20%) で評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	経済を知るうえで金融の役割を理解するのは必須です。応用的な経済学の分野ですので、受講生は、極力マクロ経済学やミクロ経済学、統計学や経済数学 (基礎的範囲) をすでに履修していることを強く望みます。
-----------	--

担当者の研究室等	1 号館 7 階 植杉教授室 (経済学部)
----------	-----------------------

備考	授業内の試験は必ず受験するようにしましょう。
----	------------------------

科目名	公共政策論	科目名 (英文)	Public Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2029a0		

授業概要・目的	現実の経済において完全競争市場が成り立たない場合があります。授業ではその原因、それに伴う弊害を解決するための政府の役割と政府の具体的な財政支出、税金等の政策がどのように決定され住民の厚生に影響を与えるかを勉強していきます。																																																																		
到達目標	市場では解決されない「公共財」「外部性」「所得格差」等の問題を理解し、政府の役割の意義と大切さを理解してもらう。																																																																		
授業方法と留意点	10回目に中間試験、15回目に期末試験を Moodle で行います。 それ以外の回については、Moodle、Web Folder に講義関係の資料を Upload しておきますので学習をお願いします。 Moodle: 講義スライド (PDF) Web Folder: 講義スライド (音声入力) 連絡手段に Teams を使う可能性がありますので登録お願いいたします。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	ミクロ経済学で学んだ完全でない競争市場が何故生じるのか、またそのときの政府の役割について詳しく学ぶことができます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政府の役割</td> <td>財政における政府の役割について説明する。</td> <td>講義ノートの復習 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>選挙と投票</td> <td>選挙システムと投票制度について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>政党と政策</td> <td>政党の行動や経済政策と政党との関連について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>外部性</td> <td>市場がうまくいかない原因のひとつである外部性の問題について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>公共財</td> <td>市場がうまくいかない原因のひとつである公共財の問題について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>政府支出の問題</td> <td>政府支出のあり方や支出が拡大するメカニズムについて説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>税金 I</td> <td>税金の転嫁と帰着、最適課税論について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>税金 II</td> <td>所得税・消費税について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>公債</td> <td>公債について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>中間試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>再分配政策 I</td> <td>違う世代間の再分配政策について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>再分配政策 II</td> <td>同じ世代間の再分配政策について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>地方分権化</td> <td>地域経済の活性化のための政策について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>地域間再分配政策</td> <td>国から地方への補助金 (国庫支出金、地方交付税) について説明する。</td> <td>講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末試験</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	政府の役割	財政における政府の役割について説明する。	講義ノートの復習 (1 時間)	2	選挙と投票	選挙システムと投票制度について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)	3	政党と政策	政党の行動や経済政策と政党との関連について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)	4	外部性	市場がうまくいかない原因のひとつである外部性の問題について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)	5	公共財	市場がうまくいかない原因のひとつである公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)	6	政府支出の問題	政府支出のあり方や支出が拡大するメカニズムについて説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)	7	税金 I	税金の転嫁と帰着、最適課税論について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)	8	税金 II	所得税・消費税について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)	9	公債	公債について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)	10	中間試験			11	再分配政策 I	違う世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)	12	再分配政策 II	同じ世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)	13	地方分権化	地域経済の活性化のための政策について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)	14	地域間再分配政策	国から地方への補助金 (国庫支出金、地方交付税) について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)	15	期末試験		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	政府の役割	財政における政府の役割について説明する。	講義ノートの復習 (1 時間)																																																																
2	選挙と投票	選挙システムと投票制度について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)																																																																
3	政党と政策	政党の行動や経済政策と政党との関連について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)																																																																
4	外部性	市場がうまくいかない原因のひとつである外部性の問題について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)																																																																
5	公共財	市場がうまくいかない原因のひとつである公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)																																																																
6	政府支出の問題	政府支出のあり方や支出が拡大するメカニズムについて説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)																																																																
7	税金 I	税金の転嫁と帰着、最適課税論について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)																																																																
8	税金 II	所得税・消費税について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)																																																																
9	公債	公債について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)																																																																
10	中間試験																																																																		
11	再分配政策 I	違う世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)																																																																
12	再分配政策 II	同じ世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)																																																																
13	地方分権化	地域経済の活性化のための政策について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)																																																																
14	地域間再分配政策	国から地方への補助金 (国庫支出金、地方交付税) について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題 (1 時間)																																																																
15	期末試験																																																																		
関連科目	ミクロ経済学 I・II、公共経済学、財政学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎コース：公共経済学</td> <td>井堀利宏</td> <td>新世社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地方財政論入門</td> <td>佐藤主光</td> <td>新世社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎コース：公共経済学	井堀利宏	新世社	2	地方財政論入門	佐藤主光	新世社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎コース：公共経済学	井堀利宏	新世社																																																																
2	地方財政論入門	佐藤主光	新世社																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	Moodle の課題 (全 12 回、30 点)、中間試験 (20 点)、定期試験 (50 点) で総合的に評価します。 私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。課題や中間試験において不正行為が確認された場合、0 点にいたします。またその不正行為が悪質な場合は定期試験の受験を認めません。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。																																																																		
担当者の研究室等	1 号館 7 階 名方准教授室 (経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	関西経済論	科目名 (英文)	Local Economy in KANSAI
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2030a0		

授業概要・目的	大阪府を中心とした関西経済の諸特徴と問題点を理解する。 周辺の他府県 (京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県) も含め、関西経済の優位点と課題を把握するとともに、今後の展望を考えることのできる素地をつくることを目的とする。 大阪・関西経済の産業構造、地域産業政策のありようなどを講義する。 関西経済のイノベーションの実態や産業支援のあり方を論じることとする。
到達目標	①関西経済の特徴を理解すること。 ②関西の産業に着目して、今後の展開を展望できるようになること。
授業方法と留意点	データを紹介しながら地域経済の状況を説明し、基礎用語の理解を深めることが出来るよう授業を進める。 Moodleを活用し、授業を行う。環境変化により授業方法を修正する場合は、別途指示する。
科目学習の効果 (資格)	関西経済の諸特徴を把握し、地域と自分のキャリアについて考える基礎を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、日本のなかの関西経済	関西経済の現在の諸特徴を日本国内の他地域経済圏との比較などから理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
2	大阪府の産業①	大阪府の産業構造を理解する。基礎的なキーワードについても理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
3	大阪府の産業②	大阪府の第二次産業、第三次産業を中心に各産業について理解する。基礎的なキーワードについても理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
4	大阪府の主要企業	大阪府の主要企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
5	大阪府の主要企業の分析	大阪府の主要企業について、事例を挙げ、基礎的な分析を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
6	大阪府の中小ベンチャー企業	大阪府の中小企業、ベンチャー企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
7	兵庫県の経済と産業	兵庫県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
8	奈良県の経済と産業	奈良県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
9	和歌山県の経済と産業	和歌山県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
10	滋賀県の経済と産業	滋賀県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
11	京都府の経済と産業	京都府の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
12	関西自治体の経済政策①	大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市の産業政策を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
13	関西自治体の経済政策②	京都府、京都市、奈良県、和歌山県、滋賀県の産業政策を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
14	国の経済政策と自治体の経済政策	地域経済の発展に関する国の政策と自治体の政策について理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
15	まとめ	グローバル化、少子高齢化の流れにおいて地域経済の在り方を考える。	講義中に示した課題を検討してください。

関連科目 日本経済史、日本経済論、日本産業史、地域産業論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域産業の活性化戦略	野長瀬裕二	学文社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 小テストとレポートにて評価を行う。
小テスト1回=70点、レポート30点、計100点

学生へのメッセージ 関西経済の今後の展開を創造するためには、正確な現状・課題認識が必要です。これらを養ってください。

担当者の研究室等 1号館7階 野長瀬教授室 (経済学部)

備考

科目名	地方自治論	科目名 (英文)	Local Autonomy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2034a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治を学ぶに際して、国と地方は相互協力であって依存関係ではないという認識が重要である。 住民自治と地方公共団体との関係を中心に考察するとともに中央集権と分権という視点から地方自治の現代的意義を考える。 現状の組織や制度を講義するとともに地方自治法などの法との関連も講義したい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治の現状の制度を理解する。 地方公共団体の組織及び地方公務員の役割を理解する。 変化する社会状況において、自ら判断し行動するための地方自治に関する知識・教養を修得する。 地方公務員の仕事だけでなく地方自治の仕組みについて理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。 地方自治の根拠となる地方自治制度について考察する。 地方自治の地方とは地方公共団体の区域とは限らず、ある一定の地域を意味することもある。国の出先機関としての地方公共団体から、地方自治は、国からの関与によらず、そこに住む住民の意思に基づき運営することとなった変遷について理解を深める。 2010年に総務省が
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> 公務員試験の基本的考え方を修得する。 地方自治体の職員を目指す場合の組織体系や歴史など基本的な知識を習得する。経済学における政府の役割、地方政府である地方自治体の役割を規定する基本法を中心に地方公務員の役割の理解を深める。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地方自治の意義と法体系	地方自治の意義と法体系について概論を講義する。	教科書または参考書の目次を読んで概略をつかんでおく。 第一章
2	わが国の地方自治制度の変遷	地方自治制度の変遷について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第二章
3	地方自治体の種類	地方公共団体の種類と性格について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第三章
4	地方公共団体の区域	地方公共団体の区域について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第四章
5	地方公共団体の住民と住民自治	住民と地方自治について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第五章
6	地方公共団体の事務	地方公共団体の事務について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第六章
7	地方公共団体の立法	地方公共団体の立法権について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第七章
8	地方公共団体の議会	地方議会の本質、組織、権限、運営について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第八章
9	地方公共団体の執行機関 1	地方公共団体の内部組織である執行機関について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第九章第一、二節
10	地方公共団体の執行機関 2	地方公共団体の機関、長及び他の機関（議会と行政委員会）について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第九章第三、四節
11	地方公共団体の財務 1	地方公共団体の財務（収支関係項目）について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十章第一、二、三、四節
12	地方公共団体の財務 2	地方公共団体の財務（資本的収支関係項目）について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十章第五、六、七節
13	地方公共団体と他の主体との関係 1	地方公共団体と国との関係について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十一章第一節
14	地方公共団体と他の主体との関係 2	地方公共団体の相互の関係について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十一章第二節
15	地方公共団体の課題と展望	これまでの講義を踏まえ、地方自治の意義、さらに道州制の現代的意義について考察する。	教科書及び参考書を読んでおく。

関連科目 「地方自治と法（法学部）」等の行政法関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地方自治制度 第七次改訂版	久世公堯	学陽書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) レポート内容の平均 (70%)、及びレポート提出回数、修正対応等を受講態度 (30%) として総合評価する。

学生へのメッセージ

- 一般行政職だけでなく司書や議員などの地方公務員を目指す場合の基本的な制度や組織を理解するための講義である。
- 経済学部学生・経営学部学生として地方行政事務の基本的な考え方への関心を持って頂きたい。
- 国家及び地方公務員になるには、計画的な勉強が一定期間必要です。本講義で公務員についての知識を修得してほしい。

	・公務員の種類を含め制度理解に役立つ内容を説明する。
担当者の 研究室等	1号館7階 田井教授室(経済学部)
備考	

科目名	地域金融論	科目名 (英文)	Regional Banking
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2032a0		

授業概要・目的	地域金融機関とは何か、地域経済と地域金融とのつながり、地域金融機関の現状における課題や問題点、地域経済を円滑に運営するために求められる役割は何かなど、地域金融機関に対しての認識を深め、ひいては地域経済に対するより広い視野と洞察を持てるようになることが目的です。
到達目標	地域金融機関が地域経済において果たすべき役割を十分理解し、それら知識を応用して、自分の係わる地域におけるアイデアを形成することができるようになること。
授業方法と留意点	原則的に講義形式をとります。
科目学習の効果 (資格)	地域経済に対する、金融面からの理解を得ることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション/地域金融論とは	地域金融に関する概論	-----
2	地域金融機関の制度的側面	地域金融を担う金融機関にはどのようなものがあるか、制度的な分類を行う。	授業の復習
3	地域金融機関のこれまで	地域金融機関の発展の経緯について概観すると同時に、地域金融機関のパフォーマンスについて説明を行う。	授業の復習
4	地域金融機関の抱える諸問題	現在、地域的、国内的、国際的に地域金融機関を取り巻く環境下で、どのような活動を行っているのかを理解する。	授業の復習
5	中小企業金融の役割・特徴	日本における中小企業金融の役割や特徴について概観する。	授業の復習
6	中小企業金融システムと銀行融資①	中小企業金融システムの外観と銀行融資に関する諸問題についての概略を説明する。	授業の復習
7	中小企業金融システムと銀行融資②	中小企業金融システムと銀行融資について、特に理論的側面に着目し、説明を行う。	授業の復習
8	まとめテスト・解説	テスト範囲は第2回から第7回まで	-----
9	リレーションシップ・バンキング①	リレーションシップ・バンキングとは何かを理解する。	授業の復習
10	リレーションシップ・バンキング②	リレーションシップ・バンキングは機能しているのか、強化されているのかを、事例に基づき検討する。	授業の復習
11	リレーションシップ・バンキング③	リレーションシップ・バンキングに関する様々な評価を比較検討し、現状の問題点等を認識する。	授業の復習
12	地域金融機関の新しい潮流①	国内的な問題を中心に、リレーションシップ・バンキングの可能性とその限界、地方銀行の合併の動向、地域活性化への取り組みなどを紹介する。	授業の復習
13	地域金融機関の新しい潮流②	第12回の続き、および地方銀行の海外展開の動向などを紹介する。	授業の復習
14	事業性評価	近年の地域金融モデルである事業性評価に関する解説を行い、リレバンとの相違点について検討する。	授業の復習
15	講義のまとめと今後の学習について	講義のまとめを行うとともに、今後地域金融機関に関する認識を深めるための学習方法の紹介を行う。	-----

関連科目	地域経済論 金融論など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (60%) + 単元テスト (40%) で評価します。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	気軽に質問に来てください。
-----------	---------------

担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	ゲスト講師を招待しての特別授業を数回実施する予定です (詳細未定)。
----	------------------------------------

科目名	地方財政論	科目名 (英文)	Local Public Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	WDW2031a0		

授業概要・目的	経済学の理論と結びつけながら、基礎的な財政の仕組みと考え方を理解する。国と地方の財政関係及び、地方財政の経費と税収の仕組みと考え方、地方財政の現状と課題等を理解する。 SDGs-10, 11
到達目標	財政の機能、経費と税制、国と地方の財政関係などについて、基本的な理論と現状が理解できるようになる。 地方財政の課題が理解できるようになる。 国や地方自治体の歳入の多くを占める税制についても、基本的な理論や仕組みを理解できるようになる。
授業方法と留意点	テキストとレジュメを使って授業を行うが、適宜課題も出し、実際の地方財政を分析して発表してもらう。
科目学習の効果 (資格)	地方の経済にとって、地方財政は大きなウェイトを占めている。地方政府の歳入と歳出を通して、地域の現状や課題を読み解くことができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	地方財政とは何か、何を学ぶのか説明する	復習
2	政府の役割と地方政府の役割 (1) パレート効率性	パレート効率性等の概念を使って、政府の役割や地方政府の役割を学ぶ	復習
3	政府の役割と地方政府の役割 (2) 公共財とパレート効率性、地方公共財	公共財の概念を使って政府や地方政府の役割を学ぶ	復習
4	政府の役割と地方政府の役割 (3) 政府の機能配分論	国と地方政府の役割分担について学ぶ	復習
5	地方財政の予算と収入 (1)	地方予算の意義と課題、地方財政収入の構造と実態について学ぶ	復習
6	地方財政の予算と収入 (2)	地方税の体系について学ぶ	復習
7	地方税と補助金の理論 (1)	国と地方の財政関係について、地方交付税制度、地方譲与税、国庫支出金、地方債の仕組みを学ぶ	復習
8	地方税と補助金の理論 (2)	補助金の役割について、理論的に学ぶ。特に補助金の経済効果等について学ぶ	復習
9	地方財政の経費 (1)	地方経費の種類と構造について学ぶ	復習
10	地方財政の経費 (2)	教育費や、少子高齢化に関連した経費について学ぶ	復習、レポート課題に取り組む (提出期限まで引き続き取り組む)
11	地方財政の経費 (3)	公共投資の現状、国と地方の役割、公共投資と地域活性化等について学ぶ	復習
12	地方財政の健全化	地方財政の現状と、その健全化について学ぶ	復習
13	地方財政の歴史	地方自治の歴史や三位一体の改革について学ぶ	復習
14	地方財政の現状分析	学生による地方財政分析の発表を行う	復習
15	期末レポート	授業中に課題を出し期末レポートを作成してもらう	

関連科目 財政学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい地方財政論	中井英雄ほか著	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財政のしくみがわかる本	神野直彦	岩波ジュニア新書
2			
3			

評価方法 (基準)	中間レポート (40%)、期末試験 (60%) で評価する予定である。ただし、受講人数により、Teams による学生の発表を入れる場合もあり、その場合には評価基準を変更する可能性がある。
学生へのメッセージ	地方財政は、地域経済の大きな割合を占めています。地方財政を通して、地方の現状や課題をしっかりと理解しましょう。地方財政は地域の健康診断ともいえます。地方財政を見ると地域の経済力も分かります。そのため、地域活性化の政策立案等にも、地方財政の知識は不可欠です。
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室
備考	授業内容は、学生の理解度に応じて変更することがある

科目名	観光経済論	科目名 (英文)	Tourism Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2039a0		

授業概要・目的	<p>【4月22日(木)以降のオンライン授業について】 オンライン授業の方式は授業内容を事前収録したオンデマンド方式とします。資料配布は「Teams」で行います。この授業は「レジュメ、講義動画、例題ファイル（毎回ではありません）」から成り立っており、それらを Teams で配布します。</p> <p>【授業概要】 近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています（コロナ禍以前）。そのため、日本経済、地域経済において観光産業の経済効果が大きいに期待されています。</p>
到達目標	<p>経済における観光経済の特徴を理解し、客観的なデータで世界と日本における観光経済の役割を理解することを目標とします。履修者はこの授業を受けることで、近年急成長している日本の外国人観光の実態、日本経済における観光の役割、観光による地域経済活性化についてデータを用いた実際の知識と理解を深めることができます。</p>
授業方法と留意点	<p>【4月22日(木)以降のオンライン授業について】 オンライン授業の方式は授業内容を事前収録したオンデマンド方式とします。資料配布は「Teams」で行います。この授業は「レジュメ、講義動画、例題ファイル（毎回ではありません）」から成り立っており、それらを Teams で配布します。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>日本と世界の観光産業の状況について客観的なデータで説明できるようになります。特に現在の日本経済における観光の役割についてデータを用いて実態を説明できるようになります。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	現代における観光経済の意味	<p>【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。</p>
2	近年の国際観光の発展(1)	世界における国際観光の発展	<p>【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。</p>
3	近年の国際観光の発展(2)	日本における国際観光の発展	<p>【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。</p>
4	地域経済と観光(1)	地域統計の基礎	<p>【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。</p>
5	地域経済と観光(2)	都市化の進展	<p>【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。</p>
6	地域経済と観光(3)	地域間人口移動	<p>【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。</p>
7	地域経済と観光(4)	人口の都心回帰	<p>【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。</p>
8	産業と観光(1)	産業構造の変化	<p>【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。</p>
9	産業と観光(2)	産業分類と観光	<p>【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。</p>
10	産業と観光(3)	観光産業の特殊性	<p>【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。</p>
11	観光統計(1)	観光統計 TSA の仕組み(1)	<p>【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。</p>
12	観光統計(2)	観光統計 TSA の仕組み(2)	<p>【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない</p>

				い語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
	13	観光統計(3)	SNAと観光(1)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
	14	観光統計(4)	SNAと観光(2)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
	15	まとめ	ここまでの授業のまとめ	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
関連科目	観光経済論 観光産業政策論 観光資源論 レジャー産業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	【オンライン授業に伴う成績評価の変更】 授業半ばで課す中間レポートを50点、期末レポートを50点として合計して総合評価します。			
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。			
担当者の 研究室等 備考	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)			

科目名	観光マーケティング論	科目名 (英文)	Tourism Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2o, DP3o, DP4o, DP5o, DP6o, DP7o, DP8o, DP9o		
科目ナンバリング	WDW2041a0		

授業概要・目的	観光におけるマーケティングは主に生産と消費が同時進行する「サービス」を商品とするゆえ、物財のマーケティングとは異なるアプローチが必要である。本授業では観光業のマーケティングの本質と特殊性をさまざまなマーケティング事例に触れながら理解することを目的とする。また、授業担当者は観光事業会社のホテルマーケティング部門で8年間勤務した経験から観光事業におけるマーケティングに関する実践的な教育を行う。
到達目標	マーケティングの基礎理論を習得し観光分野での応用事例が理解できる。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果 (資格)	観光業におけるマーケティングの基礎的な知識の習得

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	マーケティングとは何か	マーケティングの基礎的な概念を理解する。	事後：配布資料の復習
3	商品とマーケティング	売れる商品の特徴を理解する。	事後：配布資料の復習
4	価格とマーケティング	価格設定の考え方を理解する。	事後：配布資料の復習
5	流通チャネルとマーケティング	流通チャネルの役割について理解する。	事後：配布資料の復習
6	プロモーションとマーケティング	プロモーションの役割について理解する。	事後：配布資料の復習
7	マーケティング・ミックス (まとめ) I	第2回～第6回のまとめ I	事後：配布資料の復習
8	マーケティング・ミックス (まとめ) II	第2回～第6回のまとめ II	事後：配布資料の復習、課題作成提出
9	観光とマーケティング I	観光におけるマーケティングの特殊性を考える。	小テスト、事後：配布資料の復習
10	観光とマーケティング II	観光マーケティングの主体と対象を考える。	事後：配布資料の復習
11	観光のマーケティング・ミックス	観光におけるマーケティング・ミックスについて考える。	事後：配布資料の復習、課題作成提出
12	観光マーケティング事例 I	観光地のマーケティングを考える (1)	事後：配布資料の復習
13	観光マーケティング事例 II	観光地のマーケティングを考える (2)	事後：配布資料の復習
14	観光マーケティング事例 III	観光産業のマーケティングを考える	小テスト、事後：配布資料の復習
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする	事後：配布資料の復習

関連科目	観光学入門、レジャー産業論、宿泊産業論
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート等提出物の提出状況とその内容を総合的に評価する。
-----------	------------------------------

学生へのメッセージ	観光の分野でも日々「顧客と市場の創造」が行われています。普段から経済関連のニュースを意識していると観光マーケティングも理解しやすいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	観光人材論	科目名 (英文)	Human Resources Management for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2○, DP3△, DP4○, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8△, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2040a0		

授業概要・目的	観光業を支える重要な要素は人材である。この授業では観光業に雇用されるという「働き方」の基本的な特徴と、それを規定する仕組みについての知識を深めることを通して、観光における人材活用の意義と重要性を理解することを目的とします。また、授業担当者は観光事業会社の人事部門での7年間、採用・人事企画・部門長等を務めた経験から観光事業における人材管理に関する実践的な教育を行う。
到達目標	企業における人材管理の仕組みと観光産業における人材管理の特徴について理解できる。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果 (資格)	観光における人材管理の特徴と重要性の理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明	
2	人材とは何か	「人材」の意味と「人材」のありかたを考える。	事後：配布資料の復習
3	観光の意義と仕事	何故観光があるのか、そこにはどんな仕事があるのかを理解する。	事後：配布資料の復習
4	観光業における人材管理	観光業の多様性とそこでの人材の要件について理解する。	事後：配布資料の復習、
5	人材管理の仕組みⅠ	人材を生かす仕組みの重要性と取り巻く環境について講義する。	事後：配布資料の復習
6	人材管理の仕組みⅡ	企業の人材区分や格付けの仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
7	人材管理の仕組みⅢ	採用・配置・異動等の雇用管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
8	人材管理の仕組みⅣ	人事評価・昇進・賃金管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
9	人材管理の仕組みⅤ	労働時間管理・教育訓練等の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
10	人材管理の仕組み (まとめ)	第4回～第8回のまとめ	事後：配布資料の復習 課題作成提出
11	「サービス」と観光人材	観光業の主な商品「サービス」について理解する。	事後：配布資料の復習 小テスト
12	「ホスピタリティ」と観光人材	観光人材に求められる「ホスピタリティ」とは何かを理解する。	事後：配布資料の復習
13	「顧客満足」と観光人材	「顧客満足」と観光人材の関わりについて考える。	事後：配布資料の復習
14	観光と人材育成	観光業界における人材育成の課題について考える。	事後：配布資料の復習 課題作成提出
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	事後：配布資料の復習

関連科目	観光学入門、経済キャリア入門
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題、レポート100%
-----------	-------------

学生へのメッセージ	経済が成熟するにつれ、サービスを担う人材の重要性が高まります。特にサービスの比重の高い観光業での人材のあり方について一緒に考えましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	観光産業政策論	科目名 (英文)	Policies for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2042a0		

授業概要・目的	近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています。そのため、日本経済、地域経済において観光産業の経済効果が大いに期待されていますが、観光産業はさまざまな産業にまたがる大きな分野であるため、その正確な把握は容易ではありません。この講義では経済学における産業理論において観光産業をどのようにとらえるかを説明し、さまざまなデータで観光産業を客観的に眺め、経済における観光の役割について理解を深めます。
到達目標	経済における観光産業の特徴を正確に理解し、客観的なデータで世界と日本における観光産業、観光経済の役割を理解することを目標とします。履修者はこの授業を受けることで、近年急成長している日本の外国人観光の実態、日本経済における観光の役割、観光による地域経済活性化についてデータを用いた実際的な知識と理解を深めることができます。
授業方法と留意点	第9回(11月15日)から対面授業に切り替わり、第15回まで対面授業です。この授業は教科書を用いず、毎回、レジュメをWebfolderで配布しますので、各自がダウンロード・印刷して持参してください。
科目学習の効果(資格)	日本と世界の観光産業の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。特に現在の日本経済における観光の役割についてデータを用いて実態を説明できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	観光政策の意味	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
2	近年の観光経済の動向(1)	日本経済と観光経済	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
3	近年の観光経済の動向(2)	国内観光の近年の動向	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
4	近年の観光経済の動向(3)	国際観光の近年の動向	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
5	国際観光と地域経済(1)	外国人旅行者の地域分布(1)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
6	国際観光と地域経済(2)	外国人旅行者の地域分布(2)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
7	日本の観光政策(1)	観光政策のはじまり	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
8	日本の観光政策(2)	観光庁と観光統計	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
9	自治体の観光政策(1)	地域経済における観光	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
10	自治体の観光政策(2)	自治体の観光振興	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
11	観光まちづくり(1)	まちづくりとは何か	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
12	観光まちづくり(2)	観光経済とまちづくり	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。

	13	ツーリズム(1)	ツーリズムの定義	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
	14	ツーリズム(2)	さまざまなツーリズム	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
	15	まとめ	ここまでの授業のまとめ	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
関連科目	観光経済論 観光産業政策論 観光資源論 レジャー産業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内で課す中間レポート50点分と期末レポート50点分を総合して評価します。提出にはWebfolderを使用します。第9回(11月15日)から対面授業に切り替わりましたが、成績評価方法に変更はありません。中間レポート、期末レポートの提出にはWebFolderを用います。			
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。			
担当者の 研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)			
備考				

科目名	観光ビジネス英語	科目名 (英文)	Business English for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2○, DP3○, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2044a0		

授業概要・目的	海外からの観光客増加に伴い、観光関連産業において英語の重要性が増してきました。英語でコミュニケーションができるということは能力要件の一部に過ぎませんが、外国人観光客に適切に対応するためサービスの現場では必須の要素となっています。この授業では、国内外の航空会社とホテルの接客部門で実務経験を持つ教員が担当し、観光に関連する様々な場面での英語に触れながら、実践的な英語と実務知識を身に付けることを目指します。
到達目標	観光関連産業および海外旅行で必要とされる実践的な英語表現を身に付けることを目的とします。各回に関連した実務知識も学びます。
授業方法と留意点	実際に使われているナチュラルな英語教材を中心に授業を進めます。また、各回に関連する実務知識について講義します。
科目学習の効果 (資格)	観光産業や海外旅行の場面で実際に使われている英語表現が身に着きます。また、実務知識についても理解を深めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション At the airport	授業の進め方について 空港にて	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間)
2	On the place	機内にて	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間)
3	Arrival	到着	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間) 課題提出①
4	Checking in at the hotel	ホテルにチェックイン	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間)
5	Getting information and sightseeing	情報を入手して観光する	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間)
6	Ordering fast food	ファストフードを注文する	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間) 課題提出②
7	Going to the theater	劇場に行く	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間)
8	At the restaurant	レストランにて	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間)
9	Shopping	買物をする	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間) 課題提出③
10	Lost and found	遺失物係にて	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間)
11	Using public transportation	公共交通機関を利用する	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間)
12	Renting a bike	自転車を借りる	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間) 課題提出④
13	Finding your way around	道を聞く	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間)
14	Medical care	診察を受ける	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間)
15	Leaving for home	帰途につく	教科書の該当部分の復習 (1時間) 宿題 (1時間) 課題提出⑤

関連科目	観光学入門、航空産業論、宿泊産業論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Enjoy Your Trip! English you need abroad	竹内真澄・中井延美・菅原千津	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題提出 (5回) 60%、期末テスト 40%
-----------	-------------------------

学生へのメッセージ	授業は極力わかりやすく進めていきますが、実際の場面で使われている英語を学ぶことが目的であるため、文法をある程度理解していることが前提となります。英語は授業に出ているだけでは身につけません。授業で学んだことを必ず復習して、自分のものにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	貿易論	科目名 (英文)	International Trade
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2049a0		

授業概要・目的	国際貿易に関する様々な理論とそれに関する現実が生じている問題について学ぶ。			
到達目標	貿易理論の基礎を理解し、現実の国際貿易を分析できるようになること。			
授業方法と留意点	講義形式で行う。必要に応じてゲームや映像を取り入れる。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義のガイダンス	コースの内容説明 世界経済の概観	講義の復習
	2	労働生産性と比較優位 (1)	貿易の利益 リカードモデル	講義の復習
	3	労働生産性と比較優位 (2)	比較優位	講義の復習
	4	労働生産性と比較優位 (3)	リカードモデルの拡張 リカードモデルの実証分析	講義の復習
	5	生産要素と所得分配	特定要素モデル 所得分配と貿易 国際労働移動	講義の復習
	6	生産要素と貿易 (1)	ヘクシャー・オリーンモデル レオンチェフパラドックス	講義の復習
	7	生産要素と貿易 (2)	リプチンスキーの定理 ストルパー＝サミュエルソンの定理 要素価格均等化定理	講義の復習
	8	標準的な貿易モデル	標準的な貿易モデル 関税と輸出補助金 国際的な貸借	講義の復習
	9	規模の外部経済と生産ロケーション	規模の経済 貿易と経済地理	講義の復習
	10	グローバル経済の中の企業	不完全競争の理論 独占的競争と貿易	講義の復習
	11	国際貿易政策	関税政策の費用便益 補助金政策 輸入数量制限政策	講義の復習
	12	貿易政策の政治経済学	最適関税論 所得分配と貿易政策 国際交渉と貿易政策	講義の復習
	13	発展途上国の貿易政策	輸入代替政策 幼稚産業保護論とその問題 貿易と経済成長	講義の復習
	14	貿易政策に関する新たな問題	ハイテク産業 途上国とグローバリゼーション 貿易と環境	講義の復習
	15	まとめ	講義のまとめ	講義の復習
関連科目	国際投資論、国際経済学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間試験 30% 期末試験 70% で評価を行う。			
学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。			
担当者の研究室等備考				

科目名	国際投資論	科目名 (英文)	International Investment
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	羅 鵬飛
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2050a0		

授業概要・目的	本講義は、国際投資にかかる入門的な投資学、国際金融論および証券投資を学ぶ。
到達目標	入門的な収益率計算方法、為替レート決定理論、クロスボーダー資金フローや投資手段などの視点から経済の動きを把握できるようにする。また、リーマンショックや最近のコロナショックを例として、グローバル経済環境がグローバル投資への影響要因を理解する。
授業方法と留意点	2021年度の本講義は、コロナ感染拡大のため、大学の原則に従って対面式からオンライン式に変更する。(今後大学の原則が変更すれば、別途に連絡する) 講義方法： 金曜日3限、teamsでライブ講義を実施する。(事情によって動画配信式で配信する場合、その前の講義中に連絡する) 毎回の講義資料をteamsとMoodleで配布する。(MOODLEのコースに自己登録してください、コース名：国際投資論(2021)) ミニテスト受験および期末レポート提出：MOODLE
科目学習の効果(資格)	国際金融や国際投資に関する記事やニュースを理解し、それに関して自分自身の意見を述べるようにする。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	国際投資とは何か	講義資料
2	投資とリターン	単利・複利	講義資料
3	マクロ金融の基礎1：資金	資金循環 融資手段：直接金融と間接金融 金融機関	講義資料
4	マクロ金融の基礎2：貨幣	貨幣の機能 貨幣の需要・供給 貨幣供給量(金融政策)と資産価格	講義資料
5	株価と株式投資の収益率	株式の投資収益率 PER	講義資料
6	株式投資のテクニカル指標	ローソクグラフの読み方 移動平均・移動平均線・出来高	講義資料
7	海外株式市場	海外株式市場の現状及び重要な海外株式市場の指標 ニューヨーク・欧州・中国株式市場	講義資料
8	国際金融の基礎1：為替レートと外国為替市場	為替レートと外国為替市場 名目為替レート・実質為替レート	講義資料
9	国際金融の基礎2：国際通貨	国際通貨制度と為替相場の現状 国際通貨・基軸通貨	講義資料
10	国際金融の基礎3：短期為替決定理論	金利平価	講義資料
11	国際金融の基礎4：長期為替決定理論	購買力平価	講義資料
12	国際投資環境1	先進国の金融市場 金融危機 コロナショックの影響	講義資料
13	国際投資環境2	途上国金融市場の発展 金融危機 コロナショックの影響	講義資料
14	海外直接投資(FDI)	FDIに関する事情	講義資料
15	まとめ	まとめ	講義資料

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『はじめての金融理論』	吉田真理子, 大野早苗	中央経済社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『証券投資の基礎』	野村証券	丸善
2	『国際金融論入門』	佐々木百合	新世社	
3				

評価方法(基準)	定期試験(70%)、レポート(30%)を総合的に判定する。 定期試験:MOODLEで授業内容に関するミニテストを5-6回行う(計算問題を含む) レポート:国際投資について(具体的には後半の講義で公開する)
----------	--

学生へのメッセージ	積極的に予習・復習を行って、遠慮なく質問してください。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 経済学部 羅研究室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	地域統合論	科目名 (英文)	Regional Integration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2054a0		

授業概要・目的	<p>世界各所で見られる地域経済統合の展開を、歴史的・制度的・理論的な観点から解説し、こうした展開が日本経済および世界経済にどのような影響を与えるかについて考える。とりわけ、地域統合で先行している欧州連合 (EU) と東アジアにおける経済統合を比較することで、地域経済統合への理解を深める。</p> <p>SDGs-1, 8, 9, 10</p>																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自由貿易と保護貿易の考え方を比較してそれぞれの特徴を明らかにすることができる。 第2次世界大戦後における世界の貿易体制の変遷について説明することができる。 欧州経済統合の過程とその特徴について、歴史・制度・理論の観点から説明することができる。 東アジアにおける経済統合について、歴史・制度・理論の観点から説明することができる。 欧州と東アジアにおける経済統合について比較分析することができる。 現在進行している、または今後生じうる地域経済統合に関わる動きについて、批判的に評価することができる。 																																																																		
授業方法と留意点	<p>毎回配布する資料にもとづいて講義形式で授業を行う。授業時間の内外において、適宜課題を課すので、授業を聞くだけでなく積極的に課題に取り組んで理解を深めること。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>授業を通して基本的な知識を身に付けることで、新聞などで報じられる経済統合に関するニュースを理解し、それを批判的に評価することができるようになる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>貿易の現状</td> <td>日本および世界における貿易の現状について説明する</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自由貿易と保護貿易</td> <td>貿易の自由化と産業の保護をめぐって示される各々の論理を比較する</td> <td>事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>世界貿易体制の展開</td> <td>第2次世界大戦後の展開を中心に、世界的な貿易体制の展開（とりわけ GATT から WTO への流れ）を整理する</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>経済統合の効果と類型</td> <td>経済統合の経済効果と様々な形態について解説する</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>欧州連合 (EU) (1)</td> <td>EU 統合の歴史を説明する</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>欧州連合 (EU) (2)</td> <td>EU の制度的側面、とりわけ主要機関と意思決定プロセスを説明する</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>欧州連合 (EU) (3)</td> <td>EU における市場統合と共通政策の特徴について説明する</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>欧州連合 (EU) (4)</td> <td>EU の通貨統合と金融システムを説明する</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>欧州連合 (EU) (5)</td> <td>ユーロ危機と欧州統合の限界について説明する</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>東アジアの経済発展</td> <td>東アジアにおける経済発展と交易関係の展開にかんする特徴を説明する</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>東アジアにおける事実上の経済統合 (1)</td> <td>日本企業の行動に焦点を当てつつ、海外直接投資 (企業の海外進出) の拡大について説明する</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>東アジアにおける事実上の経済統合 (2)</td> <td>東アジアにおけるグローバルな価値連鎖 (GVC) の展開について解説する</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>東アジアにおける制度的な経済統合：ASEAN</td> <td>東アジアにおける制度的な統合の一例として、ASEAN の形成と現状について解説する</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>経済統合の比較分析：ヨーロッパと東アジア</td> <td>ヨーロッパにおける経済統合と東アジアにおける経済統合を比較検討する</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>授業全体を振り返り、まとめを行った上で、今後日本が取るべき通商戦略を考察する</td> <td>事後：授業の復習、期末試験への準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	貿易の現状	日本および世界における貿易の現状について説明する	授業の復習	2	自由貿易と保護貿易	貿易の自由化と産業の保護をめぐって示される各々の論理を比較する	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	3	世界貿易体制の展開	第2次世界大戦後の展開を中心に、世界的な貿易体制の展開（とりわけ GATT から WTO への流れ）を整理する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	4	経済統合の効果と類型	経済統合の経済効果と様々な形態について解説する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	5	欧州連合 (EU) (1)	EU 統合の歴史を説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	6	欧州連合 (EU) (2)	EU の制度的側面、とりわけ主要機関と意思決定プロセスを説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	7	欧州連合 (EU) (3)	EU における市場統合と共通政策の特徴について説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	8	欧州連合 (EU) (4)	EU の通貨統合と金融システムを説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	9	欧州連合 (EU) (5)	ユーロ危機と欧州統合の限界について説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	10	東アジアの経済発展	東アジアにおける経済発展と交易関係の展開にかんする特徴を説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	11	東アジアにおける事実上の経済統合 (1)	日本企業の行動に焦点を当てつつ、海外直接投資 (企業の海外進出) の拡大について説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	12	東アジアにおける事実上の経済統合 (2)	東アジアにおけるグローバルな価値連鎖 (GVC) の展開について解説する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	13	東アジアにおける制度的な経済統合：ASEAN	東アジアにおける制度的な統合の一例として、ASEAN の形成と現状について解説する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	14	経済統合の比較分析：ヨーロッパと東アジア	ヨーロッパにおける経済統合と東アジアにおける経済統合を比較検討する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み	15	まとめ	授業全体を振り返り、まとめを行った上で、今後日本が取るべき通商戦略を考察する	事後：授業の復習、期末試験への準備
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	貿易の現状	日本および世界における貿易の現状について説明する	授業の復習																																																																
2	自由貿易と保護貿易	貿易の自由化と産業の保護をめぐって示される各々の論理を比較する	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
3	世界貿易体制の展開	第2次世界大戦後の展開を中心に、世界的な貿易体制の展開（とりわけ GATT から WTO への流れ）を整理する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
4	経済統合の効果と類型	経済統合の経済効果と様々な形態について解説する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
5	欧州連合 (EU) (1)	EU 統合の歴史を説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
6	欧州連合 (EU) (2)	EU の制度的側面、とりわけ主要機関と意思決定プロセスを説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
7	欧州連合 (EU) (3)	EU における市場統合と共通政策の特徴について説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
8	欧州連合 (EU) (4)	EU の通貨統合と金融システムを説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
9	欧州連合 (EU) (5)	ユーロ危機と欧州統合の限界について説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
10	東アジアの経済発展	東アジアにおける経済発展と交易関係の展開にかんする特徴を説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
11	東アジアにおける事実上の経済統合 (1)	日本企業の行動に焦点を当てつつ、海外直接投資 (企業の海外進出) の拡大について説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
12	東アジアにおける事実上の経済統合 (2)	東アジアにおけるグローバルな価値連鎖 (GVC) の展開について解説する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
13	東アジアにおける制度的な経済統合：ASEAN	東アジアにおける制度的な統合の一例として、ASEAN の形成と現状について解説する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
14	経済統合の比較分析：ヨーロッパと東アジア	ヨーロッパにおける経済統合と東アジアにおける経済統合を比較検討する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習、授業時間外の課題への取り組み																																																																
15	まとめ	授業全体を振り返り、まとめを行った上で、今後日本が取るべき通商戦略を考察する	事後：授業の復習、期末試験への準備																																																																
関連科目	国際経済論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>授業時間内外の課題 (70%)、期末レポート (30%) で総合的に評価します。授業時間内外の課題では Moodle を利用するので、速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けないので注意してください。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>地域経済統合の問題は、多くの要素が複雑に絡みあって生じています。それを理解するのは容易なことではありませんが、基本的な事項を1つずつ押さえながら授業を進めるつもりなので、辛抱強く取り組んでください。また話を聞くだけでは理解が進まないことがありますので、授業時間の内外で行う課題演習にも積極的に取り組むことをお勧めします。さらに日頃から、現在起こっている経済問題に関心をもつことも理解をすすめる助けになります。</p>																																																																		
担当者の																																																																			

研究室等	
備考	

科目名	国際協力論	科目名 (英文)	International Co-operation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2◎, DP3△, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2052a0		

授業概要・目的	本講義では、まず国際協力の基本的な考え方や仕組み、開発途上国支援のアプローチの変化について説明する。そして、国際協力を実施する主要な手段としてのプロジェクトの立案・実施監理の方法や、テーマ毎の取組みについて、具体的な事例を交えながら解説する。更に国際協力の主体としての重要性が増しつつある民間企業や市民団体の役割など、国際協力の最新の動向についても触れることにより、受講生が国際協力をより身近に感じ、国際協力の在り方について考えられるようになることを目標とする。
到達目標	1. 国際協力の基本的な考え方や仕組みについて理解する。 2. 国際協力プロジェクトの形成や評価の方法を理解する。 3. 国際協力の主要な取り組み、実施主体、最新の動向について理解し、今後の国際協力のあり方について考察するために必要な知識を得る。
授業方法と留意点	教科書の各章に沿った説明資料に基づいて講義を行うが、できるだけ具体的な事例紹介も加える予定である。 途上国に関連する新聞記事やニュースに関心を持つこと。
科目学習の効果 (資格)	国際協力に関わる際に必要な基礎知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	国際協力とは	国際協力とは何か、国際協力の概念とその始まりについて解説する。	教科書の事前学習 小課題の提出
2	国際協力の基本的な仕組み	国際協力が具体的にどのような仕組みで行われているのかを解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
3	途上国支援のアプローチの変化	途上国支援が歴史的にどのように取り組まれてきたのか、1980年代までの潮流を解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
4	21世紀の新しい潮流	1990年代以降の途上国支援の潮流の概要に加えて、2030年を目標とした国際社会の取組みである持続可能な開発目標 (SDGs) の内容を解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
5	国際協力プロジェクトとは	技術協力や資金協力といった国際協力を実施する主要な手段としてのプロジェクトについて、その形成や実施監理の方法について解説する。	国際協力プロジェクトに関する事前学習 (情報収集) 小課題の提出
6	貧困削減への取組み	開発の最大の課題である貧困問題の状況と貧困削減政策について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
7	平和構築と復興支援	東西冷戦後に新たな課題として現れてきた平和構築・復興支援について、概況と日本の取組みを解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
8	持続可能な開発への取組み (気候変動対策)	持続可能な社会に不可欠な環境保全について国際社会と日本の取組みを解説する。また、気候変動対策に関する国際的な動向を踏まえて、日本が行っている協力の特徴を解説する。	教科書該当部分の予習、気候変動問題に関する事前学習 (情報収集) 小課題の提出
9	持続可能な開発への取組み (都市の環境改善)	産業開発や都市への人口集中に伴い発生する途上国の都市での環境問題とその要因について述べ、大気・水質汚染や廃棄物管理の問題を克服してきた日本の経験に基づく協力について解説する。	途上国の都市環境問題に関する事前学習 (情報収集) 小課題の提出
10	持続可能な開発への取組み (環境社会配慮)	開発事業による想定される環境・社会への負の影響を事前に回避・緩和する方策として、援助機関が行っている国際協力プロジェクトでの環境社会配慮の取り組みについて解説する。	途上国の都市環境問題に関する事前学習 (情報収集) 小課題の提出
11	途上国のオーナーシップとガバナンス	開発行為の主体である途上国自身の責任とそれを支えるガバナンスについて、解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
12	グローバル・ガバナンスと開発	国際社会が開発問題に取り組む上での基本となる枠組みをグローバル・ガバナンスという観点から解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
13	国際資本還流の変化と民間資本時代の開発戦略	国際協力を資本の流れとして捉え、民間を含めたその役割について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
14	市民社会	国際協力の主要な主体である市民社会について、その取組みの現状と役割を解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
15	変容する国際開発規範	21世紀を迎えて大きく変容してきた国際協力のあり方について解説し、本講義を総括する。	教科書該当部分の予習

関連科目	開発経済学
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際協力 (第3版)	下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子	有斐閣
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末レポート 70%、授業での小課題 30%の割合で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本講義では、皆さんに国際協力に関心を持ってもらえるように、国際協力の仕組みなどの解説だけでなく、必要に応じて、国際協力の実務で得られた知見も紹介しながら講義を進めていきたいと考えています。また、授業に関連する国際時事問題の解説も加える予定ですので、新聞、ニュース等で取り上げられる世界各地の出来事に関心を持つようにしてください。			
担当者の 研究室等	1号館7階 村瀬研究室			
備考	講義資料の配布や課題の提出は、Moodle を使用します。			

科目名	開発経済学	科目名 (英文)	Development Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2051a0		

授業概要・目的	開発途上国の開発は複合的な課題であり、学際的な視点で検討され各分野の知見を活かして取り組まれている。本授業では、開発途上国の実態を理解し、経済学の視点を中心しつつ幅広い観点から開発の問題を捉え、考察していくための知識を得ることを目的としている。
到達目標	途上国の開発について、現状と課題、基礎的な経済・開発理論、政策的な取組み等を理解し、説明できるようになる。
授業方法と留意点	基本的に教科書に沿って、開発の課題、開発理論、課題への処方箋を紹介し、開発問題への取組みについて考察を行う。 授業計画は授業の進捗等に応じて適宜見直し、変更する。 新聞等に目を通し、世界経済や開発問題に関するニュース記事に関心を持つこと。
科目学習の効果 (資格)	国際開発関係の仕事に従事する上での経済学基礎知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	貧困と不平等	途上国の貧困や不平等の問題をどのように捉えるかについて解説する。	教科書の事前学習 小課題の提出
2	二重構造と労働移動	途上国の労働市場の二重構造と労働移動について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
3	経済成長	経済成長を説明するモデルについて解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
4	人的資本	経済発展のための重要な要素である人口や人的資本について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
5	貿易	国際貿易と途上国の経済発展の関係について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
6	海外直接投資	外国資本による海外投資と途上国の経済発展との関係について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
7	技術	経済発展における技術の役割、途上国への技術移転等について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
8	産業連関	経済成長に伴う産業構造の変化と生産波及効果について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
9	制度	植民地支配による途上国の制度の形成と経済発展経路について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
10	貧困削減戦略	戦後の開発経済理論と途上国の貧困削減戦略について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
11	政府開発援助	政府開発援助の必要性・援助協調について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
12	農村金融	途上国の農業・農村の組織・制度と金融取引の特徴について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
13	マクロ経済安定化	途上国のマクロ不均衡と安定化政策について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
14	経済統合	経済統合と産業立地について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
15	環境・障害	環境制約の下での開発、障害と開発のあり方について解説する。	教科書該当部分の予習

関連科目	国際協力論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストブック開発経済学 (第3版)	黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史	有斐閣
2	なぜ貧しい国はなくなるのか (第2版)	大塚啓二郎	日本経済新聞出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	期末試験 70%、授業での小課題提出 30%の割合で総合的に評価する。
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	グローバル社会において、途上国の開発を考えることは、世界や私たち自身の課題を考えることにつながります。授業では関連する国際経済問題の解説も加えたいと思いますので、新聞、ニュース等で取り上げられる時事問題に関心をもってください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 村瀬研究室
------------	-------------

科目名	摂南経済ゲストレクチャー	科目名 (英文)	Setsunan Guest Lectures
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1059a0		

授業概要・目的	グローバル化とインターネットの発達により、労働者に求められるスキルが高度化しています。グローバル化した世界で働くには何が必要なのか？国際経済、地域経済、観光経済、などのトピックにかかわって、担当教員のガイドのもとに、ゲスト講師を招いて授業を行います。2021年度も、「野球を巡るコンテンツツーリズム」等の魅力的な話題を用意しています。SDGs4, 8, 9
到達目標	社会人講師のレクチャーを聴いて、現実の社会や経済の動向を知るとともに、在学中及び卒業後の自分のキャリア形成のイメージが持てるようにする。とりあつかわれたトピックについて自分で調べて、自分の意見を含むレポートが書けるようになる。
授業方法と留意点	それぞれのゲストレクチャーの前に、担当教員が事前レクチャーを行い、受講者に予習をさせます。⇒ゲストによるレクチャーを受講⇒最後に全体を通したレポートを提出してもらいます。(発表、レポートが試験のかわりになります。必ず提出してください。)ゲストの都合で日程の変更があり得ます。また、土曜日になる日もあるので注意してください。
科目学習の効果 (資格)	視野を広げ、現場における課題を知って実践的態度を身につけることができるでしょう。簡単なレポートを書く訓練にもなります。卒論テーマも見つかるかもしれません。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	4月14日(水)3時限 この授業についての全体的説明	この授業の運営の仕方を説明する	ゲストレクチャーの事前学習計画を立てる
	2	4月21日(水)3時限 事前学習	ゲストの話に関連した事前学習をする	ゲストの話に関連した予習をする
	3	4月28日(水)3時限 千島土地株式会社代表取締役社長・芝川能一氏	不動産業から地域の未来を考える～アートを切り口とする地域活性化の試み	予習
	4	5月5日(水)3時限 事前・事後学習	事前・事後学習をする	ゲストの話レポートにまとめる(ゲストの話の後は毎回)
	5	5月12日(水)3時限 アナマリア・イグナド氏 (ルーマニア・政治学修士)	共産主義のオレンジと自由主義のオレンジ。「どうして」の力	復習
	6	5月19日(水)3時限 クラブツーリズム㈱ 地域交流部 京の旅デザインセンター 顧問 宮本 茂樹	コロナまでの観光産業とコロナ後の観光産業の行方	予習
	7	5月26日(水)3時限 Independent Curator・林寿美氏	美術館の楽しみ方	予習復習
	8	6月2日(水)3時限 事前・事後学習	ゲストの話について発表し、今後のゲストに関連した事前学習をする	予習復習
	9	6月12日(土)3時限 (一社)ロハス・ビジネスアライアンス共同代表・大和田順子氏	持続可能な農業・農村と私たちの暮らし	復習
	10	6月16日(水)3時限 事前・事後学習	ゲストの話について発表し、今後のゲストに関連した事前学習をする	予習復習
	11	6月23日(水)3時限 法政大学大学院政策創造研究科教授・増淵敏之氏	野球を巡るコンテンツツーリズム	予習復習
	12	6月30日(水)3時限 事前事後学習	ゲストの話について発表し、今後のゲストに関連した事前学習をする	予習
	13	7月14日(水)3時限 事前事後学習	ゲストの話についてまとめ、発表する	予習
	14	7月17日(土)2時限 流通経済大学・経済学部・准教授 八木良太氏	ミュージックツーリズムを通じた地域活性化	まとめのレポートを完成する
	15	7月21日(水)3時限 まとめ	レポートを発表し提出する	学習のまとめを行う

関連科目 地域経済入門、観光学入門、国際経済入門

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ゲストが提供した教材を毎回読み、レポート（100%）で総合評価します。
学生への メッセージ	広く世界に目を向け、経済や社会の現実を学びます。そのなかから、自分たちに何が求められているのか考え、在学中及び卒業後のキャリア形成のイメージを持てるようにしましょう。
担当者の 研究室等	1号館7階 後藤教授室（経済学部）
備考	ゲストの都合で、日程を変更することがあります。

科目名	地球環境経済	科目名 (英文)	Global Environmental Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3060a0		

授業概要・目的	長い人類の歴史を通じて局地的な環境破壊はあったが、地球温暖化をはじめとする地球規模での環境問題が出現し、問題化したのは 20 世紀後半のことである。地球環境問題は、18 世紀の産業革命より資本主義経済がもたらした巨大な生産力の発展 (大量生産) と人類の消費能力の増大 (大量消費)、自然界の処理能力を越える大量の廃棄物の発生 (大量廃棄) に発生の根拠がある。20 世紀後半より、人類は地球環境問題の存在を認識しはじめ、「持続可能な発展」(Sustainable Development) などの新たな概念も提起され、政府や国
到達目標	環境問題と人間の経済活動の関わりについての理解を深める。
授業方法と留意点	Teams にてオンライン講義を配信する。必要に応じてレジュメや資料を配布するので、配布物をファイリングすること。オンラインでも、板書や講義のノートをとる習慣をつけること。講義後、講義内容を自分の言葉で要約し、書きとどめておくことが大切。
科目学習の効果 (資格)	環境社会検定試験 (eco 検定) (http://www.kentei.org/eco/index.html)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義の紹介。環境問題とは何か。環境問題と経済 (採取-生産-消費-廃棄) との関係。環境経済学の諸潮流。	事後・質問提出
2	地球温暖化問題 (1)	自然科学から見た地球温暖化問題。温暖化人為説か自然説か。	事後・質問提出
3	地球温暖化問題 (2)	地球温暖化問題と国際社会。温暖化防止条約。	事後・質問提出
4	温暖化問題と現代資本主義 (1)	金融主導の温暖化対策 化石燃料の座礁資産化と機関投資家の投資撤退	事後・質問提出
5	温暖化問題と現代資本主義 (2)	温暖化対策を求められるグローバル企業	事後・質問提出
6	環境問題とエネルギーシフト	脱炭素社会。化石エネルギーから再生可能エネルギーへのシフト。人類史におけるエネルギー問題と環境問題	事後・質問提出
7	原子力発電と環境問題 (1)	原発過酷事故の歴史。スリーマイル、チェルノブイリ、フクシマ。	事後・質問提出
8	原子力発電と環境問題 (2)	放射性廃棄物処分問題	事後・質問提出
9	アメリカのシェール革命と環境問題	2010 年代のアメリカのシェール・ブームと地下水汚染問題。アメリカのエネルギー環境政策の展開。	事後・質問提出
10	海洋プラスチック問題	1950 年代以来のプラスチックの大量生産、大量消費、大量廃棄。海洋生物の生態系破壊。	事後・質問提出
11	資本主義経済と環境問題 (1)	人間と自然との物質代謝とその攪乱 大量採取-大量生産-大量消費-大量廃棄	事後・質問提出
12	資本主義経済と環境問題 (2)	資本主義に内在する生産力発展の傾向と自然の持続可能性の衝突。	事後・質問提出
13	SDGs (持続可能な開発目標) の意義、可能性、限界	「持続可能な発展」をめぐる多様なイデオロギー的立場と解釈。市場主義的資本主義、エコロジーの近代化、持続可能性。	事後・質問提出
14	持続可能性の経済学	持続可能性 (= 人類社会と自然の安定的再生産を求める倫理) と資本主義 (= 自己目的的な経済成長を要求する経済システム) の関係。人類社会の持続的発展と資本主義経済の持続的成長は両立するか、矛盾するか。資本主義のもとの生産力発展は、環境問題を激化するか、解決するか。資本主義のもとで大量生産 = 大量消費 = 大量廃棄を克服することは可能か、不可能か。	事後・質問提出
15	講義のまとめ	———	———

関連科目 国際経済論、経済地理、農業経済論、社会経済学 I、II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 期末レポート (100%) で評価する。

学生へのメッセージ	地球環境問題に関心をもって自ら学んで下さい。積極的な質問、授業への参加を期待します。
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室（経済学部）
備考	

科目名	民法	科目名 (英文)	Civil Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2071a0		

授業概要・目的	民法は、私人の間の問題等を規律するための規範として私たちに最も身近な法律です。本講義では、法律の中で民法がどのような地位を占めているのか、具体的にどのような規定が置かれているのかについて概観します。民法の中身は膨大ですが、条文を基本として民法の体系がイメージできるように試みていきます。授業担当者は、弁護士として17年、裁判官として22年勤務し、また、大阪家庭裁判所、広島高等裁判所の総括判事、鳥取地方裁判所所長を歴任するなど、労働問題や社会保障に関する民事訴訟の判決に数多く携わってきました。この授業で
到達目標	この講義を通じて学生は、私人間に適用される法の基本である民法の概要を知り、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任主義といった近代法の基礎を理解するとともに、その修正原理についても一定の理解を得ることが期待される。
授業方法と留意点	講義は Teams によるオンライン方式で行います。動画その他の講義資料をオンデマンドの方式により配信しますので、受講生は定められた講義時間にチームにアクセスして下さい。アクセスのための Teams コードは vmgukqi です。但し、11月11日の第8回講義以降は教室における対面授業として実施します。 授業では教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布します。また、関連する判例や資料を指定することもあります。可能な限り六法を準備して下さい。オンライン講義では課題を課することがあります。
科目学習の効果 (資格)	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法 (民法、民事訴訟法、破産法等) が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	民法の全体像	・民法が法の中において占める地位 ・民法が規定するもの ・民法の諸原則	教科書第1編 (1頁から28頁) を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
2	所有権 その他の物権	・物権とは何か ・登記の意味 ・担保物権	教科書第2編1、2章 (29頁から49頁) を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
3	債権と取引の通則	・債権と契約 ・契約取引の通則	教科書第2編3、4章 (50頁から75頁) を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
4	贈与と売買	・売買契約の内容 ・一方当事者の債務不履行	教科書第2編5章 (76頁から94頁) を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
5	金銭の貸借	・消費貸借契約についての法の規制 ・借金の返済方法	教科書第2編6章 (95頁から123頁) を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
6	物の貸借	・使用貸借と賃貸借 ・借地借家に対する特別の規制	教科書第2編7章 (124頁から136頁) を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
7	他人の労務を利用する契約	・雇用 ・請負 ・委任	教科書第2編8章 (137頁から144頁) を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
8	民法が定めるその他の契約 団体の法理	・典型契約と非典型契約 ・混合契約 ・組合と法人	教科書第2編9章から12章 (145頁から163頁) を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
9	不法行為と不当利得	・不法行為の一般規定と特別規定 ・過失責任主義 ・不当利得と「サラ金問題」	教科書第2編13章 (164頁から185頁) を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
10	財産法のまとめ	財産法分野で十分な説明ができなかった点を補う。	予め、これまでの配布資料を通読しておいてください。
11	夫婦の法律関係	・婚姻の成立と効果 ・離婚	教科書第3編1章から3章 (187頁から205頁) を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
12	親子の法律関係	・親権と後見 ・嫡出子と非嫡出子	教科書第3編4章から7章 (206頁から229頁) を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
13	相続の法律関係	・相続人の範囲 ・遺産分割の方法 ・遺言	教科書第3編8章から14章 (230頁から258頁) を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
14	家族法のまとめ	家族法分野で十分な説明ができなかった点を補う。	予め、これまでの配布資料を通読しておいてください。
15	全体のまとめ	民法の全体を改めて確認する。	全体の復習をしておくこと。

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法 (第10版)	我妻栄・良永和隆	勁草書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	期末試験 (70%)、受講態度及び小テスト結果 (30%) とした上で総合評価を行います。
学生へのメッセージ	民法を学習することにより、日常生活を法的観点から検討する能力を身につけることができるほか、法律的なものの見方というものを体感できるようになります。
担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室
備考	

科目名	商法	科目名 (英文)	Commercial Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高間 佐知子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2072a0		

授業概要・目的	この講義では、広く商法に関する法制度・法規制について学習することを目的としている。具体的に扱う内容は、商法総則および商行為、保険法、海商法とする。大まかに基礎知識を学びつつ、法的問題点を検討していく。
到達目標	この講義の目標は、法律で定められた制度を理解できるようにすることに加え、個別の法的問題点に対して論理的に検討できるようになることである。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながらの湯を理解してほしい。事後学習として分からない単語は参考書で調べるなどして解決し、また、授業中の課題も確実に理解するよう疑問点は早めに解消すること。
科目学習の効果 (資格)	広く商法に関する基礎知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	商人と営業	商人資格、営業譲渡	商人について調べておく
3	商業登記、商号	商業登記の意義・手続・公示、商号に関する法規制	商号について調べておく
4	商人の補助者	商業使用人、支配人、代理商	特に支配人について調べておく
5	商行為、商法の効果	商行為の種類、民法と商法の違い	民法と商法の違いを調べておく
6	商事売買	商人間の売買に関する法規制	民法の売買と商法の売買の違いを調べておく
7	消費者取引	消費者契約法、電子商取引法、割賦販売法	特に消費者契約法について調べておく
8	企業取引の補助者	代理商、仲立営業、問屋営業	代理商、仲立営業、問屋営業の違いを調べておく
9	運送営業	物品運送契約、運送人の責任	運送契約について大まかに調べておく
10	寄託を受けた商人の責任	場屋営業者の責任	寄託および場屋営業の意味を調べておく
11	保険契約の基礎、損害保険	保険の意義・契約関係者、損害保険の意義	保険について大まかに調べておく
12	生命保険、傷害保険	生命保険の意義、傷害保険の意義	各種保険契約の違いを調べておく
13	海商法の意義	船舶、海上運送人	海上運送について調べておく
14	海上企業の危険	共同海損、船舶衝突、海難救助	共同海損、船舶衝突、海難救助について大まかに調べておく
15	総括	今までの講義の振り返り	講義で扱った内容を全般的に復習すること

関連科目 民法、会社法

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 課題(30%)及びレポート(70%)によって評価する。

学生へのメッセージ 法律は難しいイメージがあるかもしれないが、何をするにしても法律はついて回ってくるので、社会に出て講義で学んだことが少しでも役立つように自分なりに頑張ってもらいたい。

担当者の研究室等 11号館10階

備考 Teamsで講義を受けて練習問題に取り組んで復習しましょう。加えて、課題とレポートを提出してください。

科目名	会社法	科目名 (英文)	Corporate Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高間 佐知子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2073a0		

授業概要・目的	この講義では、「会社法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的としている。経済社会において会社という存在が活動するなかで、どのようにして組織されていて、またどのようにして活動しているのか、法的な観点から学んでいく。会社経営の要にもなるコーポレートガバナンスに対する法規定を中心に、経営者である取締役の法的責任についても言及する。			
到達目標	この講義の目標は、会社法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、会社法に関する法的問題点に対して論理的に検討できるようになることである。			
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながらの理解してほしい。事後学習として分からない単語は参考書で調べるなどして解決し、また、授業中の課題も確実に理解するよう疑問点は早めに解消すること。 令和元年会社法改正に対応していない参考書も多いので、改正部分については最新の六法や改正に対応した参考書で補うようにすること。			
科目学習の効果 (資格)	ビジネス実務法務検定3級合格レベルの知識は最低でも習得する。その他、就職試験や公認会計士試験などに必要な基礎知識を習得する。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	会社法の概要、会社の種類、持分会社のしくみ	会社法の役割、会社の種類、持分会社の内部組織。	持分会社の概要について調べておく。(約40分)
	2	株式会社のしくみ	株式会社の資金調達や内部組織、株式会社の諸原則。	所有と経営の分離、有限責任について調べておく。(約60分)
	3	株主の権利	自益権・共益権・単独株主権・少数株主権。	株主の権利にはどのようなものがあるか調べておく。(約60分)
	4	株式会社の種類・機関	公開会社、大会社、機関設置の基本事項。	会社の機関とは何か調べておく。(約40分)
	5	株主総会の役割	株主総会の権限、招集、議決方法、利益供与。	株主総会とは何か調べておく。(約60分)
	6	取締役・代表取締役の役割	取締役・取締役会の役割、代表取締役の選任・役割。	取締役会および代表取締役について調べておく。(約60分)
	7	取締役の義務	善管注意義務、協業避止義務、利益相反取引規制、監視義務。	取締役の義務について簡単に調べておく。(約60分) *講義形式の変更(対面+Teamsによるハイフレックス形式)
	8	取締役の責任	会社に対する責任、第三者に対する責任、株主代表訴訟、刑事責任。	株主代表訴訟とは何か調べておく。(約60分)
	9	取締役の責任軽減制度、保険制度、報酬規制	責任軽減制度、D&O保険、報酬決定に関する規制。	D&O保険について調べておく。(約60分)
	10	経営・会計に関する監督機関	監査役、監査役会、会計監査人、会計参与。	監査役について調べて取締役との違いを検討する。(約60分)
	11	委員会制度	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	指名委員会等設置会社について調べておく。(約60分)
	12	会社の機関構成	会社の機関設計に関する法的規制。	機関設計に関する会社法の条文を調べておく。(約60分)
	13	会社の資金調達	株式発行の形態・手続。	直接金融、間接金融、自己資本、他人資本について調べておく。(約60分)
	14	株式発行の瑕疵	有利発行の概要、差止請求、無効の訴え。	有利発行とは何か簡単に調べておく。(約40分)
	15	総括	課題についての復習	今まで学習したことを見直しておく。(約5時間)
関連科目	民法、商法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学べる会社法	近藤光男・志谷匡史・石田真得・釜田薫子	弘文堂
	2	会社法	神田秀樹	弘文堂
	3			
評価方法 (基準)	課題1～4(40%)及び最終課題(60%)によって評価する。			
学生へのメッセージ	法律は難しいイメージがあるかもしれないが、何をするにしても法律はついて回ってくるので、社会に出て講義で学んだことが少しでも役立つように自分なりに頑張ってもらいたい。			
担当者の研究室等	11号館10階			
備考	11月5日第7回講義より対面講義とTeamsによるリアルタイムオンライン講義を併用します。対面講義を原則とするものですので、授業時間内にTeamsにアクセスするようにしてください。			

科目名	経済学特別講義Ⅱ	科目名(英文)	
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現在 Society5.0 による地域振興の方向性が各自治体レベルで模索されている。本講義では、フィールドとして滋賀県甲良町を対象とし、甲良町役場産業課、甲良町観光協会と連携した観光振興プロモーションビデオの作成・Web 公開を通じて、地域観光振興の未来について体験的に学習することを目的としている。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域(観光)振興の状況を現地で知ることにより、地域経済・観光経済に関する研究テーマについての関心を高める。 ● IoT への理解や VR/AR などの技術的な理解を深める。 																																																																		
授業方法と留意点	原則対面による講義および現地フィールドワークを基本とする。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>対面授業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Society5.0 による地域振興の現在</td> <td>対面授業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>対象フィールドに関する事前学習</td> <td>対面授業</td> <td>グループによる対象フィールドに関する事前調査および内容まとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>フィールドワーク(第1回) 10月初旬実施予定</td> <td>町役場・観光協会等にて聞き取りおよび町内観光資源の实地調査</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>フィールドワーク(第1回) 10月初旬実施予定</td> <td>町役場・観光協会等にて聞き取りおよび町内観光資源の实地調査</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>フィールドワーク(第1回) 10月初旬実施予定</td> <td>町役場・観光協会等にて聞き取りおよび町内観光資源の实地調査</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>プロモーションビデオの企画・構成(1)</td> <td>対面授業</td> <td>グループによる企画・構成案の作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>プロモーションビデオの企画・構成(2)</td> <td>対面授業</td> <td>グループによる企画・構成案の作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>フィールドワーク(第2回) 11月初旬実施予定</td> <td>甲良町にて撮影実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>フィールドワーク(第2回) 11月初旬実施予定</td> <td>甲良町にて撮影実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>フィールドワーク(第2回) 11月初旬実施予定</td> <td>甲良町にて撮影実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プロモーションビデオの編集(1)</td> <td>対面授業</td> <td>必要に応じて講義時間外における編集作業</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>プロモーションビデオの編集(2)</td> <td>対面授業</td> <td>必要に応じて講義時間外における編集作業</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>町役場・観光協会へのプレゼンテーション</td> <td>Zoomにて実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>振り返り</td> <td>対面授業</td> <td>レポート提出(Web提出形式)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	対面授業		2	Society5.0 による地域振興の現在	対面授業		3	対象フィールドに関する事前学習	対面授業	グループによる対象フィールドに関する事前調査および内容まとめ	4	フィールドワーク(第1回) 10月初旬実施予定	町役場・観光協会等にて聞き取りおよび町内観光資源の实地調査		5	フィールドワーク(第1回) 10月初旬実施予定	町役場・観光協会等にて聞き取りおよび町内観光資源の实地調査		6	フィールドワーク(第1回) 10月初旬実施予定	町役場・観光協会等にて聞き取りおよび町内観光資源の实地調査		7	プロモーションビデオの企画・構成(1)	対面授業	グループによる企画・構成案の作成	8	プロモーションビデオの企画・構成(2)	対面授業	グループによる企画・構成案の作成	9	フィールドワーク(第2回) 11月初旬実施予定	甲良町にて撮影実施		10	フィールドワーク(第2回) 11月初旬実施予定	甲良町にて撮影実施		11	フィールドワーク(第2回) 11月初旬実施予定	甲良町にて撮影実施		12	プロモーションビデオの編集(1)	対面授業	必要に応じて講義時間外における編集作業	13	プロモーションビデオの編集(2)	対面授業	必要に応じて講義時間外における編集作業	14	町役場・観光協会へのプレゼンテーション	Zoomにて実施		15	振り返り	対面授業	レポート提出(Web提出形式)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	対面授業																																																																	
2	Society5.0 による地域振興の現在	対面授業																																																																	
3	対象フィールドに関する事前学習	対面授業	グループによる対象フィールドに関する事前調査および内容まとめ																																																																
4	フィールドワーク(第1回) 10月初旬実施予定	町役場・観光協会等にて聞き取りおよび町内観光資源の实地調査																																																																	
5	フィールドワーク(第1回) 10月初旬実施予定	町役場・観光協会等にて聞き取りおよび町内観光資源の实地調査																																																																	
6	フィールドワーク(第1回) 10月初旬実施予定	町役場・観光協会等にて聞き取りおよび町内観光資源の实地調査																																																																	
7	プロモーションビデオの企画・構成(1)	対面授業	グループによる企画・構成案の作成																																																																
8	プロモーションビデオの企画・構成(2)	対面授業	グループによる企画・構成案の作成																																																																
9	フィールドワーク(第2回) 11月初旬実施予定	甲良町にて撮影実施																																																																	
10	フィールドワーク(第2回) 11月初旬実施予定	甲良町にて撮影実施																																																																	
11	フィールドワーク(第2回) 11月初旬実施予定	甲良町にて撮影実施																																																																	
12	プロモーションビデオの編集(1)	対面授業	必要に応じて講義時間外における編集作業																																																																
13	プロモーションビデオの編集(2)	対面授業	必要に応じて講義時間外における編集作業																																																																
14	町役場・観光協会へのプレゼンテーション	Zoomにて実施																																																																	
15	振り返り	対面授業	レポート提出(Web提出形式)																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	積極的なフィールドワーク・グループワーク等への関わり、レポート提出の内容を総合的に勘案して評価する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	植杉研究室(1号館7階)																																																																		
備考	フィールドワーク交通費として1万円程度必要になる予定																																																																		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藪井 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>概要説明</td> <td>――</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Lesson3</td> <td>代名詞</td> <td>演習 3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Lesson4</td> <td>代名詞</td> <td>演習 4</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Lesson5</td> <td>時制</td> <td>演習 5</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Lesson6</td> <td>時制</td> <td>演習 6</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Lesson7</td> <td>時制</td> <td>演習 7</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Lesson8</td> <td>助動詞</td> <td>演習 8</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Lesson9</td> <td>助動詞</td> <td>演習 9</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Lesson10</td> <td>態</td> <td>演習 1 0</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Lesson11</td> <td>態</td> <td>演習 1 1</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Lesson12</td> <td>不定詞</td> <td>演習 1 2</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Lesson13</td> <td>不定詞</td> <td>演習 1 3</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Lesson3～13</td> <td>Grammar Point のまとめ</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総合復習</td> <td>総合復習</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プリント教材</td> <td>TOEIC 演習</td> <td>――</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	概要説明	――	――	2	Lesson3	代名詞	演習 3	3	Lesson4	代名詞	演習 4	4	Lesson5	時制	演習 5	5	Lesson6	時制	演習 6	6	Lesson7	時制	演習 7	7	Lesson8	助動詞	演習 8	8	Lesson9	助動詞	演習 9	9	Lesson10	態	演習 1 0	10	Lesson11	態	演習 1 1	11	Lesson12	不定詞	演習 1 2	12	Lesson13	不定詞	演習 1 3	13	Lesson3～13	Grammar Point のまとめ	授業の復習	14	総合復習	総合復習	授業の復習	15	プリント教材	TOEIC 演習	――
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	概要説明	――	――																																																																
2	Lesson3	代名詞	演習 3																																																																
3	Lesson4	代名詞	演習 4																																																																
4	Lesson5	時制	演習 5																																																																
5	Lesson6	時制	演習 6																																																																
6	Lesson7	時制	演習 7																																																																
7	Lesson8	助動詞	演習 8																																																																
8	Lesson9	助動詞	演習 9																																																																
9	Lesson10	態	演習 1 0																																																																
10	Lesson11	態	演習 1 1																																																																
11	Lesson12	不定詞	演習 1 2																																																																
12	Lesson13	不定詞	演習 1 3																																																																
13	Lesson3～13	Grammar Point のまとめ	授業の復習																																																																
14	総合復習	総合復習	授業の復習																																																																
15	プリント教材	TOEIC 演習	――																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Mastering Basic English Grammar</td> <td>Nagaki kitayama</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki kitayama	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki kitayama	SEIBIDO																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	(全学共通英語課題 20%) 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%) オンライン授業を行います。上記の内容は変更します。Moodle でお知らせします。																																																																		
学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、そのほかの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション Don't Sneeze on Me! (くしゃみ1回の感染力は?) (1)	受講に関する諸連絡(授業の進め方、各種テストについての説明など) 英語の基本事項の確認	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0001-0021
2	Don't Sneeze on Me! (くしゃみ1回の感染力は?) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0022-0042
3	Hard-Working Dads (頑張るお父さん動物集合!) (1)	ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0043-0063
4	Hard-Working Dads (頑張るお父さん動物集合!) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0064-0084
5	Life with Spice! (ピリ辛はなぜ癖になる?) (1)	ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0085-0105
6	Life with Spice! (ピリ辛はなぜ癖になる?) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0106-0126
7	The Importance of Insects (世界から昆虫が消えたら) (1)	ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0127-0147
8	The Importance of Insects (世界から昆虫が消えたら) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0148-0168
9	Suits for Discovery (宇宙服はなぜ白い?) (1)	ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0169-0190
10	Suits for Discovery (宇宙服はなぜ白い?) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0191-0212
11	Changing Bodies (進化の行方 1000年後の私たち) (1)	ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0213-0234
12	Changing Bodies (進化の行方 1000年後の私たち) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	授業内容の予習・復習
13	A Cold Thought (世界から一夜にして氷が消えたら) (1)	ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習
14	A Cold Thought (世界から一夜にして氷が消えたら) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	テスト対策としての復習
15	前期まとめテスト実施	(終了後) テストの解説	まとめテストの復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	World Insiders	吉田国子, Anthony Allan	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
----------	--

学生へのメッセージ
 外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。
 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。
 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。

担当者の研究室等
 非常勤講師室(前期 3号館2階 / 後期 7号館2階)

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横内 美和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法についての説明、実力テスト	事後学習： 実力テストの復習
2	Unit 1: What's your major?	・スモールトークをトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
3	Unit 2: How do you like your new school?	・小テスト(単語) ・クラブ活動をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
4	Unit 3: Let me introduce a new member to you.	・小テスト(単語) ・専攻での出迎えをトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
5	Unit 4: How was your Golden Week?	・小テスト(単語) ・日本事象、休日をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
6	Unit 5: I'm looking for a part-time job.	・小テスト(単語) ・アルバイトトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
7	Unit 6: What do you call this in Japanese?	・小テスト(単語) ・学生食堂をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
8	Unit 7: Have you been there?	・小テスト(単語) ・パーティ企画をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
9	Unit 8: Could you tell me how to get there?	・小テスト(単語) ・道案内をトピックに学習	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチ

			リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	エック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
10	Unit 9: What do you want me to do?		・小テスト (単語、英文整序問題) ・プレゼン準備をトピックに学習 リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
11	Unit 10: I'm on a tight budget.		・小テスト (単語) ・生活費をトピックに学習 リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
12	Unit 11: What do you think of this program?		・小テスト (単語) ・語学研修をトピックに学習 リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
13	Unit 12: I'm reviewing what I studied		・小テスト (単語) ・試験勉強をトピックに学習 リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
14	Unit 13: Final exam week is so stressful!		・小テスト (単語) ・期末試験をトピックに学習 リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認
15	Unit 14: Is this your first trip abroad?		・小テスト (単語) ・長期休暇をトピックに学習 リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②単語、重要表現の暗記 ③対話文の音読 ④文法、発音の確認

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Read Aloud & Learn English: On Campus	角山 照彦 他	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題	20%
	課題提出	60%
	小テスト	20%

学生へのメッセージ

- ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。
- ・辞書か電子辞書を必ず持参すること (携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。
- ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。
- ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。
- ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
- ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。

(原則として欠席を)

担当者の研究室等 非常勤講師室 (前期3号館2階/後期7号館2階)

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、そのほかの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション Accepting Diversity 〈おもてなし最前線〉(1)	受講に関する諸連絡(授業の進め方、各種テストについての説明など) 英語の基本事項の確認 語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0001-0021
2	Accepting Diversity 〈おもてなし最前線〉(2)	長文リーディング演習、音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0022-0042
3	Washi Helps Us Get Through Summer 〈和紙の底力〉(1)	語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0043-0063
4	Washi Helps Us Get Through Summer 〈和紙の底力〉(2)	長文リーディング演習、音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0064-0084
5	The Secrets of the Ocean Floor 〈いざ、暗黒の海底へ〉(1)	語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0085-0105
6	The Secrets of the Ocean Floor 〈いざ、暗黒の海底へ〉(2)	長文リーディング演習、音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0106-0126
7	What Messages Resonate with You? 〈あなたの心に灯をともします〉(1)	語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0127-0147
8	What Messages Resonate with You? 〈あなたの心に灯をともします〉(2)	長文リーディング演習、音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0148-0168
9	Let's Change the World from #KuToo 〈「苦痛」のない社会を目指して「靴」からできる第一歩〉(1)	語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0169-0190
10	Let's Change the World from #KuToo 〈「苦痛」のない社会を目指して「靴」からできる第一歩〉(2)	長文リーディング演習、音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0191-0212
11	Spiders Will Change the Fashion Industry 〈夢の材料〉(1)	語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0213-0234
12	Spiders Will Change the Fashion Industry 〈夢の材料〉(2)	長文リーディング演習、音読演習	授業内容の予習・復習
13	Sharp Decline in Butterfly Population 〈里山のチョウが絶滅の危機〉(1)	語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習
14	Sharp Decline in Butterfly Population 〈里山のチョウが絶滅の危機〉(2)	長文リーディング演習、音読演習	テストの対策としての復習
15	前期まとめテスト実施	(終了後) テストの解説	まとめテストの復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Insights 2021	村尾順子, 深山晶子, 辻本智子, 横山香奈, Ashley Moore	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%		
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなってください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室(前期 3号館2階 / 後期 7号館2階)		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	Moodleを使ったオンデマンド型の授業を行う。毎回課題を提示し、期限までに提出を求め、提出期限後に解答や解説を提示して行く。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	Fashion(1)	名詞	テキストの予習と単語の学習
3	Fashion(2)/Companies(1)	名詞/代名詞	テキストの予習と単語の学習
4	Companies(2)	代名詞	テキストの予習と単語の学習
5	Business Trips(1)	自動詞・他動詞	テキストの予習と単語の学習
6	Business Trips(2)/Transportations and Commuting(1)	自動詞・他動詞/助動詞	テキストの予習と単語の学習
7	Transportations and Commuting(2)	助動詞	テキストの予習と単語の学習
8	Marketing, Sales and Products(1)	不定詞・動名詞	テキストの予習と単語の学習
9	Marketing, Sales and Products(2)/Offices and Supplies(1)	不定詞・動名詞/場所・動きを表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
10	Offices and Supplies(2)	場所・動きを表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
11	Meetings and Presentations(1)	時間を表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
12	Meetings and Presentations(2)/Art(1)	時間を表す前置詞/形容詞・副詞	テキストの予習と単語の学習
13	Art(2)	形容詞・副詞	テキストの予習と単語の学習
14	復習	前期の内容の復習	テキストの予習と単語の学習
15	まとめの課題	前期内容のまとめの課題	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Grip	本多 吉彦, Robert Hickling Hickling	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% Moodleの提出課題 80%
学生へのメッセージ	毎回期限までに課題を提出するように心がけてください。また共通課題は英語課題は計画的に進めて、必ず期限までに終わるようにしてください。
担当者の研究室等	非常勤講師室(3号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松本 望希
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者は原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、評価、授業の進め方などについて説明	教科書を読んでおく
2	Unit 1: Arriving in New York (1)	リーディング、リスニング	教科書の問題
3	Unit 1: Arriving in New York (2)	リーディング、ライティング、問題演習	教科書の問題
4	Unit 2: Visiting an Apartment in Chelsea	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
5	Unit 3: Streets and Avenues in Manhattan	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
6	Unit 4: Discovering the American Heart	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
7	Unit 5: Getting Around by Subway	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
8	Unit 6: College Life (1)	リーディング、リスニング	教科書の問題
9	Unit 6: College Life (2)	リーディング、ライティング、問題演習	教科書の問題
10	Unit 7: Food in New York	リーディング、ライティング、問題演習	教科書の問題
11	Unit 8: Skyscrapers are the Landmarks	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
12	Unit 9: Dazzling Brooklyn(1)	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
13	Unit 9: Dazzling Brooklyn(2)	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
14	Unit 10: Email from the Teacher (1)	問題演習、e-mailの書き方	教科書の問題
15	Unit 10 続き、学期のまとめ	これまでの復習	総復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マイ・ニューヨーク・スケッチブック [バージョン2]</td> <td>光藤京子 上杉恵美</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マイ・ニューヨーク・スケッチブック [バージョン2]	光藤京子 上杉恵美	三修社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	マイ・ニューヨーク・スケッチブック [バージョン2]	光藤京子 上杉恵美	三修社													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 定期試験 50% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 30%
学生へのメッセージ	毎回の授業には辞書を持参してください。 予習、復習をしていることを前提として授業を行います。
担当者の研究室等	非常勤講師室(3号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介	テキストの予習と単語の学習
	2	Unit 1 I'm a Big Fan (1)	Be 動詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
	3	Unit 1 I'm a Big Fan (2)	Be 動詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
	4	Unit 2 He's Kissing Her (1)	現在進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習
	5	Unit 2 He's Kissing Her (2)	現在進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習
	6	Unit 3 I Don't Have Any Money (1)	現在形・肯定文と否定文 (1)	テキストの予習と単語の学習
	7	Unit 3 I Don't Have Any Money (2)	現在形・肯定文と否定文 (2)	テキストの予習と単語の学習 確認テストに向けての学習
	8	確認テスト	Unit 1-3 の内容のテスト	テキストの予習と単語の学習
	9	Unit 4 What Do You Do Every Day? (1)	現在形・疑問文 (1)	テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習
	10	Unit 4 What Do You Do Every Day? (2)	現在形・疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習
	11	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (1)	代名詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
	12	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (2)	代名詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
	13	Unit 6 Be Careful! (1)	命令文 (1)	テキストの予習と単語の学習
	14	Unit 6 Be Careful! (2)	命令文 (2)	テキストの予習と単語の学習 まとめテストに向けての学習
	15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Charge	Robert Hickling、市川泰弘	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 課題 50% テスト 30%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	毎回課題を提出することを心掛けてください。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	3号館 2階非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藪井 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>概要説明</td> <td>――</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Lesson 1 4</td> <td>分詞</td> <td>演習 1 4</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Lesson 1 5</td> <td>分詞</td> <td>演習 1 5</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Lesson 1 6</td> <td>動名詞</td> <td>演習 1 6</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Lesson 1 7</td> <td>動名詞</td> <td>演習 1 7</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Lesson 1 8</td> <td>形容詞</td> <td>演習 1 8</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Lesson 1 9</td> <td>比較</td> <td>演習 1 9</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Lesson 2 0</td> <td>比較</td> <td>演習 2 0</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Lesson 2 1</td> <td>関係詞</td> <td>演習 2 1</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Lesson 2 2</td> <td>関係詞</td> <td>演習 2 2</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Lesson 2 3</td> <td>仮定法</td> <td>演習 2 3</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Lesson 2 4</td> <td>仮定法</td> <td>演習 2 4</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Lesson 1 4 - 2 4</td> <td>Grammar Point の復習</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総合復習</td> <td>総合復習</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プリント教材</td> <td>TOEIC 演習</td> <td>――</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	概要説明	――	――	2	Lesson 1 4	分詞	演習 1 4	3	Lesson 1 5	分詞	演習 1 5	4	Lesson 1 6	動名詞	演習 1 6	5	Lesson 1 7	動名詞	演習 1 7	6	Lesson 1 8	形容詞	演習 1 8	7	Lesson 1 9	比較	演習 1 9	8	Lesson 2 0	比較	演習 2 0	9	Lesson 2 1	関係詞	演習 2 1	10	Lesson 2 2	関係詞	演習 2 2	11	Lesson 2 3	仮定法	演習 2 3	12	Lesson 2 4	仮定法	演習 2 4	13	Lesson 1 4 - 2 4	Grammar Point の復習	授業の復習	14	総合復習	総合復習	――	15	プリント教材	TOEIC 演習	――
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	概要説明	――	――																																																																
2	Lesson 1 4	分詞	演習 1 4																																																																
3	Lesson 1 5	分詞	演習 1 5																																																																
4	Lesson 1 6	動名詞	演習 1 6																																																																
5	Lesson 1 7	動名詞	演習 1 7																																																																
6	Lesson 1 8	形容詞	演習 1 8																																																																
7	Lesson 1 9	比較	演習 1 9																																																																
8	Lesson 2 0	比較	演習 2 0																																																																
9	Lesson 2 1	関係詞	演習 2 1																																																																
10	Lesson 2 2	関係詞	演習 2 2																																																																
11	Lesson 2 3	仮定法	演習 2 3																																																																
12	Lesson 2 4	仮定法	演習 2 4																																																																
13	Lesson 1 4 - 2 4	Grammar Point の復習	授業の復習																																																																
14	総合復習	総合復習	――																																																																
15	プリント教材	TOEIC 演習	――																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Mastering Basic English Grammar</td> <td>Nagaki Kitayama</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-(指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki Kitayama	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-(指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki Kitayama	SEIBIDO																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-(指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC (Bridge) のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70% オンライン授業を行う上での変更は初日授業 (Moodle 上) でお知らせします。																																																																		
学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、そのほかの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション No Space for Wisdom (親知らずの悩み) (1)	受講に関する諸連絡(授業の進め方、各種テストについての説明など) ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0235-0278
2	No Space for Wisdom (親知らずの悩み) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0279-0324
3	Sounds From Plastic (環境にやさしいスピーカー) (1)	ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0325-0370
4	Sounds From Plastic (環境にやさしいスピーカー) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0371-0415
5	Forward vs. Backward (地球が逆回転を始めたら) (1)	ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0416-0438
6	Forward vs. Backward (地球が逆回転を始めたら) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0439-0459
7	Silence Is Golden! (騒音も公害!) (1)	ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0460-0480
8	Silence Is Golden! (騒音も公害!) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0481-0501
9	What Is Your Type? (混ぜちゃダメ、その血液) (1)	ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0502-0522
10	What Is Your Type? (混ぜちゃダメ、その血液) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0523-0543
11	New Homes for Humans? (第二の地球を求めて) (1)	ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0544-0565
12	New Homes for Humans? (第二の地球を求めて) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	演習、聞き取り・音読演習 授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0566-0587
13	A New Life for Shells (エビからプラスチック) (1)	ニュース映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習
14	A New Life for Shells (エビからプラスチック) (2)	リーディング演習、作文演習、聞き取り・音読演習	テスト対策としての復習
15	後期まとめテスト実施	(終了後) テストの解説	まとめテストの復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	World Insiders	吉田国子, Anthony Allan	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	---

学生へのメッセージ
 外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。
 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。
 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。

担当者の研究室等
 【担当者の研究室など】(共通)
 非常勤講師室(前期 3号館2階 / 後期 7号館2階)

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横内 美和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	・前期と同様に、毎回、指定範囲を課題として提出し、教員が提示する解説資料を読んで学習する。 ・課題を解く際に、分からない単語やフレーズは、辞書や文法書などで調べること。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。 11/1以降は対面授業となります。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明、実力テスト	事後学習：実力テストの復習
2	Unit 1: Everyday Life	日常生活をトピックに TOEIC を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 TOEICに関する基本的な知識や解法を身につける	事前学習：青色のボックスの中の単語をチェックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
3	Unit 2: Travel	小テスト(単語、文法問題) 旅行をトピックに TOEIC を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 TOEICに関する基本的な知識や解法を身につける	事前学習：青色のボックスの中の単語をチェックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
4	Unit 3: Hotels	小テスト(単語、文法問題) ホテルをトピックに TOEIC を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 TOEICに関する基本的な知識や解法を身につける	事前学習：青色のボックスの中の単語をチェックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
5	Unit 4: Job Hunting	小テスト(単語、文法問題) 就職活動をトピックに TOEIC を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 TOEICに関する基本的な知識や解法を身につける	事前学習：青色のボックスの中の単語をチェックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
6	Unit 5: Job Interviews	小テスト(単語、文法問題) 面接をトピックに TOEIC を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 TOEICに関する基本的な知識や解法を身につける	事前学習：青色のボックスの中の単語をチェックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習 中間テストの準備
7	Unit 6: At the Office	小テスト(単語、文法問題) 会社での出来事をトピックに TOEIC を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 TOEICに関する基本的な知識や解法を身につける	事前学習：青色のボックスの中の単語をチェックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 中間テスト準備
8	中間テスト	これまでの学習内容の確認と総復習 (Unit1~Unit6まで)	事後学習：これまでの学習内容の復習と確認

	9	Unit 7: Company Information, Department Names	小テスト (単語、文法問題) 会社情報をトピックに TOEIC を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 TOEICに関する基本的な知識や解法を身につける	事前学習: 青色のボックスの中の単語をチェックしておく。 事後学習: ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
	10	Unit 8: Job Titles and Responsibilities	小テスト (単語、文法問題) 職名と責任をトピックに TOEIC を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 TOEICに関する基本的な知識や解法を身につける	事前学習: 青色のボックスの中の単語をチェックしておく。 事後学習: ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
	11	Unit 9: Products and Services	小テスト (単語、文法問題) 商品とサービスをトピックに TOEIC を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 TOEICに関する基本的な知識や解法を身につける	事前学習: 青色のボックスの中の単語をチェックしておく。 事後学習: ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
	12	Unit 10: shopping	小テスト (単語、文法問題) 買い物をトピックに TOEIC を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 TOEICに関する基本的な知識や解法を身につける	事前学習: 青色のボックスの中の単語をチェックしておく。 事後学習: ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
	13	Unit 11: Meetings	小テスト (単語、文法問題) 会議をトピックに TOEIC を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 TOEICに関する基本的な知識や解法を身につける	事前学習: 青色のボックスの中の単語をチェックしておく。 事後学習: ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習 期末テストの準備
	14	Unit 12: Promotions and Salaries	小テスト (単語、文法問題) 昇進と給料をトピックに TOEIC を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 TOEICに関する基本的な知識や解法を身につける	事前学習: 青色のボックスの中の単語をチェックしておく。 事後学習: ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習 期末テストの準備
	15	期末テスト	これまでの学習内容の確認と総復習 (Unit7~Unit12 まで)	事後学習: これまでの授業内容の総復習と確認

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC Test Training 500 <Revised Edition>	水島孝司 他	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)
 全学共通英語課題 20%
 TOEIC Bridge スコア 10%
 授業への参加、貢献 (小テスト、発表等も含む) 50%
 まとめテスト (中間テスト、期末テスト) 20%

学生へのメッセージ
 ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。
 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること (携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。
 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。
 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。
 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。

	(原則として欠席を
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、そのほかの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション Volcanic Ash Attracts Tourists (嫌われものが神業アートに大変身) (1)	受講に関する諸連絡(授業の進め方、各種テストについての説明など) 語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0235-0278
2	Volcanic Ash Attracts Tourists (嫌われものが神業アートに大変身) (2)	長文リーディング演習、音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0279-0324
3	Seeking Work-Life Balance (働き方改革実現への道は遠い?) (1)	語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0325-0370
4	Seeking Work-Life Balance (働き方改革実現への道は遠い?) (4)	長文リーディング演習、音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0371-0415
5	For the Empowerment of Women (ある国の現状を知ることから) (1)	語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0416-0438
6	For the Empowerment of Women (ある国の現状を知ることから) (2)	長文リーディング演習、音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0439-0459
7	Settling up Lanes for Self-Driving Cars (自動運転車、公道を走る) (1)	語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0460-0480
8	Settling up Lanes for Self-Driving Cars (自動運転車、公道を走る) (2)	長文リーディング演習、音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0481-0501
9	High School Hawker Scaring Away Nuisance Birds (高校生鷹匠、タカとともに生きる) (1)	語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0502-0522
10	High School Hawker Scaring Away Nuisance Birds (高校生鷹匠、タカとともに生きる) (2)	長文リーディング演習、音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0523-0543
11	Fusion of AI with Human Sensibility (AIの弟子を持つデザイナー) (1)	語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0544-0565
12	Fusion of AI with Human Sensibility (AIの弟子を持つデザイナー) (2)	長文リーディング演習、音読演習	授業内容の予習・復習; e-learning (English Central) 学習 0566-0587
13	Infrastructure Inspection Using Drones (老朽化する日本のインフラを守れ!) (1)	語彙・発音学習、文法確認、短文リーディング演習	授業内容の予習・復習
14	Infrastructure Inspection Using Drones (老朽化する日本のインフラを守れ!) (4)	長文リーディング演習、音読演習	テスト対策としての復習
15	後期まとめテスト実施	(終了後) テストの解説	まとめテストの復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Insights 2021	村尾順子, 深山晶子, 辻本智子, 横山香奈, Ashley Moore	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなってください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階 / 後期 7号館 2階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑥		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	毎回 Moodle を通して課題や講義資料を提示、提出期限後に解説、提出された解答に対するコメント、注意点を提示して行く。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 8 回目からは対面授業に変更。原則として、未提出課題と対面授業の欠席の合計が 4 が 4 回以上あった場合には、単位が取得できない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>前期内容のポイントの復習</td> <td>テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Restaurants and Food (1)</td> <td>原級・比較級・最上級</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Restaurants and Food (2)/ Housing (1)</td> <td>原級・比較級・最上級/ 接続詞 ①</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Housing (2)</td> <td>接続詞 ①</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>The Environment and Recycling (1)</td> <td>現在時制と現在進行時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>The Environment and Recycling (2)/ Business Profile (1)</td> <td>現在時制と現在進行時制/ 過去時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Business Profile (2)</td> <td>過去時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Schedules (1)</td> <td>未来時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Schedules (2)/ Computers and the Internet (1)</td> <td>未来時制/ 現在完了時制・過去完了時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Computers and the Internet (2)</td> <td>現在完了時制・過去完了時制</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Industry and Manufacturing (1)</td> <td>能動態と受動態</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Industry and manufacturing (2)/ Making Arrangements (1)</td> <td>能動態と受動態/ 接続詞 ② (従位接続 詞)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Making Arrangements (2)</td> <td>接続詞 ② (従位接続詞)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>後期内容の確認の英作文</td> <td>後期内容の復習、英作文の練習など</td> <td>テキストの復習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめの課題</td> <td>後期内容のまとめの課題</td> <td>これまでの内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	前期内容のポイントの復習	テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)	2	Restaurants and Food (1)	原級・比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習	3	Restaurants and Food (2)/ Housing (1)	原級・比較級・最上級/ 接続詞 ①	テキストの予習と単語の学習	4	Housing (2)	接続詞 ①	テキストの予習と単語の学習	5	The Environment and Recycling (1)	現在時制と現在進行時制	テキストの予習と単語の学習	6	The Environment and Recycling (2)/ Business Profile (1)	現在時制と現在進行時制/ 過去時制	テキストの予習と単語の学習	7	Business Profile (2)	過去時制	テキストの予習と単語の学習	8	Schedules (1)	未来時制	テキストの予習と単語の学習	9	Schedules (2)/ Computers and the Internet (1)	未来時制/ 現在完了時制・過去完了時制	テキストの予習と単語の学習	10	Computers and the Internet (2)	現在完了時制・過去完了時制	テキストの予習と単語の学習	11	Industry and Manufacturing (1)	能動態と受動態	テキストの予習と単語の学習	12	Industry and manufacturing (2)/ Making Arrangements (1)	能動態と受動態/ 接続詞 ② (従位接続 詞)	テキストの予習と単語の学習	13	Making Arrangements (2)	接続詞 ② (従位接続詞)	テキストの予習と単語の学習	14	後期内容の確認の英作文	後期内容の復習、英作文の練習など	テキストの復習と単語の学習	15	まとめの課題	後期内容のまとめの課題	これまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	前期内容のポイントの復習	テキストの予習と単語の学習 予習をしながら単語帳を作ること (以下同様)																																																																
2	Restaurants and Food (1)	原級・比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習																																																																
3	Restaurants and Food (2)/ Housing (1)	原級・比較級・最上級/ 接続詞 ①	テキストの予習と単語の学習																																																																
4	Housing (2)	接続詞 ①	テキストの予習と単語の学習																																																																
5	The Environment and Recycling (1)	現在時制と現在進行時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
6	The Environment and Recycling (2)/ Business Profile (1)	現在時制と現在進行時制/ 過去時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
7	Business Profile (2)	過去時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
8	Schedules (1)	未来時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
9	Schedules (2)/ Computers and the Internet (1)	未来時制/ 現在完了時制・過去完了時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
10	Computers and the Internet (2)	現在完了時制・過去完了時制	テキストの予習と単語の学習																																																																
11	Industry and Manufacturing (1)	能動態と受動態	テキストの予習と単語の学習																																																																
12	Industry and manufacturing (2)/ Making Arrangements (1)	能動態と受動態/ 接続詞 ② (従位接続 詞)	テキストの予習と単語の学習																																																																
13	Making Arrangements (2)	接続詞 ② (従位接続詞)	テキストの予習と単語の学習																																																																
14	後期内容の確認の英作文	後期内容の復習、英作文の練習など	テキストの復習と単語の学習																																																																
15	まとめの課題	後期内容のまとめの課題	これまでの内容の復習																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Grip</td> <td>本多 吉彦、Robert Hickling</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Grip	本多 吉彦、Robert Hickling	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Grip	本多 吉彦、Robert Hickling	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% Moodle を通した課題と対面授業の課題の評価 70% TOEIC Bridge のスコア 10%																																																																		
学生へのメッセージ	期限を確認して、必ず毎回課題を提出するように心がけてください。わからないことがあれば、学内メールアドレスに質問してください。課題提出期限後に、解答、解説、皆さんが提出した解答に対するコメントを提示しますので、必ず目を通して復習してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松本 望希
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者は原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 11: Friends from Different Countries	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
	2	Unit 12: Musicals on a Shoestring	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
	3	Unit 13: Viva Grand Central Terminal!	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
	4	Unit 14: Markets are Fun	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
	5	Unit 15: September 11 Memorial	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
	6	Unit 16: Central Park & City Marathon (1)	リーディング、リスニング、問題演習	教科書の問題
	7	Unit 16: Central Park & City Marathon (2)	ライティング	教科書の問題
	8	Unit 17: Contemporary Art in New York (1)	リーディング、リスニング、問題演習	教科書の問題
	9	Unit 17: Contemporary Art in New York (2)	ライティング	教科書の問題
	10	Unit 18: Christmas in New York (1)	リーディング、リスニング、問題演習	教科書の問題
	11	Unit 18: Christmas in New York (2)	ライティング	教科書の問題
	12	Unit 19: Email from the Teacher (2)	e-mailの書き方	教科書の問題
	13	Unit 20: Goodbye, New York	リーディング、リスニング、ライティング、問題演習	教科書の問題
	14	ライティング(1)	ライティング	ライティング
15	ライティング(2)、学期のまとめ	ライティング	ライティング	

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マイ・ニューヨーク・スケッチブック [バージョン2]	光藤京子 上杉恵美	三修社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 期末レポート 50% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 20%
----------	---

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 非常勤講師室(後期7号館2階)

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	オンライン授業授業ですので、確実に課題を提出して下さい。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期の復習 プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習
2	Unit 7 let's Meet at the Station (1)	場所を示す前置詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
3	Unit 7 let's Meet at the Station (2)	場所を示す前置詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
4	Unit 8 How Was Rome? (1)	was/were (1)	テキストの予習と単語の学習
5	Unit 8 How Was Rome? (2)	was/were (2)	テキストの予習と単語の学習
6	Unit 9 I Read it in a Magazine (1)	過去形・肯定文 (1)	テキストの予習と単語の学習 過去形・肯定文 (2)
7	確認テスト	これまでの内容の確認テスト	テキストの予習と単語の学習 確認テストに向けての学習
8	Unit 9 I Read it in a Magazine (2) 第 8 回より対面授業	過去形・肯定文 (2)	テキストの予習と単語の学習
9	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (2)	過去形・否定文と疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習
10	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (2)	過去形・否定文と疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習
11	Unit 11 The Goats Were Dancing (1)	過去進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習
12	Unit 11 The Goats Were Dancing (2)	過去進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習
13	Unit 12 If Animals Could Tali (1)	接続詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
14	Unit 12 If Animals Could Tali (2)	接続詞 (2)	テキストの予習と単語の学習 まとめテストに向けての学習
15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Charge	Robert Hickling, 市川康弘	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge 10% 課題 40% テスト 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	辞書を使い必ず毎回課題提出すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、練習問題に取り組む	特になし
2	Unit 1: Restaurant	リスニング、スピーキング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
3	Unit 1: 人称代名詞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
4	Unit 2: Entertainment	リスニング、スピーキング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
5	Unit 2: 不定代名詞と再帰代名詞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
6	Unit 3: Business .	リスニング、スピーキング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
7	Unit 3: 現在・過去の時制	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	Unit 1-3の復習
8	Unit 4: Office	リスニング、スピーキング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
9	Unit 4: 現在完了	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
10	Unit 5: Telephone .	リスニング、スピーキング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
11	Unit 5: 時・期間を表す前置詞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
12	Unit 6: Letter & E-mail	リスニング、スピーキング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
13	Unit 6: 位置・場所を表す前置詞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
14	まとめ1	Unit 1-6の復習、およびまとめテスト	Unit 1-6の復習
15	まとめ2	Unit 1-6の復習、まとめテストの返却、解説	Unit 1-6の復習

関連科目	実践英語 II a
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Best Practice for the TOEIC Listening and Reading Test	吉塚 弘 他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生へのメッセージ	この授業ではTOEIC対策のテキストを用います。毎回授業の前半はテキストの問題に取り組み、後半はそこから発展させて、スピーキング、ライティング課題に取り組みます。インプットした英語表現を状況に合わせて応用し、アウトプットできるようにしていきましょう。授業時間が限られていますので予習は必須です。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階 後期 7号館 2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	他の英語科目
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Little History of the World	E. H. Gombrich	Yale University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版) (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 80%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	3号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。4回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ・毎回授業の始めに前回の授業の復習小テスト（3～5分）を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 小テスト	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 小テスト答え合わせ Lesson 1 を始める	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
2	1-1 No Poverty 貧困をなくそう	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
3	1-11 Donate what you don't use	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
4	2-1 Zero Hunger 飢餓をゼロに	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
5	2-11 Avoid throwing away food	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
6	3-1 Good Health & Well-being すべての人に健康と福祉を	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
7	3-11 Vaccinate your family to protect them and improve public health	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
8	中間テスト 4-1 Quality Education 質の高い教育をみんなに	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	中間テストの勉強 下読みと単語調べ、exercise の予習 (1 時間)
9	4-11 Help children in your community to read	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
10	5-1 Gender Equality ジェンダー平等を実現しよう	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
11	5-11 Call out sexist language and behavior	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
12	6-1 Clean Water & Sanitation 安全な水とトイレを世界に	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
13	6-11 Avoid wasting water	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
14	7-1 Affordable & Clean Energy エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	CD を聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習 (2 時間)
15	最終テスト	後半の学習内容の確認テスト	最終テストに向けての勉強

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>AFP World News Report 5 (「AFP ニュースで見る世界 5」)</td> <td>宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	AFP World News Report 5 (「AFP ニュースで見る世界 5」)	宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	AFP World News Report 5 (「AFP ニュースで見る世界 5」)	宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子	成美堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題(English Central) 20%			
	授業への参加度(小テスト、質問に対する発言、中間・期末テスト、宿題等) 80%			
学生への メッセージ	<p>持続可能な開発目標として国連が掲げている 17 項目を読んでいます。 指定された箇所を必ず予習しておくこと。余裕ができ授業中での理解度も高まります。</p> <p>Teams はリアルタイムで行います。 コロナの感染状況によっては授業計画が多少変わることもある。</p>			
担当者の 研究室等	3号館 2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。			

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 1. 手紙 (導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義 (1. 手紙) の予習
	2	1. 手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	3	2. ファックス	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	4	3. 電子メール	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	5	4. 電話	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	6	5. 面会の申し入れ	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	7	6. ホテルの予約	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	8	7. オフィスの移転通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	9	8. 支店の開設案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	10	9. レセプションへの招待	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	11	10. アンケートの回答依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	12	11. 資料の送付依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	13	12. 慶弔	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	14	13. 会議の通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
		15	1. 手紙～13. 会議の通知	既習範囲の総復習 定期試験の準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essentials of Global Business English	豊田暁 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂版)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<table border="0"> <tr> <td>全学共通英語課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>課題レポート</td> <td>80%</td> </tr> </table>	全学共通英語課題	20%	課題レポート	80%
全学共通英語課題	20%				
課題レポート	80%				

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道 (= easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張ってください! Keep your chin up
-----------	--

担当者の研究室等	3号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。elearning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席(=オンラインによる課題の未提出)のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	事前学習課題: テキストに書かれている映画の概要を読む 事後学習課題: 指定した内容の復習
2	Unit 1: The Woman in the Picture	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞(読解・リスニング)	事前学習課題: Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題: 文法事項の確認、ノートまとめ
3	Unit 1: The Woman in the Picture (文法: 分詞)	・単語/文法テスト ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題: Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題: 文法事項の確認、ノートまとめ
4	Unit 2: Back to Titanic	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞(読解・リスニング)	事前学習課題: Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題: 文法事項の確認、ノートまとめ
5	Unit 2: Back to Titanic (文法: 受動態)	・単語/文法テスト ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題: Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題: 文法事項の確認、ノートまとめ
6	Unit 3: Leaving Port	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞(読解・リスニング)	事前学習課題: Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題: 文法事項の確認、ノートまとめ
7	Unit 3: Leaving Port (文法: 助動詞)	・単語/文法テスト ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題: Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題: 文法事項の確認、ノートまとめ
8	中間テスト	これまでの学習内容より、中間テスト	事前学習課題: Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題: 文法事項の確認、ノートまとめ
9	Unit 4: Don't Do It	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞(読解・リスニング)	事前学習課題: Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題: 文法事項の確認、ノートまとめ
10	Unit 4: Don't Do It (文法: 仮定法)	・単語/文法テスト ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題: Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題: 文法事項の確認、ノートまとめ
11	Unit 5: Do You Love him?	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞(読解・リスニング)	事前学習課題: Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題: 文法事項の確認、ノートまとめ
12	Unit 5: Do You Love him? (文法: 進行形)	・単語/文法テスト ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題: Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題: 文法事項の確認、ノートまとめ
13	Unit 6: I Can't See You	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック	事前学習課題: Unit の Vocabulary, Expressions の暗記

			・映画鑑賞（読解・リスニング）	事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
	14	Unit 6: I Can't See You (文法：関係詞1)	・単語/文法テスト ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ 期末テストの準備
	15	期末テスト	これまでの学習内容より、期末テスト	これまでの総復習
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Learn English with Titanic	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（課題の提出、中間・期末・単語テスト等を含む） 80%			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回単語テストを行うので、指定範囲を覚えてくること。 ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。続く場合は単位を認めない。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象</p>			
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-JIA2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR・JIA2.1)を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-JIA2.11を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業方針・評価方法などの説明	事前：教科書に目を通しておく。
	2	Unit 1 On My Way to Silicon Valley	現在時制の復習、及びUnit 1の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	3	Unit 2 Welcome to San Francisco	代名詞の復習、及びUnit 2の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	4	Unit 3 First Day of Internship	前置詞の復習、及びUnit 3の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	5	Unit 4 Times, but	過去時制の復習及び、Unit 4の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	6	Unit 5 They Look Good on You	可算・不可算名詞の復習及び、Unit 5の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	7	Unit 6 Tech Talk	Wh 疑問文の復習及び、Unit 6の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	8	Unit 7 You're Sitting on It	進行形の復習及び、Unit 7の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	9	Unit 8 Going Green	助動詞の復習及び、Unit 8の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	10	Unit 9 Time to Work	未来の形の復習及び、Unit 9の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	11	Unit 10 Know Your Business	比較級&最上級の復習及び、Unit 10の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	12	Unit 11 The Job Interview	現在完了の復習及び、Unit 11の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	13	Unit 12 Is Your Company Right for You?	接続詞の復習及び、Unit 12の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	14	Unit 13 Email Matters	動名詞・不定詞の復習及び、Unit 13の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	15	Unit 14 On the Move	否定文の復習をしながら、Unit 14の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Booster!	Robert Hickling ほか	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語が話せれば、読めれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	3号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業や課題について質問がある学生は、学籍番号、名前、クラス名、受講曜日を必ず記入し下記のアドレスに連絡して下さい。 chikako.toda@edu.setsunan.ac.jp
	辞書は毎回の授業に持参すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。

事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 7: 数量形容詞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
3	Unit 8: Bank & Post Office	リスニング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
4	Unit 8: 自動詞と他動詞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
5	Unit 9: New Products	リスニング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
6	Unit 9: 形容詞を作る接尾辞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
7	Unit 10: Travel 1	リスニング問題に取り組む	Unit 1-3の復習
8	Unit 10: 副詞を作る接尾辞	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
9	Unit 11: Travel 2	リスニング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
10	Unit 11: 分詞構文	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
11	Unit 12: Job Applications	リスニング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
12	Unit 12: 比較	語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
13	Unit 13: Shopping / Unit 13:	リスニング問題、語彙、文法、リーディング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
14	まとめ1	Unit 7-13の復習、およびまとめテスト	語彙問題の予習、文法事項の確認
15	まとめ2	Unit 7-13の復習、およびまとめテストの解説	語彙問題の予習、文法事項の確認

関連科目	実践英語Ⅰa
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生へのメッセージ	この授業ではTOEIC対策のテキストを用います。毎回授業の前半はテキストの問題に取り組み、後半はそこから発展させて、スピーキング、ライティング課題に取り組みます。インプットした英語表現を状況に合わせて応用し、アウトプットできるようにしていきましょう。授業時間が限られていますので予習は必須です。
担当者の研究室等	非常勤講師室(前期3号館2階 後期7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。質問等はTeamsのチャット機能を用いて対応する。

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検討

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation. Exam 20%, In-class quizzes, Homework assignments, Class participation, attitude, ability 80% All adapted for the online learning environment.
-----------	--

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	他の英語科目
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版) (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 80%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	・演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ・各 Lesson の終わりにまとめの語彙テスト（3～5分）を行う。 ・4回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ・遠隔授業では常に Teams を使うが、予定表、解答の掲載やテストは Moodle を使うので自己登録しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	9-11 Think of innovative new ways to repurpose old material	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習(2時間)
3	10-1 Reduced Inequalities 人や国の不平等をなくそう	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習(2時間)
4	10-11 Raise your voice against discrimination	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習(2時間)
5	11-1 Sustainable Cities & Communities 住み続けられるまちづくりを	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習(2時間)
6	11-11 Bike, walk, or use public transportation	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習(2時間)
7	12-1 Responsible Consumption & Production つくる責任、つかう責任	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習(2時間)
8	12-1 Responsible Consumption & Production つくる責任、つかう責任 中間テスト (予定)	Exercise (語彙、英問英答など) 前半の学習の確認テスト (予定)	中間テストの勉強 下読みと単語調べ、exercise の予習(1時間)
9	12-11 Recycle paper, plastic, glass, and aluminum	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習(2時間)
10	13-1 Climate Action 気候変動に具体的な対策を	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習(2時間)
11	13-11 Educate young people on climate change	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習(2時間)
12	14-1 Life Below Water 海の豊かさを守ろう	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習(2時間)
13	14-11 Avoid plastic bags to keep the ocean safe and clean	CDを聴く 本文の内容確認 Exercise (語彙、英問英答など)	下読みと単語調べ、exercise (リスニング含む) の予習(2時間)
14	単語テスト、授業 まとめ (復習) テスト	後半の学習の確認テスト	まとめテストに備えて復習しておくこと
15	まとめテストの解答・解説 (実力問題に挑戦)	テストの答え合わせ (教科書に出て来た語彙の総復習など)	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AFP World News Report 5 (「AFP ニュースで見る世界 5」)	宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition—	西谷 恒志	成美堂

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、中間及び期末テスト、宿題等も含む) 80%			
学生への メッセージ	持続可能な開発目標として国連が掲げている 17 項目の後半部分を読んでいます。Lesson 9 から始めます。(途中計画通りに進まないこともあります。) 各 Lesson の DVD を見て、状況を掴んでおくようにしてください。 事前に予習(単語調べ、どんな英文構成かを見ておくなど)が済んでいるものとして授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シラバスの説明 14. 議事録 (導入)</td> <td>授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など</td> <td>次回講義 (14. 議事録) の予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>14. 議事録</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>15. 物品の購入</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>16. 社内研修の案内</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>17. 社外研修の報告</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>18. 日程の中間報告</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>19. 引合い (1)</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>20. 引合い (2)</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>21. 注文</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>22. 代金の回収</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>23. クレームと調整</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24. 履歴書</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>25. 応募の手紙</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>26. 推薦状</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>14. 議事録～26. 推薦状</td> <td>既習範囲の総復習 定期試験の準備</td> <td>定期試験の準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	シラバスの説明 14. 議事録 (導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義 (14. 議事録) の予習	2	14. 議事録	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	3	15. 物品の購入	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	4	16. 社内研修の案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	5	17. 社外研修の報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	6	18. 日程の中間報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	7	19. 引合い (1)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	8	20. 引合い (2)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	9	21. 注文	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	10	22. 代金の回収	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	11	23. クレームと調整	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	12	24. 履歴書	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	13	25. 応募の手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	14	26. 推薦状	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	15	14. 議事録～26. 推薦状	既習範囲の総復習 定期試験の準備	定期試験の準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	シラバスの説明 14. 議事録 (導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義 (14. 議事録) の予習																																																																
2	14. 議事録	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
3	15. 物品の購入	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
4	16. 社内研修の案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
5	17. 社外研修の報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
6	18. 日程の中間報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
7	19. 引合い (1)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
8	20. 引合い (2)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
9	21. 注文	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
10	22. 代金の回収	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
11	23. クレームと調整	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
12	24. 履歴書	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
13	25. 応募の手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
14	26. 推薦状	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
15	14. 議事録～26. 推薦状	既習範囲の総復習 定期試験の準備	定期試験の準備																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Essentials of Global Business English</td> <td>豊田 暁 他</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂版)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂版)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂版)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 課題レポート 80% (授業内で、課題・小テスト・後期末試験を実施)																																																																		
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道 (= easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	・前期と同様に、毎回、指定範囲を課題として提出し、教員が提示する解説資料を読んで学習する。 ・課題を解く際に、分からない単語やフレーズは、辞書や文法書などで調べること。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: be 動詞	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
3	Unit 2: 一般動詞 (現在形)	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
4	Unit 3: 一般動詞 (過去形)	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
5	Unit 4: 進行形	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
6	Unit 5: 未来表現	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ +中間テスト
7	Unit 6: 助動詞 +中間テスト	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング +これまでの内容より中間テスト	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
8	Unit 7: 受動態	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
9	Unit 8: 現在完了形	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
10	Unit 9: 比較	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
11	Unit 10: 分詞	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
12	Unit 11: 不定詞	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
13	Unit 12: 関係詞	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
14	Unit 13: 接続詞・前置詞	・単語テスト ・文法のチェック ・ポップソングを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	予習：指定箇所の単語を暗記、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
15	期末テスト	これまでの学習内容より、期末テスト	これまでの総復習

関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1	Let's Learn English with Pop Hits! (ポップス でスタート! 基礎英語)	Teruhiko Kadoyama, Timothy F. Hawthorne	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧 版) (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回単語テストを行うので、指定範囲を覚えてくること。 ・ グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・ 辞書か電子辞書を必ず持参すること (携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。 ・ 積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ① 私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。続く場合は単位を認めない。 ② 睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-JIA2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR・JIA2.1)を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-JIA2.11を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 *授業で使用使用する教科書、ノートは毎回必ず持参すること。教科書未購入の場合単位認定されないことがあります。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 01: What's your major?	授業についての説明。 be 動詞の復習。 単語テスト	事前: シラバスを読む。単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
2	02: How do you like your new school? 03: Let's me introduce a new member to you.	一般動詞の復習。 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
3	04: How was your Golden Week?	未来形の復習。 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
4	05: I'm looking for a part-time job.	進行形の復習。 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
5	06: What do you call this in Japanese?	受動態の復習。 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
6	07: Have you been there?	現在完了形の復習。 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
7	中間テスト	単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
8	08: Could you tell me how to get there?	助動詞の復習。 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
9	09: What do you want me to do?	不定詞の復習。 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
10	10: I'm on the tight budget.	関係詞の復習。 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
11	11: What do you think of this program?	形容詞・副詞の復習。 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
12	12: I'm reviewing what I studied.	接続詞・前置詞の復習。 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
13	13: Final exam week is so stressful!	動名詞の復習。 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
14	14: Is this your first trip abroad?	分詞の復習。 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。
15	8-14のまとめテスト	総復習 単語テスト	事前: 単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後: 不明点を解決する。

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Read Aloud & Learn English On Campus	角山照彦 ほか	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	英語が話せれば、読めれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	辞書は毎回の授業に持参すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。
----	--

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Class Introduction		Class Introduction
2	Personal Information	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
3	挨拶、自己紹介等の会話	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
4	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
5	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
6	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1 and 2 Test
7	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
8	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
9	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
10	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
11	旅行の会話	～はどこですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3 and 4 Test
12	旅行の会話	～はどこですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
13	買い物の会話	～はいくらですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
14	買い物の会話	～はいくらですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6
15	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6

関連科目 他の英語のクラスすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English In Common 1		Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 平常点 (毎週のクイズ 40%、発表 30%、課題提出 30%) にて評価する。

学生へのメッセージ Be prepared to speak in class. Looking forward to seeing you.
ZOOM ID: 933 5591 9028
PASS CODE: 176372

担当者の研究室等 非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)

備考 事前・事後学習課題については 1 日 90 分程度行うこと。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/ 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test I I / Achievement Test, Units 4-6	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, Fifth Edition	Helegsen, Wiltshier, Brown	Pearson
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger.
	2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
	3	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	4	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	5	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	6	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). / Units 1&2 test. Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	7	Unit 3: Talking about art (using passive tense). Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, conversation,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation,	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

		pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	reading and listening tasks.	
	8	Unit 3: Talking about art (using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	9	Unit 4: Describing people (using relative clauses). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 4: Describing people (using relative clauses). / Units 3&4 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense) / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.
関連科目	英語基礎会話 b			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Level 2 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406114-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) Others (20%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/ 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test I I / Achievement Test, Units 4-6	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	3号館 2階 非常勤講師室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction	Students will take part in course and student introduction activities.	Students should study the content of the days lesson
2	Conversation Strategies	How to extend conversation by using comments and follow-up questions.	Students should study the content of the days lesson
3	Unit 1: Jobs	Vocabulary Introduction Listening Activity Wh-Questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
4	Unit 1: Jobs	Presentation Skills Mini-Presentation 1: Your ideal job	Students should study the content of the days lesson
5	Unit 2: Daily Activities	Vocabulary Introduction Listening Activity Yes/No questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
6	Unit 2: Daily Activities	Presentation Skills Mini-Presentation 2: Your daily routine	Students should study the content of the days lesson
7	Conversation Strategy	Students will learn how express their opinions and phrases to agree and disagree with opinions that they hear.	Students should study the content of the days lesson
8	Midterm Assessment	Students will complete a review activity demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
9	Unit 4: Feelings	Vocabulary Introduction Listening Activity Subject and Object pronouns	Students should study the content of the days lesson
10	Unit 4: Feelings	Presentation Skills Mini-Presentation 3: What makes you happy?	Students should study the content of the days lesson
11	Unit 6: Talking about the past	Vocabulary Introduction Listening Activity Simple Past Tense	Students should study the content of the days lesson
12	Unit 6: Talking about the past	Presentation Skills Mini-Presentation 4: My Favorite Vacation	Students should study the content of the days lesson
13	Downtown	Vocabulary Introduction Listening Activity Prepositions of place	Students should study the content of the days lesson
14	Final Assessment	Students will complete a review activity demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
15	Discussion Activity	Students will do discussion activities in small groups.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加 (ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 70% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。) Midterm Assessment Activity 15% Final Assessment Activity 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills, as well as practice in writing. Students will work in pair
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3号館 2階/後期 7号館 2階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。 会話力、T O E I Cの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	3号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/ 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test I I / Achievement Test, Units 4-6	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	3号館 2階 非常勤講師室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/ 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test I I / Achievement Test, Units 4-6	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, Fifth Edition	Helegsen, Wiltshier, Brown	Pearson
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な言葉の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	3号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger.
	2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
	3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	6	Unit 2: Sharing personal information. / Units 1 & 2 test. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

	pairs and		
7	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and gro	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 4: Talking about habits and routines. / Units 3 & 4 test. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exerci	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.com) corresponding to the unit studied in class. Repea

	14	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.																
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.																
関連科目	英語基礎会話 b																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)</td> <td>Wilson, K.</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) Others (20%)																			
学生へのメッセージ	<p>皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!</p> <p>In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details.</p> <p>Any student who is absent for</p>																			
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	Students will take part in course and student introduction activities.	Students should study the content of the days lesson
	2	Conversation Strategies	How to extend conversation by using comments and follow-up questions.	Students should study the content of the days lesson
	3	Unit 1: Jobs	Vocabulary Introduction Listening Activity Wh-Questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
	4	Unit 1: Jobs	Presentation Skills Mini-Presentation 1: Your ideal job	Students should study the content of the days lesson
	5	Unit 2: Daily Activities	Vocabulary Introduction Listening Activity Yes/No questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
	6	Unit 2: Daily Activities	Presentation Skills Mini-Presentation 2: Your daily routine	Students should study the content of the days lesson
	7	Conversation Strategy	Students will learn how express their opinions and phrases to agree and disagree with opinions that they hear.	Students should study the content of the days lesson
	8	Midterm Assessment	Students will complete a review activity demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
	9	Unit 4: Feelings	Vocabulary Introduction Listening Activity Subject and Object pronouns	Students should study the content of the days lesson
	10	Unit 4: Feelings	Presentation Skills Mini-Presentation 3: What makes you happy?	Students should study the content of the days lesson
	11	Unit 6: Talking about the past	Vocabulary Introduction Listening Activity Simple Past Tense	Students should study the content of the days lesson
	12	Unit 6: Talking about the past	Presentation Skills Mini-Presentation 4: My Favorite Vacation	Students should study the content of the days lesson
	13	Downtown	Vocabulary Introduction Listening Activity Prepositions of place	Students should study the content of the days lesson
	14	Final Assessment	Students will complete a review activity demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
	15	Discussion Activity	Students will do discussion activities in small groups.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加 (ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 70% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。) Midterm Assessment Activity 15% Final Assessment Activity 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills, as well as practice in writing. Students will work in pair
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3号館 2階/後期 7号館 2階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1 What's your name?	授業の進め方や評価方法などの説明 自己紹介の仕方を学ぶ	宿題をする
2	Unit 1 What's your name?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
3	Unit 1 What's your name?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
4	Unit 2 I love fashion!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
5	Unit 2 I love fashion!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
6	Unit 3 How do you stay healthy?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
7	Unit 3 How do you stay healthy?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
8	Unit 4 How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
9	Unit 4 How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
10	Unit 4 How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
11	Unit 5 What's that?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
12	Unit 5 What's that?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
13	Unit 6 What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
14	Unit 6 What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
15	Unit 6 What's your dream? その他の学習活動	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技	宿題をする

		術、語彙、文法を学ぶ	
関連科目	英語基礎会話Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	English Firsthand (Fifth Edition) Success: Student Book with MyMobileWorld ISBN: 9789813132764	Marc Helgesen, John Wiltsher, & Steven Brown
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業中の取り組み(課題・発表を含む)と宿題: 100%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	3号館2階非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールや出講時に非常勤講師室にて対応する		

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。 会話力、T O E I Cの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	3号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業の進め方、評価の方法などの説明 ・簡単な自己紹介	・事前学習： 英語で自己紹介ができるように考えてくる
2	Unit 1: Smartphone (過去形)	・単語テスト ・スマートフォンをテーマにリスニング、スピーキング、文法 (過去形) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
3	Unit 2: Date (過去形の否定文)	・単語テスト ・デートをテーマにリスニング、スピーキング、文法 (過去形の否定文) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
4	Unit 3: Cooking (命令形)	・単語テスト ・料理をテーマにリスニング、スピーキング、文法 (命令形) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
5	Unit 4: Homework (to 不定詞)	・単語テスト ・宿題をテーマにリスニング、スピーキング、文法 (to 不定詞) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
6	Unit 5: LINE messages (現在進行形)	・単語テスト ・ラインのメッセージをテーマにリスニング、スピーキング、文法 (現在進行形) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認 ・中間テストの準備
7	中間テスト	これまで学んだことより中間テスト (ペア・グループの発表+筆記)	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit1~5 の総復習
8	Unit 6: At a sweets parlor (There is)	・単語テスト ・お菓子をテーマにリスニング、スピーキング、文法 (There is) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
9	Unit 7: Type (形容詞)	・単語テスト ・タイプをテーマにリスニング、スピーキング、文法 (形容詞) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
10	Unit 8: Instant noodles (比較)	・単語テスト ・インスタント麺をテーマにリスニング、スピーキング、文法 (比較) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
11	Unit 9: Running (can)	・単語テスト ・ランニングをテーマにリスニング、スピーキング、文法 (can) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
12	Unit 10: Hokkaido (未来形 1)	・単語テスト ・北海道をテーマにリスニング、スピーキング、文法 (未来形) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
13	Unit 11: Part-time job (未来形 2)	・単語テスト ・アルバイトをテーマにリスニング、スピーキング、文法 (未来形) の力をつける ・小テスト	事前学習： ・Key words の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
14	Unit 12: Convenience store (丁寧な表現)	・単語テスト ・コンビニをテーマに	事前学習： ・Key words の単語を覚える

			リスニング、スピーキング、文法（丁寧な表現）の力をつける ・小テスト	事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認 ・発表の準備
	15	発表	これまで学んだことより発表（ペア・グループの発表＋筆記）	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit6～12の総復習
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Fun Time!-Basic English for Communication-	Masaki Makino and Junya Hirano	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト 20% ・中間テスト＋発表 60% ・平常点：20%（課題の提出等） 注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。（＝3 回を超えるオンラインによる課題の未提出があった場合、単位を認めない）			
学生への メッセージ	本授業では、基本的な英会話力の向上を目指す。日常における様々なシーンを想定し、会話がスムーズにできるように練習する。ペアワークやグループワークなどを通じて、自分のことを一方的に話すだけでなく、相手の話を聞いてそれに受け答えできるように訓練をする。また様々な英語表現に触れ、会話の幅を広げることも本授業の目的の一つである。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業やグループワークへの積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。多少の間違いがあっても、自分の考えを述べようとする方学生にはどんどん成績を上げていきます。 ・ただし、授業に関 			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Class Introduction		Class Introduction
2	Personal Information	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
3	挨拶、自己紹介等の会話	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
4	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
5	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
6	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1 and 2 Test
7	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
8	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
9	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
10	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
11	旅行の会話	～はどこですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3 and 4 Test
12	旅行の会話	～はどこですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
13	買い物の会話	～はいくらですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
14	買い物の会話	～はいくらですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6
15	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6

関連科目 他の英語のクラスすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English In Common 1		Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 平常点 (毎週のクイズ 40%、発表 30%、課題提出 30%) にて評価する。

学生へのメッセージ Be prepared to speak in class. Looking forward to seeing you.
ZOOM ID: 950 9215 6053
PASS CODE: 374754

担当者の研究室等 非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)

備考 事前・事後学習課題については 1 日 90 分程度行うこと。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP7⑩		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	英語を使つてのコミュニケーション能力がつき、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス、現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Class introduction
2	現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7
3	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7
4	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7 test
5	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8
6	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8
7	U7～9の見直し、復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 9
8	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 9
9	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8 and 9 Test
10	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10
11	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10
12	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 11
13	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 11
14	復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10 and 11 Test
15	テーマは自由に選択、ペアでロールプレイを行う。	授業でペアを組み会話を実演	Class Wrap-up

関連科目 他の英語のクラスすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		Pearson
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 出席は必ずすること。3週間ごとにスピーキングクイズを行う。授業前の準備(単語・文法の使い方)も、評価に反映する。やる気があるかどうかをみていきます。
評価割合は「授業前準備20%、授業態度30%、スピーキングクイズやテスト50%」とします。

学生への 私は、このクラスの生徒のすべてが、真剣に英語でのコミュニケーションスキルを向上することを願っています。私は、学生のクラスでの最善の

メッセージ	努力を見てみたい。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 ZOOM ID:933 5591 9028 PASSCODE:176372

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	15	Conversation Test II / Achievement Test, Units 16-20	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, 5th Edition	Helgesen, Wiltshier, Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15%学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation, review greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
	2	Unit 7: Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	3	Unit 7: Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	4	Unit 8: Describing places (using second conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	5	Unit 8: Describing places (using second conditional). Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	6	Unit 9: Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	7	Unit 9: Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	8	Unit 10: Speculating on	Students will discover, practice	Complete online homework

		the past (using may, might, could couldn't, and must have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	(https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	9	Unit 10: Speculating on the past (using may, might, could couldn't, and must have). / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 11: Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups. Units 3 & 4 test.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 11: Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 12: Discussing the news (using reported speech). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 12: Discussing the news (using reported speech).. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 12 review. Units 11 & 12 Test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

関連科目

英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice Level 2 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406114-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	15	Conversation Test II / Achievement Test, Units 16-20	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15%学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Review of summer holiday	Review Activity based on the material from Semester 1. Discussion of summer holiday activities	Students should study the content of the days lesson
	2	People we Admire	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Simple past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
	3	People we Admire	Presentation Skills. Mini-Presentation 1: Describing someone you admire.	Students should study the content of the days lesson
	4	At a Supermarket	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Count and Noncount nouns Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
	5	At a Supermarket	Presentation Skills. Mini-Presentation 2: Teaching a recipe to the class.	Students should study the content of the days lesson
	6	Health Problems	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: "Should" for giving advice. Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
	7	Health Problems	Presentation Skills. Mini-Presentation 3: How to treat a health problem	Students should study the content of the days lesson
	8	Midterm Writing Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
	9	Midterm Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to do a short speaking activity to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
	10	Cities	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Wh-Questions with the past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
	11	Cities	Presentation Skills. Mini-Presentation 4: Vacation Recommendation. Describing where to go and why.	Students should study the content of the days lesson
	12	Travel Plans	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Future plans with "be going to" and "might". Group speaking task.	Students should study the content of the days lesson
	13	Travel Plans	Presentation Skills. Mini-Presentation 5: Your plans for the Spring Vacation	Students should study the content of the days lesson
	14	Final Writing Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of all the material presented in the course.	Students should study the content of the days lesson
15	Final Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to complete a short speaking assignment which will demonstrate their understanding of the speaking skills presented in this course.	Students should study the content of the days lesson	
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6</td> <td>Susan Stempleski</td> <td>Oxford</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	Homework Assignments 10% Classwork 35% Mini-Presentations 15% Midterm Assessments 20% Final Assessments 20%																
学生への メッセージ	We will return to the classroom for face to face classes from November 8th.																
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する																

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。 会話力、T O E I Cの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	15	Conversation Test II / Achievement Test, Units 16-20	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15%学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	15	Conversation Test II / Achievement Test, Units 16-20	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, 5th Edition	Helgesen, Wiltshier, Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15%学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
	2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. / Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

		conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
	8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. / Units 11 & 12 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.

		pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	People we Admire	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Simple past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
3	People we Admire	Presentation Skills. Mini-Presentation 1: Describing someone you admire.	Students should study the content of the days lesson
4	At a Supermarket	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Count and Noncount nouns Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
5	At a Supermarket	Presentation Skills. Mini-Presentation 2: Teaching a recipe to the class.	Students should study the content of the days lesson
6	Health Problems	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: "Should" for giving advice. Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
7	Health Problems	Presentation Skills. Mini-Presentation 3: How to treat a health problem	Students should study the content of the days lesson
8	Midterm Writing Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
9	Midterm Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to do a short speaking activity to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
10	Cities	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Wh-Questions with the past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
11	Cities	Presentation Skills. Mini-Presentation 4: Vacation Recommendation. Describing where to go and why.	Students should study the content of the days lesson
12	Travel Plans	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Future plans with "be going to" and "might". Group speaking task.	Students should study the content of the days lesson
13	Travel Plans	Presentation Skills. Mini-Presentation 5: Your plans for the Spring Vacation	Students should study the content of the days lesson
14	Final Writing Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of all the material presented in the course.	Students should study the content of the days lesson
15	Final Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to complete a short speaking assignment which will demonstrate their understanding of the speaking skills presented in this course.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6</td> <td>Susan Stempleski</td> <td>Oxford</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	Homework Assignments 10% Classwork 35% Mini-Presentations 15% Midterm Assessments 20% Final Assessments 20%																
学生への メッセージ	We will return to the classroom for face to face classes from November 8th.																
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (後期 7号館 2階)																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する																

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 7 It was great!	授業の進め方や評価方法などの説明 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	2	Unit 7 It was great!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	3	Unit 7 It was great!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	4	Unit 8 How much do you know?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	5	Unit 8 How much do you know?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	6	Unit 9 She can really sing!	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	7	Unit 9 She can really sing!	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	8	Unit 10 What do you like to do?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	9	Unit 10 What do you like to do?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	10	Unit 10 What do you like to do?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	11	Unit 11 Of course you can.	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	12	Unit 11 Of course you can.	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	13	Unit 12 What happened next?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会	宿題をする

			話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	
	14	Unit 12 What happened next?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
	15	Unit 12 What happened next? その他の学習活動	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
関連科目	英語基礎会話 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand (Fifth Edition) Student Book with MyMobileWorld ISBN: 9789813132764	Marc Helgesen, John Wiltsher, & Steven Brown	Pearson
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の取り組み (小テスト・課題・発表を含む) と宿題 : 100%			
学生へのメッセージ	学期途中で、新型コロナウイルスの感染状況の改善等により、対面授業になる場合があります。その場合は、利用する I C T ツール等で連絡されます。			
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールや出講時に非常勤講師室にて対応する			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。 会話力、T O E I Cの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・前期と同様に、毎回、指定範囲を課題として提出し、教員が提示する解説資料を読んで学習する。 ・課題を解く際に、分からない単語やフレーズは、辞書や文法書などで調べる。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。 ・3回を超える課題の未提出があった場合、原則単位不可とします。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: ファストフード店での注文	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・ファストフード店での注文について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
3	Unit 2: レストランでの来客対応	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・レストランでの来客対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
4	Unit 3: 接客サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・接客サービスについて、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
5	Unit 4: コンビニやスーパーでの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・コンビニやスーパーでの対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
6	Unit 5: 会計	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・会計時の対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ、中間テストの準備
7	中間テスト	これまでの内容より中間テスト (ペア・グループワーク+筆記)	Unit1～5の総復習
8	Unit 6: 苦情対応	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・苦情対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
9	Unit 7: ホテルでの宿泊客の受付	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・宿泊客の受付について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
10	Unit 8: サービス提供、近隣情報の案内	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・サービス提供、近隣情報の案内の仕方について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
11	Unit 9: 観光案内	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・観光案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
12	Unit 10: 道案内	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・道案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
13	Unit 11: 交通機関や観光施設の案内	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・交通機関や観光施設の案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
14	Unit 12: 発券機や機器の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・発券機や機器の説明について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ 	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ、期末テストの準備

			・小テスト	
	15	発表	これまでの内容より発表 (ペア・グループワーク+筆記)	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読 復習：解説資料を読み、ノートまとめ、Unit6~12の総復習
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	You're Welcome Communication with Tourists Made Easy	Tae Kudo	Cengage Learning
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト20% ・中間テスト+発表60% ・平常点：20% 			
学生への メッセージ	<p>本授業では、前期に引き続き、基本的な英会話力の向上を目指す。特に日本を観光中の外国人への案内を想定し、的確な会話ができるように練習をする。ペアワークやグループワークなどを通じて、会話のキャッチボールがスムーズにできるように訓練を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業やグループワークへの積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。多少の間違いがあっても、自分の考えを述べようとする方学生にはどんどん成績を上げていきます。 ・ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績の低下だけでなく、単位の取得にも影響を及ぼす。 			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス、現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Class introduction
2	現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7
3	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7
4	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 7 test
5	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8
6	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8
7	U7～9の見直し、復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 9
8	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 9
9	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 8 and 9 Test
10	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10
11	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10
12	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 11
13	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 11
14	復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 10 and 11 Test
15	テーマは自由に選択、ペアでロールプレイを行う。	授業でペアを組み会話を実演	Class Wrap-up

関連科目 他の英語のクラスすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		Pearson
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 出席は必ずすること。3週間ごとにスピーキングクイズを行う。授業前の準備(単語・文法の使い方)も、評価に反映する。やる気があるかどうかをみていきます。
評価割合は「授業前準備20%、授業態度30%、スピーキングクイズやテスト50%」とします。

学生への 私は、このクラスの生徒のすべてが、真剣に英語でのコミュニケーションスキルを向上することを願っています。私は、学生のクラスでの最善の

メッセージ	努力を見てみたい。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	<p>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p> <p>ZOOM</p> <p>ID:950 9215 6053</p> <p>PASSCODE:374754</p>

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長谷川 雄高
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項について	教科書の「文章の書き方 2」をよむ (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方について	教科書の「事実と意見」をよむ (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
4	事実と意見	事実と意見の書き分けについて	教科書の「課題①説明文」を読む (10 分)、ワークシートの作成 (30 分)、課題 1 作成の準備 (70 分)
5	課題①説明文	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く	教科書の「構成」を読む (30 分)
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書の「要約」を読む (30 分) ワークシートの作成 (30 分)
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	教科書の「文章を引用する」を読む (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書の「図表を引用する」を読む (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書の「意見を述べる」を読む (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	教科書の「課題②論説文」を読む (20 分)、ワークシートの作成 (30 分)、課題 2 作成の準備 (70 分)
11	課題②論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書の「レポートの書き方 1」を読む (30 分)
12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	教科書の「レポートの書き方 2」を読む (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点をささげる	レポート作成の準備 (70 分)、ワークシートの作成 (30 分)
14	課題③レポートの作成	レポートを作成する	—
15	おわりに	レポートの講評・まとめ	ワークシートの作成 (30 分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	新しい技術、「論理的な文章」を書くことに挑戦してみましょう。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間となる。 提出課題については、対面授業時には授業中に、遠隔授業時には授業プリントもしくは Teams の機能を用いて、フィードバックを行う。 質問等は、出講時には非常勤講師室において、それ以外もしくは遠隔授業の場合はメール・Teams の機能を用いて対応する。
----	--

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ろ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。																																																																
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。																																																																
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、漢字について系統的に学ぶ。																																																																
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>授業についての説明</td> <td>教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文章の書き方 1</td> <td>レポート・論文の基本事項</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文章の書き方 2</td> <td>わかりやすい文章の書き方</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>事実と意見文</td> <td>事実と意見の書き分け</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題① 説明文</td> <td>必要なことをわかりやすく説明する</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>構成</td> <td>レポートなどの文章構成を学ぶ</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約</td> <td>要旨の要約の作成方法を知る</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文章を引用する</td> <td>文章を引用する方法を学ぶ</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>図表を引用する</td> <td>図表を引用する方法を学ぶ</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>意見を述べる</td> <td>考察に基づいて意見を述べる</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>課題② 論説文</td> <td>資料を引用して意見を述べる</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>レポートの書き方 1</td> <td>レポートの体裁について学ぶ</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>レポートの書き方 2</td> <td>レポート作成の注意点を教える</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>レポートの書き方 3</td> <td>アウトラインの構成を学ぶ</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>レポート課題 (課題③)</td> <td>レポートをまとめる</td> <td>授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)	2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)	15	レポート課題 (課題③)	レポートをまとめる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)																																																														
2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
15	レポート課題 (課題③)	レポートをまとめる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)																																																														
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法 (基準)	課題①と② (各 20%)、レポート課題 (30%)、その他の提出物 (30%) で評価する。ただし、課題①、課題②、レポート課題のうち、ひとつでも提出がない場合は不合格となる。また、提出物が 5 回ない場合も不合格となる。なお、課題①、課題②、レポート課題についての評価基準は出題の際に示す。(提出課題には締め切りを設けるので守ること。締め切りを過ぎた提出課題は不可とする。)																																																																
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。																																																																
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																
備考	講義内容の質問については提出物にその欄を設ける。提出課題のフィードバックについては解答とともに示す。																																																																

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	に
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長谷川 雄高
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項について	教科書の「文章の書き方 2」をよむ (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方について	教科書の「事実と意見」をよむ (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
4	事実と意見	事実と意見の書き分けについて	教科書の「課題①説明文」を読む (10 分)、ワークシートの作成 (30 分)、課題 1 作成の準備 (70 分)
5	課題①説明文	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く	教科書の「構成」を読む (30 分)
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書の「要約」を読む (30 分) ワークシートの作成 (30 分)
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	教科書の「文章を引用する」を読む (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書の「図表を引用する」を読む (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書の「意見を述べる」を読む (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	教科書の「課題②論説文」を読む (20 分)、ワークシートの作成 (30 分)、課題 2 作成の準備 (70 分)
11	課題②論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書の「レポートの書き方 1」を読む (30 分)
12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	教科書の「レポートの書き方 2」を読む (30 分)、ワークシートの作成 (30 分)
13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点をささげる	レポート作成の準備 (70 分)、ワークシートの作成 (30 分)
14	課題③レポートの作成	レポートを作成する	—
15	おわりに	レポートの講評・まとめ	ワークシートの作成 (30 分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	新しい技術、「論理的な文章」を書くことに挑戦してみましょう。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間となる。 提出課題については、対面授業時には授業中に、遠隔授業時には授業プリントもしくは Teams の機能を用いて、フィードバックを行う。 質問等は、出講時には非常勤講師室において、それ以外もしくは遠隔授業の場合はメール・Teams の機能を用いて対応する。
----	--

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ほ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑥		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、漢字について系統的に学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)
	2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	15	レポート課題 (課題③)	レポートをまとめる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題①と② (各 20%)、レポート課題 (30%)、その他の提出物 (30%) で評価する。ただし、課題①、課題②、レポート課題のうち、ひとつでも提出がない場合は不合格となる。また、提出物が 5 回ない場合も不合格となる。なお、課題①、課題②、レポート課題についての評価基準は出題の際に示す。(提出課題には締め切りを設けるので守ること。締め切りを過ぎた提出課題は不可とする。)
-----------	---

学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	講義内容の質問については提出物にその欄を設ける。提出課題のフィードバックについては解答とともに示す。
----	--

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	小林 理正
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	遠隔授業にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 指定教科書以外の資料は、教員が Teams 上にアップロードする。
科目学習の効果 (資格)	大学生生活、社会人生活で必要となる「書く」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方①	授業の目的、進め方 話し言葉と書き言葉の違いを認識する	日常生活の文章（新聞やインターネット上の記事など）から話し言葉と書き言葉を抜き出すなどして、授業の復習を行う。
2	文章の書き方②	文の構造について確認する	配布した課題をつうじて、意味が取りにくい長文を文の構成を意識し、分かりやすい文へと書き改める。
3	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	講義内で示すテーマについて事実文と意見文を交えて見解を述べる。
4	文章の構成	段落分けについて学ぶ	講義内で示すテーマについて段落分けを意識した文章を書き、見解を述べる。
5	課題①	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題①に向けて、これまでの復習を行う。
6	課題①フィードバック 敬語表現①	課題①の返却・講評 敬語表現の基本を確認する	課題①のフィードバックを受け、自身の解答を改めて見直す。 日常生活の中の敬語表現について調べ、課題へ回答する。
7	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	講義内で配布する資料を要約する。
8	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	講義内で示すテーマについて、具体的な資料を引用したうえで、意見を述べる。
9	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	講義内で配布する、グラフ・図表を利用した資料の説明をつうじて、講義内容の復習を行う。
10	レポート・論文の構成	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	レポート・論文などの文章構成を意識して、講義内で示すテーマについて論述する。
11	課題②	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	第 6 回目講義から第 10 回目講義までの復習を行う。
12	課題②フィードバック エントリーシートの書き方	課題②の返却・講評 就職活動関連に必要な文章を書く	課題②のフィードバックを受け、自身の解答を改めて見直す。 エントリーシートの書き方を復習したうえで、自己 PR 文を書く。
13	注の付け方	注の付け方・書き方を学ぶ	注を付けたうえで、資料を引用しつつ、講義内で示すテーマについて論述する。
14	復習テスト	1 これまで講義内容および小テストの復習	課題③に向けて、講義内で示すテーマについて構成を意識した文章を書く。
15	課題③	構成を意識した文章を書く	これまでの講義内容を復習しておく。とくに課題①②を見直しをつうじて、話し言葉と書き言葉の違いを整理し、文章構成を意識した文章を書くために必要なことをまとめておく。

関連科目	日本語表現 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 2 回 (30%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢 (投げかける質問に対する発言、授業テーマに関わる質問が行えているか、など)・小テスト (10%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	私たちが当たり前のように使っている「日本語」とあらためてじっくりと向き合ってみましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	質問等は講義時間内に対応する。
----	-----------------

	総学習時間の目安は 40 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
--	--

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	は
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	小林 理正
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	遠隔授業にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 指定教科書以外の資料は、教員が Teams 上にアップロードする。
科目学習の効果 (資格)	大学生生活、社会人生活で必要となる「書く」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方①	授業の目的、進め方 話し言葉と書き言葉の違いを認識する	日常生活の文章（新聞やインターネット上の記事など）から話し言葉と書き言葉を抜き出すなどして、授業の復習を行う。
2	文章の書き方②	文の構造について確認する	配布した課題をつうじて、意味が取りにくい長文を文の構成を意識し、分かりやすい文へと書き改める。
3	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	講義内で示すテーマについて事実文と意見文を交えて見解を述べる。
4	文章の構成	段落分けについて学ぶ	講義内で示すテーマについて段落分けを意識した文章を書き、見解を述べる。
5	課題①	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題①に向けて、これまでの復習を行う。
6	課題①フィードバック 敬語表現①	課題①の返却・講評 敬語表現の基本を確認する	課題①のフィードバックを受け、自身の解答を改めて見直す。 日常生活の中の敬語表現について調べ、課題へ回答する。
7	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	講義内で配布する資料を要約する。
8	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	講義内で示すテーマについて、具体的な資料を引用したうえで、意見を述べる。
9	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	講義内で配布する、グラフ・図表を利用した資料の説明をつうじて、講義内容の復習を行う。
10	レポート・論文の構成	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	レポート・論文などの文章構成を意識して、講義内で示すテーマについて論述する。
11	課題②	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	第 6 回目講義から第 10 回目講義までの復習を行う。
12	課題②フィードバック エントリーシートの書き方	課題②の返却・講評 就職活動関連に必要な文章を書く	課題②のフィードバックを受け、自身の解答を改めて見直す。 エントリーシートの書き方を復習したうえで、自己 PR 文を書く。
13	注の付け方	注の付け方・書き方を学ぶ	注を付けたうえで、資料を引用しつつ、講義内で示すテーマについて論述する。
14	復習テスト	1 これまで講義内容および小テストの復習	課題③に向けて、講義内で示すテーマについて構成を意識した文章を書く。
15	課題③	構成を意識した文章を書く	これまでの講義内容を復習しておく。とくに課題①②を見直しをつうじて、話し言葉と書き言葉の違いを整理し、文章構成を意識した文章を書くために必要なことをまとめておく。

関連科目	日本語表現 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 2 回 (30%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢 (投げかける質問に対する発言、授業テーマに関わる質問が行えているか、など)・小テスト (10%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	私たちが当たり前のように使っている「日本語」とあらためてじっくりと向き合ってみましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	質問等は講義時間内に対応する。
----	-----------------

	総学習時間の目安は 40 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
--	--

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長谷川 雄高
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す (60分)
2	プリント資料の解説と前期の復習 (前半)	前期の内容を復習する	プリント資料を読む (60分)
3	プリント資料の解説と前期の復習 (後半)	課題①のテキスト (プリント資料) の解説を行う	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う (150分)
4	課題①「論説文」の作成	各人で、ディスカッションの素材となる課題①論説文を作成する	—
5	ディスカッションとは	ディスカッションの技法・類型などについて	ディスカッションの準備を行う (60分)
6	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分け	ディスカッションの準備を行う (60分)
7	ディスカッション①	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
8	ディスカッション②	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
9	ディスカッション③	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
10	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの技法・類型などについて	プレゼンテーション資料の作成準備を行う (60分)
11	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方や資料作成について	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う (90分)
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
14	プレゼンテーション③	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
15	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章 (要旨) を作成する	—

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 必須課題を1つでも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間となる。 提出課題については、授業プリントもしくはTeamsの機能を用いて、フィードバックを行う。 質問等は、メール・Teamsの機能を用いて対応する。			

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ろ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行う。演習はプレゼンテーション、グループディスカッション等を含む。また、漢字を系統的に学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習	文章表現の基礎を復習する	教科書の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	2	小論文1	小論文の話題について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	3	小論文2	小論文の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	4	小論文3	小論文の構成について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	5	課題① 小論文	800字程度の小論文を書く	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	6	グループディスカッション1	意見表明の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	7	グループディスカッション2	反論の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	8	グループディスカッション3	意見の調整について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	9	グループディスカッション4	意見のまとめ方について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	10	課題② グループディスカッション	グループディスカッションに基づいて800字程度の意見文を書く	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	11	プレゼンテーション1	プレゼンテーションの手順について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	12	プレゼンテーション2	プレゼンテーションの構成について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	13	プレゼンテーション3	プレゼンテーションの表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	14	プレゼンテーション4	質疑応答の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	15	課題③ プレゼンテーション	プレゼンテーションのレジュメと原稿をまとめる	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2	音符順 精選漢字学習字典	石沢誠司 (編)	石沢書店
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	必須課題3回 (20%、20%、30%)、練習問題 (30%) により評価する。 必須課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	前期同様にWeb F o l d e rを利用して授業を行います。大学の方針により対面授業が可能となった場合には、対面授業に切り替えます。
----	---

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	に
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長谷川 雄高
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す (60分)
2	プリント資料の解説と前期の復習 (前半)	前期の内容を復習する	プリント資料を読む (60分)
3	プリント資料の解説と前期の復習 (後半)	課題①のテキスト (プリント資料) の解説を行う	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う (150分)
4	課題①「論説文」の作成	各人で、ディスカッションの素材となる課題①論説文を作成する	—
5	ディスカッションとは	ディスカッションの技法・類型などについて	ディスカッションの準備を行う (60分)
6	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分け	ディスカッションの準備を行う (60分)
7	ディスカッション①	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
8	ディスカッション②	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
9	ディスカッション③	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分)
10	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの技法・類型などについて	プレゼンテーション資料の作成準備を行う (60分)
11	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方や資料作成について	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う (90分)
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
14	プレゼンテーション③	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分)
15	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章 (要旨) を作成する	—

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 必須課題を1つでも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間となる。 提出課題については、授業プリントもしくはTeamsの機能を用いて、フィードバックを行う。 質問等は、メール・Teamsの機能を用いて対応する。			

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ほ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行う。演習はプレゼンテーション、グループディスカッション等を含む。また、漢字を系統的に学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習	文章表現の基礎を復習する	教科書の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	2	小論文1	小論文の話題について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	3	小論文2	小論文の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	4	小論文3	小論文の構成について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	5	課題① 小論文	800字程度の小論文を書く	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	6	グループディスカッション1	意見表明の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	7	グループディスカッション2	反論の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	8	グループディスカッション3	意見の調整について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	9	グループディスカッション4	意見のまとめ方について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	10	課題② グループディスカッション	グループディスカッションに基づいて800字程度の意見文を書く	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	11	プレゼンテーション1	プレゼンテーションの手順について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	12	プレゼンテーション2	プレゼンテーションの構成について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	13	プレゼンテーション3	プレゼンテーションの表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	14	プレゼンテーション4	質疑応答の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	15	課題③ プレゼンテーション	プレゼンテーションのレジュメと原稿をまとめる	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2	音符順 精選漢字学習字典	石沢誠司 (編)	石沢書店
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	必須課題3回 (20%、20%、30%)、練習問題 (30%) により評価する。 必須課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	前期同様にWeb F o l d e rを利用して授業を行います。大学の方針により対面授業が可能となった場合には、対面授業に切り替えます。
----	---

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	小林 理正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明。	――
2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する。	前回の復習
3	レポートの書き方②	グラフ・図表を説明する方法を再確認する。	前回の復習
4	レポートの書き方③	レポートの構成について再確認する。	前回の復習
5	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く。	これまでの復習
6	敬意表現	敬語表現の基本を復習する。	前回の復習
7	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の基本とそれに関連するマナーを学ぶ。	前回の復習
8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う。	前回の復習
9	ディスカッション② 課題②	グループディスカッションを行う。 ディスカッションの経過とその結論を文章で報告する。	前回の復習
10	プレゼンテーション①	グループ分けをし、プレゼンテーションのテーマを決める。	発表の準備
11	プレゼンテーション②	グループ単位でパワーポイントを作成する。	発表の準備
12	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを行う。	報告文の準備
13	課題③	プレゼンテーションの内容をまとめ、報告する。	これまでの復習
14	復習テスト	これまでに実施した小テストの復習を行う。	小テストの復習
15	授業のまとめ	これまでの授業の再確認。	これまでの授業の復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	---

学生へのメッセージ	誤字脱字や誤用が目立つ記事があったとします。そのような記事を信頼できませんか。 どれほど正しいことを述べていても、文章表現ひとつで良くも悪くも印象は変わってしまいます。 自身の書く文章としっかり向き合い、正確な文章表現を身につけましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	は
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	小林 理正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明。	———
2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する。	前回の復習
3	レポートの書き方②	グラフ・図表を説明する方法を再確認する。	前回の復習
4	レポートの書き方③	レポートの構成について再確認する。	前回の復習
5	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く。	これまでの復習
6	敬意表現	敬語表現の基本を復習する。	前回の復習
7	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の基本とそれに関連するマナーを学ぶ。	前回の復習
8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う。	前回の復習
9	ディスカッション② 課題②	グループディスカッションを行う。 ディスカッションの経過とその結論を文章で報告する。	前回の復習
10	プレゼンテーション①	グループ分けをし、プレゼンテーションのテーマを決める。	発表の準備
11	プレゼンテーション②	グループ単位でパワーポイントを作成する。	発表の準備
12	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを行う。	報告文の準備
13	課題③	プレゼンテーションの内容をまとめ、報告する。	これまでの復習
14	復習テスト	これまでに実施した小テストの復習を行う。	小テストの復習
15	授業のまとめ	これまでの授業の再確認。	これまでの授業の復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	---

学生へのメッセージ	誤字脱字や誤用が目立つ記事があったとします。そのような記事を信頼できませんか。 どれほど正しいことを述べていても、文章表現ひとつで良くも悪くも印象は変わってしまいます。 自身の書く文章としっかり向き合い、正確な文章表現を身につけましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	蓑茂 工将
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。理解の促進と達成度合いの確認のため、演習を適時行い、課題レポートを課す。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化し、論理的に解くことを体得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>整式の計算 (1)</td> <td>・計算の法則 ・因数分解</td> <td>第 1 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>整式の計算 (2)</td> <td>・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理</td> <td>第 1 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分数式・無理式 (1)</td> <td>・通分の規則</td> <td>第 2 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>分数式・無理式 (2)</td> <td>・平方根、立方根 ・有理化の計算</td> <td>第 2 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1 次方程式 (1)</td> <td>・等式の基本法則</td> <td>第 3 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1 次方程式 (2)</td> <td>・方程式の導き方 ・解き方</td> <td>第 3 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1 次不等式 (1)</td> <td>・不等式の基本法則</td> <td>第 3 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1 次不等式 (2)</td> <td>・不等式の導き方 ・解き方</td> <td>第 3 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立 1 次方程式 (1)</td> <td>・連立方程式の導き方</td> <td>第 4 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立 1 次方程式 (2)</td> <td>・解き方 ・基本法則</td> <td>第 4 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立 1 次方程式 (3)</td> <td>・消去法</td> <td>第 4 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>場合の数 (1)</td> <td>・数え上げの原則</td> <td>第 5 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>場合の数 (2)</td> <td>・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ</td> <td>第 5 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>確率 (1)</td> <td>・確率の計算</td> <td>第 6 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>確率 (2)</td> <td>・くりかえす試行の確率</td> <td>第 6 章の間 課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間 課題レポート	2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間 課題レポート	3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間 課題レポート	4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間 課題レポート	5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート	6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート	7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート	8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート	9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間 課題レポート	10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間 課題レポート	11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間 課題レポート	12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間 課題レポート	13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の間 課題レポート	14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間 課題レポート	15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間 課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間 課題レポート																																																																
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間 課題レポート																																																																
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間 課題レポート																																																																
4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間 課題レポート																																																																
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート																																																																
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート																																																																
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート																																																																
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート																																																																
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間 課題レポート																																																																
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間 課題レポート																																																																
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間 課題レポート																																																																
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間 課題レポート																																																																
13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の間 課題レポート																																																																
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間 課題レポート																																																																
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間 課題レポート																																																																
関連科目	数学基礎 II、統計学、経済学関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数学基礎</td> <td>摂南大学数学教室</td> <td>学術図書出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題レポート (40%) と期末レポート (60%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業内の演習と課題レポートで自分の理解度を把握できますので、理解の足りない部分はその都度しっかりと復習をしてください。授業時間内外を問わず、質問は大歓迎です。この授業で確実に基礎を押さえて、今後の科目に役立ててもらえると嬉しく思います。																																																																		
担当者の研究室等備考	3 号館 3 階 数学準備室																																																																		

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	陽 焯
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の問 課題レポート
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の問 課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎 II、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 平常 (40%)・期末 (60%) で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 3 号館 3 階 数学研究室

備考

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるために演習を適宜行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>整式の計算 (1)</td> <td>・計算の法則 ・因数分解</td> <td>第 1 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>整式の計算 (2)</td> <td>・整式の割り算 ・剰余、因数の定理</td> <td>第 1 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分数式・無理式 (1)</td> <td>・通分の規則</td> <td>第 2 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>分数式・無理式 (2)</td> <td>・平方根、立方根 ・有理化の計算</td> <td>第 2 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1 次方程式 (1)</td> <td>・等式の基本法則</td> <td>第 3 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1 次方程式 (2)</td> <td>・方程式の導き方 ・解き方</td> <td>第 3 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1 次不等式 (1)</td> <td>・不等式の基本法則</td> <td>第 3 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1 次不等式 (2)</td> <td>・不等式の導き方 ・解き方</td> <td>第 3 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立 1 次方程式 (1)</td> <td>・連立方程式の導き方</td> <td>第 4 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立 1 次方程式 (2)</td> <td>・解き方 ・基本法則</td> <td>第 4 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立 1 次方程式 (3)</td> <td>・消去法</td> <td>第 4 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>場合の数 (1)</td> <td>・数え上げの原則</td> <td>第 5 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>場合の数 (2)</td> <td>・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ</td> <td>第 5 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>確率 (1)</td> <td>・確率の計算</td> <td>第 6 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>確率 (2)</td> <td>・くりかえす試行の確率</td> <td>第 6 章の問 課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の問 課題レポート	2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	第 1 章の問 課題レポート	3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート	4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート	5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート	6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート	7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート	8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート	9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート	10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート	11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート	12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート	13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート	14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート	15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の問 課題レポート																																																																
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	第 1 章の問 課題レポート																																																																
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート																																																																
4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート																																																																
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート																																																																
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート																																																																
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート																																																																
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート																																																																
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート																																																																
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート																																																																
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート																																																																
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート																																																																
13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート																																																																
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート																																																																
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート																																																																
関連科目	数学基礎 II、統計学、経済学関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数学基礎</td> <td>摂南大学数学研究室 編</td> <td>学術図書出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	演習課題 (30%) 及び最終回のレポート (70%) の合計で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 3 階 数学研究室 (学期途中に 5 号館 1 階へ移転予定)																																																																		
備考	事前・事後学習は毎回 1 時間以上かけること。 演習課題は採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。																																																																		

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	蓑茂 工将
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。理解の促進と達成度合いの確認のため、演習を適時行い、課題レポートを課す。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化し、論理的に解くことを体得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>整式の計算 (1)</td> <td>・計算の法則 ・因数分解</td> <td>第 1 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>整式の計算 (2)</td> <td>・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理</td> <td>第 1 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分数式・無理式 (1)</td> <td>・通分の規則</td> <td>第 2 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>分数式・無理式 (2)</td> <td>・平方根、立方根 ・有理化の計算</td> <td>第 2 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1 次方程式 (1)</td> <td>・等式の基本法則</td> <td>第 3 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1 次方程式 (2)</td> <td>・方程式の導き方 ・解き方</td> <td>第 3 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1 次不等式 (1)</td> <td>・不等式の基本法則</td> <td>第 3 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1 次不等式 (2)</td> <td>・不等式の導き方 ・解き方</td> <td>第 3 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立 1 次方程式 (1)</td> <td>・連立方程式の導き方</td> <td>第 4 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立 1 次方程式 (2)</td> <td>・解き方 ・基本法則</td> <td>第 4 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立 1 次方程式 (3)</td> <td>・消去法</td> <td>第 4 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>場合の数 (1)</td> <td>・数え上げの原則</td> <td>第 5 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>場合の数 (2)</td> <td>・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ</td> <td>第 5 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>確率 (1)</td> <td>・確率の計算</td> <td>第 6 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>確率 (2)</td> <td>・くりかえす試行の確率</td> <td>第 6 章の間 課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間 課題レポート	2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間 課題レポート	3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間 課題レポート	4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間 課題レポート	5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート	6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート	7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート	8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート	9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間 課題レポート	10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間 課題レポート	11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間 課題レポート	12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間 課題レポート	13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の間 課題レポート	14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間 課題レポート	15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間 課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間 課題レポート																																																																
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間 課題レポート																																																																
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間 課題レポート																																																																
4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間 課題レポート																																																																
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート																																																																
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート																																																																
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート																																																																
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート																																																																
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間 課題レポート																																																																
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間 課題レポート																																																																
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間 課題レポート																																																																
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間 課題レポート																																																																
13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の間 課題レポート																																																																
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間 課題レポート																																																																
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間 課題レポート																																																																
関連科目	数学基礎 II、統計学、経済学関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数学基礎</td> <td>摂南大学数学教室</td> <td>学術図書出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題レポート (40%) と期末レポート (60%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業内の演習と課題レポートで自分の理解度を把握できますので、理解の足りない部分はその都度しっかりと復習をしてください。授業時間内外を問わず、質問は大歓迎です。この授業で確実に基礎を押さえて、今後の科目に役立ててもらえると嬉しく思います。																																																																		
担当者の研究室等備考	3 号館 3 階 数学準備室																																																																		

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陽 焯
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP7⑥		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標
 この授業を通じて学生には、
 (1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。
 (2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つめることができる。
 (3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。
 (4) 基本的な関数の積分計算ができる。
 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

授業方法と留意点
 テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果(資格)
 数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の間 演習課題(1時間)
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の間 演習課題(1時間)
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の間 演習課題(1時間)
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の間 演習課題(1時間)
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の間 演習課題(1時間)
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間 演習課題(1時間)
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間 演習課題(1時間)
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線、導関数	第9章の間 演習課題(1時間)
9	中間試験	第1-7回の講義に関する中間試験、及び解答解説	演習課題(1時間)
10	整関数の微分(2)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の間 演習課題(1時間)
11	整関数の微分(3)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の間 演習課題(1時間)
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間 演習課題(1時間)
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間 演習課題(1時間)
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間 演習課題(1時間)
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の間 演習課題(1時間)

関連科目
 数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎 (ISBN:9784780603026)	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 レポート課題 20%、中間試験 40%、期末試験 40%で判定し評価する。

学生へのメッセージ
 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等
 3号館3階 数学研究室

備考
 事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。
 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田畑 謙二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。 (2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。 (3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。 (4) 基本的な関数の積分計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。第8回から基本的には対面で講義を行うが、事情によってはオンラインもあり得る。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の間 演習課題(1時間)
	2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の間 演習課題(1時間)
	3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の間 演習課題(1時間)
	4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の間 演習課題(1時間)
	5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の間 演習課題(1時間)
	6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間 演習課題(1時間)
	7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間 演習課題(1時間)
	8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線、導関数	第9章の間 演習課題(1時間)
	9	中間試験	第1-7回の講義に関する中間試験、及び解答解説	演習課題(1時間)
	10	整関数の微分(2)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の間 演習課題(1時間)
	11	整関数の微分(3)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の間 演習課題(1時間)
	12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間 演習課題(1時間)
	13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間 演習課題(1時間)
	14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間 演習課題(1時間)
	15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の間 演習課題(1時間)

関連科目 数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎 (ISBN:9784780603026)	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 演習課題 20%、中間試験 40%、期末試験 40%で判定し評価する。中間試験、期末試験については COVID19 感染状況次第では試験に代わるオンライン試験への代替手段への変更も有り得る。オンライン試験になった場合は演習課題 40%、中間試験に代わるオンライン試験 30%、定期試験に代わるオンライン試験 30%程度で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 5号館1階 数学準備室

備考 事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。
課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標
 この授業を通じて学生には、
 (1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。
 (2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つめることができる。
 (3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。
 (4) 基本的な関数の積分計算ができる。
 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

授業方法と留意点
 第6回授業まではTeamsによるリアルタイム方式の動画配信型授業を行い、第7回授業からは対面での授業を行う。各授業テーマごとに学習内容の理解の促進と達成の度合いをみるために演習を適宜行う。

科目学習の効果(資格)
 数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の間 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の間 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の間 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の間 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の間 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の間 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の間 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の間 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の間 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間 課題レポート
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の間 課題レポート

関連科目
 数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 演習課題(30%)及び最終回のレポート(70%)の合計で評価する。

学生へのメッセージ
 数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。

担当者の研究室等
 3号館3階 数学研究室(学期途中に5号館1階へ移転予定)

備考
 事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。
 演習課題は採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名 (英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陽 焯
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑥		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標
 この授業を通じて学生には、
 (1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。
 (2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。
 (3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。
 (4) 基本的な関数の積分計算ができる。
 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

授業方法と留意点
 テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果 (資格)
 数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の間 演習課題(1時間)
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の間 演習課題(1時間)
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の間 演習課題(1時間)
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の間 演習課題(1時間)
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の間 演習課題(1時間)
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間 演習課題(1時間)
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間 演習課題(1時間)
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線、導関数	第9章の間 演習課題(1時間)
9	中間試験	第1-7回の講義に関する中間試験、及び解答解説	演習課題(1時間)
10	整関数の微分(2)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の間 演習課題(1時間)
11	整関数の微分(3)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の間 演習課題(1時間)
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間 演習課題(1時間)
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間 演習課題(1時間)
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間 演習課題(1時間)
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の間 演習課題(1時間)

関連科目
 数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎 (ISBN:9784780603026)	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 レポート課題 20%、中間試験 40%、期末試験 40%で判定し評価する。

学生へのメッセージ
 数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等
 3号館3階 数学研究室

備考
 事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。
 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1331a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	遠隔授業を実施する。自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：摂南大学の ICT 環境の確認 (1 時間)
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

関連科目	情報リテラシー II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等 備考	11 号館 8 階 (橋本研究室)			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	G H I J K L M
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺島 和夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1331a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	金曜日 2 講時に Teams を用いてオンライン授業 (双方向) を行います。 授業に関連する、レジュメや資料配布、アンケートへの回答や課題提出については Moodle を使用します。 受講生のみなさんは、本科目に割り当てられている教室のパソコンあるいは自宅などでの各自の通信環境とパソコンを用いて授業に参加してください。 授業前自主学習アンケートの回答および課題の提出をもって、出席を判断します。 なお、本科目では、OS は Windows10、利用アプリケーションソフトウェアは Microsoft 365 を用いて講義
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：摂南大学の ICT 環境の確認 (1 時間)
	2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
	6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
	7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
	8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
	13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の授業前自主学習アンケート, 授業後の課題の提出により 60%、課題演習, 応用, 総合課題の提出物により 40%のウェイトで総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学でMOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等 備考	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	NOPQRST
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西岡 久充
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1331a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：摂南大学の ICT 環境の確認 (1 時間)
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

関連科目	情報リテラシー II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学でMOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等 備考	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2332a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	パソコンを使った実習を行います。実習を中心に行うため、毎回の課題提出は必須です。受講に関する事項はMoodleに掲載します。第7回目(11月5日)から対面で実施します。
科目学習の効果(資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excelが取得できるレベル。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習(1時間) 事後：事後課題の完成・提出(30分)
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する WordでPDFファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
	7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
関連科目	情報リテラシー I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集	富士通 FOM	FOM 出版

		(FPT1618) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、課題演習や総合演習などの課題の評価等 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	11 号館 8 階(橋本研究室)			
備考				

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	G H I J K L M
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	寺島 和夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2332a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	Teams を用いて動画配信型授業 (リアルタイム方式) で授業を行っていましたが、11月5日から対面授業に切り替えます。 Moodle を用いて教材の配布、アンケート、課題の出題・提出は継続します。 授業への出席、アンケートへの回答をもって出席を判断し、課題を評価します。 なお、本科目では、OS は Windows10、利用アプリケーションソフトウェアは Microsoft 365 での講義を行います。 MacOS や他バージョンの Word, Excel, PowerPoint では操作方法や機能などが異なる
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word, Excel が取得できるレベル。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30分)
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートをを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)

			<p>テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する 図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する</p>	
7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）	
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	<p>区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール</p>	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）	
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	<p>複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する</p>	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）	
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	<p>データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する</p>	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）	
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	<p>データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する</p>	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）	
12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）	
13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）	
14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）	
15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）	
関連科目	情報リテラシー I			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft® Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft® Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (50%)、情報モラル・模擬試験や総合課題などの演習 (50%)、に基づき総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	NOPQRST
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野間 圭介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2332a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とします。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PCを用いて実習する。実習内容に関連する用語、知識についてはオンライン講義によって説明します。実習を中心とするため、PCを使用できる環境を整えておく必要があります。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30分)
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
	7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
関連科目	情報リテラシー I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集	富士通 FOM	FOM 出版

	(FPT1618) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】		
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
3	情報モラル&情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	実習課題 (60%)、模擬試験や総合課題などの演習 (30%)、情報モラルと取り組み態度等 (10%) を総合的に評価します。		
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。「習うより慣れよ」という諺(ことわざ)が当てはまります。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室(文字どおり常勤ではありませんので、講師控室に在室していることはほとんどありません) ご質問など問い合わせは、eメールで承ります。		
備考	授業時間外に質問したい場合、以下のeメールに宛てて送信してください。タイトル(題名)には「摂南大学+学籍番号+氏名」を含めて記述してください。 noma@biz.ryukoku.ac.jp		

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WPH1340a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は「遠隔授業」として授業を行う。使用する ICT ツールは「Microsoft teams」とする。 なお、対面が可能になった場合は、対面授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30 分) 事後：本実習の理解を深める (30 分)
	2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30 分) 事後：自身の体力についての振り返り (30 分)
	3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30 分) 事後：自身の体力についての振り返り (30 分)
	4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30 分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30 分)
	5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：全授業の総括 (30 分)

関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点 50%、技能点 25%、態度点 25% 遠隔授業：活動点 40%、実技課題点 30%、講義課題点 30% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適用する。
-----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 1 回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1 回目の授業に必ず出席してください。
-----------	--

担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
----------	-----------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)
----	--------------------------------

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WPH2341a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teamsを用い、「遠隔授業 (オンデマンド形式)」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。 今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% 遠隔授業：活動点40%、実技課題点30%、講義課題点30% ※ なお活動点は授業への参加意欲とする。態度点は積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。
-----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。
-----------	--

	1回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1回目の授業に必ず出席してください。
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 雅代
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1301a1		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学 I では、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学についての基礎知識を習得する。2) 人間の行動を理解する。3) 社会の中の自己を確認する。4) 実生活と心理学のかかわりを理解し、日常生活に生かす。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じて VTR を使用する。簡単な心理学実験や自己分析などを行い、ディスカッション、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。講義動画や講義資料は Moodle に提示する。講義の中で、課題の回答や、意見を求める場合は、Moodle からの提出・グループフォーム・QR コードを用いる。回答を回収した上で、心理学の問題について解説する。対面での講義の際は、携帯を忘れたり、充電が切れている場合は、紙での回答ができる。
科目学習の効果 (資格)	教養としての心理学を学ぶ。人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	心理学とはどのような学問か	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究の考え方、今までの歩みについて概説する。	事前：心理学の印象について自分なりの考えをまとめておくこと 学期末に向けての注意点は覚えておく (1 時間) 事後：課題作成 (1 時間)
2	生物学的基礎	他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。	前回の授業での VTR について課題を提出する。 事前：実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめ、ノートを作成 (1 時間)
3	初期学習	人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。	前回の授業の課題を提出する。 事前：実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
4	条件づけ	条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
5	社会的学習 (1)	学習とは学校での勉強のことでなく、経験のことをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
6	社会的学習 (2)	子どもたちは様々な社会・環境から影響を受け経験を積んでいく。事実に基づいた出来事を紹介し、社会的学習について考察する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
7	ポジティブな学習とネガティブな学習	実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する 実験結果についてレポート作成する (2 時間)
8	動機づけ (1)	人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
9	動機づけ (2)	生物学的動機、内発的動機の違いについて説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成すること 授業の中で紹介した人物の動機について自分なりの考えをまとめて提出する。(2 時間)
10	動機づけ (3)	社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響受ける動機について事例や実験を通して解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
11	パーソナリティ (1)	パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
12	パーソナリティ (2)	パーソナリティのとらえ方。パーソナリティの形成について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
13	パーソナリティ (3)	実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
14	パーソナリティ (4)	パーソナリティについて自己分析を行う。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	事前：授業全般、分からない部分についてまとめておくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)

関連科目 心理学 II と併せて履修することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で行う小テスト・課題・レポート等を総合的に評価する。 【講義内テスト・確認テスト50%、小テスト・課題・レポート等50%】			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。 講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場			
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部非常勤控室)			
備考	提出課題等は、その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。 対面講義の際は、携帯の充電は十分行っておいてください。もし、動かない場合は、授業の最初にその旨、申し出てください。			

科目名	心理学Ⅱ	科目名 (英文)	Psychology II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 雅代
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU2302a1		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。講義では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅱでは、日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人関係、集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学の知識を幅広く習得する。2) 社会と個人の関係を理解する。3) 集団におけるコミュニケーションの特質を理解する。4) 状況に左右される人間の心理や意思決定について理解する。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTRを使用する。授業内において、簡単な心理学実験(今年度は行わない)、心理学的な質問紙、自己分析などを行う、また内容について理解度を確認するため、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。その場合、ムードルに課題の提出を求めたり、Google フォームを用いて提出を求める場合がある。
科目学習の効果(資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	知覚(1)	人間理解につながる「見えのしくみ」について説明する。	<p>事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)</p>
3	知覚(2)	知覚の種類、特徴、見えに及ぼす社会的影響について説明する。	<p>事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)</p>
4	知覚(3)	知覚と消費行動。見る行為と消費がどのようにつながっているのか、説明する。	<p>事前：実験について事前に紹介するので関連文献を読んでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する 実験についてまとめる(2時間)</p>
5	対人関係(1)	人はどのように他者を認知し自分を呈示していくものなのか、対人認知や印象形成について説明する。	<p>事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)</p>
6	対人関係(2)	人はどのような事をきっかけに親しくなっていくのか、実験によって科学的に証明された「対人魅力」について説明する。	<p>事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)</p>
7	対人関係(3)	「対人魅力」について説明する。親しくなっていく要因について更に解説する。	<p>事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)</p>
8	対人関係(4)	「対人魅力」の分野における、好きと愛の行動パターンについての研究を紹介する。自己の愛のタイプについて実際に考えてみる。 第8回より対面授業	<p>事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)</p>
9	集団(1)	「集団」についての心理学的視点・これまでの研究を紹介する。	<p>事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)</p>
10	集団(2)	「集団討議」について考えてみる。	<p>事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)</p>
11	集団(3)	集団のもつ持つ影響力として「同調」と「服従」について説明する。	<p>事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)</p>
12	集団(4)	ジンバルドが行った「監獄実験」について説明する。	<p>事前：うわさの実験について紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)</p>
13	集団(5)	「情報伝搬」「うわさ」によるパニック行動、うわさの種類、社会的機能、発生、消滅のメカニズム等について、実際に世界でおきた事件を例に説明する。	<p>事前：どのような援助が考えられるか考えておくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)</p>
14	集団と援助行動	集団の中に個人が埋没すると、援助行動が行われない場合がある。援助行動が行われない状況とはどのような状況か、意思決定はどのように行われるのか、実際のニュースなどを例に説明する。援助行動と対人ネットワークの重要性について	<p>事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)</p>

	15	まとめ・確認テスト	て説明する。 授業全体のまとめ・確認テストを行う。	事前：疑問点がどこにあるのか考えておく（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
関連科目	心理学 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で行う確認テストやレポート、課題提出等を総合的に評価する。 【授業内で行う小テスト・確認テスト 50% 課題・レポート提出 50%】			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場合がございます。			
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部非常勤控室)			
備考	ムードル、Googlef フォームなどを使用した課題提出により意見を求める場合があります。文章が多くなりそうな問題には、紙（ファイル）によるレポート提出を求めます。その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。携帯の充電は十分行っておいてください。もし、動かない場合は、授業の最初にその旨、申し出てください（対面授業時に限る）。			

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	濱 良祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WHU1303a1		

授業概要・目的	<p>「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。</p> <p>この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では西洋哲学の諸思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方</p>
---------	---

到達目標	<p>(1) 哲学に関する基礎的な知識を習得すること。</p> <p>(2) 人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。</p> <p>(3) 自らの思考を適切に伝えるための論理的表現力を高めること。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>オンライン形式 (講義動画を録画配信)</p> <p>毎週授業時間までに講義動画とプリントを Teams にアップロードするのでそれをもとに学習すること。</p> <p>授業期間中に授業の理解度を試す小レポート、中間レポートを課し、学期の最後には期末レポートを課す。それらの提出はすべて、Moodle を通して行ってもらう。</p> <p>教科書は遅くとも 3 回目の講義までには入手すること。その他の参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。</p> <p>受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけでなく、それらについて自らで思考し、批判</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について説明する。「哲学」することの意義について考察する。	〈復習〉ノート・資料の整理。
2	古代における知の探求	古代ギリシアにおける知の探求と、その可能性について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。	
3	古代・中世における自然法	西洋古代・中世の自然法思想とその意義を考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。	
4	近代における自然法	西洋近代における自然法思想とその意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。	
5	社会の起源—ルソー『人間不平等起源論』を読む (1)	ルソーの社会批判の要点について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。	
6	人間の原初状態—ルソー『人間不平等起源論』を読む (2)	ルソーにおける「自然状態」について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。	
7	人間の自由—ルソー『人間不平等起源論』を読む (3)	ルソーにおける人間の本質について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。	
8	社会的な不平等と自然不平等—ルソー『人間不平等起源論』を読む (4)	ルソーが問題視する不平等について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。	
9	不平等の起源—ルソー『人間不平等起源論』を読む (5)	ルソーが論じる社会的な不平等の起源について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。	
10	国家の専制—ルソー『人間不平等起源論』を読む (6)	ルソーが論じる不平等の極致について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉中間レポートの作成。	
11	ルソーの社会契約説 (1)	ルソーの社会契約説の要点について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。	
12	ルソーの社会契約説 (2)	ルソーの社会契約説の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。	
13	現代の社会契約説—ロールズのリベラリズム	ロールズの社会契約説とその意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。	
14	現代リベラリズムへの諸批判	ロールズの理論への批判を取り上げ、現代における自由と平等について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。	
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉期末レポートの作成。	

関連科目	哲学 II、社会学、経済倫理、社会と人権
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間不平等起源論	ジャン=ジャック・ルソー	講談社学術文庫
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会契約論	重田園江	ちくま新書
	2			
	3			

評価方法	授業内での小レポートを 20%、中間レポートを 40%、期末レポートを 40% として、総合的に評価する。
------	---

(基準)	
学生へのメッセージ	提出物を期限内に出すよう気をつけてください。
担当者の研究室等	今学期は基本的に出講しないので、連絡はメール等で取ること。
備考	提出物についての全体的な講評は授業内で行う。具体的な評価に関する問い合わせには、メールや ICT ツールで対応することができる。 授業外学習の目安は、予習復習を合わせて毎回 1 時間程度とする。

科目名	哲学Ⅱ	科目名 (英文)	Philosophy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑨, DP7⑩		
科目ナンバリング	WHU2304a1		

授業概要・目的	人間は古来から、その時代や地域に固有な仕方では思索による探究を行ってきた。現代を生きるわれわれの生き方も、その探究活動に多大な影響を受けている。 本授業の第一部 (第1-10回) では、人間の思索活動の歴史の諸相を「宿命」を「選択」に変化させる傾向」という観点から振り返る。 第二部 (第11-15回) では、特に20世紀の哲学者M・ハイデガー焦点を当て、近代以降の時代状況「宿命」を「選択」に変化させる手段そのものが、新たな「宿命」となる」という観点から追う。			
到達目標	この授業を通して、 ① 現代人の誰もが置かれており、影響を受けざるを得ない現代の時代状況、社会構造についての考察を深めること ② また、そうすることで、現代人であるわれわれがこれまで何を失って何を得たのか、今後何を取り戻し、何を維持し、何を新たに獲得すべきなのかということ、各々が再考することを目指す。			
授業方法と留意点	Dropbox を使用して、哲学、思想、宗教と近代性に関するテキストを読み進める。授業毎プリントを配布し、授業内容に関する選択問題 (10-20問前後) の課題を毎回課す (インターネット経由で提出)。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション：時間、歴史とは何か	・過去は未来からやってくる ・歴史の複数性 ・国家の語る歴史、民衆の語る歴史 ・学校で学ぶ「歴史」(世界史、日本史)とは何か ・郷土史、家族史、自分史	予習：- 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	2	神話以前の時代	・人類の5つの革命 ・ホモ・サピエンスの「技術を使って遠くを目指す」傾向	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	3	神話の時代	・ゴンドワナ型神話、ローラシア型神話 ・古代ギリシア神話 ・リグ・ヴェーダ ・古事記、日本書紀 ・旧約聖書	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	4	「枢軸の時代」(1)	・ヤスパースによる「枢軸の時代」の定義 ・古代ギリシア哲学 ・原始仏教 ・諸子百家の思想	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	5	「枢軸の時代」(2)	・古代ギリシア哲学 ・原始仏教 ・諸子百家の思想	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	6	ルネサンスと科学革命	・アリストテレスとガリレオ・ガリレイ ・科学は世界の見方をどのように変えたか	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	7	デカルトと近代	・「私は考える、故に私は存在する」 ・「デカルト以前、デカルト以後」という考え方	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	8	「使用価値」と「交換価値」	・アダム・スミス ・マルクス、エンゲルス ・近代以降、労働のあり方はどのように変化したか	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	9	日本における近代化	・日本における1965年以前、1965年以後 ・「ニュータウン」の原理 ・農村から見た歴史 ・「変化しない」は「停滞」か ・内山節『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	10	IT技術と近代の行方	・スティーブ・ジョブズは何を目指したか ・スマートフォンが可能にした空間・時間体験の変容 ・自由とSNS・選択疲れ ・選択疲れからの避難所	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	11	近代性の定義	・「宿命」から「選択」へ (ピーター・バーガー) ・ポストモダンとは何か ・ジークムント・バウマンの近代論 ・近代の継続か、ポスト近代か	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	12	ハイデガーの近代論 (1)	・M・ハイデガー『芸術作品の根源』 ・内山節『自然と人間の哲学』 ・人間にとって「使える」自然、「使えない」自然 ・効率性によって得られたもの ・失われた自然の「信頼性」「総合性」	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
13	ハイデガーの近代論 (2)	・M・ハイデガー「物」講演	予習：配布資料を読むこと	

			<ul style="list-style-type: none"> ・内山節『半市場経済』 ・コンバインに乗ると落穂を拾おうという気がなくなるのはなぜか ・「巨大なシステム」では捉えられない、「近さ」と「遠さ」 ・人間の幸福の実感と「小さなスケール」 	復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	14	ハイデガーの近代論（3）	<ul style="list-style-type: none"> ・M・ハイデガー『技術について』 ・「橋」と「水力発電所」は、同じ「技術」だがどのように違うのか ・「総かり立て体制」 ・「巨大なシステム」という新たな「宿命」 	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
	15	ハイデガーの近代論（4）	<ul style="list-style-type: none"> ・M・ハイデガー「野の道での会話」 ・「平面」の近代性、「凹凸」の反近代性 ・なぜわれわれは「プラタモリ」を見るのか 	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	技術について	M・ハイデガー著、関口浩訳	平凡社ライブラリー
	2	日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか	内山節	講談社講談社現代新書
	3			
評価方法 (基準)	各回の授業内容に関する選択問題（10-20問前後）の課題（インターネット経由で提出）×15回分（100%）で評価する。			
学生への メッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってついてきてください。なお、各回の授業テーマは現時点での予定であり、一部変更になる可能性があることをご承知おきください（ただし、おおまかな流れは変わりません）。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールで問い合わせること。			

科目名	日本の歴史	科目名 (英文)	Japanese History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1305a1		

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	講義のレジュメと解説動画を配信します。 連絡、資料と動画の配布、期末レポートの提出はすべて Teams で行います。詳しくは Teams にアクセスしてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許を取得する際の科目でもあります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	日本史の時代区分について書籍やwebで復習しておく。
2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	律令国家について書籍やwebで復習しておく。
3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	摂関政治と院政について書籍やwebで復習しておく。
4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	武士の誕生について書籍やwebで復習しておく。
5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か、成立にかかる歴史と特質について学びます。	鎌倉幕府について書籍やwebで復習しておく。
6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	室町時代の政治や文化について書籍やwebで復習しておく。
7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	戦国時代にや戦国大名について書籍やwebで復習しておく。
8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	神祇や仏教について書籍やwebで復習しておく。
9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	江戸幕府について書籍やwebで復習しておく。
10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	江戸時代の百姓について書籍やwebで復習しておく。
11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	明治維新について書籍やwebで復習しておく。
12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	大正デモクラシーについて書籍やwebで復習しておく。
13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	日清戦争・日露戦争・第一次大戦・第二次大戦について書籍やwebで復習しておく。
14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	太平洋戦争について書籍やwebで復習しておく。
15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	期末レポート (100%)
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	7号館4階 (赤澤研究室) 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	世界の歴史	科目名 (英文)	World History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1306a1		

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなからうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたことと教わった人も少なくないだろう。中国を代表として他の地域の都市の歴史もあわせてみることで、このような通説を疑い考えなおす。そのようにして、都市を窓に歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。

授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各單元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果 (資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって (1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
2	歴史を学ぶにあたって (2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	歴史を学ぶにあたって (3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	都市を窓に世界史をみる (1)	視点をしぼる必要性、人間社会の焦点、魅力と危険が背中合わせ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	都市を窓に世界史をみる (2)	都市は文明とともにあった、世界的な共通性、歴史の大きな流れがみえる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	都市を窓に世界史をみる (3)	都市とは壁で囲まれているもの、西洋でも中東でも中国でも、世界史からみえてくる日本史の個性	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	中国都市 (1)	「止まっている」「同じことのくり返し」という偏見、都市ができて国家ができる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	中国都市 (2)	1000年前の大転換、防衛から経済へ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	中国都市 (3)	近現代を先取りしたウオーターフロント型の都市、世界の先端を行った貨幣経済の発展	同上の課題に加えて小レポート。
10	中国都市 (4)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	中国都市 (5)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さかった、農業中心の経済、「肉食＝豊か」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	ヨーロッパ都市	政治の分裂と自治の発展、宗教と経済の結びつき	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前、「産業革命」は何が「革命」なのか	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰、歴史に学ぶ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト (40点)、②レポート (30点)、③レスポンスペーパー (30点+α)。第3に60点に達するならば、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイル
-----------	--

学生へのメッセージ	歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あら
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1307a1		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野で、系統地理学（人文地理学・自然地理学）とともに地理学の根幹を成す。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	地誌学の基本的な考え方について、具体的な事例を通して理解できるようになる。 さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	講義内容を収録した音声付パワーポイントをオンデマンド配信する。音声付パワーポイントは、Moodle にアップロードする。 第5回から対面授業に切り替える。
科目学習の効果 (資格)	中学社会・高校地理歴史教員免許

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方	講義ノートを確認しておくこと (事後学習 3 時間)
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林とサバンナ	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
3	熱帯気候と住民生活 (2)	熱帯雨林の近年の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
4	熱帯気候と住民生活 (3)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
5	熱帯気候と住民生活 (4)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	砂漠と季節河川	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	氷河地形と人々の暮らし	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
15	試験 (授業内で実施)	授業内試験	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 3 時間)

関連科目	人文地理学、自然地理学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	試験 70%, 授業内課題 30%
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	高校で地理 (A・B) を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回ノートを取りながら集中して受講してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師控室)。質問等は学内メールにて対応する。
----------	----------------------------------

備考	
----	--

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU2308a1		

授業概要・目的	人文地理学は、空間・地域・環境といった視点から人と社会を捉える学問です。様々な学問分野の間の境界領域に位置し、対象や方法が多岐にわたっているという特徴を持ちます。本講義では、こうした人文地理学の基本的な考え方を身につけることを目的とします。
到達目標	人文地理学の基本となる考え方について説明できること。また、特定の問題について地理学的な視点から捉えることができること。
授業方法と留意点	主に、①人文地理学がカバーする諸領域、②現代社会を理解するうえで重要と考えられる理論・学説、③人文地理学の歴史と現代的諸課題について講義します。さらに、学生の皆さんには、理解度を問うための小課題（理解度チェック）とレポートに取り組んでもらいます。
科目学習の効果（資格）	皆さん自身が興味を持つ事象や問題について、空間・地域・環境といった視点から捉える能力を養うことができます。 ※本講義は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	人文地理学とはどのような学問か？	この授業の概要を理解し、人文地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
2	地図の発達史：古代から現代まで	古代から現代にいたる地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
3	人口動態を捉える	人口転換や人口移動のメカニズムについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
4	気候変動と社会	人びとの暮らしと気候変動との関係について具体的な事例を踏まえつつ考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
5	文化の地域的多様性と進化	文化の多様性および動態の説明方法について事例を踏まえつつ考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
6	都市空間の構造と格差	居住者とその格差の視点から見た都市の構造とその変化について捉える方法について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
7	産業からみた都市の変遷	産業構造変化に伴い、都市モデルがどのように変遷してきたかを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
8	イノベーションと都市	現代の都市間競争について、イノベーションとその空間的諸条件という視点から学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
9	人口減少と都市の縮退	人口減少、経済停滞期における都市が抱える諸問題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
10	ジェンダーと行動・居住の制約	地域における行動・居住の制約という視点からジェンダーを考える視点を学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
11	疫病の空間的拡散	疫病の空間的拡散パターンに関する研究を学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
12	農と食をめぐる諸問題	世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
13	観光に関する地理学的研究	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
14	旅を再考する	人類社会における旅の歴史を振り返ることにより、COVID-19 以後の観光について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
15	人文地理学の課題	これまでの人文地理学の歩みと、今後の人文地理学の課題について検討します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。

関連科目 「自然地理学」「地誌学」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学：その主題と課題	杉浦章介ほか	慶應義塾大学出版会
2	現代人文地理学	佐藤廉也・宮澤仁編	放送大学教育振興会	
3				

評価方法（基準） レポート課題 70%、小テスト&コメント提出 30%

学生へのメッセージ 受講にあたり、まず高校までの「暗記科目」としての地理のイメージは完全に捨ててください。自分自身が関心を持っている問題とどうつながるか考えながら講義を聴いてもらえることを期待します。まだはっきりした関心を持っていない人は、授業を受けながら面白いと思えるトピックを探してみるといいでしょう。

担当者の研究室等

備考

科目名	社会学	科目名 (英文)	Sociology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武田 祐佳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WS01309a1		

授業概要・目的	身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念 (=キーワード) と社会学的なものの見方について解説します。それらを通して、人が「社会的な存在」-他者から影響をうけ、また他者に対して影響を与える存在であることを理解するとともに、社会の仕組みについて学んでいきます。
到達目標	社会学の基礎的な概念を理解し、学んだ概念を使って人間関係や社会現象を解説する「社会的思考力」を身につける。

授業方法と留意点	<p>○授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業 (オンデマンド形式)。 ・講義資料を各自閲覧・視聴した後、確認問題に取り組むという形ですすめていきます。 ・講義資料は、Windows Teams をとおして配布します。 <p>○留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は必ず Windows Teams に登録してください。 ・授業方法についての詳細は、Teams をとおして連絡します。また、4月26日の授業においても説明します。 ・連絡はすべて Teams をとおしておこなうので、こまめにチェックするようにしてください。 ・評価方法が変更されています。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	社会学的なものの見方を学ぶことによって、これまであたりまえだと感じていた日常生活や社会現象に対する見方が多少なりとも変わるようになります。
--------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義をはじめるにあたって	オリエンテーション	授業内容に関する復習
	2	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間 (1) -社会化と自己	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	3	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間 (2) -ジェンダー	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	4	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間 (3) -地位と役割	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	5	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間 (4) -感情と社会	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	6	社会学における基礎的知識と発想	集団のなかの個人 (1) -個人にとって集団とは	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	7	社会学における基礎的知識と発想	集団のなかの個人 (2) -官僚制	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	8	社会学における基礎的知識と発想	社会的逸脱	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	9	社会学における基礎的知識と発想	行為の意図せざる結果 (1) -予言の自己成就	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	10	社会学における基礎的知識と発想	行為の意図せざる結果 (2) -社会的認知	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	11	社会学における基礎的知識と発想	行為の意図せざる結果 (3) -社会的ジレンマ	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	12	社会学における基礎的知識と発想	自殺の社会学	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	13	社会学における基礎的知識と発想	都市の社会学	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	14	社会学における基礎的知識と発想	階層の社会学	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
	15	講義を終えるにあたって	まとめ	これまでの学んだ内容を整理し、疑問点がないか確認したうえで授業に臨むこと

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・確認問題・・・55% ・期末レポート・・・45%
-----------	--

学生へのメッセージ	「社会学」は小中高にはないカリキュラムなので、学問のイメージが浮かびにくいと思います。社会学では普段私たちがあたりまえとっていたり、気にもとめないことがらを「見よう」「理解しよう」とするので、難しいことばが出てきますが、授業では身近な例をあげ、できるだけ平易に解説していきます。
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	質問は Teams、学内メールで対応する。 毎回授業の復習と期末レポート作成に、合計 15 時間はかけること。
----	--

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WS01310a1		

授業概要・目的	私たちの日常生活は多くの法律と関わります。そこでこの講義では、法学の基礎から始め、身近な具体的事例をとりあげ、民法、商法、民事訴訟法などの基本的な内容と考え方を説明します。この授業の目的は、日常生活に必要な法律の知識を習得してもらうことです。
到達目標	この授業を通じて学生には、授業で習得した法学の基礎的な知識を用いて、交通事故の損害賠償や相続などの日常生活において生じる問題を法的な視点から考え説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを行った回の授業を欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果 (資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法学の基礎 1	法とは何か。法の種類、法の優劣関係について説明します。	事前に教科書 244 頁から 248 頁と 251 頁から 252 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
2	法学の基礎 2	法律の条文の構造、法律の解釈について説明します。	事前に教科書 249 頁から 250 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
3	日常生活と契約 1	民法の特徴、契約の成立について説明します。	事前に教科書 1 頁から 8 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
4	日常生活と契約 2	意思表示と契約の主体について説明します。	事前に教科書 8 頁から 19 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
5	日常生活と契約 3	契約自由原則、契約の種類について説明します。	事前に教科書 19 頁から 25 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
6	日常生活と契約 4	不動産取引と民法について説明します。	教科書 25 頁から 32 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
7	日常生活と契約 5	保証契約、保障債務・連帯保証などについて説明します。	事前に教科書 32 頁から 42 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
8	日常生活とアクシデント	交通事故、欠陥商品による被害、医療事故について説明します。	事前に教科書 43 頁から 61 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
9	家族関係 1	結婚、離婚と民法について説明します。	事前に教科書 108 頁から 132 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
10	家族関係 2	親子、扶養と民法について説明します。	事前に教科書 133 頁から 149 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
11	家族関係 3	相続と民法について説明します。	事前に教科書 149 頁から 157 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
12	企業と法 1	商法・会社法を手がかりに企業とはどのようなものか、企業の形態について説明します。	事前に教科書 156 頁から 171 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
13	企業と法 2	会社の種類、特に企業の所有と経営の分離と株式会社について説明します。	事前に教科書 171 頁から 209 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
14	紛争の解決 1	日常生活で生じる紛争と裁判制度について説明します。	事前に教科書 210 頁から 221 頁、253 頁から 254 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)
15	紛争の解決 2	裁判のしくみ、裁判以外の紛争の解決 (和解、調停、仲裁) について説明します。最終回の確認問題の解説も同時にします。	事前に教科書 221 頁から 243 頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの確認問題を解いて下さい。(1 時間程度)

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法の世界 (第 8 版)	池田真朗・犬伏由子・野川忍・大塚英明・長谷部由紀子	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法	1 回 25 点の小テストを 4 回行い、その合計得点で評価します。
------	------------------------------------

(基準)	
学生へのメッセージ	授業中に生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	①小テストは、チームズに作る「テスト用」チャンネルを使った行います。小テストの提出はこのチャンネルを通じて行ってください。 ②授業形態を変更することがあります。変更するときは、チームズに作る「連絡用」チャンネルで知らせます。

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WS01311a1		

授業概要・目的	日本国憲法をおおまかに理解できるように、基本的人権を中心に、授業テーマと関連する憲法に関わる問題を取りあげ、これに関わる基本的な事項、判例、学説を説明していきます。この授業の目的は、身近に生じる憲法に関わる問題を通して、憲法の基本的な内容と考え方を理解してもらうことです。
到達目標	この授業を通じて学生には、憲法の基本的な知識を習得し、「首相の靖国神社参拝」や「一票の格差」などの身近で話題になっている問題を憲法を通して考え説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回、授業の始めに資料を配布します。この資料に記載してある設題に関連する学説・判例などを講義形式で説明していきます。受講生は授業終了後、配布資料中の確認問題をしてください。この問題についての解答・解説は次回の授業で行います。
科目学習の効果 (資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	憲法とは	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書11頁から20頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
2	国民主権	国民主権の意味、国民主権を具体化する制度、国民主権が人権の解釈にどのような関係があるかなどについて説明します。	事前に教科書243頁から249頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
3	基本的人権の保障1	人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。	事前に教科書21頁から30頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
4	基本的人権の保障2	外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められるか、認めえるとしてその人権は何かなどについて説明します。	事前に教科書31頁から40頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
5	幸福追求権	幸福追求権の意味と範囲、新しい人権について説明します。	事前に教科書49頁から58頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
6	法の下での平等	憲法14条の定める平等の意味、差別の許される合理的根拠かどうかの判断基準などについて説明します。	事前に教科書60頁から70頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
7	信教の自由と政教分離	信教の自由の内容と限界、国家と宗教の関わりなどについて説明します。	事前に教科書71頁から82頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
8	表現の自由	表現の自由の保障の範囲、限界、検閲などについて説明します。	事前に教科書83頁から104頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
9	経済的自由権	職業選択の自由とその規制などについて説明します。	事前に教科書105頁から114頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
10	社会権	生存権の法的性格、教育を受ける権利の法的性格について説明します。	事前に教科書115頁から134頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
11	刑罰と刑事手続	刑罰と憲法、適正手続について説明します。	事前に教科書135頁から144頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
12	国会	国会の最高機関性、立法機関性について説明します。	事前に161頁から172頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
13	内閣	議院内閣制、衆議院の解散などについて説明します。	事前に教科書173頁から184頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
14	裁判所	司法権の定義、司法権の範囲、司法権の独立、違憲立法審査権について説明します。	事前に教科書185頁から206頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
15	平和主義	戦争の放棄の意義、放棄された戦争の範囲、戦力の不保持の意味について説明します。	事前に教科書217頁から229頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)

関連科目	法学入門
------	------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての憲法学 (第4版)	中村睦男・岩本一郎・大島佳代子・木下和朗・齊藤正彰・佐々木雅寿・寺島壽一	三省堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	1回25点満点の小テストを4回行い、その得点合計で評価します。 なお、この小テストについては追試験、再試験を行いません。
学生への メッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	①小テストは、チームズに「テスト用」チャンネルを設けますので、これを通じて提出してください。 ②授業形態を変更することがあります。変更するときは、「連絡用」チャンネルを使って連絡します。

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WSO1312a1		

授業概要・目的	日々ニュースで報じられる政治の動きを、政治学という学問的な裏付けを基礎にしてとらえることを目標とする。政治体制・政党制など、政治学の理論的な整理を試みるとともに、国際政治についても目を向けていきたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本や主要国の政治制度（議会や行政機関）及び選挙制度、自由民主主義、政党や利益集団、福祉国家といった政治学の重要な項目について習得するとともに、戦後日本の政治史を理解することが期待される。
授業方法と留意点	<p>【4月15日更新】</p> <p>授業実施体制の変更に伴い、当面の間「遠隔授業」（教材・課題提供型）を行います。受講に必要な情報はすべてMoodleより行いますので、下記を参照の上、必ずMoodleの登録をしておいて下さい。</p> <p>コース名：政治学（日本の政治）＜2021年度前期 金曜4限W・2 担当：森康一＞ 登録キー：1206</p>
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治学や政治史の内容が一般教養として問われる。また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。この授業によって、上記に関して必要な基本的な知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の政治・国際面を読む習慣をつける
2	政治制度と選挙制度 (1)	近代社会と現代社会、および近代国家について	近代市民社会と現代大衆社会の違いについて調べておく (約1時間)
3	政治制度と選挙制度 (2)	近代議会主義と選挙制度について日本の国会の選挙制度について	小選挙区制と比例代表制の違いについて調べておく (約1時間)
4	国家の政治体制 (1)	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	自由主義と民主主義について調べておく (約1時間)
5	国家の政治体制 (2)	自由民主主義体制の分類について	世界で自由民主主義体制と呼ばれる国々がどのくらいあるか調べておく (約1時間)
6	国家の政治体制 (3)	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	1989年の東欧革命について調べておく (約1時間)
7	各国の政治制度・選挙制度	米・英・仏・独の政治制度、選挙制度について	大統領制と議院内閣制の違いについて調べておく (約1時間)
8	政党と利益集団 (1)	政党の機能や分類、政党制について	イギリスの初期政党 (トリー党・ホイッグ党) について調べておく (約1時間)
9	政党と利益集団 (2)	利益集団の機能や分類、活動および日本の利益集団政治について	「鉄の三角形」とは何か調べておく (約1時間)
10	政治と経済・福祉 (1)	政治と経済の関わりについて	「大きな政府」「小さな政府」について調べておく (約1時間)
11	政治と経済・福祉 (2)	戦後の福祉国家について	日本の社会保障制度について調べておく (約1時間)
12	戦後政治史 (1) 敗戦・占領	初期占領改革について	GHQのいわゆる「五大改革指令」について調べておく (約1時間)
13	戦後政治史 (2) 講和と55年体制の成立	吉田・鳩山内閣期の国内政治・国際政治について	1950年代の外交政策について調べておく (約1時間)
14	戦後政治史 (3) 自民党政権	自民党の派閥政治について	現在の自民党の派閥の沿革について調べておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと、試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする (約4時間)

関連科目 政治・外交関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代政治学	加茂利男 他	有斐閣
2	はじめての政治学	北山俊哉 他	有斐閣	
3				

評価方法 (基準)	<p>【4月15日更新】</p> <p>小テストはMoodleから行います。また、期末試験実施が不可能な場合はレポートに変更します。Moodleからの連絡をよく注意しておいて下さい。</p> <p>-----</p> <p>原則として10回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。</p> <p>○平常点 20%：小テスト×2回 (第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点)</p> <p>○期末試験 80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。の合計点によって評価を行</p>
-----------	--

学生へのメッセージ 日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようになしてください。

担当者の研究室等 11号館5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)

科目名	世界の政治	科目名 (英文)	Politics in the World
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WS01313a1		

授業概要・目的
この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。

到達目標
この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。

授業方法と留意点
【11月11日更新】
11月26日の<第9回>から対面授業に移行します。

【8月26日更新】
オンライン授業の実施に変更になります。オンデマンド式の「教材・課題提供型授業」をしていきます。
受講する方は、Moodleにて
コース名：世界の政治<2021年度後期 金曜2限W・2 担当：森康一>
登録キー：1206
で登録してください。

授業の進め方や授業動画についてなど、Moodleのコースに記載していますので、登録の上、そちらをご覧ください。

【旧】
プリントと板書により講義

科目学習の効果 (資格)
公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。
この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく (約2時間)
2	冷戦時代の国際関係 (1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく (約30分) レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
3	冷戦時代の国際関係 (2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく (約30分) レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
4	冷戦時代の国際関係 (3)	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく (約30分) レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
5	冷戦時代の国際関係 (4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく (約30分) レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ (1)	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく (約30分) レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ (2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく (約30分) レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく (約30分) レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	「9.11テロ」について調べておく (約30分) レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
10	米口の核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「ブラハ演説 (2009)」について調べておく (約30分) レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ベトナム戦争」について調べておく (約30分) レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく (約30分) レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく (約30分) レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく (約30分) レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、レポートの準備をする (約3時間)

関連科目 政治・外交関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣	
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア (田中明彦訳)	有斐閣	

評価方法 (基準)	○平常点 20% : 小テスト×2回 (第6回・第11回の授業日に Moodle から実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回 10 点満点) ○期末レポート 80% : 5 問出題し、そのうち 2 問を選択して書いてもらいます。Moodle から提出。各問 40 点満点。 の合計点によって評価を行います。
学生への メッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起きていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
備考	

科目名	自然地理学	科目名 (英文)	Physical Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原 俊則
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2314a1		

授業概要・目的	自然環境が人間の活動にどのような影響を与えてきたのか、またそれらを我々人類はどのように改良し、居住地域の拡大に努めてきたのかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。その際、我々人類の生活の舞台である地表について、地形・気候・土壌・植生・水文環境など、自然地理学に関する基礎的知識を習得できるように説明していきたい。
到達目標	地理学は人間に関わる学問である。学生諸君には、我々人類は環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動を取ることができるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	WebFolder にあげた音声入りのパワーポイントファイルを使って講義を行います。講義実施日から1週間以内をめどに必ずファイルを見て下さい。何回かレポートを課しますので、自らも疑問点を調べるという態度で受講して下さい。
科目学習の効果 (資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを身近に感じることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	様々な地形と生活-その1-	・扇状地・氾濫原・三角州の地形と土地利用	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
3	様々な地形と生活-その2-	・台地・段丘の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
4	世界の気候	・気候因子と気候要素 ・世界に見られる様々な気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
5	日本の気候	・日本の気候的特色	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
6	世界の植生と土壌	・世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
7	都市気候	・都市気候とは ・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
8	都市化の進展と水文環境の変化	・都市化が進展することによって水の環境がどのように変化するか	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
9	都市化にもなう水災害の変化	・都市化にもなう流出変化の実例とその影響 ・都市の水害と下水道整備	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
10	都市化と中小河川の治水	・都市的治水様式と農業的治水様式	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
11	水資源と農業	・稲作と水資源との関係	前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
12	離島における地下ダムの建設	・沖縄県宮古島ではなぜ地下ダムが建設されたのか	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
13	ダム上流における自然環境の変化	・ダム確砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
14	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下とその影響 ・日本における海岸浸食の状況 ・ダム下流における流況の変化	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
15	干拓地の自然的特性	・干拓地の地形と水文環境	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『人間活動と環境変化』	吉越昭久編	古今書院
2			
3			

評価方法 (基準)
レポート試験を実施します。配点は60点です。さらにパワーポイント講義を聞いてもらった後、何回かレポートを課しますので、期日までにWebFolderの指定されたフォルダーに提出して下さい。配点は40点です。なお、評価のポイントは自分なりの考えを持てるようになったかどうかです。

学生へのメッセージ
地理学には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、講義内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高等学校教育では地理が選択になっているため履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参していただきたい。

担当者の研究室等
非常勤講師室

備考

科目名	教養生物	科目名 (英文)	Biology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾崎 清和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA1315a1		

授業概要・目的	人体の構造、機能および病気とともに、ヒトを含む生物の多様性、分類および生態系に関して概説する。社会人として知っておくべき生物学的な常識を身につけることを目的とする。
到達目標	人体の構造や機能に関する知識を得ることができるとともに、生物の多様性や生態系に関する基礎的な知識も同時に取得できる。
授業方法と留意点	対面授業を基本として、必要に応じて遠隔授業（教材・課題提供型授業）にて実施する。
科目学習の効果（資格）	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生物、生態系とは	授業中のルール説明・試験方法について 生物や生態系の基礎知識を問う ビデオ「人体ミクロの大冒険 プロローグ」	――
2	細胞	細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	DNA	DNA、タンパク合成、細胞の増殖に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	神経細胞	神経細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	神経系	神経系、脳に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	生命誕生	生殖器系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	ホルモンと自律神経	自律神経と内分泌系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	習熟度試験前半	講義前半の習熟度試験	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	血液、免疫	血液、免疫系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	腎臓	腎臓に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	筋肉と脂肪	骨格系、脂肪に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	骨	骨に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	肝臓、消化器	肝臓と消化器に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	癌	腫瘍に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	習熟度試験後半	講義後半の習熟度試験	――

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューステージ生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	毎回の小テスト（課題）を 50%、習熟度試験を 40% および授業態度：授業への呼応状況 10% により総合的に判断する
学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
担当者の研究室等	枚方・薬学部 6 号館 3 階病理学研究室 1
備考	事後学習 60 分、授業日の授業前に小試験対策の事前学習 30 分が必要です。 授業中の小テストについてはテスト終了後に解説する

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health Science
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA1316a1		

授業概要・目的	授業では、まず基礎編として、健康の観点からみた人類史に始まり、公衆衛生の歴史、日本の人口の現在と将来、人々の健康を守るための方法論（疫学）、予防医学の考え方とその具体例（感染症、生活習慣病）について学ぶ。また応用編として、人の健康が社会から受ける影響について移民（外国人）を事例に解説する。さらに人の健康に関する研究の倫理について、過去の歴史から学ぶ。
到達目標	公衆衛生学が扱う内容の全体像とその方法論の概要を把握するとともに、私たちの健康が社会や環境から受ける影響について理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。第2回（4月22日（木））以降は、Moodleによるオンライン講義とする。

科目学習の効果（資格）	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	人口転換と疫学転換	人類史と健康	・予習をすること（教科書第1章 p7-10, 第2章 p22-25）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
2	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	・予習をすること（教科書第1章 p1-12）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
3	保健統計（1）	日本の人口	・予習をすること（教科書第2章）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
4	保健統計（2）	健康指標	・予習をすること（教科書第2章）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
5	疫学（1）	疫学の歴史と指標	・予習をすること（教科書第3章）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
6	疫学（2）	関連と因果関係	・予習をすること（教科書第3章）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
7	疾病予防	予防医学の考え方	・予習をすること（教科書第4章 p51-55）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
8	感染症（1）	感染症の疫学と予防	・予習をすること（教科書第5章 p81-98, 164-176）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
9	感染症（2）	感染症流行拡大の事例	・予習をすること（教科書第5章 p81-98, 164-176）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
10	生活習慣病	生活習慣病の疫学と予防	・予習をすること（教科書第5章 p98-111）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
11	環境保健	地球規模の環境問題と取り組み	・予習をすること（教科書第6章 p137-147）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
12	国際保健	世界の健康・日本の健康	・予習をすること（教科書第13章）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
13	移民と健康（1）	移民の健康と社会	・予習をすること（前回配布の課題に取り組み提出）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
14	移民と健康（2）	日本在住外国人の健康	・予習をすること（前回配布の課題に取り組み提出）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）
15	研究の倫理	人体実験の歴史と倫理	・予習をすること（教科書第1章 p14-17）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分）

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学 2021	鈴木庄亮	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2020/2021	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題および/または小テスト（100%）で評価する。60%以上を合格とする。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を用意して、毎回の授業に真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。
-----------	--

担当者の研究室等	枚方キャンパス 看護学部 3階 24
----------	--------------------

備考	提出された課題内容について授業で解説する。
----	-----------------------

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1333a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>なお、講義は対面による講義と Teams を用いたリアルタイム型講義を同時進行で行う。 各自の事情や希望に合わせて受講形式を選択すること (受講形式は固定しなくともよい)。 対面で受講する場合は初回の教室と同じ教室に入ること。 ・学籍番号下 3 桁 001~120 および再履修者は石井クラス : 1231 ・学籍番号下 3 桁 120~292 は水野クラス : 1232 Teams で受講する場合は ・学籍番号下 3 桁 001~120</p>

科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること (0.5 時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修: 摂南大生として、建学の精神と教育理念を理解すること / 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること (0.5 時間) ・事後学修: 講義で課された課題に取り組むこと (2 時間/継続)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修: 設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: SDGs とは何かについて予習しておくこと (0.5 時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと (2 時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修: 社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修: 大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修: 他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとのプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修: 他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 夏休み以降の大学生活の目標を考える

			・講義の振り返り	こと(0.5時間) ・事後学修:期末レポートを作成すること(1.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内活動(30%)、グループ課題(20%)、最終レポート(50%)で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	1. 2020年度以前入学の再履修者はこの教室で実施する。 2. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 3. ミニレポートは採点した後に返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	WCA1334a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 なお当面の間は Teams を使用して時間割通りにリアルタイム講義を行う Teams コード : q4iuolu
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活 1 年目で経験したことを思い出しておくこと (事前 : 1 時間) ・配布したレジユメを見直すこと (事後 : 0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと (事後 : 2 時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること (0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる (事後 : 0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる (0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること (事前 : 0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること (事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること (事前 : 0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること (0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること (事後 : 0.5 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること (事後 : 0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること (1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える (事前 : 0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること (0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること (0.5 時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑩⑪⑫の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと (事前 : 1 時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる (事前 : 0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (0.5 時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生への 来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野）
備考	各課題の提出方法は講義内で提示する。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名 (英文)	Employment Design II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1337a1		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。なお、本講義は Teams と用いてリアルタイム Web 講義を実施する。学生は時間割通りに下記の Teams コードから暮らすに入り、該当日の講義チャンネルに立てられた会議室から受講すること。 Teams コード：v2yvhd
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・事前学修：シラバスを熟読すること(1時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
2	警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	社会人として転職4回で5社目に勤務しながら週末にNPOも立ち上げたばかりが、20歳から40歳まで何を悩んでどう生きてきたかの事例紹介(社会起業家)	・ゲストのキャリアの履歴とその節目で感じたこととお話いただきます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
4	SDGs で世の中を変える～未来の子どもたちのためにやるべきこと～	SDGsについて、ゲスト企業の取り組みについてお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
5	社会問題と対峙する仕事 -ソーシャルワーカーについて- (摂南大学 OB・ソーシャルワーカー)	①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。 ②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して伝える、事例検討を行います。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
6	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ(IT/役員)	・現役のビジネスパーソンが日々実践している 「ビジネスに必要な力」を実例を通じて解説します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	【業務告白】フツのサラリーマンがPRの仕事の経験から感じたこと(グループ広報)	自身のキャリア・経験談など、2社3職種から学んだことを中心にお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間) ・中間レポートを作成すること(1.5時間)
8	My proud work しあわせのまちづくり?主役は地域住民!『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方?(社会福祉協議会職員)	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
9	プログラマーを目指して摂南大学に入学してからNPO代表になるまで(摂大OB/NPO法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタンププログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器にNPO法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
10	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
11	信用金庫の仕事と期待される人財(金融/人材開発)	仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
12	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	ともに強いまちを創る～公務員という選択～(摂南大学OB/市役所職員)	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	先人(企業家)に学ぶ仕事への心構え(商工会議所/職員)	・企業家から学ぶ、仕事のコツについてお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)

	15	講義のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間) ・事後学修：最終課題を作成すること(2.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想レポート(30%)、中間レポート1回(30%)、期末レポート1回(40%)を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、撰大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター(上野山) 教育イノベーションセンター(水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WKY1350a1		

授業概要・目的	数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと
授業方法と留意点	「教材・課題提供型授業」を実施します。 テキストの指定された問題を①自力で解く→②解説を確認して解き方を理解する→③類題を解く という流れで取り組みます。 問題に集中して取り組むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	事後学修：実力テストの復習 30分以上を目安とする
2	算数・数学の基礎	割合と比	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題 (濃度算・仕事算他)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
4	算数・数学の文章題②	金銭の文章題 (損益算)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
5	算数・数学の文章題③	速度の文章題 (速度算)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
6	復習①	計数問題の復習	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
7	中間テスト	中間テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習 30分～1時間程度を目安とする
8	思考力が必要な算数・数学①	集合	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
9	思考力が必要な算数・数学②	場合の数	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
10	思考力が必要な算数・数学③	確率	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
11	思考力が必要な算数・数学④	図表問題① (表の読み取り・資料解釈)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
12	思考力が必要な算数・数学⑤	図表問題② (表の読み取り・資料解釈)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
13	思考力が必要な算数・数学⑥	推論①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
14	思考力が必要な算数・数学⑦	推論②	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
15	復習②	論理問題の復習	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	「小テスト 40%」+「中間・期末試験 50%」+「Smart SPI 10%」で成績をつけます。
学生への	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。

メッセージ	毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	2 号館 2 階 ラーニングセンター (旧学習支援センター)
備考	『厳選！数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WKY1350a1		

授業概要・目的	数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと。
授業方法と留意点	※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習 30分以上を目安とする
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分以上を目安とする
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする
	9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	14	培った思考力を応用問題に活かす	これまで取り組んできた問題の応用問題	全ての問題を事前に復習 30分以上を目安とする
15	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習 30分～1時間程度を目安とする	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Design I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1336a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ（将来社会に出て仕事をする際に必要な能力）の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目で、2021年度入学生のみ履修ができる。 また、講義は当面は Teams を使用して時間割通りにリアルタイム講義を行う。 Teams コード：51q6o2g
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義内容を振り返ること(0.5時間)
2	私が NO.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1 になる」ための計画を立て、実践する	・設定した課題を実践すること(2時間)
3	私が NO.1 プロジェクト②	・講義3で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5時間)
4	仕事で使う分析スキルについての解説	・定量、定性分析の概説、定量分析の3つの場面の概説	・講義内容を振り返ること(0.5時間)
5	私が NO.1 プロジェクト③最終振り返り	・講義3で設定した個別の課題の結果の振り返り、共有	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること ・第一回課題「NO.1 プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること(2時間)
6	数字を用いて意思決定を行う①	・損益分岐点を使った意思決定方法を学ぶ	・講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	数字を用いて意思決定を行う②	・機会費用と埋没費用を使った意思決定、重み付けを使った意思決定の方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること(1時間)
8	議論を進めるファシリテーションの基本	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(1時間)
9	創造的思考の枠組みを使って議論する	・クレイジープレスト、スマッシュアップなどアイデアを拡散する方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(1時間)
10	グループでリサーチプロポーザル(研究計画書)を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル(研究計画書)の作成」	・グループで課題に取り組むこと(2時間)
11	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5時間)
12	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	担当講師のキャリアについて③	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	グループで研究計画書を発表	・講義10で取り組んだ課題をグループごとに発表する	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること ・第二回課題「グループレポート」提出(0.5時間)
15	講義のまとめ(担当:教育イノベーションセンター)	・エンプロイメントデザイン I の振り返り	・講義全体を振り返ること ・第三回課題「講義の最終レポート」を作成すること(2時間)

関連科目: キャリアデザイン I・キャリアデザイン II・エンプロイメントデザイン II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準): 毎回のミニッツペーパー(15%)、グループワーク(10%)、グループレポート(10%)、個人レポート3回(65%)を総合的に判断する。

学生への: 自身の将来の職業選択を考えるために、様々な課題を真摯な態度で聴いてほしい。

メッセージ	また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井） 7号館3階 教育イノベーションセンター（上野山） 7号館3階 教育イノベーションセンター（水野）
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイトで伝達する。

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上(80時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。</p> <p>2 教育実習事前指導(3月～4月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び事前指導・事後指導における課題提出物、教育実習記録による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上(120時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(3月～4月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	地域実習	科目名(英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎, 谷口 雄一, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1, L科:LT01366a1~LT01370a1, D科・S科:IT01371a1~IT01375a1, P科:YT01423a2~YT01427a2, J科:JT01374a~JT01378a1, W科:WT01352a1~WT01356a1, N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																
授業方法と留意点	主として現地でのフィールドワークです。1か月に2回程度全体で集まり、進捗状況や問題点、解決策などを共有します。従来から感染防止に注意の上で対面授業を行っています。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	1 チーム10名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の1~6の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第1回授業は4月14日(水)6時間目です。この時に詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。 今年度、この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習に行くことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 開講時間はいずれも6時間目です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。開講日は調整の関係で変更されることがあります。 第1回4月14日(水)「ガイダンス(授業概要の説明)」 第2回4月28日(水)「寝屋川市の現状を考える(1)」 第3回5月12日(水)「寝屋川市の現状を考える(2)」 第4回5月19日(水)「寝屋川市まちあるき(学外)」 第5回5月26日(水)「社会教育とは(1)」 第6回6月2日(水)「社会教育とは(2)」 第7回6月9日(水)「まちあるき報告会」 第8回6月3日~6月22日までのいずれかの日「実習先挨拶(学外)」 第9回7月7日(水)「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第10回~第18回「実習(学外)(夏季休暇中の5日間)」 ※実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。状況により実習できない場合もあることをお含みおください。 【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせいたします。 第19回「実習ふりかえり(1)」 第20回「実習ふりかえり(2)」 第21回「全体報告会」																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	提出物(20%)、活動への参画の程度(40%)、最終報告プレゼンテーション(20%)、最終レポート(20%)																
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましょう!																
担当者の研究室等	朝田研究室 1号館7階 谷口研究室 11号館11階(後期は7号館4階) 吉田研究室 11号館11階(後期は7号館3階)																
備考																	

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名(英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1○E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1, L科:LT01366a1~LT01370a1, D科・S科:IT01371a1~IT01375a1, P科:YT01423a2~YT01427a2, J科:JT01374a~JT01378a1, W科:WT01352a1~WT01356a1, N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC(英語の場合)の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会~事前授業~現地派遣~事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 募集説明会:4月中旬(9月下旬~10月上旬) 事前授業10回:6月中下旬~7月下旬(11月~2月) 現地派遣:2週間程度 8月中旬~9月上中旬(2月中下旬~3月下旬) 事後授業5回(成果報告会含む):9月~10月中旬(3月~4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまるとはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)			
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。			
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター(旧：国際交流センター)まで			
備考				

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。 SDGs-4																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。またある程度の英語の活用力を身につける。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前半は、1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 後半は、新聞・雑誌など興味を持った記事を基に各自が調査した内容を紹介する。																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(30%)、討論・総括内容(30%)、課題へ取り組む姿勢と受講態度(私語・遅刻を含む)(40%)を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習開始の基礎を確保させることと、後続学年での専門的な選択に備えさせるという2つの役割を有している。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。 ①学生が自分で経済問題を考え、分析する能力を身につける。②学生のプレゼンテーションの能力を高める。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式は少人数の授業である。課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイル。割り当てられた担当教員の指導のもとに修得させる。前期は、Microsoft Teamsを用いて遠隔授業を行う。 まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を確認するとともに、第1年次後期から学びはじめる専門基礎科目の学習を補完する。 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	各種課題の提出状況およびそれらの達成度(50%)、授業取組み姿勢(グループワークでの他者との協力や討論、クラス内外での発表や質疑に対する対応など)(50%)																		
学生へのメッセージ	学習面にしても、生活面にしても、基礎演習の担当者になんでも相談してください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 原田准教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得する。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	発表の達成度(50%)、研究レポート作成(30%)、演習へ取り組む姿勢(20%)で総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	M
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	熊川 剛久
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を身につけるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えることを目的とする。			
到達目標	大学での学習を開始するにあたって、必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習を行うことで、2年次から学びはじめるコース専攻科目に備えることができる。			
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2. 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分たちでテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3. 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で実践する。 4. 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5. 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて、研究倫理を身につける。 			
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、情報リテラシーⅠ・Ⅱ、1年次後期の専門基礎科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	毎回の授業で取り組む課題を100%、100点満点で評価する。			
学生へのメッセージ	もし何か困ったことがあれば、担当教員に遠慮なく話してください。			
担当者の研究室等				
備考	出席が不足すると単位の修得が難しくなります。気をつけましょう。			

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	適切な文献を探し、輪読する。フィールド調査を実施し報告書を完成させる。フィールド調査を通じて卒業論文の執筆に必要なデータや情報収集を行い卒業論文の執筆準備を行うことを目的とする。 SDGs-4, 9, 11																		
到達目標	文献購読や現地調査ができるようになる。自ら設定したテーマの調査分析及び論文執筆作法を身につけることを到達目標とする。																		
授業方法と留意点	文献サーベイ及びフィールド調査によるファインディングをフィールド調査報告書（卒業論文ドラフト）として取りまとめ、プレゼンテーションと討論を行う。討論に参加しない学生及び調査報告書が完成しなかった学生の評価は低くなるので留意する必要がある。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	4月：基本的な文献の購読 5-7月：ゼミで行う現地調査テーマの設定と文献サーベイ、1日のフィールドワーク（2年生と一緒に） 9-11月：フィールド調査の計画、アポイントメント、実施 11-12月：フィールド調査報告書の提出とプレゼンテーション 12月-1月：卒業論文のテーマを決めて書き始める併せて、研究倫理教育を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	受講態度（30%）、フィールド調査報告書（50%）、プレゼンテーション（20%） ゼミ対抗プレゼン大会出席者を高く評価する																		
学生へのメッセージ	フィールド調査等、必要に応じて、ゼミ以外の時間帯にも個別／グループ指導を行います。 シラバスの内容は、学生の理解度やニーズに応じて変更することがあります。																		
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室（経済学部）																		
備考	必要な文献は、適宜指示します。																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前年度に確立された自分の研究テーマを深化させる。 2. フィールド調査を通じて、地域経済の問題点を考察し、自分なりの認識を持つ。 3. 次年度の卒業研究論文作成に向けて、必要な分析の方法を学習する。 																		
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、それらに基づいたフィールド調査の企画・実行、グループ内での議論、プレゼンテーション作成といった一連の作業を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。併せて、研究倫理教育を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題の発見・分担(20%)、資料収集・分析(20%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(20%)、討論・総括内容(20%)、課題へ取り組む姿勢(10%)、受講態度(私語・遅刻を含む)(10%)を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	1号館7階植杉研究室																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・専門演習Ⅰの内容を踏まえて地域経済分析の理解を深める。 ・地域経済における地域保健福祉医療だけでなく地域振興の活性化についても考察する。 ・それらを通じて、卒業論文をまとめるための文章力の養成を行う。 ・また教科書及び資料によってアイデア創出のスキルを醸成する。 																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・政令指定都市に30年勤務した実務経験を活かして具体的な地域活性化施策について必要な情報や知識修得の実践的教育を行う。 ・長期化する就職活動にも対応するコミュニケーション力向上と学生相互が議論できる課題と環境を構築して学生が、自立した意見表明が出来ること及び卒業研究に繋げる表現力・文章作成力の修得を到達目標とする。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。下記内容を実施する。 ・専門演習Ⅰで理解を深めた経済学的視点を踏まえ地域経済活性化の手段としての施策について考察する。 ・教科書・参考資料の輪読を行う。さらに課題認識と課題対策の具体化を支援するフィールドワークからの考察、演習・発表を中心に行う。 ・前半は学生が選択した冊子を輪読し、分担した内容について意見表明による議論を行い、自立した意見発表の演習を行う。 ・演習後半には、4年次に本格化する就職活動に向けて、学生個々の進路に合わせた課題演習も実施していきたい。 																
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済活性化策について考察する。フィールドワークを実施する目的と課題に対して事前に学習し、レジュメ作成またはプレゼンテーション資料を作成し、まとめ方を演習する。卒業論文のテーマに関わるフィールドワークをゼミ生に提案させ実施する。 ・併せて、研究倫理教育を行う。 ・卒業研究のテーマの発表だけでなく、インターンシップやボランティアなどの経験に基づく発表も奨励する。結論にいたるプロセスを学生相互の議論により学習効果を高めていく。 																
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅰ 卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>演習時に適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	演習時に適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	演習時に適宜指定する。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>演習時に適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	演習時に適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	演習時に適宜指定する。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	ICT ツールを活用して参加(遠隔参加も含む)や対面でのコミュニケーションから、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメ及びレポート作成・発表の達成度(50%)、討論・総括内容(30%)、課題へ取り組み姿勢(20%)を総合的に評価する。発表等の成果だけでなく討論や取り組み姿勢を満たさない限り及第点とはなりません。																
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加によって議論に慣れ、社会に役立つ知識と知恵を修得することができる。 ・大学生時代しかこのような体験はできないので、時間を有意義に活用する習慣を修得して欲しい。 ・出席、議論参加を重視します。 ・卒業研究に繋がる発表時は、事前にパワーポイントなどの資料を作成し、プレゼンテーションを行う事で評価となる。 																
担当者の研究室等	1号館7階 田井教授室(経済学部)																
備考	学生の積極的な参加意欲によるゼミ参加を奨励する。無断欠席は、厳重に対処する。																

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	<p>テーマ 環境問題と産業・企業 さまざまな環境問題への対応を迫られる産業・企業の実態について研究する。</p>		
到達目標	<p>研究・調査・発表についての基礎的な能力を高める。</p>		
授業方法と留意点	<p>関心がある環境問題と産業・企業の関わりについてテーマ設定し、調査レポートを作成する。 個人あるいは集団で、作成したレポートを発表・報告する。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>各自の問題意識による調査・研究を軸とする。 前期は、グループごとにテーマを設定し、調査・研究を行う。 後期は、卒業論文を意識し、個人ごとにテーマを設定して、調査・研究を行う。 併せて、研究倫理教育を行う。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	<p>授業への参加状況(提出物80%、日常の取り組み20%)で評価する。</p>		
学生へのメッセージ	<p>卒業論文の作成を意識し、テーマを選択するために、アンテナをはっておきましょう。</p>		
担当者の研究室等	<p>1号館7階 野口准教授室(経済学部)</p>		
備考			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	観光企業、自治体、観光地等の実地調査や文献研究により観光事業の諸課題やその多様なあり方を実践的に理解する。		
到達目標	観光事業に関する実地調査とそれに基づいたレポート作成と発表が出来る。		
授業方法と留意点	前期：様々な観光事業に関する文献購読、関連資料調査等によって観光事業に対する理解を深め各自研究課題を設定する。 後期：前期で得た知識を踏まえ、研究課題に関する観光企業、自治体、観光地等への実地調査等（視察、ヒヤリング等）を実施し、調査レポートにまとめ提出、プレゼンテーションする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前学習として観光の様々なテーマ（環境保護、文化振興、地域・産業振興、健康増進等）に関して事業主体（企業、自治体、NPO、観光地等）がどのような活動を行っているか、事例研究を行う。更に必要に応じ観光地・企業等の実務担当者からのレクチャー等を実施する。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	レポート提出（50%）、発表内容（30%）、ゼミ活動への参加（20%）の割合で評価する。		
学生へのメッセージ	活動への主体的な参加を期待しています。		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室（経済学部）		
備考			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	価値観が多様化して情報のあり方が変わるなか、観光においても新しい様々な事象が発生しています。現在は、世界中の観光産業が新型コロナウイルス感染拡大による大きな打撃を受けており、この影響は当分続くと考えられます。しかし、観光客が激減している今だからこそ、コロナ禍が収束した後の観光振興がどうあるべきかを考える必要があります。本演習は国内外の航空産業と宿泊産業の現場で実務経験のある教員が担当し、住民・観光客双方にとって好ましい観光のあり方をテーマとして、実務的な面からも助言をしながら研究を進めていきます。			
到達目標	様々な観光事象について理解を深め、それぞれの場所にふさわしい観光振興と地域活性化のあり方について研究します。			
授業方法と留意点	学生が選んだテーマにつき、研究を進めていきますので、一人ひとりが責任をもって自主的に行動してください。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門演習Ⅰで学んだ観光関連産業と様々な観光事象についてさらに理解を深め、学生が主体的にテーマを設定して、研究を進めていきます。文献や資料については授業内で適宜指示します。			
関連科目	観光学入門、専門演習Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	レポート・課題提出(40%)、発表内容(40%)、ゼミ運営への貢献度(20%)により評価します。			
学生へのメッセージ	取り組む姿勢の違いによって、身に着くことが違ってきます。一つでも多くのことを学ぶという姿勢をもって、積極的にゼミ活動に参加してください。			
担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	上級研究のための基礎知識と研究レポートの作成・ディスカッション・プレゼンのための基礎を習得させる。また、卒業研究のための文献サーベイ、アンケート調査法、実地調査、データの収集・分析などの演習をする。			
到達目標	卒研作成のための調査方法および調査スキルを理解し、3年生の最後までは「卒業研究計画書」が作成できること			
授業方法と留意点	①必ず授業へ参加し、またディスカッションに参加すること ②本授業は講義タイプではなく、学生参加方のゼミですので積極的に参加すること			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	毎回のゼミにおける演習・ディスカッション・発表(60%)とレポート(40%)を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室			
備考	必ず出席要			

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	本演習は、計量経済学的手法を用いて、実際の経済現象を観察し分析する力を養うことを目的とする。			
到達目標	演習では、経済理論（マクロ・ミクロ）の基礎知識を学習すると同時に、経済データの収集方法や処理方法などについても勉強する。さらに、地域経済や観光経済の実証分析を挑戦する。			
授業方法と留意点	統計学のテキストを定めて、統計学の理論を勉強すると同時に、コンピュータによる経済データの収集方法と処理方法についても学習する。さらに、ゼミ生が自ら興味を持つ課題を選び、プレゼンテーションを行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	2年次で学んだマクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論をより深く理解するために、現実のデータを用いた実証分析を行う。そのために、統計学や計量経済学の基礎を学んだ上で、コンピュータによる実習を行う。特に、産業連関分析や回帰分析などの分析手法を用いて地域経済・観光経済における経済現象を計量化して分析する。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	発表の達成度 (50%)、研究レポート作成 (30%)、演習へ取り組み姿勢 (20%) で総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	欠席せずに頑張ってください。			
担当者の研究室等備考	1号館7階 郭准教授室			

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	この授業では2つのことを目標とする。第1に前期においては学生をテーマごとにグループに分け論文を書いてもらう。後期にはそれを参考に自分の卒業論文のテーマを選び準備をしてもらう。第2に就職活動の準備をおこない、3年の後期から始まる就職活動に備えてもらう。			
到達目標	前期はグループで論文を作成する能力を身につけてもらう。後期には就職活動の万全な準備と卒業テーマの決定を目標とする。			
授業方法と留意点	学生同士での結束を高めるために、できるだけグループでの活動を行います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は2つの内容から構成される。前期においてはまず学生をテーマごとにグループに分け、各グループで論文を書いてもらう。後期においては、前期の論文作成をもとに卒業論文のテーマを選び、大まかな流れ、筋道をみつけ4年の卒業論文の作成につなげてもらう。併せて、研究倫理教育を行う。就職活動に関しては自己分析・面接の練習を授業の中で行い、論理的な思考・発表能力を身につけてもらう。その他に学生によるスピーチ、グループディスカッションも行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	前期のグループでの論文の内容 (50%) と後期の卒業論文への準備 (50%) で総合評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	卒研の基礎を固める。 キャリアプランの基礎を固める。																		
到達目標	卒研の研究テーマ、テーマ選定理由、研究目的、研究方法を明らかにする。 キャリアプラン立案に必要とされる知識の基礎を身につける。 経済や企業の分析スキルを身につける。																		
授業方法と留意点	毎回、卒研の研究計画のブラッシュアップを行います。 課題提出が不足している学生は不合格とすることがあるので、毎回出席と課題提出に努力すること。 必要に応じて TEAMS を用いたオンライン教育を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 卒研の研究計画書完成</p> <p>(1) 研究テーマの決定</p> <p>(2) テーマ選定理由の決定</p> <p>(3) 研究目的の決定</p> <p>(4) 研究方法の決定</p> <p>毎回、指摘事項を直し、研究計画書をブラッシュアップ。 参考文献リスト、分析方法まで考えることとします。</p> <p>2. キャリアプラン立案に必要とされる基礎知識</p> <p>(1) 業界知識、企業分析の知識、自治体分析等の知識</p> <p>(2) 業務知識</p> <p>(3) キャリアプラン作成</p> <p>それぞれが1業界を担当し、2年次に習得した手法を基礎に業界分析、発表を行う。 他のゼミ生の業界分析の発表を聞くことで、就活の準備とする。</p> <p>3. 面接に必要な基礎知識</p> <p>(1) 企業等の選定、自治体等の選定</p> <p>(2) 想定される質問事項の選定</p> <p>(3) 質問への回答案の作成</p> <p>(4) 面接演習</p> <p>仮定した企業や自治体等への面接を模擬的に体験します。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の提出(30%)、ブラッシュアップの進捗(30%)、ディスカッションへの参加(40%)により評価します。 十分ブラッシュアップされた研究計画書、キャリアプラン、企業や自治体等の分析、が提示されているかどうかを重視します。																		
学生へのメッセージ	4年になると就活に入ります。その前に卒研やキャリアプランの基礎を固めることを重視します。																		
担当者の研究室等備考	1号館7階																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	<p>【4月22日(木)以降のオンライン授業以降について】</p> <p>演習、実習科目については感染対策に注意した上で対面授業を行います。状況に応じてハイブリッド授業の可能性がありますが、そのような時は決まり次第連絡します。</p> <p>近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。</p>																		
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解できるようになります。履修者はこの授業を受けることで、観光を中心とした地域経済の活性化についてフィールドワークを伴う調査方法や学習方法を習得することができます。																		
授業方法と留意点	教室におけるゼミ形式です。オンライン授業になった時は Teams で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。</p> <p>(2)身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。</p> <p>(3)自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>後期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。</p> <p>(2)その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。</p> <p>(3)自らの研究テーマについてゼミ論文としてまとめていきます。</p> <p>(4)ゼミ論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	前期・後期ともにゼミではグループ活動を行いプレゼンなどを行うが、その際個々人の役割分担でどの程度の貢献をしたかを見る。これを評価全体の60%とする。また学年末に個人で期末レポートを作成するので、それに対する評価を40%とし、これを合計して総合評価とする。																		
学生へのメッセージ	自ら設定した研究テーマをゼミ論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	現在、私たちが暮らす日本経済については実にさまざまな問題が指摘されている。そうした問題の原因をいかに分析し、どのような解決策が考えられるのかについて、社会経済学あるいは制度経済学の観点から考察する。具体的には、日本の経済システムが、労使関係、企業間関係、金融システム、国家体制、国際関係などさまざまな制度の領域から構成され、それらが相互に関係しあって構成されていると考える。このような考え方に立って、制度の役割を踏まえて日本経済の諸問題を分析する。																
到達目標	1. 社会経済学・制度経済学の基礎的な知識を身につけて、現実の経済問題を分析できるようになる。 2. ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、まとめる力、書く力、伝える力をつける。 3. 課題研究を通じて、論文作成に必要な、課題発見力、情報収集力、データ分析力、論理的思考力をつける。																
授業方法と留意点	演習授業の主役は、受講者のみなさんです。それぞれが互いに教えあい、刺激しあって授業を進めます。グループ学習では、グループ内で協力しあって課題研究に取り組んでもらいます。またグループ間の競争と協力も授業を盛り上げる重要な要素になります。前期は、Microsoft Teams を用いて遠隔授業を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 基礎的な文献を受講者で分担して読むことで、基本的な知識を身につける。また、主要な統計データを用いて経済の現状を量的に把握することも行っていく。 2. その後に数人ずつのグループに分かれて、一定のテーマの下でグループごとに課題を設定してグループ研究を行う。 3. 適宜グループごとの発表を行い、互いに疑問や意見をぶつけ合うことで、研究内容の質を高めていく。 4. 最終的には、小論文形式で研究をまとめて、報告会を行う。 5. 併せて、研究倫理教育を行う。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	事前学習の度合い(30%)、個人学習の成果(プレゼンテーション、レジュメのまとめ方など)(40%)、集団学習への貢献度(質問、提案、議論のまとめなど)(30%)をもとに総合的に評価する。 なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	経済に関するテーマで各自が疑問を設定し、分析する。その分析結果を発表し、レポートを作成する。卒業研究を意識したテーマ選びを行い、研究を進める。			
到達目標	各自の研究を通じて、経済学的思考を身につけること。また、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方を学ぶこと。ゼミを通じてディスカッションを含めたコミュニケーション能力を高めること。			
授業方法と留意点	最初に社会的問題や疑問を広く情報収集する。そして特に関心のある分野を決め、どのような分析手法が望ましいかを検討する。その分析結果をゼミの中で発表し、皆でディスカッションを行う。それを簡潔にレポートとしてまとめる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは各自で決めるが、テーマを決めるための話し合いを教員や学生間で行う。基本的には個別で研究を進めるが、場合によってはグループで行うこともある。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	プレゼンテーション50%、レポート50%で評価する。 出席率が低い場合は単位が取得できない可能性がある。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	1号館7階 田中研究室			

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	この演習では、教育、労働、社会保障といった我々の人生（キャリア）に関わる諸問題を経済学の側面から理解し、学習していきます。教育、労働、社会保障に関わる諸問題を自身のキャリア形成上の問題であると同時に社会の大きな問題として考え、研究を進めていきます																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・労働経済学、教育経済学、社会保障論の基礎的な考え方を知る。 ・演習で得られた知見から自身の今後のキャリア形成を考えることができる。 ・現代日本で起こっている教育・労働・社会保障問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。 																		
授業方法と留意点	<p>対面授業として実施しますが、オンラインの場合は時間割どおりの曜日・時間で授業を遠隔で行う動画配信型授業（リアルタイム方式）として実施します。その場合、使用するICTツールはMicrosoft Teamsです。</p> <p>演習形式（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、コンピュータ実習、フィールド調査）で実施します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>演習のテーマ：キャリアの経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連テキストの輪読や発表を行います。この取組は、専門知識の習得、読解力の向上、プレゼンテーション能力の向上を企図したものです。 ・より身近な問題としてキャリアを理解するために、可能な限り、ワークショップ、シミュレーションゲーム、校外実習などを行います。学生が企画・実施もします。 ・卒業研究（卒業論文）で経済学的な分析ができるように、コンピュータを用いた労働統計分析の演習を行います。また、データ収集の方法を身につけるために社会調査法を学びます。 ・以上の活動を通じて、卒業研究（卒業論文）で扱う自身の研究テーマを見つけます。 																		
関連科目	専門演習 I																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>課題（70%）の提出と最終レポート（30%）により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習への参加と貢献を評価します。（出席し、ワークと議論に積極的に参加することが必要です） ・プレゼンテーション課題の成果物の提出とプレゼンテーション ・卒業論文のテーマに関わるレポート 																		
学生へのメッセージ	教育、労働、社会保障の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。教育、労働、社会保障の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか、そして社会問題としてのそれらを経済学的思考で考えてください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室（経済学部）																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	<p><前期> 他大学のゼミと、「商品と社会」というテーマで合同ゼミを行います。ただし今年度は、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、Zoomを用いたオンライン形式で実施します。合同ゼミでは、統一されたテーマに従って各報告グループごとにトピックを選び、それらについて調べた内容を報告していただきます。前期は、そのプレゼンテーションの準備及びその経過報告が中心となります。</p> <p><後期> 計量分析(データ分析)の基本を学びます。データ実習の課題を用意しますので、この内容に即して、データ実習を行います。日本のマクロ経済や遊園地・観光関係のデータを用いた実習も行います。 またこの期に、卒業研究論文のテーマを決定し、報告もしていただきます。</p> <p>通常のゼミ活動は、感染予防対策を実施した上で、対面式で実施します。ただし社会状況に応じて、オンラインゼミ(Microsoft Teamsを利用)に移行する可能性もあります。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 他大学の合同ゼミを通して、プレゼンテーション能力を高め、あわせて様々な研究報告に触れ、知見を深める。 2) データ分析の基本知識を習得する。 3) 日本の経済データを用いた実習を通して、日本経済の状況を理解する。 4) これまでに学んだ内容を踏まえ、卒業研究論文のテーマを決定する。 																		
授業方法と留意点	<p>この講義は演習なので、合同ゼミの報告準備やExcelのデータ実習など、主体的な取り組みが非常に重要です。ゼミは原則として対面式で実施します。ただし社会状況の変化に応じて、Microsoft Teamsを利用したオンラインゼミに移行することもあります。その場合は連絡します。また、合同ゼミはZoomを利用して実施することが確定しています。Microsoft Teams及びZoomのセットアップをお願いします。</p> <p>ゼミ資料は、TeamsやWeb FolderなどのICTツールを用いて配布します。またExcel実習をオンライン授業で実施する可能性があることから、ご自宅でExcelを利用できる環境を整備してください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期は、「商品と社会」というテーマで、他大学のゼミと合同ゼミを行う予定です。ここでは、観光施設やテーマパークのある種の「商品」と捉え、その歴史や社会的影響を分析し、報告をしてください。報告は、準備作業を含め、班単位(1班3、4人程度)で実施します。</p> <p>後期は、各自の卒業研究のテーマを決定し、少しずつ執筆を進めていきます。その過程で、経過を報告していただきます。またそれと並行して、データ分析の基本についても学びます。主に、様々な経済データ、様々な指数、統計的記述(基本統計量)、データのまとめ方、などを学びます。概ね、統計学や計量経済学の講義の前半の内容とリンクしています。</p> <p>なお、社会状況の変化により、Microsoft TeamsやZoomを用いたゼミ・合同ゼミを実施する可能性があります。あるいは、前期と後期のゼミ活動内容を入れ替えることもあります。</p>																		
関連科目	統計学、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、計量経済学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題(レポート含む)の提出状況(40%)、演習中の発言など取り組み姿勢(20%)、プレゼンテーション(40%)、出欠状況(欠席回数に応じて減点)をもとに、総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ	合同ゼミは、他大学の同学年の学生との親交を深め、様々な意見を聞く機会です。それと同時に、摂南大学経済学部を代表して報告することになるので、しっかりと準備をすることが大事です。実りあるイベントとなることを期待しています。																		
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室																		
備考	欠席回数が多い場合は、単位取得を認めないことがあります。																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	<p>学生のグループ学習による研究報告を中心とする演習形式で、プラットフォームビジネスとプラットフォームに対する規制について、研究報告を行い、最終的に共同で論文を作成することを目的とする。</p> <p>はじめにプラットフォームのビジネスと政策に関する文献を輪読し、課題を見いだして、その後、グループ学習により探求する。</p>																		
到達目標	<p>プラットフォームビジネスを経済学の視点から理解し、ビジネスの成功の理由を知るとともに、規制の必要性について考察することを目標とする。最終的に、グループ学習により共同研究論文を作成することを目標とする。それを通じて、論文の作成の仕方、および作成過程における課題の発見と探求、考察の仕方を身に付けることも目標とする。</p>																		
授業方法と留意点	<p>グループ単位で研究報告の準備を行い、毎週、順番に研究報告を行い、質疑応答をする。報告者はレジメを作成して報告し、質問に答える。報告者以外の方は、報告を聞いて質問をし、意見交換をする。研究報告で議論を深めながら、論文を作成する。原則として授業は対面で実施するが、オンラインとなった場合はTeamsとMoodleで参加してください。</p> <p>※緊急事態宣言中はオンライン(Teams)とし、解除されたら対面とします。</p> <p>(追加) 緊急事態宣言が終了したため、10月6日より対面で行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 授業テーマは、プラットフォームビジネスの動向と規制の必要性についてである。</p> <p>2) 授業の内容は、研究テーマについて、グループで取り組む。まずは基礎的な文献を輪読する。より深く研究するテーマを探す(文献は随時紹介する)。論文のテーマが決まったら、グループで分担して情報収集して考察し、意見交換をする。なお取り上げる文献は授業中に指示するものと、ゼミ生が探してくるものがある。</p> <p>3) 研究の方法は、グループで報告用レジメを作成し、報告を行い、質疑応答や意見交換を通じてさらに探求を深める。このプロセスを繰り返して最終的に論文として完成させる。</p> <p>4) 授業の事前には情報収集と考察を行い、レジメを作成する。授業ではプレゼンテーションを行い、質問に答え、意見交換をする。授業の事後には質疑応答を振り返り、いっそうの発展につなげる。プレゼンテーションがないときには、あらかじめ報告資料をみて質問を考え、授業時間中に質問をし、意見交換をする。</p>																		
関連科目	産業組織論、サービス産業論、ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ、独占禁止法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	最終的に作成する共同研究論文で分担する内容(課題選択、情報収集、分析と考察)50%、共同研究論文作成プロセスへの貢献(リーダーシップ、プレゼンテーション、質疑応答)50%で評価する。ゼミの無断欠席は許されない。欠席が多いと単位認定はできない。																		
学生へのメッセージ	GAF(A (Google, Apple, Facebook, Amazon))に代表されるプラットフォームビジネスが世界を席巻しています。プラットフォームビジネスにより人々が便利になるとともに、プライバシーを侵害する面もあり、富の集中と格差拡大にもつながっています。旧来のビジネスや弱小のライバルを駆逐したり、取引先に不利な条件を押し付けることもあります。最近ではプラットフォームビジネスに対する規制が強化されようとしています。プラットフォームビジネスの成功について知り、プラットフォームビジネスへの規制は必要な																		
担当者の研究室等備考	1号館7階 柳川研究室																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大槻 忠史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	次年度の卒業研究の作成にあたり基礎となる、専門知識や手法、研究倫理等を身に付けること。																		
到達目標	専門知識や手法、研究倫理等を用いて、報告や期末論文が実際に作成できるようになること。																		
授業方法と留意点	前・後期共に、グループ報告及び個別報告をしてもらいます。報告者以外は、必ず質問、コメント、疑問点等を準備して、参加してください。 また、年度末に卒業研究の基礎となる期末論文を作成・提出してもらいます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(前期) 大阪や神戸、京都または関西地方について、歴史的(特に経済)視点から発展を考察します。</p> <p>(後期) 比較の視点を得るために、東京や横浜、関東地方、または受講者各自の関心のある地域について、前期と同様に考察を行います。</p> <p>尚、担当者が着任初年度のため、まずは初回に受講者の現在の関心等を簡単に報告してもらおう予定です。</p> <p>(事前学習) 報告者は、十分な準備を行ってください。 報告者以外は、コメント、質問を必ず用意してください。</p> <p>(事後学習) 報告者は、準備不足やコメント等で対応ができなかった部分を再度確認してください。 報告者以外は、自らの報告に活かせるような部分や研究手法、プレゼンテーションの工夫をまとめ、記録してください。</p> <p>これらをもとに、卒業研究の基礎となる期末論文を作成してもらいます。</p>																		
関連科目	受講者各自が関心のある科目が関連すると思われます。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	グループ報告(10%)、個別報告(20%)、議論への参加度合い(20%)、期末論文(50%) 尚、特別な理由等で欠席する場合、必ず事前に連絡をしてください。																		
学生へのメッセージ	まずは、自分が少しでも関心のあることに取り組んでみてください。知識と共に、何かがついてくるはずです。																		
担当者の研究室等	1号館7階 大槻講師研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	前期においては卒業論文の先行研究の読解、問題意識、現状分析について文章の作成をしてもらいます。後期にはデータを集めて回帰分析をしてもらい、卒業研究を作成してもらいます。			
到達目標	現実の問題からテーマを見つける能力、情報収集能力、情報から仮説を構築し、データ分析で検証する能力を身につけてもらう。			
授業方法と留意点	就職活動で忙しいと思いますが、学生には適宜メールなどで連絡して事前の欠席連絡・事後のフォローアップを徹底させたいと思います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期においては卒業論文の先行研究を数本読んでもらい、どのように論文を作成すべきか、またどのような統計にデータが存在し、どのような点に着目すべきかについて学んでもらいます。その先行研究をもとに自分が具体的にどのような内容について研究するのか説明してもらい。後期には自分の選んだテーマについて必要なデータを探してもらい回帰分析を行ってもらい。その分析結果をもとに卒業論文を書いてもらう。また随時学生同士就職活動の状態について相談し、いいフィードバックをお互い得られるように取り計らう。併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	普段の授業態度(出席、発言)、プレゼンの内容、回帰分析、卒業論文の内容から総合的に評価します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	各人が選んだテーマに沿って、問題設定、論理展開 (仮説、検証を含む)、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。		
到達目標	卒論執筆を通して、課題発見、課題解決能力を高めることを目的とする。		
授業方法と留意点	各人あるいは各グループの中間報告を何度も行い、継続的な研究態度を身につける。 各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。 併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	演習への参加姿勢、準備状況、報告論文の完成度等を勘案して評価する。		
学生へのメッセージ	卒業論文は学生時代の自分の作品です。自分が真剣に取り組めるテーマを発見し、意欲的に取り組んで下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室 (経済学部)		
備考			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	4年間の勉強の集大成としてこれまで学んだ経済理論、経済データの処理方法、実証分析の方法などをもとに、卒業論文を作成する。			
到達目標	ゼミ生が選んだ卒論テーマに沿って、問題設定、論理展開(実証分析を含む)、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。			
授業方法と留意点	毎回の演習で、数名のゼミ生による論文作成の進捗に関する報告を行い、論文の内容についてゼミ内で討論する。 各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期では各自の卒業論文のテーマを選定し、それに沿って調査や研究を行い、卒業論文を作成する準備を行う。後期では4年間の勉強の集大成としてこれまで学んだ経済理論、経済データの処理方法、実証分析の方法などをもとに、卒業論文を作成する。 併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	演習への授業態度、発表状況、論文の完成度等を考慮して評価する。			
学生へのメッセージ	実証分析の能力を養ってください。			
担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室			
備考				

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	<p>専門演習で習得した基礎知識と分析方法に基づき、上級ゼミで決めてきたゼミ生各自の卒業研究テーマについて、より深く調査・分析・考察を行いながら、ゼミでプレゼン・ディスカッションすることで研究を深めて卒業研究論文を作成する。</p> <p>到達目標：ゼミ生各自のテーマに関する研究結果を卒業研究論文としてまとめて発表する。</p>																		
到達目標	卒業研究論文の作成ができること																		
授業方法と留意点	<p>まず、ゼミは15回必ず参加し、ディスカッションに参加することで、自分の卒業研究テーマのみではなく、ゼミ生全員のテーマについても一緒に勉強できるようにする。授業は講義タイプではなく、学生参加方のゼミであるため積極的に参加すること。併せて研究倫理教育を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>テストは無し</p> <p>毎回のゼミ参加・演習・レポート・発表等を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室																		
備考	※必ず出席																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・専門演習Ⅱの内容を踏まえてフィールドワークによって得た知識や自ら選択した専門書籍からの知見及びインターンシップ等での体験、実地調査等によって卒業研究をまとめる。 ・その作成支援を行う。 																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・政令指定都市に勤務し、事業者との交渉や協働に従事した実務経験から公共事例だけでなく民間事例を踏まえて卒業研究指導を行う。 ・基礎演習、専門演習Ⅰ、Ⅱで修得した内容に基づき卒業研究をまとめ上げることを到達目標とする。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。下記内容を実施する。 ・週2回の卒業研究作成支援を行う。そのうち1回は、全員参加のゼミとし、ゼミ生相互の意見交換を行う。他の1回は、ゼミ生個別に卒業研究の作成指導を行う。 ・全員参加ゼミでは、教科書の輪読、意見交換を通じて卒業研究作成の共通スキルを養成する。個別ゼミでは、学生毎のテーマに沿った卒業研究作成指導を行う。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済活性化策について考察する。フィールドワークを実施する目的と課題に対して事前に学習し、レジュメ作成またはプレゼンテーション資料を作成し、まとめ方を演習する。 ・卒業論文のテーマに関わるフィールドワークをゼミ生に提案させ実施する。 ・併せて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>演習時に適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	演習時に適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	演習時に適宜指定する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>演習時に適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	演習時に適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	演習時に適宜指定する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>ICTツールを活用しての演習参加や対面等でのコミュニケーションから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加状況、卒業研究作成内容等によって総合的に評価する。(60%) ・就職活動と大学での勉学の学生生活を両立する姿勢を評価する。(10%) ・課題提出、発表の活動の評価を重視する。(30%) 																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究は大学での集大成である。単独での卒業研究をまとめるに際して学生間相互の議論によって進めることが重要である。 ・学生相互の議論による課題発見、必要な調査内容などを通じて卒業研究作成を奨励する。 ・論文作成スケジュールと就活の両立が必須である。卒業単位不足にならないよう講義受講計画を立て修学する必要がある。 <p>・政令指定都市に30年間勤務した経験から公共的視点での実践的な教育を行う。</p>																		
担当者の研究室等	1号館7階 田井教授室(経済学部)																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動対策と勉学を両立させ、大学生活の成果としての卒業研究をまとめることが社会人になるための第1段階であることを認識させる。 ・真摯に研究に取り組む姿勢を評価する。 																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習し、最終的に卒業研究論文をまとめる。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 前年度までに確立された自分の研究テーマをさらに深化させる。 フィールド調査を実施し、さらなる地域経済への考察を行うことで、認識を確立する。 卒業研究論文の作成および卒業研究発表会への参加。 																		
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、それらに基づいたフィールド調査の企画・実行、グループ内での議論、プレゼンテーション作成といった一連の作業を行う。併せて研究倫理教育を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	出席、ゼミ参加の積極性、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に勘案して決定する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	これまでの大学生活で学んだ知識や経験（フィールドワーク、インターンシップ等を含む）を生かし、卒業研究を行い、卒業研究レポートを作成する。			
到達目標	卒業研究レポートの完成			
授業方法と留意点	適宜、研究の進捗に応じた個別指導を行う。またゼミでの中間報告や全員参加の議論により研究内容の充実を図ること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の興味と問題意識に応じて、主に地域または観光に関わるテーマを設定し、各自調査・研究を進める。またゼミでの議論を通して研究の質の向上を図る。併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業研究レポートの内容及びゼミ活動への参加態度等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	大学での学びの集大成として、各人が選んだテーマに沿って、課題を設定・論理展開して、結論に至る卒業研究論文を作成します。			
到達目標	期限内に卒業研究論文を完成し、提出することを目標とします。			
授業方法と留意点	経過報告を何度も行い、ゼミ生全員で討議します。執筆段階に応じて個別指導も行います。併せて研究倫理教育を行います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人の問題意識に基づき、観光または地域に関わるテーマを設定して、研究を進めていきます。経過報告での学生間の議論や教員のアドバイスを研究の質の向上につなげていくこと。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	経過報告の内容および参加姿勢と、卒業研究論文の内容により評価します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)			
備考	11月より、全面対面授業とする。			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	専門演習 I・II の学習を通じて関心をもったテーマについて、自身の見解を客観的に評価することを目的に、統計的手法を用いた卒業研究を執筆する。			
到達目標	自身が関心をもったテーマについて、経済理論、経験則に基づき仮説を立て、統計的手法を用いて仮説の妥当性を判断する能力を身につける。			
授業方法と留意点	ゼミ形式の少人数教育によって、課題の発見、資料収集・分析、卒業研究の作成・発表を割り当てられた担当教員の指導のもとに修得する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	観光分野における政策を含む経済政策全般について、関心のある対象を各自が選定し、その産業特性等を調査し、調査結果を踏まえた仮説を立てる。この仮説の妥当性を統計的手法を用いて定量的に評価し、その成果を卒業研究としてまとめる。併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	執筆した卒業研究の内容で評価する。評価は、テーマの面白さ、データの特異性、用いた手法の妥当性、結果の解釈の4つの視点から行う。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 西川研究室			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	卒研の分析・研究を進める。 就活の報告・相談を行う。																		
到達目標	提出期限までに、一定水準以上の卒研を完成させ提出する。																		
授業方法と留意点	卒研をブラッシュアップし、卒業に必要な水準を超えるよう指導する。 就活の報告・相談にたいする指導を行う。 必要に応じて TEAMS を用いたオンライン教育を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒研の研究方法の確認 2. 分析結果の確認と研究方法のブラッシュアップ 3. 分析結果のまとめ。 4. 必要な参考文献、分析手法の指導 5. 卒研の体裁の確認 6. 就活状況に基づくキャリアプランのブラッシュアップ 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	期限内に提出された卒研の内容による評価を行う。定期的に卒研指導を受けない学生は不合格とする。																		
学生へのメッセージ	残された時間を有意義に使いましょう。																		
担当者の研究室等	1号館7F																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	<p>【4月22日(木)以降のオンライン授業について】</p> <p>演習、実習科目については感染対策に注意した上で対面授業を行います。状況に応じてハイブリッド授業の可能性がありますが、そのような時は決まり次第連絡します。</p> <p>近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。</p>																		
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解し、それらを卒業論文としてまとめます。履修者はこの授業を受けることで、観光を中心とした地域経済の活性化についてフィールドワークを伴う調査方法や学習方法を習得することができます。																		
授業方法と留意点	教室におけるゼミ形式です。オンライン授業になった時は Teams で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1) 身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。</p> <p>(2) 身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。</p> <p>(3) 自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>後期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1) 自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。</p> <p>(2) その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。</p> <p>(3) 自らの研究テーマについて卒業論文としてまとめていきます。</p> <p>(4) 卒業論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題設定、資料・データ収集、分析、考察を卒業論文としてまとめ上げ、その課程を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	自ら設定した研究テーマを卒業論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	各自の研究テーマに沿って、調査を進め卒業論文を完成させる。 SDGs - 4.9																		
到達目標	十分に調査し分析して、卒業論文を完成させる。																		
授業方法と留意点	卒論発表をゼミ内で行い、自分の論文ばかりでなく、他のゼミ生からも学びながら論文作成を進めていく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月に卒業論文の進捗状況を確認する。</p> <p>毎月2回、進捗状況を発表しながら、各自の調査や分析を進める。</p> <p>9月に再度進捗状況を確認し、12月完成を目指して論文を書き進める。</p> <p>11月末にゼミの教員に論文を提出し、修正点を話し合う。</p> <p>1月に卒業論文を提出する。</p> <p>併せて研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目	演習Ⅰ 演習Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業論文のテーマ設定(20%)、卒業論文に取り組む姿勢(20%)、調査や分析の仕方(40%)、論文の完成度(20%)で評価する。																		
学生へのメッセージ	大学でしかできない経験です。自分で考え、資料を集め分析しましょう。																		
担当者の研究室等	後藤研究室(1号館7階)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	経済(学)的な関心にもとづいて選んだテーマにしたがって調査・研究を行い、それをゼミで繰り返し報告・討論する中で、問題をより明確にし、分析内容をより質の高いものにできるように指導を行う。 また、卒業研究の質を向上させるだけでなく、自らの研究をまわりにわかるように伝える一方で、他の人の意見や質問を的確に理解し、それにもとづいて研究の内容を改善できるように指導を行う。			
到達目標	自ら選んだテーマに沿って明確な問題設定を行い、それに対してきちんとした根拠を伴う結論を論理的に導き出し、それを他人が明確にわかる形で論文にまとめることを到達目標とする。			
授業方法と留意点	受講者全員が参加して、各自の研究内容を報告してもらい、それをめぐって討論を行う授業と、個別指導を行う授業とを、状況に合わせて組み合わせて授業を進める。 全員参加の場合は、各人が中間報告を何度も行い、プレゼンテーションや質疑応答の技術を学びながら、継続的に研究を行う態度を身につけてもらう。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。 併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	演習への参加姿勢、準備状況、報告論文の完成度等を勘案して総合的に評価する。 なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考				

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	専門演習 II で選んだテーマに沿って、研究を行い、発表する。最後に卒業論文を完成させる。		
到達目標	各自が選んだテーマで卒業研究を完成させる。その中で、論理展開や検証能力、ディスカッションの方法を学ぶ。		
授業方法と留意点	週一回、全員参加での研究発表で、質疑応答を行う。また個別指導も行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期の間は個人の研究を行い、質問があるときに個人面談を行う。また、研究発表を各自一度行う。後期には卒業研究の改善を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	プレゼンテーションや卒業研究の完成度、そして議論への参加を重視する。出席率が低い場合は単位が取得できない可能性がある。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室		
備考			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	この演習では、教育、労働、社会保障といった我々の人生(キャリア)に関わる諸問題を経済学の側面から理解し、学習していきます。教育、労働、社会保障に関わる諸問題を自身のキャリア形成上の問題であると同時に社会の大きな問題として考え、研究を進めていきます																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・労働経済学、教育経済学、社会保障論の基礎的な考え方を知る。 ・演習で得られた知見から自身の今後のキャリア形成を考えることができる。 ・現代日本で起こっている教育・労働・社会保障問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。 ・卒業研究論文を完成させる。 																		
授業方法と留意点	<p>対面授業として実施しますが、オンラインの場合は時間割どおりの曜日・時限で授業を遠隔で行う動画配信型授業(リアルタイム方式)として実施します。その場合、使用するICTツールはMicrosoft Teamsです。</p> <p>演習形式(グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、コンピュータ実習、フィールド調査)で実施します。</p> <p>演習のテーマ: キャリアの経済学</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究論文執筆のため、先行研究など関連テキスト・論文の収集・輪読を行います。 ・卒業研究論文で実証分析をする場合、コンピューターを用いた統計分析の演習を行います。また、独自にデータ収集をする場合は社会調査を実施します。 ・以上の活動を通じて、卒業研究論文を完成させます。 ・より身近な問題としてキャリアを理解するために、可能な限り、ゲストによる講話、ワークショップ、シミュレーションゲーム、職場見学などを行います。学生が企画・実施もします。 																		
関連科目	専門演習Ⅰ, 専門演習Ⅱ, 労働経済学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・演習への参加と貢献を評価します。(出席し、ワークと議論に積極的に参加することが必要です) ・卒業研究論文の提出 																		
学生へのメッセージ	教育、労働、社会保障の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。教育、労働、社会保障の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか、そして社会問題としてのそれらを経済学的思考で考えてください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室(経済学部)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	<p>これまでに専門演習で学んだこと、取り組んだことを踏まえ、テーマパークや観光施設の歴史、社会への影響を調査し、卒業研究として論文にまとめてください。その際には、可能な限りデータを用いた分析も取り入れてください。</p> <p>戦後の日本経済史の中で、さまざまな転機となる社会現象や事件がありました。その中には観光やリゾート開発に関する出来事も非常に多くありました。学生の皆さんには、関心のあるテーマパークや観光施設を選んでいただき、その歴史を社会の変化と関連づけて考察を進めてください。</p> <p>これまで、グループ単位でこのような調査や考察を進めてきたかと思います。しかし卒業研究は、4年間の学生生活の集大成として、(原則として) 独力で取り組んでいただきます。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ご自身で決めた調査対象(テーマパークや観光施設)についての歴史・社会的影響についての考察を深め、これを卒業研究論文とする。 2. 考察の結果を定期的にプレゼンテーションし、コメントをもとに改訂を進める。 3. 卒業研究論文を作成し、可能であれば卒業研究発表会で報告する。 																		
授業方法と留意点	<p>これまでの演習と同じく、卒業研究について調べ、まとめた内容をプレゼンテーションしていただきます。ただし、これまでの専門演習と異なり、テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告は、(原則として) 独力で進めてください。併せて研究倫理教育を行います。</p> <p>ゼミは原則として対面式で実施しますが、社会状況に応じて Microsoft Teams を利用したオンラインゼミを実施する可能性もあります。後期の初回は対面式で実施する予定ですが、変更する可能性もあります。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	進捗状況の報告を兼ねて、定期的にプレゼンテーションをしていただきます。その際に、今後進めるべきことなどを、個別に指示いたします。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	演習の取り組み姿勢、プレゼンテーション、出欠状況などをもとに、総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室																		
備考	欠席回数が多い場合は、単位取得を認めないことがあります。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	熊川 剛久
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	各自が選んだテーマに沿って、問題設定、論理展開 (仮説、検証を含む)、結論からなる卒業論文を書き上げることを目的とする。		
到達目標	卒業論文の執筆を通して、課題発見能力、課題解決能力を身につける。		
授業方法と留意点	各自あるいは各グループの中間報告を複数回行い、継続的に研究を進めていく。 各自の研究テーマに応じた個別指導を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談しあって授業計画を立てる。 また、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	演習への参加姿勢、準備状況、報告論文の完成度などを考慮し、総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	自分が夢になって取り組めるテーマを発見し、積極的に研究に挑戦してください。		
担当者の研究室等			
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大槻 忠史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	資料の収集と分析、また、必要に応じ実地調査などに基づいて、卒業研究論文を作成すること。																		
到達目標	卒業研究論文を作成すること。																		
授業方法と留意点	卒業研究論文を作成するために、受講者との議論、また必要に応じて個別指導を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(前期) 現時点での研究テーマと計画を報告してもらい、必要となる資料収集と分析を進める。 前期終了前に、各自に状況、及び休暇中の研究計画を報告してもらう。</p> <p>いずれも自分以外の報告から学ぶことも多いと思われるので、積極的に参加し、自らにも活かして欲しい。 尚、担当者が着任初年度のため、まずは初回に受講者の現在の関心等を簡単に報告してもらう予定です。</p> <p>(後期) 中間報告をってもらい、必要に応じて個別指導を行う。</p>																		
関連科目	特になし。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	卒業研究論文の質により、判断します。																		
学生へのメッセージ	手間暇をかけ、作成してください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 大槻講師研究室																		
備考																			

科目名	地域経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	後藤 和子・原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・目的	この講義では、主にヨーロッパを対象に、地域経済の多様なあり方やそれらが抱える課題を理解することを目的とする。また、できれば、日本との比較を行う。授業では、調査地域の経済と文化、課題設定の方法や文献講読、統計資料の活用方法など調査の技術を習得したうえで、テーマを設定して現地調査を行う。また調査した内容を、レポートまたはプレゼンテーションを通じて発表する。 SDGs-4.9																
到達目標	”・欧州の経済や文化を理解する ・海外現地調査の手法を身につける ・地域経済の多様性を、比較研究の視点を通じて理解する ・調査内容を対外的に発表できる水準にまとめる”																
授業方法と留意点	”・授業内容は、海外調査の事前準備、IULM 大学での授業受講と海外調査、事後のまとめ、の3つの部分から構成される ・ミラノ訪問の時期については、先方の事情により変更されることがありうる”																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【事前授業】事前準備では、教室にて授業を行い、講義や文献購読を通じてイタリアの経済と文化について理解を深める。また同時に各人がテーマを設定し、海外視察の準備をすすめる。ミラノ訪問は、往復時間を含めて1週間程度の予定で行い、現地での講義受講、視察等を行う。事後には、レポートまたはプレゼンテーションによる発表を行う。 【実習先と実習時期(予定)】2022年2月に、摂南大学の協定校である IULM 大学の授業を受ける(予定)とともに、ミラノ市内を探訪し、イタリアの文化産業(食、建築とデザイン、ファッション企業など)や、博物館・美術館等を視察する。COVID-19の影響により渡航が困難な場合には、オンラインで実施する。																
関連科目	地域経済入門																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	・事前準備(20%)、現地調査(60%)、事後のまとめ(20%)の、いずれに不参加の場合も単位は認定されない。また、単位認定は受講年の翌年となる。																
学生へのメッセージ	この授業では、自らが主体的に調査に関わることが求められます。また IULM 大学での授業では一定の語学力も必要となります。少々難易度が高いかもしれませんが、日本のみならず世界の地域経済を知ることは、経済がグローバル化している現代では必須といえます。海外企業等を視察した経験は、グローバル人材を求める就職活動にもプラスになるはずです。																
担当者の研究室等	後藤研究室																
備考	4月に合同説明会を実施する。また、参加費用については、学部からの援助がある。																

科目名	地域経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・目的	本授業においては、実証分析方法として、RESAS等のデータ活用方法をマスターすることを目的とする。可能であればフィールドワークを行い、学習成果を応用し、プレゼンテーションを行うことを目的としている。																		
到達目標	データ分析、グループディスカッション、プレゼンテーションの方法を体得する。																		
授業方法と留意点	グループ単位で行動する。積極的なグループディスカッションを行ってもらい、プレゼンテーションを完成させる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【事前授業】関連文献の輪読を通じて、問題発見に重点を置く。 【実習先と実習時期(予定)】未定																		
関連科目	特になし。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	資料収集・分析(30%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(30%)、討論・総括内容(20%)、課題へ取り組む姿勢(10%)、受講態度(私語・遅刻を含む)(10%)を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。																		
学生へのメッセージ	事前・事後学習やプレゼンテーション作成の基礎的条件として、グループディスカッションがしっかりできるかがポイントとなります。他のメンバーと協力・協調し、しっかりしたグループワークができるかどうかをよく判断して受講して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)																		
備考	受講者数(上限) : 8名 (上限を超えた場合の選抜方法 : 教員による面接) 諸費用: フィールドワーク実施時には、交通費及び宿泊費(おおよそ3万円程度を予定) 説明会を5月中に実施予定です。																		

科目名	地域経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・目的	<p>この演習では、年間を通して地域の抱える課題について、地域での活動に実際に参加することによる体験的学習によって理解し対策を考察することを目的とする。</p> <p>そのための課題設定から地域選択の方法、文献購読、資料の活用方法など予備調査の方法を取得し、その後、実際に調査地域において学外調査を行う。調査地域は2つの地域を予定しているが、学生自身が選択した地域活動についても考慮する。2つの地域での考察内容は「授業テーマ」の欄を参照すること。</p> <p>政令指定都市に勤務した経験から市民視点で政策を企画・調整・実施した経験を活かして地域が抱える課題に取り組み実績をあげた事例の現地に赴き課外活動を行う実践的教育を実施する。</p> <p>SDGs-11「住み続けられるまちづくり」該当</p>																
到達目標	<p>自ら積極的に行動し、課題を発見し対策を検討する姿勢から卒業論文作成や就活あるいは就業に向けての姿勢の涵養を図ることを目的とする。</p> <p>大学時代に自立的な活動を行う習慣と直面する課題に対して自ら取り組む積極性の修得を目指す。</p>																
授業方法と留意点	<p>授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所等でも履修することができる。以下のプロセスによって行う。</p> <p>(1) 面談あるいはICTツール活用による事前授業</p> <p>(2) フィールドワーク参加 報告書画像や活動報告の記載 10日以上(の)の参画 10日に満たない場合は、①②両方への参加あるいは別のボランティアやインターンシップ等のフィールドワークへの参加で不足日数を充当すれば単位認定を考慮する。但し、①または②での活動実績が必須となる。活動報告書作成する。</p> <p>(3) 演習での報告と整理 フィールドワークで得た知見による別の課題対応事例研究</p> <p>(4) プレゼンテーションでの報告</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】 下記フィールドワーク参加に当たって、面談あるいはICTツール等の活用によって担当教員がこれまで取り組んできた「ボランティア活動支援講義」の手法により活動についての注意事項と報告書様式の説明を行う。主として活動は夏期休暇期間であるが、10日の活動期間確保のため活動期間延長について考慮する。但し活動発表時期までには活動終了しておくこと。</p> <p>【実習先と実習時期(予定)】</p> <p>【①都市内地域再生 かもよんプロジェクト】 大阪市城東区蒲生4丁目地域では、地主と借り主との効果的なコラボレーションにより住民のニーズに対応した「食」による地域創生(振興)に成功している。米倉を改造したフランス料理店や長屋を生かした韓国料理店や創作衣料販売などを行っている。</p> <p>【②吹田市栄通り商店街での活動】 シャッター商店街が少ない事例から地域の商店街での取り組みについて考察する。</p> <p>以上の2つの地域住民との企画に学生が参画することによって地域創生(振興)のプロセスを考察する。</p> <p>(1) 授業テーマ: 住民ニーズを調査し、都市における地主と借り主との利害関係の調整によって地域再生に取り組んでいる。そのプロセスを学ぶ。</p> <p>(2) 方法: 教員が推薦する「かもよんプロジェクト」主催者と学生との直接打ち合わせにより活動内容と場所を設定する。 教員が推薦する栄通商店会会長等と学生との直接打ち合わせにより活動内容と場所を設定する。</p> <p>(3) 事前、事後、学習課題: 上記方法によって学生自ら設定する課題について教員と主催者、学生との間で学生が事前に学習すべき内容を考察する。コラボレーション手法、活動内容及び地域再生の課題検討等についての内容を検討する。 その際、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所での打ち合わせ、検討会議を行う。学外関係者との議論方法としてTeamsだけでなくZOOM等の利活用を推奨する。 議論経過と議論による課題分析から仮説を設定し現地でのフィールドワークを実践する。</p>																
関連科目	インターンシップやキャリア関係科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>RESASの教科書</td> <td>日経ビッグデータ</td> <td>日経BP社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>地域ブランドを引き出す力</td> <td>金丸弘美</td> <td>合同出版</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社	2	RESASの教科書	日経ビッグデータ	日経BP社	3	地域ブランドを引き出す力	金丸弘美	合同出版
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社														
2	RESASの教科書	日経ビッグデータ	日経BP社														
3	地域ブランドを引き出す力	金丸弘美	合同出版														
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>その島のひとたちはひとの話をきかない 精神科医「自殺希少地域」に行く</td> <td>森川すいめい</td> <td>青土社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その島のひとたちはひとの話をきかない 精神科医「自殺希少地域」に行く	森川すいめい	青土社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	その島のひとたちはひとの話をきかない 精神科医「自殺希少地域」に行く	森川すいめい	青土社														
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>①10日以上(の)の学外活動(複数以上の課外活動での10日以上に達すれば評価する)</p> <p>②直接面談やICTツール活用による事前事後学習への参加及び学習内容(特に現状分析及対策としての課外活動内容)</p> <p>③研究成果のプレゼンテーションによる発表の3つの項目による総合的評価を行う。特に③での研究成果に重点を置く。</p> <p>①の学外活動が困難な場合、本講義は評価不可となる。①②③の評価割合は①60%②10%③30%とする。従って10日以上(の)の課外活動が単位取得に必須となる。</p>																
学生へのメッセージ	<p>本演習の成果は、学生の積極性に依存する。また実際活動中の社会人や地域に居住する住民との触れあいの中から研究成果を模索するため、コミュニケーション能力が必須であるとともに社会人に対する礼儀も必要となる。そのため経済キャリア入門でのコミュニケーション力の演習経験履修済みであることやボランティア活動への関心から相手への思いやる気持ちが本演習には不可欠となる。またグループで活動する場合は、他のメンバーとの協調・協力する姿勢が必要である。活動前に教科書を熟読することが望ましい。</p>																

	政令指定都市職員として地域活
担当者の 研究室等	1号館7階 田井教室(経済学部)
備考	実習先については、調整ができ次第追加周知する。また、変更もあるので、演習を希望する学生に適宜 ICT ツールにより周知する。

科目名	地域経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・目的	地域経済の実態を理解するための実践演習を行う。 地域経済を支える企業家活動の一環として、地域における商品企画を、事例研究を通じて理解する。																		
到達目標	商品の事業構想を立案する。 マーケティングの4Pについて体系的に理解する。 商品開発の地域経済への波及について考えることができるようになる。																		
授業方法と留意点	基本的に、調査、グループディスカッション、発表を中心に進めます。 必要に応じて、TEAMSを活用する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 事例商品の選定 2. 基礎理論の習得 3. フィールド調査の計画 4. アンケート、ヒアリング調査の計画 5.-12. 調査実施と商品コンセプト確立 13-14. 事業構想と商品企画のブラッシュアップ 15. まとめ																		
関連科目	専門演習、中小企業論、関西経済論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	プロジェクトへの貢献度合(40%)、アイデア提示・調査への関与の度合(30%)、提出物/発表の内容(30%)により評価																		
学生へのメッセージ	企業における商品企画の経験から実践的な内容とします。 「自分で調べて自分で考える」を基本とします。 やる気のある皆様の参加を待っています。																		
担当者の研究室等	1号館7階																		
備考																			

科目名	観光経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	持永 政人, 野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2048a0		

授業概要・目的	本演習は、観光関連事業に携わっている企業・団体を対象とした課題解決型の授業を行うことによって、観光経済に関わる産業・企業等の活動を実践的に研究することを目的とする。 授業担当者は観光関連産業での実務経験を活かして、実践的な教育を行う。																		
到達目標	活動を通して、観光関連事業の実際の活動内容や課題を理解し、グループで解決策を考える。 また同時に就職活動に必要な社会人基礎力やビジネスマナーも身に付ける。																		
授業方法と留意点	学外活動に必要な最低限の一般常識とビジネスマナーを身に付けた上で、観光関連施設にて実務担当者のレクチャー受講やディスカッションを行い、グループで設定した課題について研究成果のプレゼンテーションを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【学外研究の準備授業】 「一般常識」「ビジネスマナー」「業界研究」等の授業を行う。</p> <p>【研究対象企業・団体での研究】 10～11月頃に全体、またはグループで数回、対象企業・団体における研究と、ディスカッションを行う。</p> <p>【研究成果の報告】 中間報告と最終回に成果報告のプレゼンテーションを行う。</p>																		
関連科目	「観光学入門」「観光マーケティング論」「観光人材論」「観光ビジネス英語」等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への参加態度(30%)、中間報告(20%)、最終プレゼンテーション(50%)にて評価する。																		
学生へのメッセージ	学外での研究が土日になる場合もあるので、予定の調整が必要な場合があります。 観光関連産業が抱える課題と解決策と一緒に考えていきましょう。																		
担当者の研究室等	1号館7階 持永研究室 1号館7階 野村研究室																		
備考	6月頃に説明会を実施予定																		

科目名	観光経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2048a0		

授業概要・目的	この演習では地域における観光経済の実態について観光に関連する企業へのヒアリング調査に参加し、そこで提供される課題に自ら取り組むことで理解を深めることを目的としています。事前学習として調査前に文献・資料講読を行い、事後学習として調査結果の取りまとめを行います。調査企業は2社を予定しています。																		
到達目標	事前・事後学習によって地域の観光経済の動向を理解します。ヒアリング調査によって観光経済の実態を理解し、自ら課題に取り組み、その方法論や姿勢を身につけます。																		
授業方法と留意点	<p>【4月22日(木)以降のオンライン授業について】 演習、実習科目については感染対策に注意した上で対面授業を行う予定です。この授業は開始時期が他の授業よりも遅いので、4月19日(月)時点で詳細は未定ですので追って連絡します。決まり次第ポータルサイトで案内します。</p> <p>以下の過程で行います。 (1)観光経済に関する事前授業 (2)ヒアリング調査参加 (3)ヒアリング調査結果の整理を行い、レポートにまとめる (4)報告会でのプレゼンテーション</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】 近年の日本の観光経済と関西の観光の動向について講義を行う。次に、グループ分けを行い、訪問先に関する事前調査を行う。</p> <p>【実習先と実習時期】(5月～11月に予定) 自治体またはアミューズメント施設運営企業を訪問し、そこでの実態や課題についてヒアリング調査を行う。</p> <p>【事後授業】 グループごとに調査結果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備を行う。</p>																		
関連科目	「観光学入門」「観光マーケティング論」「観光人材論」「世界観光事情」等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	フィールドワークに行った際に調査報告書を3回程度書きます。また授業の終わりにプレゼンテーションを行い、そのプレゼンテーションを元に終了報告書を書きます。調査報告書を60点分、最終報告書を40点分として合計して総合評価します。																		
学生へのメッセージ	この授業は事前学習、ヒアリング調査、事後学習(報告会)の全てへの積極的な参加が必要となります。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室																		
備考	4月～5月に説明会を開きます。																		

科目名	国際経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2058a0		

授業概要・目的	オンラインを通じた外部講師などによる国際経済の講義や神戸の JICA や博物館等を訪問することで実際の貿易についての理解を深めることにより、経済学部生として必要な知識を向上させる。																		
到達目標	国際経済の理論を学び、貿易の実際を体験する事で経済の理解を深める。																		
授業方法と留意点	外部講師によるオンライン講義を受講する。実地研修として神戸の JICA などの組織を訪問することを予定している。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	わが国国際収支動向、自由貿易協定など国際経済に関する基礎的知識を事前に学んでおくこと。																		
関連科目	地域統合論、貿易論、国際投資論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	講義の内容に沿った出席50%、実地研修のレポート50%で評価を行う。																		
学生へのメッセージ	経済理論を通して見た実際の経済を体験することを楽しみましょう。																		
担当者の研究室等	1号館7階 田中講師室																		
備考																			

科目名	国際経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2058a0		

授業概要・目的	<p>「オンライン カンボジアSDGs 研修」。</p> <p>この授業では、国連の「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)について学ぶ。カンボジアで活動する社会起業家やカンボジア学生、カンボジアで働く日本人の方とオンラインで交流を深める。日本とカンボジアが解決すべきSDGsは具体的にどのようにして解決できるのか、国境を越えて共に考え議論し、解決策を模索することを通じて、世界が抱えている社会問題を克服してよりよい社会を構築するための国際協力のあり方について、体験的に学習する。</p>																		
到達目標	<p>国連のSDGsとその解決策について具体的に理解をふかめる。</p> <p>経済活動を通じて社会問題を解決する社会起業(ソーシャルビジネス)について学ぶ。</p> <p>海外で活動する社会起業家や学生とオンラインで交流し、レクチャー、ディスカッション、共同調査、発表を行うことで、海外の方と協働する能力を培う。</p> <p>国境を越えて協働するグローバルな生き方を知り、自己の視野を広げる。</p>																		
授業方法と留意点	海外の方とオンライン研修を行う。講義、社会調査、ディスカッション、報告発表をすべてオンラインで行う。またオンライン研修の前後に、学内で演習を行う。また、他大学との共同研修である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>○事前演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国連のSDGsについて学ぶ。 ・事前課題「日本の社会問題についてまとめる」に取り組む。 <p>oon-line カンボジアSDGs 研修(2021年8月中旬の7日間)</p> <p>Day1 イントロダクション、レクチャー、SDGsセミナー、カンボジア社会起業家セミナー</p> <p>Day2 カンボジア・キャリアフォーラム「社会問題に取り組む日本人とカンボジア人を囲んで」、カンボジア人学生フォーラム</p> <p>4Days カンボジア人学生とともにチームを結成し、世界の社会問題をオンラインで共同調査。</p> <p>Day3 プレゼンテーション準備、最終プレゼンテーション、研修全体の振り返り</p> <p>○事後演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の振り返り、レポート作成と提出 ・研修プレゼン発表会へ向けての準備 <p>○研修プレゼン発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の研修プログラムとの合同発表会 																		
関連科目	開発経済学、地球環境経済、国際経済学入門																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	プレゼン(40%)、レポート(40%)、授業への参加態度(20%)で評価する。																		
学生へのメッセージ	海外で活動する日本企業ビジネスマンや海外の大学生、社会起業家とオンラインで交流できる。貴重な体験がもてる機会なので、積極的に挑戦してほしい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室																		
備考	研修日程や内容は変更の可能性がある。詳しくは事前説明会にて説明する。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。 SDGs-4																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。またある程度の英語の活用力を身につける。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前半は、1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 後半は、新聞・雑誌など興味を持った記事を基に各自が調査した内容を紹介する。																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(30%)、討論・総括内容(30%)、課題へ取り組む姿勢と受講態度(私語・遅刻を含む)(40%)を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担(20%)、資料収集・分析(20%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(20%)、討論・総括内容(20%)、課題へ取り組む姿勢(10%)、受講態度(私語・遅刻を含む)(10%)を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とします。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができるようになります。																		
授業方法と留意点	<p>上記の目的達成のため、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得します。同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを行います。ただし進行状況によっては、数理能力アップテストを宿題とする場合もあります。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行います。</p> <p>ゼミは原則対面式で実施しますが、社会状況の変化に応じて、Microsoft Teamsを用いた遠隔授業を行う可能性があります。資料はTeams、Web FolderなどのICTツールを用いて配布します。また学生には、Microsoft Teamsを用いたプレゼンテーションをしていただきます。そのため、履修者の皆様には、これらのICTツールのインストール・セットアップなどの準備や利用方法の習得に努めてください。</p> <p>このゼミでは、学生がグループ単位でプレゼンテーションをします。その際の打ち合わせには、対面式によるもの他に、Microsoft Teamsによる会議、及びTeams内にあるCollaboration Spaceやノート(OneNote)などもご利用ください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、文章表現、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、プレゼンテーションを行い、レポートを作成する(これは後期の主な内容です)。</p> <p>3) 「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱおよび第1年次後期の専門基礎科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題への取り組み姿勢、受講態度(発言、余計な私語・遅刻状況)を総合的に評価します。具体的な採点基準は、課題(レポート含む)の提出状況(40%)、演習中の発言など取り組み姿勢(20%)、プレゼンテーションの取り組み姿勢と成果(40%)、出欠状況(欠席回数に応じて減点)、です。出席回数が著しく不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 小塚教室(経済学部)																		
備考																			

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	<p>・本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。</p> <p>・政令指定都市での実務経験から社会人として大学生時代に必要な知識、智恵修得の実践的視点から演習を行う。</p> <p>・2年次生からの専門教育に繋がる基礎的な内容での近代経済学とマルクス経済学の輪読による発表演習を行う。</p>																		
到達目標	<p>大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行うだけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。</p> <p>・授業的達成のため、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得する。経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。</p>																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p>1) 授業の聴き方、ノート取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</p> <p>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</p> <p>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p> <p>6) 後期は、教科書の輪読を行い、担当者を定め発表を行い、経済学の基礎を学ぶ。</p> <p>7) 共通課題として「社会人基礎力」試験等を実施することもある。</p> <p>8) 大学生活の一助とするため、動画による説明を行う。</p> <p>9) 遠隔授業受講のための Teams, Moodle 及び Webfolder 等の学内 ICT ツールの利活用説明を行う。</p>																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経済ってそういうことだったのか会議</td> <td>後藤雅彦 竹中平蔵</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>知識ゼロからの経済学入門</td> <td>的場昭弘</td> <td>幻冬舎</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経済ってそういうことだったのか会議	後藤雅彦 竹中平蔵	日本経済新聞出版社	2	知識ゼロからの経済学入門	的場昭弘	幻冬舎	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	経済ってそういうことだったのか会議	後藤雅彦 竹中平蔵	日本経済新聞出版社																
2	知識ゼロからの経済学入門	的場昭弘	幻冬舎																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>ICT ツールを活用し、参加(ICT利活用による遠隔も参加も含む)による対面でのコミュニケーションから、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(50%)、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢(30%)、受講態度(私語・遅刻をしない等)(20%)を総合的に評価する。発表等の成果だけでなく討論や受講態度を満たさない限り及第点にはなりません。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>・何でも気軽に相談して下さい。ICT ツールを活用して「スチューデントアワー」の時間を設けて相談に対応します。</p> <p>・政令指定都市での30年間の多くの部署での経験から社会人として修得すべき知識や今後の専門教育に向けての実践的な教育を行う。</p>																		
担当者の研究室等	1号館7階 田井教授室(経済学部)																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。また、グローバル化が一段と進行するという環境の下、日本の産業は積極的に海外展開を図るようになっている。その際、日本の産業はどのような課題に直面し、どのように克服しようとしているのか、というテーマに関して研究することも本演習の目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。また、上記の目的を達成するための基礎学力を養うことも到達目標とする。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、数理能力向上テストを行う。必要に応じてTEAMSを併用してオンライン学習する。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。さらに、テーマを決めてグループディスカッションを行う。常に経済社会の動きに興味を持ち、その背景・要因について自分で考えることに留意してもらいたい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 なお、演習中に事前事後学習課題を指示する。 6) 必要に応じてTEAMSを併用する。																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td>摂南大学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学																	
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学4年間の経済学が10時間で学べる</td> <td>井堀利宏</td> <td>KADOKAWA</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学4年間の経済学が10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	大学4年間の経済学が10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA																
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・資料収集・分析(30%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(30%)、討論内容・課題へ取り組む姿勢・受講態度(40%)を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 野長瀬教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得し、後続学年における学習に備えることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて導入教育および研究倫理教育を行う。 2) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 3) 大学で研究したい事項、興味ある職業について発表を行う。 4) 事業創造についてグループディスカッション、発表を行う。 5) 経済領域の時事用語について学ぶ。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	『FIRST YEAR STUDY GUIDE』	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ディスカッション参加(50%)、レポート(50%)により評価を行う。		
学生へのメッセージ	自分のやりたいことを見つけるための相談をお待ちしています。		
担当者の研究室等	1号館7階		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。受講態度に問題のある学生は、単位取得できない場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門(エコミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。毎回の演習におけるディスカッション・発表など(60%)とレポート(40%)を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習開始の基礎を確保させることと、後続学年での専門的な選択に備えさせるという2つの役割を有している。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。 ①学生が自分で経済問題を考え、分析する能力を身につける。②学生のプレゼンテーションの能力を高める。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式は少人数の授業である。課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイル。割り当てられた担当教員の指導のもとに修得させる。前期は、Microsoft Teamsを用いて遠隔授業を行う。 まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を確認するとともに、第1年次後期から学びはじめる専門基礎科目の学習を補完する。 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	各種課題の提出状況およびそれらの達成度(50%)、授業取組み姿勢(グループワークでの他者との協力や討論、クラス内外での発表や質疑に対する対応など)(50%)																		
学生へのメッセージ	学習面にしても、生活面にしても、基礎演習の担当者になんでも相談してください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 原田准教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	I
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法・事前事後学習課題】</p> <p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</p> <p>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーI・II」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</p> <p>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーI・II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題レポート作成提出(50%)、プレゼンテーションの内容(30%)、ゼミ課題へ取り組む姿勢、参加態度(20%)の割合で評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	J
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	基礎演習では、大学生として経済学の学修を行っていくための基礎的な知識、技法、倫理について修得することを目的とする。はじめに、基礎的な知識・技法・倫理について説明するとともに実習する。次に、経済学・経済政策諸分野の基礎的文献をもとに知識・技法・倫理を実践を通じて修得するとともに、基本的な知識や現代的課題を学び、探求する。																
到達目標	1) 授業の受け方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方について習得する。 2) 経済学・経済政策の諸分野の基礎的な知識や現代的課題を知る。 3) 研究倫理について理解する。																
授業方法と留意点	経済学学修のための知識・技法・倫理について解説するとともに、実践を通じて習得するよう、双方向にアクティブな授業とする。学生相互で学ぶことができるように、グループでの学習や報告の機会を設ける。原則として授業は対面で実施するが、オンラインとなった場合はTeamsとMoodleで参加してください。 ※緊急事態宣言中はオンライン(Teams)とし、解除されたら対面とします。 (追加) 緊急事態宣言が終了したため、10月5日より対面で行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の受け方、情報収集のしかた、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、討論のしかたを学ぶ。 2) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理を学ぶ。 3) 環境問題を学習し、報告レジュメを作成してプレゼンテーションと討論を行い、学習成果をレポートにまとめる。 4) 経済学・経済政策の諸分野の基礎的な知識を教科書を用いて学ぶとともに現代的な課題を知る。グループ毎に情報収集して、レジュメを作成して、プレゼンテーションと討論を行い、成果をレポートにまとめる。																
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td>摂南大学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>セオリー&プラクティス 経済政策</td> <td>柳川隆・永合位行・藤岡秀英</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学		2	セオリー&プラクティス 経済政策	柳川隆・永合位行・藤岡秀英	有斐閣	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学															
2	セオリー&プラクティス 経済政策	柳川隆・永合位行・藤岡秀英	有斐閣														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	レポートの内容(課題設定、情報収集、考察)50%、授業時間中の内容(レジュメを用いたプレゼンテーションの仕方、討論の仕方、グループ学習の仕方)50%で評価する。なお、欠席が多いと単位取得できない。																
学生へのメッセージ	1年生のときにしっかりと経済学研究の作法を身に付け、2年生以降に充実した研究ができるようになりましょう。日本経済新聞などを読んで、経済の動向を知るように努めることをお勧めします。																
担当者の研究室等備考	1号館7階 柳川研究室																

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	<p>【4月22日(木)以降のオンライン授業以降について】 演習、実習科目については感染対策に注意した上で対面授業を行います。状況に応じてハイブリッド授業の可能性がありますが、そのような時は決まり次第連絡します。</p> <p>本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。</p>																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</p> <p>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</p> <p>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	前期・後期ともにゼミではグループ活動を行いプレゼンなどを行うが、その際個々人の役割分担でどの程度の貢献をしたかを見る。これを評価全体の60%とする。また学年末に個人で期末レポートを作成するので、それに対する評価を40%とし、これを合計して総合評価とする。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得する。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門(エコミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	発表の達成度(50%)、研究レポート作成(30%)、演習へ取り組み姿勢(20%)で総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	M
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	熊川 剛久
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を身につけるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって、必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習を行うことで、2年次から学びはじめるコース専攻科目に備えることができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2. 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分たちでテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3. 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で実践する。 4. 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5. 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて、研究倫理を身につける。 																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、情報リテラシーⅠ・Ⅱ、1年次後期の専門基礎科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎回の授業で取り組む課題を100%、100点満点で評価する。																		
学生へのメッセージ	もし何か困ったことがあれば、担当教員に遠慮なく話してください。																		
担当者の研究室等																			
備考	出席が不足すると単位の修得が難しくなります。気をつけましょう。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	N
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎能力を習得させるとともに、経済学の学習を通じて後続学年での専門的な選択の備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションのしかたを学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 		
関連科目	経済学入門(エコノミック・リテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度(私語・遅刻・欠席を含む)を総合的に評価する。Speech(10%)、グループ活動(40%)、プレゼン(30%)、その他(20%)で評価する。		
学生へのメッセージ	勉強面において質問・不安がありましたら積極的に相談して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 名方研究室(経済学部)		
備考	出席日数が不足したり、遅刻回数が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	○
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習を行うことで、第2年次から学びはじめるコース専攻科目に備えることができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱおよび第1年次後期の専門基礎科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加状況(提出物80%、日常の取り組み20%)で評価する。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者になんでも相談してください。		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	P
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学びの基本を習得すること。 大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	対面授業として実施しますが、オンラインの場合は時間割どおりの曜日・時間で授業を遠隔で行う動画配信型授業(リアルタイム方式)として実施します。その場合、使用するICTツールはMicrosoft Teamsです。 上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それをレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱおよび第1年次後期の専門基礎科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度(私語・遅刻を含む)を総合的に評価する。 プレゼンテーション3回(60%)、前学期レポート(20%)、後学期レポート(20%)で評価を行う。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期</p> <p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</p> <p>3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</p> <p>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p> <p>*授業の第1～第4回のいずれかに、SPI試験を実施する。</p> <p>後期</p> <p>グループワークや少人数でのディスカッションなどを通じて、コース選択や2年次以降の研究テーマを発見できるようにする。可能ならばコンピュータを用いて、簡単な統計処理の技術を学ぶ。また、可能な限り校外実習を実施し、生きた経済を学ぶ。</p>																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、経済情報論。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(70%) 演習に取り組む姿勢(課題の発見・分担、資料収集・分析、討論・総括内容、受講態度など)(30%)																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 村瀬研究室																		
備考																			

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大槻 忠史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習開始の基礎を確保させることと、後続学年での専門的な選択に備えさせるという2つの役割を有している。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。 ①学生が自分で経済問題を考え、分析する能力を身につける。②学生のプレゼンテーションの能力を高める。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式は少人数の授業である。課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイル。割り当てられた担当教員の指導のもとに修得させる。 まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を確認するとともに、第1年次後期から学びはじめる専門基礎科目の学習を補完する。 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『FIRST YEAR STUDY GUIDE』</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『FIRST YEAR STUDY GUIDE』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『FIRST YEAR STUDY GUIDE』																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析(30%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(50%)、討論・総括内容(20%)とし、課題へ取り組む姿勢などを含め、総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にしても、生活面にしても、基礎演習の担当者になんでも相談してください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 大槻研究室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	S
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は2年次以降の専門的な知識を学ぶための基礎的な知識・技術を獲得することを目的とする。		
到達目標	経済の幅広い知識と経済学的思考を身につける。また、情報発信するためのレポートの書き方や発表の方法を習得する。		
授業方法と留意点	First Study Guide を用いて、学習方法などを学ぶ。また、各学生が興味のある社会経済的な問題の簡単な調査・発表を行い、レポートを提出する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1、レポートの書き方、口頭発表の仕方を学ぶ。 2、各自の興味に応じて、調査分析をして口頭発表を行う。 3、その発表に基づいてレポートを完成させ、提出する。 4、First Study Year Guide を用いて研究倫理教育を行う。 5、環境問題を学習し、成果をレポートにまとめる。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	プレゼンテーション50%、レポート50%で評価する。出席が少ない場合は単位が認められない可能性がある。		
学生へのメッセージ	1年生なので、卒業後を見据えて目標をつくるよう努力してください。		
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室		
備考			

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	T
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	羅 鵬飛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要な知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経済学入門レベルのテキストを学習する。毎週、グループ分けで担当グループが報告(プレゼンテーション)することを求める。</p> <p>輪読資料(暫定)</p> <p>中谷、中村『1からの経済学』2010、碩学舎、ISBN-10: 450268080X</p> <p>マンキュー『マンキュー入門経済学』第3版、2019、東洋経済新報社、ISBN-10: 4492315217</p> <p>その他、</p> <p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見する。</p> <p>3) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『1からの経済学』</td> <td>中谷、中村</td> <td>碩学舎</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『マンキュー入門経済学』第3版</td> <td>マンキュー</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『1からの経済学』	中谷、中村	碩学舎	2	『マンキュー入門経済学』第3版	マンキュー	東洋経済新報社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『1からの経済学』	中谷、中村	碩学舎																
2	『マンキュー入門経済学』第3版	マンキュー	東洋経済新報社																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	レジュメおよびレポート作成・発表の達成度70%、課題へ取り組み姿勢など参加度20%を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	全員が事前に指定資料を読む。 発表: グループ分けで輪読資料の発表を行う。発表班以外、資料を輪読したうえで発表班へ質問・討論を行う。 欠席の場合、事前に羅へ連絡する必要がある。																		
担当者の研究室等	1号館7階 経済学部 羅研究室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	<p>テーマは、文化経済をキーワードとして地域や観光への理解を深めることである。初年度は、文化経済学の基礎理論や、文化産業・クリエイティブ産業の理論と現実を学び、文化と地域経済との関わりについて、探求することを目指す。</p> <p>SDGs-4, 9, 11</p>																		
到達目標	<p>基礎的な理論を理解するとともに、文献や論文の検索、現地調査の準備ができるようになる。経済学部のプレゼンテーション大会に参加する。</p>																		
授業方法と留意点	<p>前期は、文献を読み、今年度の調査テーマを考える。また、土曜日に関西圏のフィールドワークを行う。前期終了時に、今年度のフィールドワークの計画を完成し、後期に、1泊2日のフィールドワークを行う。1月には、グループに分かれてプレゼンテーション大会の準備をする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化経済や文化市場の基礎的な理論を学ぶ 2. 文化産業やクリエイティブ産業の理論と実態を学ぶ 3. 文化産業の集積と地域、文化による都市や地域の再生、文化による観光振興など、文化と地域の関わりや可能性を学生自らが探求するアクティブ・ラーニングを目指す。 4. 学生自らが研究テーマを見つけ、フィールド調査を計画し実行する。 5. 併せて、研究倫理教育を行う。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>演習への出席状況 (欠席は半期に3回まで)、レポートや学習成果 (30%)、フィールドワークへの参加 (30%)、プレゼンテーション (40%) を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室																		
備考	<p>演習の主体は学生です。積極的な参加を求めます。また、演習を通して将来の仕事への展望が持て、社会人としての基本的なスキルを身につけられるように頑張りましょう。</p> <p>イタリアの学生との合同ゼミや、現地調査等も行う予定です。</p>																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	3年・4年時の上級研究のための基礎知識と研究レポートの作成・ディスカッション・プレゼンのための基礎を習得させる。			
到達目標	①会計学の基礎の演習 ②研究レポートの書き方、ディスカッションによる研究の調整・発展テクニックの習得 ③プレゼンのスキルを身につける			
授業方法と留意点	①必ず授業へ参加し、またディスカッションに参加すること ②本授業は講義タイプではなく、学生参加型のゼミですので積極的に参加すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のゼミにおける演習・ディスカッション・発表などの平常点 (60%) とレポート (40%) を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室			
備考	※全ての授業へ必ず出席し、ゼミに積極的に参加すること			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	文献購読、学外視察、業界関係者のレクチャー等により地域・観光産業の概要を理解する。同時に社会人としての一般常識を習得する。		
到達目標	ゼミ講義、学外活動等から得た地域・観光に関する情報を活用し、主体的にプランを作成、実践できる。		
授業方法と留意点	文献購読と観光サービス関連企業や自治体の活動を調査し、レポートにまとめプレゼンテーションを行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期：文献（教科書）購読及び内容発表、レクチャー等、 後期：学外視察、学外活動を行い、3年次専門演習Ⅱで行う観光演習に必要な基礎的な知識や素養を獲得する。併せて、研究倫理教育、環境教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	新・観光立国論	David Atkinson
	2		
	3		
評価方法 (基準)	課題レポートの提出 (50%)、プレゼンテーションの内容 (30%)、課題への取り組み姿勢、参加度 (20%) の割合で評価する。		
学生へのメッセージ	活動への主体的な参加を期待しています。		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域経済の問題点について基本的な認識を持つ。 2. 地域経済における地域金融機関の取り組みについて事例研究する。 3. 次年度に向けて自分の関心を確立する。 																		
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、プレゼンテーションといった一連の作業を経験することを通じて、基礎的な知識と方法論を身につける。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。併せて、研究倫理教育を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題の発見・分担(20%)、資料収集・分析(20%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(20%)、討論・総括内容(20%)、課題へ取り組み姿勢(10%)、受講態度(私語・遅刻を含む)(10%)を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	1号館7階植杉研究室																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習内容を踏まえて地域経済分析の理解を深める。 ・地域における経済活性化の取り組みとして情報化、地域コミュニティ醸成の必要性及び地域保健医療の環境整備の必要性について考察する。 ・また、地域の特色を活かした地域振興や地域資源、施設の活用について視察や訪問によって学ぶ。 ・少子高齢化や社会保障の社会情勢への対応の視点から保健福祉医療関係等の施設見学や地域振興の視点から現地調査等についてもゼミ生が主体的に実施することを奨励する。 ・政令指定都市職員勤務の実績を活かして地域活性化の施策実施の視点と協働する市民の視点の両面から地域活性化事業検討やフィールドワーク実施の授業を行う。 																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要・目的に述べた施設見学や現地調査の情報から専門演習 II で研究する内容への理解を深めることを到達目標とする。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。下記内容を実施する。 ・基礎演習で理解を深めた近代経済学とマルクス経済学の考え方を踏まえ地域経済活性化の手段としての保健福祉医療関係や地域振興の役割について習得する。 ・また、これらの事業について視察や配布資料によって議論を行う。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済活性化への保健福祉医療と地域振興等の重要性を考える。 ・中央集権的な経済構造によって高度成長期を経て、現在は地域を中心に経済が沈静化しつつある。 ・地域は地域振興の活性化や保健福祉医療事業の活性化によって事業展開がローカルからグローバル化することが可能であることを配布資料の輪読や議論によって学ぶ。 ・フィールドワークや日経ビジネス等の雑誌から現状の課題への対応策について、検証し、まとめ、プレゼンテーション等の手法により報告・議論する。 ・併せて、研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	基礎演習 専門演習 II 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめての研究レポート作成術</td> <td>沼崎一郎</td> <td>岩波ジュニア新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>演習時に適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめての研究レポート作成術	沼崎一郎	岩波ジュニア新書	2	演習時に適宜指定する。			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	はじめての研究レポート作成術	沼崎一郎	岩波ジュニア新書																
2	演習時に適宜指定する。																		
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ICT ツールを活用した演習参加 (ICT 利活用による遠隔参加も含む) や対面等でのコミュニケーションから、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジメ及びレポート作成・発表の達成度 (50%)、討論・総括内容 (30%)、課題へ取り組む姿勢 (20%) を総合的に評価する。発表等の成果だけでなく、討論や取り組む姿勢がないと及第点にはなりません。																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加は、議論によって自らの考えをまとめ話す力を醸成します。醸成された知識を学生間で交換することでコミュニケーション能力が修得出来ます。 ・従ってゼミへの参加は、自らの成長と共に「就活力」の向上が望めます。 ・出席を重視します。 ・課題レポート及びプレゼン資料の作成によって研究内容の充実化と発表スキルを醸成します。必ずこれらの提出を心がけてください。 ・国家、地方、消防、警察及び独立行政法人に就職した先輩等との交流による課外活動について検討して行きたいと考えています。 ・政令指定都市に 3 																		
担当者の研究室等	1号館 7階 田井教授室 (経済学部)																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の経済活動を支える保健福祉医療事業だけでなく地域振興の事業への関心を持ち、ゼミ生自ら地域の事業への調査を通じての研究・発表を期待する。 ・地域実践演習や PBL 等の課外活動を奨励する。これらの活動から得た知見を研究に役立てて欲しい。 																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	ゼミのテーマ：環境問題と現代社会 21世紀は環境の世紀であり、企業の活動も資源・環境の制約や諸制度からは逃れられない。本ゼミでは、政府の環境政策、企業の環境戦略、産業再編の相互関係について分析し、日本経済についての認識を深める。																		
到達目標	ゼミ活動を通じた自発的な学び、大学らしい学びがスタートする。 大学のゼミ活動、最終的には卒論執筆に必要となる、研究を遂行するための基礎的能力について学び、これが学士力、社会人基礎力と共通することを理解する。 「ビブリオ・バトル」(書評会)を適宜開催し、プレゼン能力の向上をはかる。																		
授業方法と留意点	学生自身がテーマを決め、調査・研究・発表を行い、学士力を身につける。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期には、入門的なテキストを輪読して、レジュメ作成と発表の基本的な技術を習得する。 後期には、各自が興味のある研究テーマを決定し、情報収集とレポート発表をおこなう。 併せて、研究倫理教育を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への参加状況(提出物80%、日常の取り組み20%)で評価する。																		
学生へのメッセージ	大学時代はあつという間です。目標をもって努力し、自分の力を高めて下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)																		
備考	ゼミ参加者は「地球環境経済」の講義に出席すること。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	本演習は観光関連産業とさまざまな観光事象について研究することを目的とします。国内外の航空会社とホテルでの実務経験のある教員が担当し、文献研究のほか学外研修等も取り入れながら、理論と実務両面から理解を深められるよう進めていきます。		
到達目標	次年度以降の研究の基礎として、観光関連産業とさまざまな観光事象について理解を深めることを目標とします。		
授業方法と留意点	ゼミの運営においては、各自責任感を持って積極的に協力してください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	観光関連産業とさまざまな観光事象について研究を進めます。文献研究の他、可能な限り学外研修も行います。併せて、研究倫理教育を行います。		
関連科目	観光学入門		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	よくわかる観光学 1 観光経営学	岡本伸之
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	課題提出 (40%)、発表内容 (40%)、ゼミ運営への貢献度 (20%)にて評価します。		
学生へのメッセージ	様々なことに積極的に挑戦して、世界を広げてください。失敗してもそこから学ぶことは多くあります。		
担当者の研究室等備考	1号館7階 野村教授室 (経済学部)		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	本演習は社会調査の実習を通じて、現実の経済に対する理解を深め、様々な課題を経済学の考え方で解決することを目指す。さらに、統計学の知識を活用し、コンピューターで様々なデータを分析できるスキルを習得することを目的とする。																		
到達目標	① スポーツ経済や地域経済を分析するための知識を身につける。 ② 過去のアンケートデータを用いて、社会調査の基本方法を身につける。 ③ コンピューターによるデータ分析のテクニックを学び、分析の結果をプレゼンテーションする能力を養う。																		
授業方法と留意点	コンピューターを使い基本的な統計手法を学びながら、フィールド調査の仕方を勉強する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	①前期では選定された分析対象に対して、調査票の作成などの社会調査の仕方を学習する。調査内容の設計、調査の計画・実施、調査結果の検証などの方法を学び、実社会での問題発見解決力を身に付ける。 ②後期ではコンピューターを用いる演習を通じて、統計学の基礎を学び、計量モデルによるデータ分析のスキルをマスターする。併せて、研究倫理教育を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発表の達成度 (50%)、研究レポート作成 (30%)、演習へ取り組み姿勢 (20%) で総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	ゼミ活動に積極的に参加してほしい。																		
担当者の研究室等	一号館 7階 郭准教授室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	この授業では4つのことを目標とする。第1に統計学のテキストをもとに学生のPower Pointで発表してもらい、統計学の知識を習得してもらう。第2に、SPI対策として練習問題を行う。第3に、3分間スピーチを行い、自分の意見を上手く伝える能力をつけてもらう。第4に新聞記事などのテーマについてグループで議論し社会人に必要な考える能力・Discussion能力を身につけてもらいます。																		
到達目標	Powerpointを使ったプレゼン能力、ディスカッション能力を身につけてもらう。																		
授業方法と留意点	基本的には学生によるプレゼン、ディスカッションをメインに行います。学生同士での結束を高めるために、できるだけグループでの活動を行います。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学に関するテキストを使い、グループでPowerPointを使った発表してもらい、プレゼン能力を身につけてもらいます。 2. また新聞記事などのテーマについてグループで議論し社会人に必要な考える能力・Discussion能力を身につけてもらいます。 <p>後期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Excelのスキルを習得します。 2. 学生が興味のあるフィールドワーク等の調査活動を行います。 <p>併せて、研究倫理教育を行います。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	プレゼン (30%)、ディスカッション (20%)、スピーチ&授業における発言・出席 (50%) で総合評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 名方研究室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	<p>地域産業、ベンチャー企業、既存の中小企業や大手企業について、基礎から学んでいきます。 特定自治体の産業の分析、特定企業の分析を学んでいきます。 分析を通じて地域の行政、金融機関などの産業活性化における役割を学んでいきます。 卒業研究に向けて、テーマ候補の選定、参考文献の選定などを徐々に行っていきます。 キャリアプランのブラッシュアップを行います。 環境マネジメントについて基礎を学びます。 研究倫理教育を行う。 グループワークによるゼミプロジェクトの企画を希望があった場合に行います。</p>																
到達目標	<p>卒業研究の基礎を固める。 キャリアプランの基礎を固める。</p>																
授業方法と留意点	<p>卒業研究について学生がたたき台の案を提示し、それをブラッシュアップしていく。 事例を提示し、それに対して分析し、ディスカッションしていく。 地域経済実践演習が開講される年度については、その履修を推奨する。 必要に応じて TEAMS を用いてオンライン学習を行う。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1はじめに 今後の進め方、ゼミのガイダンスを行う。研究倫理について学ぶ。 研究テーマ候補とキャリアプランについて次回までにレポート作成 2 研究テーマ候補の列挙 キャリアプランのアイデア、分析する企業、自治体の選定 ゼミ生の発表、ディスカッション、発表に対する指摘事項への対応を考える 3 企業分析の基礎 企業分析の基礎的用語、基礎的手法を学ぶ。用語について次回までにレポート作成 4～6 企業分析の演習①～③ 選定された事例企業を実際に分析する。復習し理解を深める 7 企業分析の演習④ 選定された事例企業を実際に分析する。研究テーマ候補とキャリアプランについて次回までにレポート作成 8 研究テーマ候補、キャリアプランについての中間報告 ゼミ生の発表、ディスカッション 発表に対する指摘事項への対応を考える 9～10 企業分析の演習⑤⑥ 選定された事例企業を実際に分析する。復習し理解を深める 11 自治体分析の基礎 企業分析の基礎的用語、基礎的手法を学ぶ。用語について次回までにレポート作成 12～14 自治体分析の基礎①～③ 選定された事例自治体を実際に分析する。復習し理解を深める 15 研究テーマ候補、キャリアプランについての暫定報告 ゼミ生の発表、ディスカッション、興味を持った企業が自治体について分析のレポートを提出</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	ディスカッションへの参加と発表 (50%)、レポート (50%) による評価を行う。																
学生へのメッセージ	どのようなゼミにしていくかは、ゼミ生の皆さん次第です。 楽しいゼミを作っていきましょう。																
担当者の研究室等	1号館7階																
備考																	

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	<p>【4月22日(木)以降のオンライン授業以降について】</p> <p>演習、実習科目については感染対策に注意した上で対面授業を行います。状況に応じてハイブリッド授業の可能性がありますが、そのような時は決まり次第連絡します。</p> <p>近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。</p>																
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解できるようになります。履修者はこの授業を受けることで、観光を中心とした地域経済の活性化についてフィールドワークを伴う調査方法や学習方法を習得することができます。																
授業方法と留意点	教室におけるゼミ形式です。オンライン授業になった時は Teams で行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。</p> <p>(2)身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。</p> <p>(3)自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>後期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。</p> <p>(2)その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。</p> <p>(3)自らの研究テーマについてゼミ論文としてまとめていきます。</p> <p>(4)ゼミ論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>これらの内容に併せて研究倫理教育を行います。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	前期・後期ともにゼミではグループ活動を行いプレゼンなどを行うが、その際個々人の役割分担でどの程度の貢献をしたかを見る。これを評価全体の60%とする。また学年末に個人で期末レポートを作成するので、それに対する評価を40%とし、これを合計して総合評価とする。																
学生へのメッセージ	自ら設定した研究テーマをゼミ論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。																
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室 (経済学部)																
備考																	

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	現在、私たちが暮らす日本経済については実にさまざまな問題が指摘されている。そうした問題の原因をいかに分析し、どのような解決策が考えられるのかについて、社会経済学あるいは制度経済学の観点から考察する。具体的には、日本の経済システムが、労使関係、企業間関係、金融システム、国家体制、国際関係などさまざまな制度の領域から構成され、それらが相互に関係しあって構成されていると考える。このような考え方に立って、制度の役割を踏まえて日本経済の諸問題を分析する。																
到達目標	1. 社会経済学・制度経済学の基礎的な知識を身につけて、現実の経済問題を分析できるようになる。 2. ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、まとめる力、書く力、伝える力をつける。 3. 課題研究を通じて、論文作成に必要な、課題発見力、情報収集力、データ分析力、論理的思考力をつける。																
授業方法と留意点	演習授業の主役は、受講者のみなさんです。それぞれが互いに教えあい、刺激しあって授業を進めます。グループ学習では、グループ内で協力しあって課題研究に取り組んでもらいます。またグループ間の競争と協力も授業を盛り上げる重要な要素になります。前期は、Microsoft Teams を用いて遠隔授業を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 基礎的な文献を受講者で分担して読むことで、基本的な知識を身につける。 2. 主要な統計データを用いて経済の現状を量的に把握する。同時に統計ソフトの使い方を学び基本的なデータ分析の手法を身につける。 3. その後に数人ずつのグループに分かれて、一定のテーマの下でグループごとに課題を設定してグループ研究を行う。 4. 適宜グループごとの発表を行い、互いに疑問や意見をぶつけ合うことで、研究内容の質を高めていく。 5. 最終的には、小論文形式で研究をまとめて、報告会を行う。 6. 併せて、研究倫理教育を行う。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	事前学習の度合い (30%)、個人学習の成果 (プレゼンテーション、レジュメのまとめ方など) (40%)、集団学習への貢献度 (質問、提案、議論のまとめなど) (30%) をもとに総合的に評価する。 なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	経済に関するテーマで各自が疑問を設定し、分析する。その分析結果を発表し、レポートを作成する。			
到達目標	各自の研究を通じて、経済学的思考を身につけること。また、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方を学ぶこと。ゼミを通じてディスカッションを含めたコミュニケーション能力を高めること。			
授業方法と留意点	最初に社会的問題や疑問を広く情報収集する。そして特に関心のある分野を決め、どのような分析手法が望ましいかを検討する。その分析結果をゼミの中で発表し、皆でディスカッションを行う。それを簡潔にレポートとしてまとめる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは各自で決めるが、テーマを決めるための話し合いを教員や学生間で行う。 基本的には個別で研究を進めるが、場合によってはグループで行うこともある。 併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション50%、レポート50%で評価する。出席率が低い場合は単位が取得できない可能性がある。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	1号館7階 田中研究室			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	この演習では、教育、労働、社会保障といった我々の人生（キャリア）に関わる諸問題を経済学の側面から理解し、学習していきます。教育、労働、社会保障に関わる諸問題を自身のキャリア形成上の問題であると同時に社会の大きな問題として考え、研究を進めていきます																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・労働経済学、教育経済学、社会保障論の基礎的な考え方を知る。 ・演習で得られた知見から自身の今後のキャリア形成を考えることができる。 ・現代日本で起こっている教育・労働・社会保障問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>対面授業として実施しますが、オンラインの場合は時間割どおりの曜日・時間で授業を遠隔で行う動画配信型授業（リアルタイム方式）として実施します。その場合、使用するICTツールはMicrosoft Teamsです。</p> <p>演習形式（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、コンピュータ実習、フィールド調査）で実施します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>演習のテーマ：キャリアの経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連テキストの輪読や発表を行います。この取組は、専門知識の習得、読解力の向上、プレゼンテーション能力の向上を企図したものです。 ・より身近な問題としてキャリアを理解するために、可能な限り、ワークショップ、シミュレーションゲーム、校外実習などを行います。学生が企画・実施もします。 ・卒業研究（卒業論文）で経済学的な分析ができるように、コンピュータを用いた労働統計分析の演習を行います。また、データ収集の方法を身につけるために社会調査法を学びます。 ・以上の活動を通じて、卒業研究（卒業論文）で扱う自身の研究テーマを見つけます。 																		
関連科目	労働経済学、公共経済学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>課題（70%）の提出と最終レポート（30%）により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習への参加と貢献を評価します。（出席し、ワークと議論に積極的に参加することが必要です） ・プレゼンテーション課題の成果物の提出とプレゼンテーション ・卒業論文のテーマに関わるミニレポート 																		
学生へのメッセージ	教育、労働、社会保障の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。教育、労働、社会保障の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか、そして社会問題としてのそれらを経済学的思考で考えてください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室（経済学部）																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	<p>この演習では、前期と後期で内容が異なります。</p> <p><前期> 京都の伝統的な都市住宅である京町家の活用方法が注目されています。その1つとして、宿泊施設としての利用があります。前期は、京町家を改装した旅館を運営している企業の社長にお話を伺います。対面ではなく Zoom で行う予定です。 この講演会では旅館業のプロにお話を伺うのですから、我々も知識面で相応の準備をする必要があります。そのため、これに先立って、京都の観光事情や京町家を活かしたビジネス、そしてそれらの事業展開のための支援制度や融資制度について、グループ単位で調べてプレゼンテーションをしていただきます。</p> <p><後期> 3年次のゼミ (専門演習 II) では、他大学との合同ゼミを実施します (社会情勢によっては、オンラインで開催します)。合同ゼミでは、観光やテーマパークの歴史を扱う予定です。そこで準備学習として、戦後日本経済史、特にレジャーや観光に関する資料の輪読や、テーマパークなどの観光施設の歴史についての先行研究の講読を行います。担当箇所を決め、その部分の内容をまとめて報告をしていただきます。分析の際の着目点やまとめ方などを学びましょう。</p> <p>なお、諸般の事情により、前期と後期のゼミ活動内容を入れ替えることもあります。通常のゼミは、原則として対面式で実施しますが、社会状況の変化に応じて、Teams を用いたオンライン形式に移行する可能性もあります。</p>																
到達目標	<p>1) 京都の観光事情について理解を深める。</p> <p>2) 京町家ビジネスの実際の例を見学し、理解を深める。</p> <p>3) 戦後日本経済史から、観光施設の歴史・社会への影響について理解を深める。</p>																
授業方法と留意点	<p>この講義は演習なので、学生の主体的な取り組みが非常に重要です。学生には積極的な報告を期待します。</p> <p>大学外の方々へ話を伺う際には、Microsoft Teams や Zoom を利用する予定です。また、原則として対面式でゼミを実施しますが、社会状況の変化に応じて、Teams を用いたオンライン形式に移行する可能性もあります。各自、Teams や Zoom のインストール及びセットアップをお願い致します。ゼミ資料は Teams、Web Folder などの ICT ツールを用いて配布します。</p> <p>ゼミは原則として対面式で実施しますが、社会状況に応じてオンラインでゼミを実施することもあります。後期の初回は対面式で実施する予定ですが、これも変更する可能性があります。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><前期> 事前学習として取り組むプレゼンテーションのトピックは、以下のようなものを予定しています。 京都の観光事情、京都における宿泊施設の現状、京町家を活かしたビジネスの実例、古い町並みを生かした観光振興 (国内、国外)、京都の金融機関の特徴、金融機関の融資制度、町家ビジネスに対する融資制度・支援制度 など</p> <p><後期> 観光・レジャーに関する資料を配布し、その内容を輪読します。それに加えて、教科書に書かれていない内容やトピックについても調べて報告してください。トピックの例として、東京オリンピック、大阪万博、東京ディズニーランド開業、リゾート法、スペイン村などがあげられます。</p>																
関連科目	観光学入門など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	課題 (レポート含む) の提出状況 (40%)、演習中の発言など取り組み姿勢 (20%)、プレゼンテーション (40%)、出欠状況 (欠席回数に応じて減点) をもとに、総合的に判断します。欠席回数が著しく多い場合は、単位取得を認めないことがあります。																
学生へのメッセージ	遊園地やテーマパーク、あるいは各種レジャー施設は、一種の商品としてとらえることができます。その中には、地域社会だけではなく日本社会に大きな影響を与えたものがあります。しかし、社会のニーズに合致せずに失敗をしたものもあります。このゼミでは、これらの要因について様々な事例を調べ、明らかにしていくことを目的としています。専門演習 I では、フィールドワークやプレゼンテーション (及びそのための準備作業) を通して、これらの基本を学びます。皆さんには、主体的な学びを期待します。																
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室																
備考	欠席回数が多い場合は、単位取得を認めないことがあります。																

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	羅 鹏飞
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	経済学科にあたって必要な基礎知識 (エコノミクス、データ処理) を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	グループ分けで指定資料の輪読発表を行う。 原則に対面で行う。ただし、遠隔で行う場合、大学の要求によって調整する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経済学のテキストを学習する。毎週、グループ分けで担当グループが報告 (プレゼンテーション) することを求める。 その他、 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分 (たち) でテーマを発見する。 3) 入門レベルのデータ処理手法を紹介する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	レジュメおよびレポート作成・発表の達成度 70%、課題へ取り組み姿勢など参加度 20%を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	全員が事前に指定資料を読む。 発表：グループ分けで輪読資料の発表を行う。発表班以外、資料を輪読したうえで発表班へ質問・討論を行う。 欠席の場合、事前に羅へ連絡する必要である。		
担当者の研究室等備考	1号館7階 経済学部 羅研究室		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	本演習では、書籍・文献講読、関係者との交流、現場研修などを通じて、持続的・地域開発と国際協力に関する理解を深め、開発途上国を中心とした国や地域が抱える課題の背景や持続的に経済発展するために必要な要因を分析し、国際協力のあり方について考察する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開発途上国が抱える諸問題や国際協力について理解を深め、課題を分析する能力を獲得する。 2. ゼミでの集団学習を通じて、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を獲得する。 3. 論文作成に必要な課題発見力、情報収集力、データ分析力、論理的思考力を獲得する。 																		
授業方法と留意点	前期は、教科書の輪読から始め、並行して調査研究方法に関する講義・演習を行う。 後期は、学生の関心に応じて他の書籍・文献等の輪読を行う。また、コロナウィルスの感染状況を踏まえて現場訪問を計画する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 書籍（教科書等）・文献の講読、新聞・雑誌記事に基づく話題提供・ディスカッション 2. 研究計画の立て方、文献調査・インタビュー調査・質問票調査の方法、データ分析方法、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などに関する講義および演習 3. 独立行政法人国際協力機構（JICA）関西センターなどを訪問し、国際協力を携わる人々と交流する。また、国際協りに携わった経験がある民間企業などの団体、個人から話を聞く機会を設ける。 																		
関連科目	国際協力論、開発経済学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	個人学習の成果（プレゼンテーション、レジュメ、レポートのまとめ方など）： 70% 集団学習への貢献度（質問、提案、議論のまとめなど）： 30%																		
学生へのメッセージ	この演習では、学生が主体的に課題を見つけ、調査を計画・実施し、結果を論理的にまとめられるように指導していきます。そして、活動を通じて、社会人としての基本的マナーや、コミュニケーション能力を身につけることを目指します。 また、学生には、互いの考えや知識・経験を積極的に共有することを促し、ゼミの活動を通じて皆で学ぶ楽しさを体験してもらいたいと考えています。																		
担当者の研究室等備考	1号館7階 村瀬研究室																		

科目名	海外語学研修	科目名(英文)	Overseas Language Training
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WEN3326c1		

<p>授業概要・目的</p>	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC(英語の場合)の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>																
<p>授業方法と留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 																
<p>授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題</p>	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会~事前授業~現地派遣~事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4月中旬(9月下旬~10月上旬) ・事前授業10回：6月中下旬~7月下旬(11月~2月) ・現地派遣：2週間程度 8月中旬~9月上旬(2月中下旬~3月下旬) ・事後授業5回(成果報告会含む)：9月~10月中旬(3月~4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとつての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
<p>関連科目</p>	<p>グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど</p>																
<p>教科書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
<p>参考書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2							
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	

	3		
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)		
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。		
担当者の 研究室等 備考	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター(旧：国際交流センター)まで		